

教育研究アンケート調査結果

はじめに

平成29年8月に「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の報告書が公表され、附属学校の目指す方向として、先進的な教育・研究にかかわる大学・学部や地域との連携、公教育のモデルとなるなど、附属からの発信により地域をリードするという一つの方向性が示された。これまでも、各附属校園で様々な取り組みを行ってきており、本委員会ではその取り組みについて共有化することを目的にアンケート調査を行ってきた。令和元年度は、この調査の目的を引き続き達成するために、教育研究に関する取り組み内容およびそのキーワード調査を行った。また、「エビデンスベースト」の研究成果が求められていることからエビデンスの収集方法についても調査を行った。今年度調査項目として挙げたエビデンスの収集を含め本アンケートの結果を共有することで今後の附属校園の発展に活用していただければ幸いである。

調査方法

6月21日に開催された第1回委員会での検討の後、各委員の意見を集約し、アンケート調査項目を検討した。

調査期間:令和元年10月18日～11月22日

回答数:198校園(回収率78.3%)

調査項目

- 1-1 研究計画テーマ
- 2-1 母体となる大学との研究の連携
- 2-2 大学との連携テーマ
- 2-3 大学と連携をするための工夫
- 2-5 今後、大学との連携のための工夫したいこと
- 2-8 教職大学院との研究連携の内容と方法
- 2-10 地域の公立学校や教育委員会との連携
- 3-1 研究成果の地域等への発信の現状
- 3-3 今後、研究成果を地域にどのように発信したいか
- 3-5 研究成果の大学への発信の現状
- 3-7 今後、研究成果を大学にどのように発信したいか
- 4-1 他の附属校園があった場合、共同で研究を行ったり情報交換したいか
- 4-2 研究成果を他の附属学校と共有したことがあるか
- 4-3 研究成果を他の附属校園とどのように共有しているか
- 4-5 附属校園間の交流に必要なこと
- 5-1 貴校で実施している調査・研究についてのエビデンスの収集方法

自由記述の集計について

自由記述については、各校でどのように取り組んでいるかを比較しやすいように、回答いただいた校園に連番を付したうえで、関連する質問項目をまとめて一覧表として表記した。

なお、連番は下記により付した。



校種:1;幼稚園 2;小学校 3;中学校 4;高等学校 5;中等教育, 中・高等学校 6;特別支援学校 7;義務教育学校
地区:1;北海道 2;東北 3;関東 4;北信越 5;東海 6;近畿 7;中国 8;四国 9;九州

結果の概要

大学との共同研究については、「研究の助言をもらう」が 94.4%と最も多く、「大学の研究に協力している」の 88.9%が続いた。「共同研究を実施している」は 73.7%と、多くの校園で実施していた。また、似たような研究を行っている他の附属校園と共同研究や情報交換に対しては、87.4%が行いたいと感じているが、「共有をしたことがある」は 42.9%と半数にも満たず、他の附属校園との情報共有や共同研究の実施を推進するための方策が必要であることが窺われた。

大学との連携については、研究や助言などを通じた連携が多く、大学と運営委員会などの組織的工夫が行われていた。一方で、大学との連携を強く望むものの連携する手段や時間確保、情報共有について工夫が必要であることが示された。情報発信に関しては研究発表会、報告書、ホームページによるものが多く見られた。今後に向けて、情報発信をキーワードとする校園が多く、大学との連携や地域教育委員会との連携などを積極的に行い、地域の学校園が抱える課題をつかみ、その解決のために積極的に貢献していこうという姿勢が見られた。

エビデンスの収集については、研究会や協議会等でのアンケートを用いた外部からの評価によるもの、研究や授業、講演会等の事例の蓄積といった回答が多く、各校園とも工夫を凝らしている現状が窺えたが、「エビデンス」の捉えや問題意識に幅があることが示された。現在収集しているエビデンスについて、十分に、吟味・検討する必要がある。さらに、ICT などのツール、大学教員の知見やスキルの活用、アウトソーシング等も含め、より効果的で効率のよい「エビデンス収集」を目指す必要があると考えられる。

今年度、試みとして記入をお願いしたキーワードについて、研究テーマでは、新学習指導要領でとりあげられている、「資質・能力」「主体的・対話的・深い学び」などがすべての校種において多くみられた。大学との連携では「共同研究・研究」や「授業」や「学生を介したもの」、「組織的関わり」などが挙げられ、教職大学院との連携では「学生の実習」への期待が示されていた。地域との連携では、「研修」や「授業公開」、「研究交流」、「講師派遣」や「指導助言」が多く見られたが、高等学校や特別支援学校は「STEAM」、「SDGs」、「特別支援教育相談」など強みを生かした特徴的な傾向が示された。情報発信では、「研究発表会」、「報告書」、「ホームページ」、「紀要」などが上位を占め、今後に向けては「ホームページの活用」や「SNS による発信」など ICT を活用した社会的変化に対応した方向性が示された。附属校園間の交流においては、附属校園間の関係構築を重視したキーワードが多くみられ、交流を一から構築していく必要性が示された。また、全体を通じて、時間や予算の確保といった時代を反映していると考えられるキーワードも散見された。

本アンケート調査結果から、教育研究に関して大学との連携、地域との連携を行いその結果を、研究会をはじめ様々な形で発信を行っている現状が見受けられた。一方で昨年度のアンケートでも課題として挙げられていた附属校園同士の積極的な情報交換、研究成果の共有などについてはいまだ十分とは言えない現状であった。

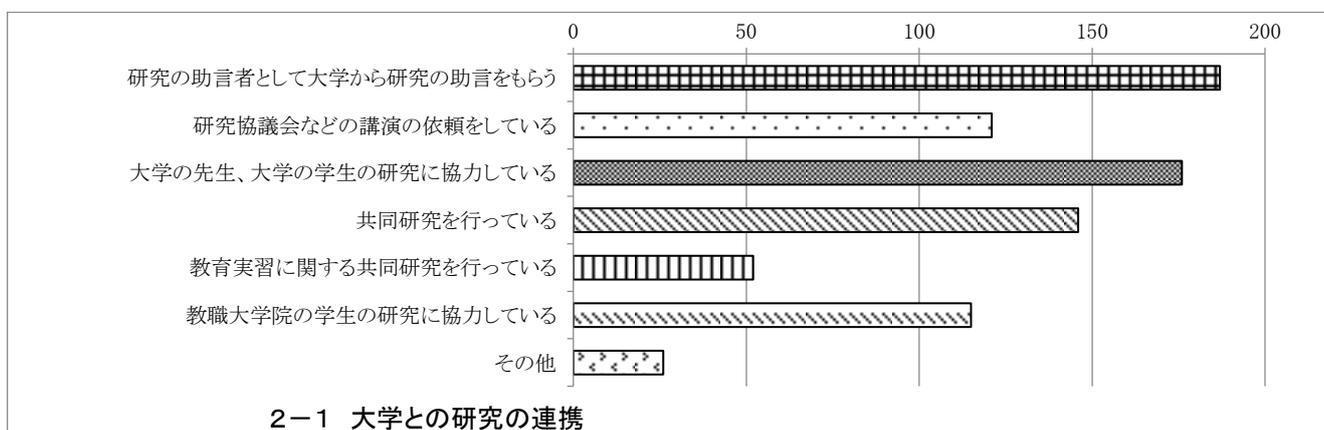
2-1 母体となる大学との研究の連携

大学との連携に関しては、「研究の助言者として大学から研究の助言をもらう」が 94.4%と最も多くほとんどの校園で実施していた。次いで、「大学教員、学生の研究に協力している」が 88.9%、「共同研究を行っている」は 73.7%、「研究協議会などの講演の依頼をしている」61.1%となり、従来からの連携体制を継続している様子が見られた。また、校種別にみると、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校では「大学教員、学生の研究に協力している」の実施率が高く、いずれも 90%を超えていた。

連携に関するその他の記述としては、附属校園を活用して大学授業を行う、附属校園の児童生徒等への授業を大学教員が行うといった、より深い相互の教育関係を構築しているケースや、PTA や就学前の子供を対象とした各種教室等への協力などが行われている実態が示されていた。

2-1 大学との研究の連携

連携内容	
研究の助言者として大学から研究の助言をもらう	187 (94.4%)
研究協議会などの講演の依頼をしている	121 (61.1%)
大学の先生、大学の学生の研究に協力している	176 (88.9%)
共同研究を行っている	146 (73.7%)
教育実習に関する共同研究を行っている	52 (26.3%)
教職大学院の学生の研究に協力している	115 (58.1%)
その他	26 (13.1%)



2-1 大学との研究の連携(校種別)

連携内容	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等学校	特別支援学校	義務教育学校	その他(幼・小)
研究の助言者として大学から研究の助言をもらう	33 (89.2%)	51 (96.2%)	49 (98.0%)	11 (91.7%)	5 (100.0%)	35 (94.6%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)
研究協議会などの講演の依頼をしている	25 (67.6%)	18 (34.0%)	29 (58.0%)	7 (58.3%)	4 (80.0%)	25 (67.6%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)
大学の先生、大学の学生の研究に協力している	35 (94.6%)	48 (90.6%)	50 (100.0%)	8 (66.7%)	5 (100.0%)	27 (73.0%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)
共同研究を行っている	24 (64.9%)	44 (83.0%)	40 (80.0%)	8 (66.7%)	5 (100.0%)	22 (59.5%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)
教育実習に関する共同研究を行っている	4 (10.8%)	24 (45.3%)	16 (32.0%)	3 (25.0%)	2 (40.0%)	2 (5.4%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
教職大学院の学生の研究に協力している	11 (29.7%)	41 (77.4%)	37 (74.0%)	6 (50.0%)	1 (20.0%)	16 (43.2%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)
その他	7 (18.9%)	4 (7.5%)	5 (10.0%)	6 (50.0%)	1 (20.0%)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

2-1 大学との研究の連携(地区別)

連携内容	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州
研究の助言者として大学から研究の助言をもらう	8 (100.0%)	20 (95.2%)	40 (93.0%)	24 (96.0%)	17 (100.0%)	27 (96.4%)	18 (94.7%)	14 (93.3%)	20 (90.9%)
研究協議会などの講演の依頼をしている	2 (25.0%)	13 (61.9%)	28 (65.1%)	13 (52.0%)	8 (47.1%)	17 (60.7%)	17 (89.5%)	9 (60.0%)	15 (68.2%)
大学の先生、大学の学生の研究に協力している	8 (100.0%)	20 (95.2%)	38 (88.4%)	23 (92.0%)	14 (82.4%)	25 (89.3%)	17 (89.5%)	14 (93.3%)	18 (81.8%)
共同研究を行っている	6 (75.0%)	16 (76.2%)	29 (67.4%)	17 (68.0%)	12 (70.6%)	23 (82.1%)	15 (78.9%)	12 (80.0%)	17 (77.3%)
教育実習に関する共同研究を行っている	4 (50.0%)	6 (28.6%)	10 (23.3%)	11 (44.0%)	3 (17.6%)	7 (25.0%)	4 (21.1%)	3 (20.0%)	4 (18.2%)
教職大学院の学生の研究に協力している	5 (62.5%)	16 (76.2%)	19 (44.2%)	20 (80.0%)	11 (64.7%)	16 (57.1%)	7 (36.8%)	10 (66.7%)	11 (50.0%)
その他	1 (12.5%)	1 (4.8%)	9 (20.9%)	3 (12.0%)	1 (5.9%)	5 (17.9%)	1 (5.3%)	1 (6.7%)	4 (18.2%)

2-2-7 大学との連携「その他」の記述一覧

131	人間発達教育科学研究所所属の教員と連携
135	共同で論文を執筆(保育学会・教育実践センター紀要等で発表)
145	海外視察の受け入れ
161	幼児教育科教員企画の協働研修の公開保育を一部担っている
163	大学の授業に幼稚園の現場を活用、教職実践演習等を附属の職員が担当
172	保育研究での指導、特別支援教育に関する研修、配慮のいる園児についての支援について など
192	陶芸教室、運動会に向けての親子ダンス教室などで連携指導を受けている。
193	研究に関して明確な連携はない
196	学生の卒論作成の協力(アンケートや観察等)
224	論文の共同執筆。
234	本校教員が学部の附属機関のメンバーとして協力している
246	教職サポートセンターで学生向けの講座を実施 学部講義にゲストで出向く 遠隔システムで教室の授業を講義室に配信する
265	親子講座の講師、子どもの探究活動の助言など。
294	教育実習の効果
311	附属学校の研究推進に関わっていただいています。
338	教育学部、附属学校連携研究として、個々に取り組んでいる。
339	本校の生徒を対象とした授業を行っていただいている
340	大学のプロジェクトに参画している。
344	OECD 日本イノベーション教育ネットワークと東京学芸大学・次世代教育推進機構との Agency 研究
431	高大連携
432	つくばアートメダルプロジェクトのプロジェクト研究で連携している
434	SSH 事業の支援を頂いている。
441	大学法人を管理機関とする研究
463	教科指導に関する大学の授業を受け持っている。
481	大学教員による高校生への講演
551	留学生の派遣や受け入れ
635	定期的に研究指導を受けている。
638	教育実習以前の段階で特別支援学校の教育を参観する機会を持っている。
661	大学教育学研究科の学生の研究に協力している
683	わくわく教室(大学の先生と連携した就学前の幼児の観察・指導)
1231	幼小中の教員で連携研究をしている

4-1 他の附属校園があった場合、共同で研究や情報交換したいか

4-2 研究成果を他の附属学校と共有したことがあるか

他の附属校園との共同研究等の実施に関して、「共同研究・情報交換を行いたいか」との質問には大いに感じる(37.9%)、感じる(49.5%)と、あわせると87.4%の附属校園が行いたいと考えているにも関わらず、実際に研究成果を共有したことがあるのは42.9%に過ぎず、他校園との共同研究や情報交換の実施には解決すべき課題があることが示された。(問4-3、4-5の自由記述、4-4、4-6のキーワードを参照)

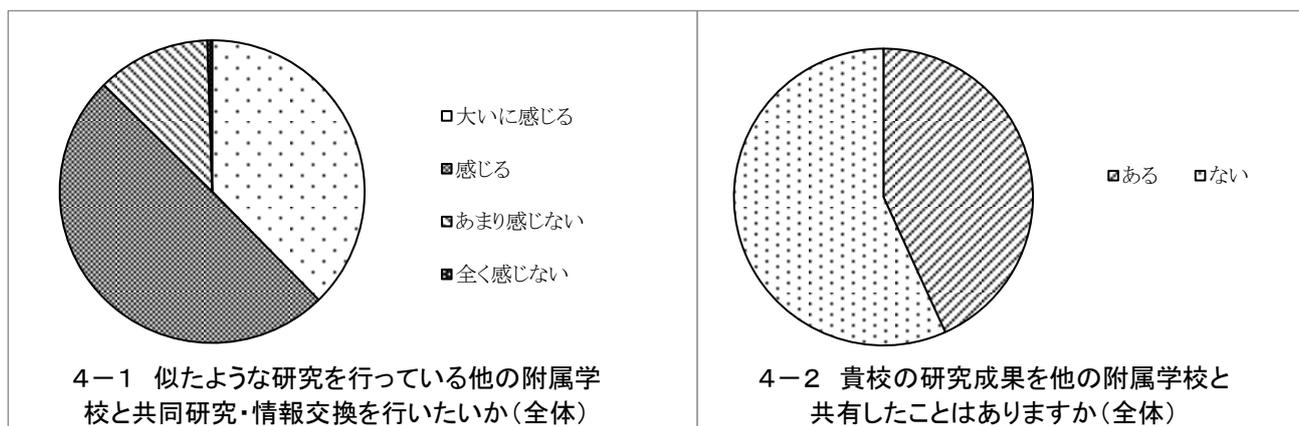
校種別・地区別にみると、「共同研究や情報交換を行いたいか」との質問に対しては、若干の内訳の違いはあるものの、おおよそ90%前後の校園が行いたいと回答していた。しかしながら、「研究成果を共有したことがある」と答えたのは、校種別では、幼稚園、高等学校、中等教育学校では高い傾向を示した。また、地域による違いも見られ、北海道、中国地区では高い値を示した。

4-1 似たような研究を行っている他の附属学校と共同研究・情報交換を行いたいか(全体)

大いに感じる	75	(37.9%)
感じる	99	(49.5%)
あまり感じない	24	(12.1%)
全く感じない	1	(0.5%)

4-2 貴校の研究成果を他の附属学校と共有したことはあるか(全体)

ある	86	(42.9%)
ない	113	(57.1%)

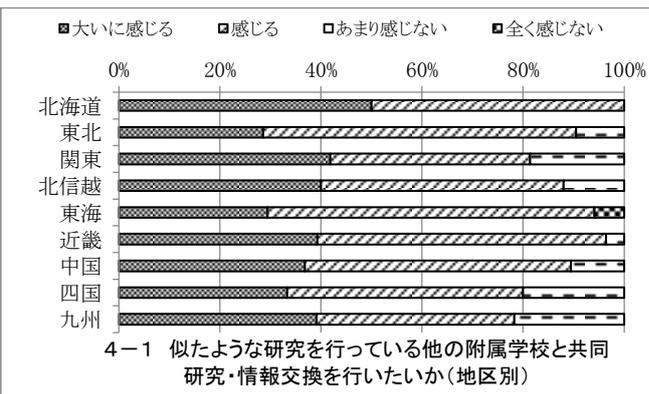
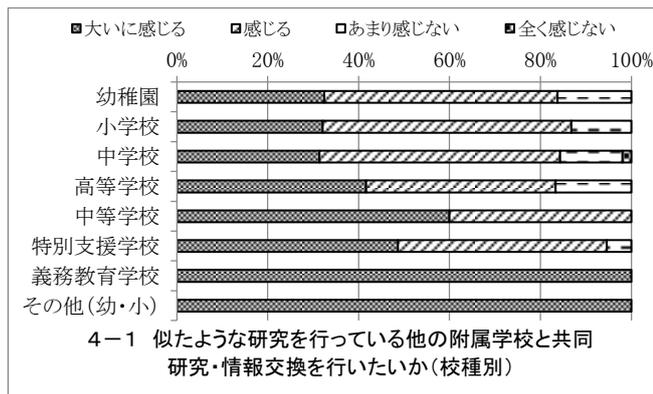


4-1 似たような研究を行っている他の附属学校と共同研究・情報交換を行いたいか(校種別)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等学校	特別支援学校	義務教育学校	その他(幼・小)
大いに感じる	12 (32.4%)	17 (32.1%)	16 (32.0%)	5 (41.7%)	3 (60.0%)	18 (48.6%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)
感じる	19 (51.4%)	29 (54.7%)	27 (54.0%)	5 (41.7%)	2 (40.0%)	17 (45.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
あまり感じない	6 (16.2%)	7 (13.2%)	7 (14.0%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全く感じない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

4-1 似たような研究を行っている他の附属学校と共同研究・情報交換を行いたいのか(地区別)

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州
大いに感じる	4 (50.0%)	6 (28.6%)	18 (41.9%)	10 (40.0%)	5 (29.4%)	11 (39.3%)	7 (36.8%)	5 (33.3%)	9 (40.9%)
感じる	4 (50.0%)	13 (61.9%)	17 (39.5%)	12 (48.0%)	11 (64.7%)	16 (57.1%)	10 (52.6%)	7 (46.7%)	9 (40.9%)
あまり感じない	0 (0.0%)	2 (9.5%)	8 (18.6%)	3 (12.0%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	2 (10.5%)	3 (20.0%)	5 (22.7%)
全く感じない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

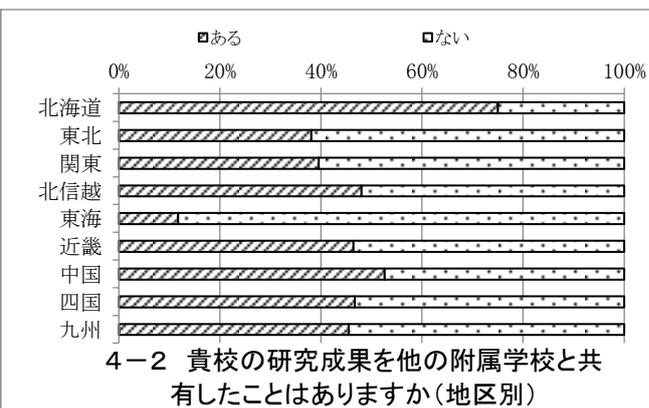
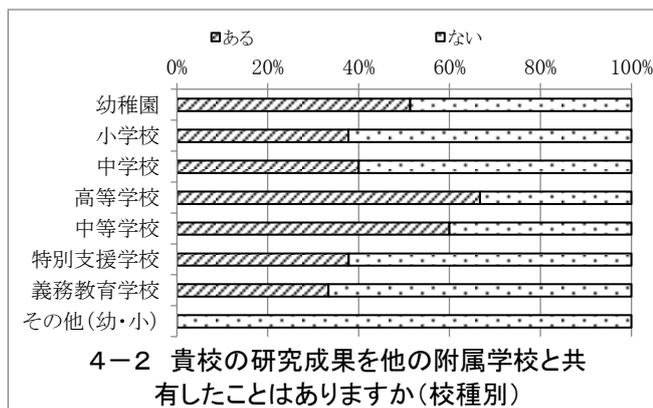


4-2 貴校の研究成果を他の附属学校と共有したことはありますか(校種別)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等学校	特別支援学校	義務教育学校	その他(幼・小)
ある	19 (51.4%)	20 (37.7%)	20 (40.0%)	8 (66.7%)	3 (60.0%)	14 (37.8%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
ない	18 (48.6%)	33 (62.3%)	30 (60.0%)	4 (33.3%)	2 (40.0%)	23 (62.2%)	2 (66.7%)	1 (100.0%)

4-2 貴校の研究成果を他の附属学校と共有したことはありますか(地区別)

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州
ある	6 (75.0%)	8 (38.1%)	17 (39.5%)	12 (48.0%)	2 (11.8%)	13 (46.4%)	10 (52.6%)	7 (46.7%)	10 (45.5%)
ない	2 (25.0%)	13 (61.9%)	26 (60.5%)	13 (52.0%)	15 (88.2%)	15 (53.6%)	9 (47.4%)	8 (53.3%)	12 (54.5%)



1-1 研究計画テーマおよび2-2 大学との連携テーマ

No.	研究テーマ	2-2 大学との連携テーマ
111	研究テーマ「やってみよう」を育む環境づくり ○サブテーマ ～北国の自然を活かす～ 環境を通して行う教育は、幼児の主体性と保育者の意図がバランスよく絡み合って成り立つものであるが、本園の環境が本当に幼児の育ちにとって必要なものとなっているか、私たち保育者がよいと思って行っている環境構成が本当に「やってみよう」と思えるものになっているのか、といったことを追究する。本年度は、まず今ある環境の中で幼児が空間やモノなどのような可能性を見出して遊びに利用するののかに関して、基礎的なデータ収集を行い、あり方を考える。 キーワード:○環境構成, ○主体性, ○自然	グローバルな人材の育成を目指す12年教育 発達心理の側面から幼稚園・小学校・中学校の12年間の継続的な見取り・記録化、引継等のあり方について追究していく。また、学術的な見地の側面から、大学教員が附属学校の教員へ研究支援(全体研究・教材研究)を行う。そして、幼稚園・小学校・中学校間において、教育課程の連携・共通理解、校種間における系統的な指導のあり方について研究を推進していく。 キーワード:○グローバルな人材, ○ICT活用, ○12年教育
121	豊かな遊びを育む -教材の工夫- キーワード:○子ども理解, ○カリキュラムマネジメント, ○保育の質	校内研究会、公開研究会のあり方 -教員の資質・能力の向上- キーワード:○教員の資質向上, ○附属校園間の連携, ○学びや体験のつながり
122	子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助 ～心の育ちと言葉の育ち～(第2年次) キーワード:○幼児理解とカンファレンス, ○環境構成の工夫, ○援助の在り方	附属4校園の連携研究テーマは「『かかわり合う』力をはぐくむ」そこに大学との連携も入っている キーワード:○かかわり合う, ○理論と実践の往還, ○共同研究
123	幼児期の体づくり～健やかな心の育ちに着目して～ キーワード:○体づくり, ○健やかな心	研究テーマと同じ キーワード:○体づくり, ○健やかな心
124	遊びこむ子どもを育む キーワード:○遊びと学び, ○保育者の援助, ○探究	遊びこむ子どもを育む キーワード:○自発的活動, ○主体的
125	自発的活動としての遊びを中心とした保育-子ども主体の生活と保育者- キーワード:○自発的活動としての遊び, ○子ども主体, ○保育者	テーマとしては特に設定していない。
126	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を探る(3年次) キーワード:○10の姿に至る道筋, ○資質・能力	幼児の遊びを育てるための各年齢に応じた保育方法について キーワード:○遊び, ○保育者の援助
131	幼児の発達と学びの連続性を踏まえた幼稚園の教育課程(3歳児～5歳児)の編成及び保育の実際とその評価の在り方について キーワード:○安心, ○対話, ○子育ての支援	現在は特記するテーマはありません。
132	遊びって学び!!～幼児期の遊びや生活の中で育まれる資質・能力～ キーワード:○資質・能力, ○連携研究, ○やり遂げようとする力	心理学的視点から発達をとらえる調査 キーワード:○語彙の発達, ○自己調整力, ○向社会的行動
133	幼児の遊びを豊かにする園庭 キーワード:○園庭, ○遊び	
134	しなやかな心と体を育む～多様な動きの経験を引き出すための遊びの充実～ キーワード:○しなやかな心と体, ○多様な動きの経験, ○遊びの充実	研究内容の充実・深化 キーワード:○充実・深化
135	「保育における子どもの声-3年次-」-対話する保育を目指して- ・これまでの実践記録をまとめる形で、対話的保育カリキュラムの創造に取り組むことを目指している。 キーワード:○主体としての子ども, ○対話, ○カリキュラムの見直し	地域への貢献 キーワード:○研究開発, ○実習・養成・育成研修, ○地域支援
136	幼児と教師が共に主体となる保育～対話的に進める保育の充実を目指して:教育課程の再編成～ キーワード:○主体性, ○対話, ○教育課程	・附属幼稚園におけるSSW(スクールソーシャルワーカー)導入の成果と課題 ・幼児の楽器遊び-TASモデルによる実践- ・地域に開かれた教員研修活動の試み ・幼児の造形表現活動を支える環境作り ・「ヘルスプロモーションスクールの基盤としての幼稚園の構築(9)」-HPS評価票による自己評価の実施及び効果的な健康指導の検討-4 ・質の高い幼稚園教員を養成するための教育実習カリキュラムの作成(5)-互恵性を目指した教育実習プログラム- ・園での仲間遊びにおける言葉を介した感情コミュニケーションの発達の検討・園庭の遊具の検討 キーワード:○幼児教育, ○教育実践, ○幼児の姿
141	接続期の教育における学びを探る～接続期プログラムの作成～ キーワード:○幼小接続	
142	子どもを支える保育～評価を通して～ キーワード:○評価, ○振り返り, ○保育記録	
143	未来を拓く学校づくり -「たくましく心豊かな地球市民」を育む12年間の幼小中一貫教育のすがた- キーワード:○幼小中一貫, ○地球市民, ○学校づくり	未来を拓く学校づくり キーワード:○幼小中一貫, ○地球市民, ○学校づくり
144	子供の探究心を育む～領域「環境」を中心に～ キーワード:○探究心, ○環境領域	幼児の言語表現力の実態調査 キーワード:○言語表現, ○スピーチ記録
145	つながりが育む学びの深まり-試す、工夫する、つくり出す遊びを求めて- キーワード:○試行錯誤, ○つながり, ○資質能力	幼児期の運動能力の発達について 幼児期の算数・数学の学びの芽について キーワード:○領域, ○教科との接続
151	体と心を十分に動かして遊ぶ幼児の育成～心の力が体を動かす瞬間を見つめて～ キーワード:○からだの動きを引き出す環境, ○動きの多様化, ○体と心の育ちのプロセス	
161	「幼児の「探究力」を探る-第4年次-」 キーワード:○幼児の探究, ○教師のとらえ・判断, ○探究プロセス図	幼児の音遊び 幼児教育協働研修 キーワード:○教員の資質向上, ○幼児教育関係者との連携, ○専門家との出会い

162	わくわくの創造～遊びを通して子供を見つめる～ キーワード:○遊び, ○学び	
163	幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の充実 キーワード:○幼小接続, ○初等教育要領, ○資質・能力	遊びと生活場面における個々の子ども理解と援助の充実につながる ICT の活用方法に関する調査研究 キーワード:○ICT 活用方法, ○子ども理解, ○援助の充実
164	遊びに生きる子どもを育む～遊びの育ちを追いながら～ キーワード:○遊び, ○遊びの充実, ○遊びの過程	
165	“楽しさ”から“おもしろさ”へ ー探求し思考する保育を目指してー 心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成 キーワード:○思考力, ○環境構成, ○トキメキとヒラメキ	・美術教育実践力の育成ー附属学校園や地域と連携したワークショップと展覧会の開催及び地域アートへの参加ー ・教員養成大学における「グローバル人材」育成のためのカリキュラムに関する総合研究 ・地域と連携した「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の育成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト キーワード:○学生, ○学び, ○共有
171	「共にくらしを創る～思わず伝えたくなる人やものとの出会い～」 キーワード:○共生社会, ○言葉による伝えあい, ○資質・能力	
172	高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3 つの次元(躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識)の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発(第 2 年次) キーワード:○躍動する感性, ○レジリエンス, ○横断的な知識	研究テーマと同じ キーワード:○躍動する感性, ○レジリエンス, ○横断的な知識
173	よりよい未来を共に創り出す人間 「対象・自己・他者と向き合う子どもの姿」を視点とした保育・授業づくり キーワード:○幼小中一貫教育, ○対象と向き合う姿, ○保育・授業づくり	運動能力向上の実践的研究 幼小接続における「話すこと」の効果 キーワード:○運動能力向上, ○幼小接続
174	「いま伸びる力」と「あと伸びる力」を育てる ～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として～ キーワード:○いま伸びとあと伸び, ○遊びの充実, ○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	大学と連携・協力し、主体的かつ協同的な学びを実現するための実験的・先導的な研究に取り組む。 キーワード:○連携・協力, ○主体的・協同的な学び, ○実験的・先導的な学び
181	子どもと創る「深い学び」～(自己効力感)を学びの原動力として～ 心動かし、遊び込む子どもの育成 キーワード:○深い学び, ○心が動く, ○遊び込む	
182	保育する ～子どもとつくる明日～ (坂出)「ああしたい」「こうしたい」の実現に向けて ～子どもの遊びこむ姿を支える～ (高松園舎) キーワード:○子どもの主体性, ○子どもの内面, ○教師の願い	「遊びの質の高まり」を支えるアセスメントモデルの検討 「語るうデー」の実施における参加者と実践者の気付き 多声的保育アセスメントの開発 キーワード:○遊びの質, ○保育者の資質向上, ○子どもの声を聞く
183	主体的・対話的で深い学びを実現する保育の振り返りと実践のあり方 キーワード:○主体的・対話的で深い学び, ○保育の振り返り, ○実践のあり方	絵の具遊び活動 多文化共生社会構築に向けて少子化四国の保育と子どものウェル・ビーイングを考える キーワード:○絵具遊び, ○多文化共生社会
191	主体的・対話的な活動ができる子どもを育てる援助の在り方 キーワード:○主体的・対話的, ○教育課程, ○造形遊び	
192	学びをつなぐ教育課程～幼児期における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～ キーワード:○学びをつなぐ, ○主体的・対話的で深い学び, ○評価指標の活用	今年度から学部・附属学校園にて、「教育を地域に開く・『学びに向かう力』を育む」を統一テーマとしている。 それについて、母体となる大学(学部)にホームページを開設している。 キーワード:○教育, ○地域に開く, ○学びに向かう力
193	遊びや友達の中で育まれる力 キーワード:○遊びを見つめる, ○自律性, ○自然	
194	遊びの中で育まれる子どもの学び～“学びの過程”に着目した保育実践 キーワード:○学びの要素, ○学びの過程, ○ドキュメンテーション	子どもの発達に合わせた学びを見取り、質の高い保育を目指す キーワード:○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿, ○ドキュメンテーション, ○可視化
195	子どもの主体的な活動を支える保育を目指して ～子どもの姿から思いを探り読み取る～ キーワード:○園内研修, ○保育力の向上, ○OJT	
196	園生活の中で育まれる自己肯定感～安心感、そして挑戦～ キーワード:○自信, ○安心感, ○挑戦	幼稚園から小学校 1 年生までの育ちを追う～円滑な幼小連携を考える～ キーワード:○遊び, ○学び, ○主体性
211	道東に根ざし9年一貫したリーダーシップ・フォロワーシップの育成 キーワード:○道東に根ざし(地域との連携), ○9年一貫(小中一貫), ○リーダーシップ・フォロワーシップ	道東に根ざし9年一貫したリーダーシップ・フォロワーシップの育成(*本校の研究への協力) スポーツや運動そして体力向上は子どもの発達を促すのか アイヌ文化を取り入れた系統的カリキュラムと地域教材の開発 教員養成におけるへき地教育プログラムの研究 キーワード:○へき地, ○地域教材, ○体力向上
212	自己を創る学びをデザインする子ども - 「自己決定」を繰り返しながら願いの実現に迫る深い学びー キーワード:○自己決定, ○願い, ○深い学び	本校の研究に係る各教科や領域での連携であるので、特別なテーマはありません。
213	子供が学びをつくる学校 ～自らをモニタリングし、メタ認知する子供の育成～ キーワード:○メタ認知, ○主体的・対話的で深い学び, ○学びの文脈	実践的な研究を行う研修センター機能の充実 キーワード:○研究の推進, ○研究の波及, ○研究開発

221	ゆたかな感性を働かせる子供の育成 キーワード:○感性	・幼小中一貫した数学的活動を通したカリキュラム開発に関する研究～より豊かな図形指導の在り方を目指して～ ・外国人との関わりを通してグローバル人材の素地を育むための単元構想 ・小学校外国語科・外国語活動におけるCLILの充実～アセスメントに着目して～ ・異校種間の接続教育及び一貫教育の在り方について ・小規模・複式教育に関する教育実習カリキュラムの開発 キーワード:○カリキュラム開発, ○異校種接続, ○外国
222	「体も心もたくましく、しかも、しなやかな子供を目指して～各教科の本質に迫る授業を通して～」(1年次) キーワード:○学校教育目標の具現化, ○教科の本質, ○教科の特性	キーワード:○日常化, ○共同・共有, ○理論と実践
223	(研究主題)よりよい自分に向かって歩み続ける生き方が育つ学び 生き方がかたちづくられ、子どもが生涯にわたるしあわせを実現していくことにつながる学びの在り方について研究していく。生き方は、各教科等やくらしにおける問題解決に取り組む中で、少しずつかたちづられていくと考えている。鍵は事象とのつながりを太らせること キーワード:○問いをもつこと, ○学びのよさを実感すること, ○「見方・考え方」が生きて働くようになること	生き生きと学び、未来をつくる子どもの育成 キーワード:○本質を見極める, ○強い意志をもつ, ○高い価値をめざす
224	研究主題 自律した学習者を育てる - 学びをつなぎ、資質・能力を高める - キーワード:○自己選択・自己決定, ○省察, ○見方・考え方	
225	学びをつなぐ学校(3年計画の1年目) キーワード:○教科等横断的な学び, ○授業研究を通した PDCA サイクル, ○外部人材の活用・蓄積	福島大学、福島県立美術館との共同で行う図画工作科ドットシールアート製作のワークショップ事業 福島大学教員・学生と共同で行う図画工作科のプラネタリウム製作 大学生の卒業研究「子ども主体の授業を実現するための教師の説明～教室談話の視点から～」の実践協力 大学の算数教育の研究者と「数学のプロセス」の検証のための実践研究への協力 キーワード:○実践研究, ○大学, 附属, 学生との共同
230	学びをあむー新領域『てつがく創造活動』を中核とする教育課程の開発ー ○:キーワード主体的な学び, ○メタ認知スキル, ○社会情意的スキル	
231	“学び”を楽しむ(1年次) キーワード:○探求的な対話, ○学びの連続性	
232	社会の変化に対応し、未来を創り出すたくましい子ども キーワード:○連携教育	社会の変化に対応し、未来を創り出すたくましい子ども キーワード:○連携教育
233	ともに学びをつくりあげる子どもの姿を追い求めて キーワード:○材, ○人, ○自律的	大学や大学院の学生への協力が主のため、多岐にわたっており記載できない。
234	未来を拓く子どもの育成 キーワード:○資質・能力, ○見方・考え方, ○協働的な学び	
235	「学びの本質を育む授業の創造」～ともに広げ、ともにしぼる思考力～ キーワード:○水平思考力, ○垂直思考力, ○協働的思考力	
236	学びをつなぐ子供 ～教科等の本質に迫る授業を通して～ キーワード:○見方・考え方, ○資質・能力, ○省察	
237	「美意識」が育つ子どもと教師 キーワード:○美意識	グローバルな素養を育てるカリキュラム研究 キーワード:○グローバル, ○素養, ○カリキュラム
238	「こえる学び」を生む学習環境デザインの追求 キーワード:○こえる, ○学び, ○学習環境デザイン	「2019年度学習上の支援機器等教材活用評価研究事業」 「2019年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」 キーワード:○学習支援, ○ICT活用, ○読み書き困難
239	・未来社会を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する、個に基づく「じぶん de ラボ」と、教科・学年を超えた協働的探究の「みんな de ラボ」の双方で駆動する教育課程及び学習環境デザインの研究開発 キーワード:○学びを自分でデザインする, ○じぶん de ラボ, ○みんな de ラボ	・未来社会を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する、個に基づく「じぶん de ラボ」と、教科・学年を超えた協働的探究の「みんな de ラボ」の双方で駆動する教育課程及び学習環境デザインの研究開発 キーワード:○学びを自分でデザインする, ○じぶん de ラボ, ○みんな de ラボ
241	よりよい未来を志向する子の育成 ～未来へ生かす「決める」～ キーワード:○授業設計, ○資質・能力, ○ふりかえり・省察	Society5.0 を豊かに生きる資質・能力の育成に向けた附属学校園における教育実践・研究について キーワード:○Society5.0, ○資質・能力, ○連携
242	自分をつくり未来をひらく子どもが育つ学校～子どもの「問い」が立ちあがる教育活動～ キーワード:○未来を拓く, ○問い	「21世紀を生き抜くための能力」育成のための教育課程モデルの開発 キーワード:○21世紀を生き抜く, ○教育課程モデル
243	未来を拓く学校づくりー「たくましく心豊かな地球市民」を育む12年間の幼小中一貫教育のすがたー キーワード:○未来, ○地球市民, ○幼小中一貫教育	
244	「子どもと共に在る授業」 現状に至る過程の中で、本校の研究は学びの主体者としての子どもの意欲や関心を基に学習の展開を図ろうとする意図を大事にしてきた。そして今、実践から自己を内省察する研究文は、共感的でありながらも、伝え方にもわかりやすさが常にもとめられている。また、本県の教育現場が直面している課題も見据え、研究テーマを「共に在る」として大きく置いた。特にインクルーシブな視点から、子ども一人一人のニーズを「問い」という形で紡ぎながら適切な教育的支援を講じた。また、我々教師が授業をする中で、無自覚な中で立ち現われてくる自身の一つ一つの言葉や行為に立ち止まり、そうしている背景としての自身の在り様を授業実践の省察から見つめ、「子どもと共に在る」とは、と言う問いを新たにしていくなりの実践からの研究である。 キーワード:○教材研究, ○教師の振り返り(省察), ○題材	「学部と附属学校の協働による省察的実践の深化」 連携の手がかりとしてこのテーマを掲げ、実践研究を進めている。創設以来よりの附属長野小の使命として、学部の教育実習生を受け入れること・教育研究を深めていくことが位置づいており、近年は教職大学院(高度教職実践専攻)の設置によって一層の連携による実践研究の深化が期待されている。 キーワード:○協働, ○省察的実践, ○3つの使命

245	豊に考える子どもを育む教育課程の実現 キーワード:○豊に考える子ども, ○教育課程, ○カリキュラムマネジメント	
246	新たな世界を創り出す子供をはぐくむ -「統合的な学び」の実現を通して- キーワード:○資質・能力, ○幼小中一貫教育, ○統合的な学び	働き方改革の中での、附属学校のこれからの職員研修の在り方について キーワード:○働き方改革, ○職員研修
247	深い学びの実現に向けた教育課程の創造 キーワード:○子供主体, ○対話, ○深い学び	富山大学スクラムプラン ～学校バリアフリーへの挑戦～ ・大学の学生への協力:卒論のための授業提案、研究への助言 ・共同研究プロジェクト:楽しくわかる社会科の授業づくりについて考える(社会科)、幼小中のつながりを意識しながら造形教育で身に付ける力について研究する(図画工作科)等、15研究 ・教育実習:大学と附属で「教育実習ガイドブック」の作成 キーワード:○教育実践の向上, ○子供たちの成長
251	豊かに生きる ～非認知的能力を高める学びを探る～ (研究2年次) キーワード:○非認知的能力	各教科・領域でテーマを決めている。
252	深い学びにつながる授業デザイン キーワード:○深い学び, ○授業デザイン, ○実践研究	
253	学びを深める児童の育成 -「見通す力」「柔軟に表す力」「学びを捉える力」を育む - キーワード:○見通す, ○柔軟に表す, ○学びを捉える	
254	学びの質が高まる授業 ～各教科等の「見方・考え方」を働かせて～ キーワード:○学びの質, ○見方・考え方, ○本質	生きる力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を育てる。 キーワード:○四つの力
255	夢中になる キーワード:○夢中, ○主体的な学び	夢中になる キーワード:○夢中, ○主体的な学び
256	21世紀を生き抜くための資質・能力の育成 キーワード:○資質・能力の育成, ○自律と協同	
261	相手を意識して主体的に情報を活用しようとする子の育成 主体的に情報を活用し、自分の考えや思いをもとに創造する子の育成 キーワード:○相手意識, ○情報活用, ○考えや思いをもとに創造する	全体としての連携テーマはなし
262	「学ぶ術を生かし働かせる子供」を育む -教科の枠をこえて学ぶ術を磨くカリキュラムの創造- キーワード:○資質・能力, ○教科横断的, ○学ぶ術(すべ)	
263	社会とつながり明日を切り拓く資質・能力の育成 キーワード:○社会, ○資質, ○能力	社会とつながり明日を切り拓く資質・能力の育成 国際標準教育に関する研究開発 キーワード:○社会, ○国際, ○開発
264	みんなの手で「みんなの学校」を “子どものため”の本質を問いなおす 研究主題: “子どものため”の授業づくり キーワード:○子どものため, ○授業づくり	ESDのとりくみ、食育、SNE研究での連携 教育実習における教育実習ポリシーに基づく評価における指標の見直し 大学の公開講座ならびにフレンドシップ事業への協力 キーワード:○ESD, ○SNE研究
265	個の学習能力を育てる「奈良の学習法」～単元の本質を見極めて、個の学び・共同の学びをつくる～ キーワード:○個の学び, ○共同の学び, ○能力	
266	「学ぶ力を育む」-「個と集団の学びのあり方を探る」- キーワード:○個の学びと集団の学び, ○望ましい学習文化の形成, ○各教科・領域の固有の学び方	先進的な教育・研究を充実させる キーワード:○実践的指導力を養う
267	未来に生きて働く資質・能力の育成(2年次)～探究力を育むカリキュラム・マネジメント～ キーワード:○資質・能力, ○探究, ○カリキュラム・マネジメント	「2019年度和歌山大学教育学部・附属学校・公立学校との共同研究事業」として実施しているが、各大学教員に任されており、全体としてのテーマはない。 キーワード:○共同研究, ○公立学校
271	高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元(躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識)の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発 キーワード:○グローバル化, ○多様性社会, ○幼小中一貫教育	A Dewean Progressive Approach to Designing Intercultural Art Curricula for Global Citizenship Education 児童の心理的感性・教師認知とレジリエンスとの関係 フライングディスクサッカーの授業に関する一考察 児童の自己有用感を高める図画工作科の学習開発 キーワード:○グローバル, ○レジリエンス, ○自己有用感
272	「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育むための学びを豊かにする授業の創造Ⅱ キーワード:○グローバル時代, ○学びを豊かにする, ○教科等本来の魅力	全体のテーマに関わってというより、各教科ごとに決めた研究テーマにかかわってそれぞれの専門の先生方に相談・助言等をいただいている。また、大学の先生や学生の研究に可能な限り協力するように努めている。 キーワード:○各教科ごと
273	小中一貫教育への歩みを通して、深い学びの在り方を探る～「見方・考え方」が働く問いを子どもがつかむためには～ キーワード:○主体的・対話的で深い学び, ○見方・考え方, ○問い	
281	子どもと創る「深い学び」～(自己効力感)を学びの原動力として～ キーワード:○主体的・対話的で深い学び, ○子どもとともに学びをつなぐ, ○自己効力感	
282	分かち合い、共に未来を創造する子どもの育成～3つの資質・能力を養う2領域カリキュラムの可能性と進化～ キーワード:○未来を創造, ○資質・能力, ○2領域カリキュラム	

283	互いに磨き合い、学び続ける子どもの育成 -「個の発達に応じ、メタ認知を促す授業づくり」- キーワード:○メタ認知, ○発達支援, ○授業改善	
284	未来を拓く子供を育てる - 自己学習力を育成する生活的な学び- キーワード:○自己学習力, ○生活的な学び, ○カリキュラムマネジメント	未来を拓く子供を育てる - 自己学習力を育成する生活的な学び- 附属学校園のいじめ防止対策について 情報活用能力の育成を基盤とした小学校プログラミング教育の実施に向けて 先駆的にかつ持続可能な小学校英語教育プログラム など キーワード:○いじめ, ○プログラミング教育, ○小学校英語
291	各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の展開 ~「対象へのかかわり」に焦点を当てて~ キーワード:○深い学び, ○学びの本質, ○かかわり	かかわる力 キーワード:○かかわる力
292	「粘り強くとともに学ぶ子どもの育成」-「各教科等の特質に応じた見方・考え方」を働かせる授業の実現をめざして- キーワード:○主体的・対話的で深い学び, ○教科等の本質, ○見方・考え方	今年度は特になし 管理職の立場から言うと、有識者会議等を受けて、「附属学校の存在意義」を協議・連携している。 キーワード:○存在意義
293	新たな価値を創り出す資質・能力を育む授業の創造 キーワード:○未来や人生の創り手, ○資質・能力を育成する学び, ○知識・技能の枠組みの更新	
294	目的意識を持ち、人や物事と豊に関わり、磨き高め合う子どもの育成 キーワード:○外国語, ○学級経営, ○カリマネ	教育実習の効果 キーワード:○教育実習, ○エビデンス
295	研究主題「未来を創る子どもの育成」-「真の学び」の追求- キーワード:○問いや願いから構成, ○目的を明確にした対話, ○生きて働く振り返り	新しい時代の教育実践を目指して~子どもの実態から考える学校・教師の取組~(教育実践研究フォーラム 2019 より 11 月開催) キーワード:○協働による教育実践, ○実践研究と学びを深める, ○子どもの姿
296	深く学ぶ子供を育てる学習指導 ~見方・考え方を働かせる表現活動を通して~ キーワード:○深く学ぶ, ○見方・考え方, ○資質・能力	
297	学びに没頭する子どもを育てる授業 キーワード:○没頭, ○学びのプロセス, ○対峙	大学の教育総合研究所研究プロジェクトに応募 「(検討中)仮:道徳的価値を自分事として考え、よりよい生き方を求め続ける道徳科学習誘導」 キーワード:○問題意識, ○多面的・多角的, ○自己評価
298	主題 未来社会を創造する主体を育成するカリキュラム・マネジメントの構築 I - 子供の文脈から編成した7教科における3つの学びの究明- キーワード:○資質・能力, ○カリキュラム・マネジメント, ○子供の文脈	文部科学省の研究開発指定を受け、上記の主題の究明のために大学の先生にも研究に関わっていただいています。 キーワード:○資質・能力, ○カリキュラム・マネジメント, ○子供の文脈
311	新たな価値を生み出す学びのプロセスに関する研究 キーワード:○学びのプロセス, ○メタ認知, ○深い学び	グローバル人材の育成(12年間の継続的な指導のあり方) キーワード:○専門的な見地からの示唆, ○情報の収集・分析, ○ICT活用
312	9年一貫したリーダーシップ・フォロアーシップの育成 キーワード:○学びに向かう力, ○問題解決力, ○コミュニケーション力	義務教育に求められるリーダーシップ・フォロアーシップ教育 キーワード:○地域カリキュラム開発, ○地域リーダー, ○異年齢・異校種連携
313	自ら判断・行動し、未来の創り手となる個の育成 キーワード:○学びに対する主体性, ○課題解決に向かう授業のあり方, ○変容の見とり・分析・検証	大学との連携テーマについては特に設定していない キーワード:○地域のモデル校としてのあり方, ○研修と研究の往還
321	Society5.0を生き抜く「人間の強み」を育む学びの構想 キーワード:○AI, ○真正の学び, ○学びの自覚化	Society5.0時代の新しい学校教育の理論と実践 キーワード:○情報活用能力, ○真正の学び, ○資質・能力
322	「深い学びをもたらす授業の創造~主体的で対話的な学びの実践を通して~」 キーワード:○授業改善, ○評価, ○深い学び	
323	未来を創る豊かな学びの探究~教科を中心に育む資質・能力~ キーワード:○探究型学習, ○資質・能力, ○カリキュラム・マネジメント	・各教科で共同研究テーマを設定して行っている
324	共に未来を切り拓く 開かれた個 ~批判的思考力の伸長を促す授業改善~ キーワード:○批判的思考力, ○ミエルトーク, ○NES評価	キーワード:○連絡調整, ○コミュニケーション, ○選択と集中
325	主体的・協働的に学び、次代を創り出す生徒の育成 キーワード:○見方・考え方, ○深い学び, ○日常生活との関連	特にテーマを設けて連携しているわけではない。
331	新しい時代に必要となる資質・能力の育成への取組 V ~「学びに向かう力」を育む指導と評価のあり方 キーワード:○学びに向かう力, ○学びの深まり, ○主体的に探究	新しい時代に必要となる資質・能力の育成への取組 V ~「学びに向かう力」を育む指導と評価のあり方 キーワード:○学びに向かう力, ○学びの深まり, ○主体的に探究
332	「自立に向かい、たくましく生きる児童・生徒の育成を目指す教育の充実」(附属鎌倉小学校との共同研究テーマ) 資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントと学習評価の充実(2年次/3年) キーワード:○資質・能力の育成, ○学習評価の充実, ○カリキュラム・マネジメント	「自立に向かい、たくましく生きる児童・生徒の育成を目指す教育の充実」(附属鎌倉小学校との共同研究テーマ) 資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントと学習評価の充実(2年次/3年) キーワード:○資質・能力の育成, ○学習評価の充実, ○カリキュラム・マネジメント
333	振り返りを重視した探究的な学習のカリキュラム・デザイン ~自ら考え主体的に社会参画していく生徒の育成を目指して~ キーワード:○批判的思考, ○探究的な学習, ○メタ認知	ことば・国語部会:「生きたことば、ことばを生かす」社会科部会:「考え、表現し、判断する児童・生徒の育成をめざす社会科」算数・数学部会:「小中高の視点から算数・数学の授業をつくる~統計的問題解決力の育成に向けて~」理科部会:「探究力を育む「つなぐ」理科教育~ふしぎ発見・感動!~」等 キーワード:○探究力, ○活用力

334	社会を創る自立した生徒の育成(2年次) キーワード:○一人一人の自立を促す学び, ○社会への参画・貢献を促す学び, ○内省を促す学び	
335	「社会の変化に対応し, 未来を創り出すたくましい子ども」の育成 キーワード:○学びをつなげる力, ○かかわり合う力, ○やり遂げようとする力	「社会の変化に対応し, 未来を創り出すたくましい子ども」の育成 このテーマで, 大学及び附属学校園が共同研究をしている キーワード:○学びをつなげる力, ○かかわり合う力, ○やり遂げようとする力
336	自ら問題を解決し, 未来を創る生徒の育成 キーワード:○「見方・考え方」, ○問題解決の過程, ○思考力、判断 力、表現力等の育成	
337	新たな世界を主体的に創造する生徒の育成～教科等横断的な教育課程 の実現に向けて～ キーワード:○教科研究の深化, ○教科等横断的な教育課程の編成	・共同研究を行っている技術科のテーマは、「ネットワークを利用 したプログラミングの実践」である。 キーワード:○プログラミング
338	深い学びを実現する授業づくり ～見方・考え方を促す手立ての追究～ (2年研究の2年目) キーワード:○深い学び, ○見方・考え方	キーワード:○連携研究
339	「拡張する学び」の実現～真正な学びの視点から～ キーワード:○拡張する学び, ○真正な学び	
340	学びを深める場をつくるー「手立て」に焦点を当ててー キーワード:○学びを深める場をつくる, ○手立て, ○幼小中連携	附属学校等と協働した教員養成系大学による『経済的に困難 な家庭状況にある児童・生徒』への パッケージ型支援に関する調査研究プロジェクト キーワード:○大学・自治体・附属学校の連携, ○経済的多様性, ○連絡進学
341	伝統文化教育を中心とした教科横断的なカリキュラムの開発(3年次) ーグローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指してー キーワード:○伝統文化教育, ○教科横断的なカリキュラム, ○資質・能力	STEM 教育 プログラミング教育 インターンシップ キーワード:○STEM 教育, ○プログラミング教育, ○インターンシップ
342	AI 時代を主体的・共創的に生き抜く生徒の育成 ー自己調整, 創造性, 人間性に着目してー キーワード:○Society5.0, ○ICT活用, ○教科の本質	学校教育に関する今日的課題や新たなニーズに応じた教育 モデルの開発を目指し, 大学と附属学校の緊密な連携・協力 の下地域の教育課題の解決を含め, 教育に関する実践的な 教育研究を進める。 キーワード:○21 世紀を生き抜くための能力, ○教育課程, ○教育実習
343	未来を拓く学校づくり キーワード:○自己表現力, 課題探究力, 社会参画力, ○幼小中一貫教育, ○思いや願い, 問い	「たくましく心豊かな地球市民」を育む12年間の幼小中一貫教 育のすがた キーワード:○ワーキンググループ, ○学びの総合化, ○資質・能力
344	豊かな対話を求め, 確かな学びに向かう生徒を育む授業 キーワード:○コンピテンシー, ○学びの再構成, ○見通し, 行為, 振り返り(AAR)の学びの再構成のプロセス	○教員養成機関としての教職実践演習の充実 キーワード:○教育養成機関, ○教職実践演習
345	新たな世界を創り出す子供をはぐくむー「統合的な学び」の実現を通して ー キーワード:○新領域「いのち」, ○幼小中一貫カリキュラム, ○資質・能力の評価	新領域「いのち」の研究開発 キーワード:○単元開発, ○評価
346	主体性の高まりをめざす課題学習ー教科の本質に迫る授業づくりー キーワード:○教科の本質, ○見方・考え方, ○授業構想	富山大学スクラムプランナー学校バリアフリーへの挑戦ー キーワード:○教育実践の向上につながる共同研究, ○子供たちの成長につながる共同研究, ○自主参加
351	独創性を育む ー新しい見方で捉え, よりよい考えを生み出す子どもー (4年次/5年研究) キーワード:○問題解決的学習過程, ○二段階思考, ○差異を把握する力	
352	創造的思考力を育む授業の創造ーメタ認知を促進させることを通してー キーワード:○拡散的思考, ○収束的思考, ○メタ認知	テーマは特にありませんが, 各教科においてさまざまな関わり がある。
353	メインテーマ『社会の変化に対応できる生徒の育成』ーSDGs を核に資 質・能力が伸びる取り組みを目指してー キーワード:○SDGs, ○ルーブリック, ○パフォーマンス課題	生きる力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を育てる キーワード:○四つの力
354	地域の教員研修に貢献する学校になるために, 教科研究をさらに充実さ せながら試行的な取組を始めました。 キーワード:○教員研修, ○教科研究, ○連携	教科レベルでの大学と附属との連携の強化と, 共同研究の成 果の積極的な発信 キーワード:○共同研究, ○研究成果の発信
355	共に創りあげる授業 ー資質能力を育みながら, 「教科ならではの文化」を 味わう子どもたちー キーワード:○教科ならではの文化, ○教科の本質にせまる題材づくり, ○教科ならではの対話	共に創りあげる授業 ー資質能力を育みながら, 「教科ならで はの文化」を味わう子どもたちー キーワード:○教科ならではの文化, ○教科の本質にせまる題材づくり, ○教科ならではの対話
356	希望の未来を拓く資質・能力の育成 キーワード:○資質・能力, ○カリキュラム・マネジメント	全体での連携テーマは設定していない。各教科や部門で適 宜, 連携態勢をとっている。
361	探究的学習活動を通じた, 実社会に生きてはたらく力の育成 ー総合学 習を軸に, 課題を主体的に見出す学習指導ー キーワード:○探究的学習活動, ○実社会, ○課題を主体的に見出す	
362	「学びの自立をめざす評価の工夫と改善」 ー深い学びの実現とその評価ー キーワード:○深い学び, ○評価	

363	『主体的に「考え」「確かめ」「発動する」生徒が育つ授業』 キーワード:○主体的, ○考え確かめ, ○発動する	
364	探求する子どもの学び・育ちを支える教師力の具体化 キーワード:○探求, ○学び, ○教師力	
365	学びをつなぐー豊かな学びで個を活かすー キーワード:○主体的・協働的な学び, ○インクルーシブ教育, ○タブレット端末1人1台	
371	深い学びを引き出し、これからの時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・デザイン 第2次 ～授業の質の向上に資するカリキュラム・マネジメントの確立を目指して～ キーワード:○カリキュラム・マネジメント, ○カリキュラム・デザイン, ○深い学び	
372	高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元(躍動する感性、レジリエンス、横断的な知識)の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発 キーワード:○資質・能力, ○幼小中一貫カリキュラム, ○3つの次元	研究テーマと同様 キーワード:○資質・能力, ○幼小中一貫カリキュラム, ○3つの次元
373	「学ぶ」から「探す」へー中・高6カ年の学びの地図ー キーワード:○深い学び, ○探究, ○学びの地図	・教職大学院のアクションリサーチ実地研究 ・テーマ:社会的な見方・考え方を働かせる社会科・地理歴史科の授業開発ー「つながり」を持たせる授業に着目してー ・テーマ:論理的思考力の向上を目指した高等学校数学科の授業開発ーICT機器の活用による構造思考の数学的活動を通してー ・広島大学学部・附属学校共同研究プロジェクト参加 キーワード:○授業開発
374	「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育むための学びを豊かにする授業の創造Ⅱ ～教科等本来の魅力と学びのつながりの追求～ キーワード:○グローバル, ○つながり, ○資質・能力	各教科等において、共同研究者という形で大学の先生に協力をお願いしていますので、テーマはQ1と同じになります。 キーワード:○共同研究者
375	小中一貫教育への歩みを通して、深い学びのあり方を探る(2年次)～見方・考え方が働く問いを子どもがつかむためには～ キーワード:○小中一貫教育, ○見方・考え方, ○深い学び	小中一貫教育の進化発展 キーワード:○小中一貫教育, ○カリキュラム・マネジメント, ○深い学び
376	幼小中一貫教育実践研究「対象・自己・他者と向き合う姿」を視点とした保育・授業づくり キーワード:○幼小中一貫, ○よりよい未来, ○我が事	
377	学ぶ力を育む「やりくり」授業の開発 キーワード:○やりくり, ○学ぶ力	第3期中期目標・中期計画の確実な実施による大学との連携 キーワード:○第3期中期目標・中期計画
381	持続可能な社会の実現に貢献する実践者の育成ー既存の知識や経験がつながる「深い学び」の創造を通してー キーワード:○経験をフル活用し創り上げる授業, ○教科の学びを「つなぐ」工夫, ○実践力を伸ばすパフォーマンス評価	テーマは明確に設定していない。附属学校園教員と学部教員との、今後の共同研究の可能性や地域教育界への効果的な還元方法について考えてきた。 キーワード:○ICTの活用, ○社会施設の活用, ○教科横断的な教材開発
382	教科の本質に迫る教科学習の在り方 本校では、創造表現活動(研究開発学校の指定を受け5年間取り組んだ新領域)を設立して、改めて各教科を学ぶ意義とは何か、なぜ教科を学ぶのかという教科の本質に立ち返り研究を進めた。各教科の本質とは何かを明らかにし、本質に迫るための方略を設定し、教科学習の充実をめざしている。 キーワード:○教科ならではのおもしろさや魅力, ○教科を学ぶ意義, ○問い	発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究 キーワード:○発達障害, ○特定の困難, ○教科指導法
383	「わたし」が変わる「ものがたり」の学び～語り合い、探究する中で、「自己に引きつけた学び」を生み出すカリキュラムの提案～ キーワード:○学ぶ意味や価値, ○ものがたりの授業づくり, ○語り合い、探究する学び	教科の学習上のつまづきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方 キーワード:○発達障害, ○つまづき, ○教科指導法
384	社会に生きて働く資質・能力の育成～見方・考え方を働かせた深い学びの実現を通して～ キーワード:○資質・能力, ○見方・考え方, ○深い学び	小・中連携も加味した、見方・考え方を働かせた深い学び キーワード:○小・中連携, ○見方・考え方, ○深い学び
391	新学習指導要領が目指す資質・能力を育成するための指導方法の構築～各教科等における授業改善をととして～ キーワード:○新学習指導要領, ○資質・能力, ○授業改善	「かかわる力」の育成 キーワード:○対象を認識, ○他者と協働, ○課題の遂行
392	夢中になって問い続ける生徒の育成～教科の本質に迫る授業の工夫を通して～ キーワード:○夢中になって問い続ける, ○教科の本質, ○働き方改革	
393	『新たな時代を豊かに生きる生徒の育成ー2年次ー』 キーワード:○カリキュラム・マネジメント, ○Society5.0, ○グランドデザイン	
394	よりよい社会と幸福な人生の創り手をはぐくむ教育活動の創造 キーワード:○深い学び, ○学習者中心, ○問いと思考	テーマについては、各教科ごとに設定
431	女性の力をもっと世界に～協働的イノベーターとイノベーションを支える市民の育成～ キーワード:○理系女子の育成, ○協働, ○イノベーション	高大連携7年間特別教育プログラムおよびその教育効果に関する研究 キーワード:○高大連携, ○教養教育, ○女性の能力開発

432	筑波大学附属学校教育局が掲げる「先導的教育拠点」「教師教育拠点」「国際教育拠点」の中核となるべく、さまざまな研究活動を行っている。先導的教育として、教科教育に関しては専門性を活かしたカリキュラム研究や指導法の研究に積極的に取り組んでいる。 教師教育については、教育局と連携し、教員免許状更新講習の開催、筑波大学生を中心とした教育実習生の指導を行う中での教員養成とその研究なども継続的に行っている。国際教育では、生徒の海外派遣・相互交流に力を入れており、シンガポール、韓国、中国に加え、カナダ・プリンスエドワード島大学での生徒の研修を支援している。 キーワード:○先導的教育, ○教師教育, ○国際教育	附属小学校、中学校、高校、及び附属視覚特別支援学校の連携によるアートメダルの制作と国際メダル展への参加。今年度は、メダルを通じた国際交流を行った。桐陰会館に国際芸術メダル連盟の会員(9カ国から14名の参加者)を招待して生徒と大学生を交えたワークショップを開催した。 キーワード:○アートメダル, ○国際メダル展
433	WWL(ワールドワイドラーニングコンソーシアム支援構築事業) キーワード:○グローバル教育, ○高大連携, ○フィールドワーク	WWL(ワールドワイドラーニングコンソーシアム支援構築事業) キーワード:○グローバル教育, ○高大連携, ○フィールドワーク
434	公開教育研究会の場合は「教科等横断的な視点からの教育活動の改善～「学習評価」を軸としたカリキュラム・マネジメント～」 キーワード:○コンピテンシー, ○学びの本質, ○パフォーマンス評価	HATO プロジェクトでは「国立の大規模教員養成系単科大学である北海道教育大(H)・愛知教育大(A)・東京学芸大(T)・大阪教育大(O)を中心に、教員養成教育が共通して抱える諸課題を協働して解決できる体制を整備し、全国の教員養成大学・学部等とのネットワーク化を図るとともに、日本における教員養成の質保証と高度化を支援するシステムを構築すること」 キーワード:○教員養成, ○教育実習, ○指導力向上
435	スーパーサイエンスハイスクール研究開発(SSH) 科学的に考え技術的に取り組み問題解決し、国際的に活躍する人材を育む教育方法の開発 スーパーグローバルハイスクール研究開発(SGH) 科学技術系素養を持つグローバルテクニカルリーダーの育成 キーワード:○科学技術, ○国際化, ○テクニカルリーダー	大学の研究室より依頼を受けたアンケート調査等への協力
441	持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダーの育成 キーワード:○社会課題の探究, ○国内外の教育機関・国際機関との連携, ○高度な高大接続	持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダーの育成 キーワード:○国内外の教育機関・国際機関との連携, ○高度な高大接続
451	これからの時代を生きるための資質・能力の育成ー学びの喜びから広がる力ー キーワード:○生きる力, ○学びの喜び	・教科横断型授業について、高大連携で協力してもらっている。 キーワード:○教科横断型授業
461	SSHに関する科学技術人材育成 SGHアソシエイトに関するグローバルリーダーの育成 本学と全附属学校園との「グローバル人材育成プログラム」の開発 キーワード:○SSH, ○SGH, ○グローバル人材	「グローバル人材育成プログラム」の開発 キーワード:○全附属学校園と大学との連携, ○グローバル人材育成, ○地域のモデル
462	池田地区共通テーマ「社会とつながり、明日を切り拓く資質・能力の育成」 高校テーマ「国際バカロレア教育研究の成果をいかして」 キーワード:○資質・能力の育成, ○国際バカロレア教育研究	
463	「学びの自立を目指す評価の工夫と改善」～深い学びの実現とその評価～ 議論と体験を通じた次世代科学的な人材の育成 キーワード:○深い学び, ○評価, ○次世代人材	新科目「理数探究」のためのプログラム開発と探究活動の生徒及び教員への効果 授業や校務におけるグーグル G-Suite の活用法の開発 キーワード:○理数探究, ○G-Suite, ○プログラム開発
471	「学ぶ」から「探す」へー中・高6カ年の学びの地図ー キーワード:○深い学び, ○探究, ○学びの地図	・教職大学院のアクションリサーチ実地研究 ・テーマ:社会的な見方・考え方を働かせる社会科・地理歴史科の授業開発ー「つながり」を持たせる授業に着目してー ・テーマ:論理的思考力の向上を目指した高等学校数学科の授業開発ーICT機器の活用による構造思考の数学的活動を通してー ・広島大学学部・附属学校共同研究プロジェクト参画 キーワード:○授業開発
481	伊豫の学びから世界の学びへーグローバルマインドを持ったグローバル人材の育成ー キーワード:○課題を発見し立ち向かう, ○多様な価値を理解し対話する, ○論理的に思考し判断する	大学教育の到達点の高度化 ～早期の“動機付け”から“深い学び”へ～ キーワード:○パイオニア・アドバンスト・プレイズメントプログラムの創設と二重単位の付与, ○ルーブリック評価による「課題研究」の行動化と入試への活用, ○高大で一貫して汎用的能力を育てる ICT 教材の開発
531	筑波大学附属学校・第2期中期目標・中期計画における3つの拠点(「先導的教育拠点」「教師教育拠点」「国際教育拠点」)構想に基づき、第3期中期目標・中期計画での「グローバル人材育成」「インクルーシブ教育の推進」を実践する。「先導的教育拠点」として、スーパーサイエンスハイスクール研究開発「国際社会に貢献する科学者・技術者の育成をめざした探究型学習システムの構築と教材開発」(第4期3年次)、「教師教育拠点」として、本校教育活動の発信と教員免許状更新講習の充実、「国際教育拠点」として、生徒の海外派遣交流・国内での国際交流事業などを推進する。 キーワード:○スーパーサイエンスハイスクール, ○グローバル人材, ○インクルーシブ教育	附属学校教育局のプロジェクト研究P2～P4に参加している。 P2:演劇的表現やパフォーマンスを通じた学習と学習環境の共創 P3:中高生のインターネット依存の現状と支援に関する研究 P4:ICTを活用した授業実践の共有と公開 キーワード:○パフォーマンス, ○インターネット, ○ICT
532	IBの趣旨に基づくカリキュラム・マネジメントの実践(SSH)「学びの本質」を捉え、SOCIAL CHANGEをもたらし科学技術人材の育成(SGH)多文化共生社会の実現を支える組織力・対話力・実行力の育成 キーワード:○IB(国際バカロレア), ○カリキュラム・マネジメント, ○SSH/SGH	カリキュラム・マネジメント IB教育研究 研究協議会各分科会設定テーマ 現職教員研修 SSH/SGH キーワード:○国際バカロレア, ○現職教員研修, ○SSH/SGH

551	「イノベーション・サイエンス」を目指す人材育成～中高大接続によるカリキュラム開発と実践～ キーワード:OSSH, OSGH, Oイノベーション	キーワード:○高大接続
561	グローバルキャリア人としての資質・能力を育成するカリキュラム開発と評価方法の研究－汎用的能力論と次期学習指導要領の方向性を踏まえて－ キーワード:○グローバル, ○資質・能力, ○汎用的能力	ヘルスプロモーション
562	ポリフォニーとしての学校-未来を切り拓く資質・能力と豊かな教養を兼ね備えた市民の育成- キーワード:○主体的・対話的で深い学び, ○文理統合的視点, ○カリキュラムマネジメント	高大接続カリキュラム開発 キーワード:○探究, ○異学年, ○文理統合
611	育成を目指す資質・能力と知的障がい教育の学び～これからの函館で自分らしく生きるための学びのデザイン～ キーワード:○育成を目指す資質・能力, ○この地域だからこそ, ○知的障がい教育	知的障がい教育 キーワード:○知的障がい教育, ○発達障がい, ○授業
621	児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくりー観点別評価の取り組みを通してー キーワード:○主体的に活動する姿, ○授業づくり, ○観点別評価	「附属学校と公立・私立学校の実践に関する連携の開発(4)」「一知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の協働的追求を通してー」「知的障害特別支援学校における「自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱い」の実践要領の開発」 キーワード:○キャリア教育, ○自立活動
622	『生きる力』から『みんなで生き抜く力』へ(1年次)～人や場所の垣根を越えた授業作りを通して～ キーワード:○みんなで生き抜く力, ○人や場所の垣根を越える, ○受援力	附属四校園共通テーマ『かかわり合う力』をはぐくむ キーワード:○教員同士の情報交換, ○子供同士の交流活動, ○特別支援教育の充実
623	「こころ」と「からだ」の健康を主体的に考える子供の育成 キーワード:○健康教育, ○知的障害, ○カリキュラムマネジメント	健康教育推進 キーワード:○健康教育, ○附属校園, ○地域のモデル
624	一人一人が生き生きと活動する姿を求めて～主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善～ キーワード:○子どもの内面, ○授業改善, ○学習評価	学校研究に関する連携については、連携としてのテーマを特には立てていない。
625	今、そして社会へ。児童生徒一人一人の生きて働く学びを目指して キーワード:○学びの活用, ○授業づくり, ○小・中・高の連接	
631	「アクティブラーニング時代の授業づくり(4年次)～国語の実践を通して主体的・対話的で深い学びを考える～」 キーワード:○深い学び, ○余白のある教材, ○臨機応変な教師の役割	(1-1)と同じ キーワード:○深い学び, ○余白のある教材, ○臨機応変な教師の役割
632	対話性を重視した学びに基づく教育実践の創造 キーワード:○児童生徒の内面, ○「できる・分かる・考える」授業, ○自己の学びや成長の実感	社会の変化に対応し、未来を創り出すたくましい子どもの育成 キーワード:○学びをつなげる力, ○関わり合う力, ○やり遂げようとする力
633	知的障害のある児童生徒の「魅力」デザインプロジェクトというテーマで研究を行っている。児童生徒を「魅力」という概念で見つめ直し(リフレーミング)、授業づくりに反映させる研究を実施している。児童生徒の「魅力」は、「心のバリアフリー」を生み出すものの一つとも想定している。研究は、自己表現の魅力を検討する「表現チーム」と、キャリア発達に関する魅力を検討する「夢の実現チーム」の2チームで研究を進めている。 キーワード:○魅力, ○表現, ○キャリア	附属特別支援学校としての研究推進に向けての指導・助言 キーワード:○研究推進, ○附属学校
634	学びを生かし、自分らしく社会とかがわる児童生徒の育成～学習指導要領に対応した各教科の実態把握を活用した授業づくり～ キーワード:○自分らしく, ○学習指導要領, ○実態調査	特に連携テーマは設けていないが、公開研究会を軸にして、校内研究や公開する授業への助言等を中心に、年間を通して連携している。 キーワード:○公開研, ○授業づくり, ○助言
635	一人一人が力を発揮し、活躍する授業づくり～実態把握からの目標設定と、評価のフィードバックを通して～ キーワード:○個別の指導計画, ○妥当な目標設定, ○評価の客観性	
636	児童生徒の社会情動的能力の向上を目指して～発達段階に応じた目標設定と根拠のある評価～ キーワード:○社会情動的能力, ○自立活動	教員養成・教育実践研究における連携・協働 日常的な連携や共同研究 キーワード:○研究開発, ○実習・養成・育成, ○地域支援
637	深い学びを支える知的障害特別支援学校の授業づくり～各教科等を合わせた指導を中心に～ キーワード:○深い学び, ○各教科等を合わせた指導	
638	これからの個別的教育支援計画・個別の指導計画を考える キーワード:○個別的教育支援計画, ○個別の指導計画, ○つなげる	「ミライの体育館ープロジェクトマップ活用による特別支援教育の取り組みー」筑波大学工学系との連携研究 キーワード:○プロジェクトマップ活用, ○自発性, ○相互作用
639	主体的・協働的な学びを育む支援 キーワード:○主体的学び, ○協働的な学び	1. 教育実習の指導教員のためのFDコンテンツ 2. 金融教育共同研究 3. 図書館プロジェクト キーワード:○教育実習, ○金融教育, ○図書館活用
641	平成31年度文部科学省 特別支援教育に関する実践研究充実事業ー「地域・人との関わりを通して、学ぶ楽しさ、伝え合う喜びを育む授業づくり(二年度)」ー キーワード:○主体的・対話的・深い学び, ○協働, ○合わせた指導と各教科等の内容	大学教員との共同研究 「金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校における『ビジネス顕微鏡』を用いた児童生徒同士や教師とのコミュニケーションの実証的研究」 キーワード:○society5.0, ○ビジネス顕微鏡, ○可視化

642	「自立する力をはぐくむ学びのつながり」～個と集団の学習場面を通して、「深い学び」を実現する授業づくり～ キーワード:○個と集団, ○深い学び, ○学びのつながり	
643	今を、豊かに生きる子供 –資質・能力を育成する「やりがい」のある授業づくり- キーワード:○資質・能力, ○子供主体, ○思考・判断	
644	専門家として学びあい、高め合うための校内研修の在り方「子供の姿から学びあう授業研究 ～教師自身の見方・考え方を培う～」 キーワード:○校内研修の在り方, ○子供の姿から学ぶ, ○教師自身の見方・考え方を培う	・子供の内面を捉え学びの過程に寄り添う資質・能力を培うための教員研修プログラム「学びあいの場」の開発と普及 ・知的障害特別支援学校におけるプログラミング教育の在り方に関する研究 キーワード:○学びの過程, ○教員の資質・能力, ○開発と普及
645	分かる・できるを実感し、楽しさや喜びにつながる『運動』の授業づくり キーワード:○運動, ○体育, ○自立活動	
651	夢中になって学ぶ子どもの姿を求めて –複数の学習場面のある授業- キーワード:○夢中になって学ぶ, ○夢中になるポイント, ○複数の学習場面	
652	思考力・判断力・表現力等を育成するための授業づくり キーワード:○新学習指導要領, ○思考力・判断力・表現力等の育成, ○自立と社会参加	主体的、創造的に生き抜く心豊かな子どもを育てる キーワード:○考える力, ○生きる力, ○コミュニケーション力
661	「社会で生きる力」の育成に向けたカリキュラム・マネジメントの実現 キーワード:○社会で生きる力, ○本校がめざす資質・能力	テーマを掲げての連携は行ってはいない。 授業に参加してもらったりワークショップの講師としてきてもらったりしている。 キーワード:○授業, ○ワークショップ
662	ともに向上心を持ち続ける子どもを育む授業実践研究 ～心が動く授業から深い学びへ～ キーワード:○深い学び, ○心の動く授業づくり, ○Round Study(ラウンドスタディ)	本校の校内研究の内容に合わせて、大学の関係する先生方から助言してもらっているため、連携テーマとしては設定していない。 キーワード:○校内研究, ○授業実践研究
663	コミュニケーション的関係がひらく障害児教育 –生活・集団・内面・発達と障害をとらえなおす キーワード:○コミュニケーション, ○集団, ○発達	障害児の発達検査とその分析 成人期以降の知的・発達障害者の QOL に関して キーワード:○発達検査, ○成人期以降の QOL
664	知的障害教育におけるカリキュラムマネジメントの運用とキャリア教育の推進 キーワード:○知的障害教育, ○カリキュラムマネジメント, ○キャリア教育	知的障害教育におけるカリキュラムマネジメントの運用とキャリア教育の推進 知的障害特別支援学校におけるプログラミング教育を通じた論理的思考の育成 読み書き障害への指導支援 インクルーシブ教育の推進 どろんこプロジェクト 2019(美術教育講座との連携) キーワード:○知的障害特別支援教育(学校), ○プログラミング教育, ○読み書き障害
665	考える子を育てる—知的障害特別支援学校における小・中・高一貫した生徒指導とは?— テーマ別研究 ①わかる!授業づくり ②カリキュラム「キャリア」「セルフデザイン」 ③性の学習 ④社会とつながる(ソーシャルワーク) キーワード:○考える子, ○生徒指導	自主研究グループによる研究(13グループ) 「特別支援学校小学部における音楽の授業づくり」「附属特別支援学校における家庭の指導の工夫」「子ども・保護者・教職員のメンタルヘルスに関する心理的支援」「知的障害のある生徒の性に関する指導の工夫 –個別指導用教材の開発と指導実践-」「学校における保健室の役割と課題解決型アプローチ」「特別支援学校における地震防災管理の質的改善を目的とした教員研修の工夫」「軽度の知的障害や発達障害のある生徒の内面を重視した指導法に関する研究」「附属三校のクラスターの活用と合理的配慮に基づく支援について」「附属特別支援学校小学部「自立活動」における療法的視点を取り入れた音楽活動の取り組み」「主権者教育のカリキュラム・マネジメントに関する研究」「ライフキャリア・ワークキャリアをベースにした特別支援学校高等部カリキュラムの検討」「チェンバロを用いた附属特別支援学校における鑑賞教育研究」「特別支援学校高等部『金属造形』における、感覚を通じて多様性を学ぶ活動による、21世紀型能力『想像力・自律的活動力・人間関係形成力』へのアプローチの試み」 キーワード:○自主研究
671	「対話的・主体的」で深い学びを目指した授業づくり キーワード:○新学習指導要領, ○特別支援教育, ○深い学び	一人一人を大切に授業づくり・環境づくり～一人一人の可能性を伸ばす授業づくり～ キーワード:○授業づくり, ○自立と社会参加
672	わかる、できる、つかえる をめざした授業 ～一人一人の正しい理解に基づいた「状況づくり」～ キーワード:○つかえる, ○正しい理解, ○状況づくり	
673	『ライフステージを大切に教育内容と「自分づくり」』～成人期を見据えた児童期、青年期の学び～ キーワード:○生活を楽しむ子, ○自分づくり, ○人格的自立	いま伸びる力とあと伸びる力を育てる キーワード:○幼小中連携

681	<p>未来を拓く力の育成(附属学校園共通主題) 一地域で豊かに生きる子どもを育てるー ～地域と連携・協働し、貢献を実感する学びを通して～</p> <p>キーワード:○「働く生活」の実現, ○キャリア教育の視点, ○「生きる力」を育む授業の在り方</p>	<p>地域で豊かに生きる子どもの育成を目指し、大学と連携して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、キャリア教育や共生社会形成の視点に立った交流及び共同学習や高度な作業学習の展開、大学就労の充実等に努めている。また、大学と連携した「学びのダイバーサポートチーム」により、通常の園や学級に在籍する発達障がい等の特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への学習支援や生活支援に努めている。</p> <p>キーワード:○授業改善, ○キャリア教育, ○学びのダイバーサポートチーム</p>
682	<p>個々の実態に即応した教育課程の研究と実践(その25)「知的障害教育における育てたい資質・能力を踏まえた授業づくり ～個々の実態(発達と障害特性)に適した主体的・対話的で深い学びの展開～」</p> <p>キーワード:○育てたい資質・能力, ○主体的・対話的で深い学び, ○発達及び障害特性</p>	<p>・新学習指導要領に基づく知的障害教育のカリキュラム及び授業改善 ・新学習指導要領に向けた知的障害教育の教育課程の編成と指導方法に関する研究 ・知的障害者の豊かな食生活を実現するための家庭科「食」教育のカリキュラム開発 ・強度行動障害を伴う自閉症児への教育支援と進路指導の在り方 ・知的障害特別支援学校の接客サービスにおける丁寧さや気配りに関する内容の指導効果に関する研究</p> <p>キーワード:○カリキュラム開発, ○教育課程の編成, ○主体的・対話的で深い学び</p>
683	<p>教育活動全体で取り組む自立活動の指導</p> <p>キーワード:○自立活動, ○授業改善, ○指導課題の明確化</p>	<p>大学及び附属学校園では、徳島県の教育振興計画を踏まえ、「学力向上」「キャリア教育の推進」「ICTを活用した教育の推進」について徳島県教育委員会とともに「共同研究プラン」をスタートさせている。また、大学と本校の発達支援センターの連携により、特別支援学校センター的機能充実をテーマに取り組んでいる。</p> <p>キーワード:○学力向上, ○キャリア教育, ○ICTの活用</p>
691	<p>・新学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメント～熊大式マネジメントシステムの構築～</p> <p>キーワード:○新学習指導要領, ○カリキュラムマネジメント</p>	<p>・テーマに基づいた連携は行っていないが、共同研究等において、各々で「道徳教育」「自立活動」等のテーマを設けて研究活動を行っている。</p>
692	<p>児童生徒の確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立を目指して～明日の授業につながる附特システムの構築～</p> <p>キーワード:○カリキュラム・マネジメント, ○つなぐ</p>	
693	<p>育成を目指す資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント実現に関する研究～子どもの学びから始める3つのPDCAサイクル～</p> <p>キーワード:○資質・能力, ○カリキュラム・マネジメント, ○教育課程</p>	<p>1 知的障害教育における児童生徒の資質・能力の育成と計画的なカリキュラム・マネジメントの在り方の検討 2 日々の授業づくりや年間指導計画の評価・改善に生かすための資質・能力設定の在り方 3 附属学校園におけるセンター的役割を通したインクルーシブ教育システム構築に関する研究</p> <p>キーワード:○カリキュラム・マネジメント, ○授業づくり, ○インクルーシブ教育システム構築</p>
694	<p>「生きる喜び・生きる力を育む教育課程の編成」ー「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の整理を通してー</p> <p>キーワード:○生きる喜び, ○生きる力, ○教育課程</p>	<p>「生きる喜び・生きる力を育む教育課程の編成」ー「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の整理を通してー</p> <p>キーワード:○生きる喜び, ○生きる力, ○教育課程</p>
741	<p>「自律的な学びへのイノベーション 探究するコミュニティを培う」ー「学びのつながりを紡ぎ、社会を創る力をとらえる」(2年次)ー</p> <p>キーワード:○探究, ○コミュニティ, ○協働探究カリキュラム</p>	
761	<p>義務教育9年間で資質・能力を育成するための教育課程の再構築に関する研究～縦(各学年)と横(各教科・領域)のつながりを意識したカリキュラム再構築～</p> <p>キーワード:○義務教育9年間, ○カリキュラム・マネジメント, ○資質・能力</p>	<p>本校の研究テーマと研究内容が一致する大学教員と連携している。全教科に連携協力の大学教員を配置して、指導案の検討や教材開発などに関して指導助言を受けながら、取り組んでいる。場合によっては、本校の研究会に大学教員が参加したり、研究授業を参観して指導助言をいただいたり、本教職員が大学の研究室を訪問したり、密に連絡を取り合って研究を進めている。</p> <p>キーワード:○義務教育9年間, ○思考力・判断力・表現力, ○教材開発</p>
771	<p>深い学びを実現する保育・授業づくり</p> <p>キーワード:○授業づくり, ○深い学び</p>	
1231	<p>学びを深める場をつくる～「手立て」に焦点を当てて～</p> <p>キーワード:○主体性, ○汎用的な力, ○学びを深める場をつくる視点</p>	<p>研究テーマと同じ</p>

2-8 教職大学院との連携の内容と方法(教職大学院を設置している大学附属のみ対象のため別掲)

No.	2-8 教職大学院との連携の内容と方法
111	・教職大学院教員が園の保育状況を見学し、後に指導助言をいただく。 ・教職大学院教員の研究に関する協力の実施 キーワード:○保育見学, ○研究協力
121	総合実習の一環として、学卒院生の希望者の実習を行っている。 キーワード:○幼児期の教育, ○幼児理解, ○幼小連携
122	今年度の取組について 教職大学院学びの推進委員会による研修会「幼稚園見学」と「保育参加」「幼児教育についての講話」に協力 公開研究会への参加受け入れ キーワード:○幼児教育理解, ○幼児の発達の理解, ○幼小中高の接続を見通した教育
123	教職大学院生の観察実習と協同省察会 キーワード:○観察実習, ○協同省察会
124	教育実習生の受け入れ キーワード:○専門性の共有
125	大学院生のインターンシップの場となっている。 キーワード:○インターンシップ
133	日常的に連携して研究に協力している 大学院生の実習を受け入れている キーワード:○日常的, ○協力, ○実習
134	院生の研修の一環として本園の保育参観を導入している。 キーワード:○研修として参観の機会を設置
135	実習校として協力している。 キーワード:○教育実習, ○授業の場
136	論文をまとめるために、長期の参観をする場を提供したり、アンケートに答えたりなどしている。 副園長が教職大学院の特命教授を兼ねている キーワード:○研究協力, ○授業, ○現場
141	学校実習の受け入れ キーワード:○学校実習
142	研究調査に協力している。 特別な配慮を要する幼児の支援の在り方等について 教育実習を受け入れている キーワード:○実地研究, ○教育実習, ○発達支援
143	子どもと直接かかわる研究機関 教職大学院の拠点校 キーワード:○研究機関, ○拠点校
145	院生を輩出するとともに、学校拠点方式の大学教員による定期的な研究会参加を行っている。 附属学校園から1名ずつ、教職大学院の兼務者がいる。(附属幼稚園は副園長が兼務) キーワード:○学校拠点方式
151	大学院生が保育を参観し、自身の研究を深める。研究の成果を見せてもらう。 キーワード:○可能な範囲で
162	今後連携する予定であり、現在検討中です。
164	実習を受け入れている。 副園長が教職大学院の副指導教員をしている。
171	養護教諭が週1.5日教職大学院へ行き、「アレルギーを有する子どもの成長を支える取組」に関する研究を行っている。副園長が査察会に出席し、教職大学院教員とともに、意見交換を行っている。 キーワード:○養護教諭の派遣, ○理論と実践
173	教職大学院の授業に協力 院生が保育・授業に参加 キーワード:○互恵性, ○興味・関心
181	教職大学院担当教員が開催する講座に教職員も参加できるようになっている。 教職大学院の学生の教育実習を受け入れている。 キーワード:○教育実習
192	現在は特に行っていないが、実習施設としての受入体制は整えている。 キーワード:○実習
194	各種調査への協力 キーワード:○調査協力
196	・園長が、院生対象に依頼されたテーマに沿った講義を行っている。 キーワード:○後進育成, ○専門分野の活用
211	教職大学院生(ストレートマスター)の非常勤講師としての受入 キーワード:○非常勤講師
212	・教職大学院生の俯瞰実習、授業協力等の連携。 ・教職大学院教員の授業観察、研究協議への参加、助言等の連携。 キーワード:○俯瞰実習, ○授業協力, ○授業観察
213	2-6に同様 キーワード:○協働, ○支援, ○地域
221	・授業実習や観察実習の受入。 ・学校経営や学校評価に関する講義の講師を務めている。 キーワード:○実習受入, ○講師
222	・実習だけではなく、避難訓練に学生が参加したり、行事にかかわったりするなど、年間を通して学ぶ機会を設定している。 キーワード:○実践と理論の往還

223	<p>教職大学院の2年生2名を非常勤講師として採用し、1年生の図工と2年生の国語、4年生の理科を教科担任として受け持ってもらっている。</p> <p>キーワード:○非常勤講師として採用, ○教科担任</p>
224	<p>教育実践を通して、課題研究テーマの設定、実践、検証、改善を行っている。</p> <p>キーワード:○学校マネジメント・協働力, ○カリキュラム・授業デザイン力, ○成長発達サポート力</p>
225	<p>授業実践や校内研修会へ参加し、附属小学校の研究へコメントをしている。</p> <p>附属小学校の校外学習や行事等に参加し、子どもの活動支援を行っている。</p> <p>教職大学院生が学級に配置され、附属小学校の先生の日々の授業や学級経営の仕方を学んでいる。</p> <p>教育研究公開の際、ポスターセッション等を通して教職大学院の取り組み内容やPR活動を行っている。</p> <p>キーワード:○校内研修会への参加, ○校外学習や行事等への参加, ○教育研究公開でのPR活動</p>
230	<p>教職大学院はありません。</p>
231	<p>教職大学院の課題発見実習 4日間の教育実習で、大学院生の課題発見・解決に協力している。</p> <p>キーワード:○課題発見実習</p>
232	<p>・インターンシップ受け入れ ・附属学校教員の講義</p> <p>キーワード:○インターンシップ, ○講義</p>
233	<p>大学院生の教育インターンとしての受け入れ</p> <p>キーワード:○教育インターン</p>
234	<p>実践研究校(受入校)としての役割</p> <p>キーワード:○共通理解</p>
235	<p>・実地研究Ⅰの場として活用している。</p> <p>キーワード:○実地研究Ⅰ</p>
236	<p>連携協力校になっているので、来年度から複数名の受入を考えています。</p> <p>キーワード:○連携協力校, ○現場実習</p>
237	<p>・小学校の授業参観を依頼される。参観後、授業者と院生との話し合いの場を設定している。</p> <p>キーワード:○授業参観, ○話し合い</p>
238	<p>本校教員1名が、1名を長期実習生として学級に受け入れ、実践力を高めるための指導をしている。</p> <p>キーワード:○長期実習, ○実践力</p>
241	<p>・授業実践の機会の提供 ・組織的な学校運営についての情報提供</p> <p>キーワード:○授業づくり, ○組織的な学校運営</p>
242	<p>・学校課題やニーズに合った支援を大学が行う「学校支援プロジェクト」</p> <p>キーワード:○学校課題やニーズ, ○学校支援</p>
243	<p>・院生の在席 ・授業の公開 ・本校を会場として使用</p> <p>キーワード:○在席, ○授業公開, ○本校使用</p>
244	<p>信州大学の教職大学院は今年度で開設4年目を迎える。その特徴である「拠点校方式」と「アリーナを通じた学び」という点を中心に①省察的実践の深化②教員養成や教師教育の可能性③グローバルな視点からの研究推進、の3点をキーワードとして附属学校園との連携を進めている。</p> <p>① 省察的実践の深化 「拠点校方式」では、4名の実務家教員を拠点校に配置し、附属学校園(公立の院生の勤務校も含む)に所属している現職院生(2019年度は3名の院生と4名の修了生が在籍)が、勤務地において演習や大学院での研究を進めることができる体制を整えている。また学部卒の院生(ストレートマスター)の実地研究の場として各附属学校園を中心に教育現場に深く入り込んだ実践研究を進めている。さらに、「アリーナを通じた学び」として、毎週木曜日には拠点校である附属学校園でチーム演習が行われ、院生の主担当だけでなく、実務家・専門教員・所属チームの院生など協働して演習を進めている。このチーム演習は発表院生の省察を深める機会となるだけでなく、附属学校園や希望者の傍聴も可能であるため、省察的な実践を進めていく風土づくりの一助となっている。このような体制の中、日常的に授業公開が行われ、院生だけでなく附属学校園の教員一人一人にとって省察的実践を深化させていく日々となっている。</p> <p>② 教員養成や教師教育の可能性 ストレートマスターは実地研究を拠点校で行うことによって教育現場に出る前の段階での実践的な学びを深めることができる。教育実習中はメンターとして実習生への実践的な指導やサポートをしながら自身の学びを深め、さらに上記のような授業実践を通して修了後に現場で即戦力となる経験を重ねることができている。また、附属学校園の現職院生は自身の研究課題を中心に校内の研修などでは積極的に同僚との対話を深め、それが互いの授業観・子ども観などの更新の機会となり、同僚性の向上にも繋がっている。このような点から今後の教員養成や教師教育についての可能性を模索している。</p> <p>③ グローバルな視点からの研究推進 もとより、使命として教育研究を重ねている場であるが、今年度は教職大学院の授業の一つである海外学校臨床演習の訪問先のスウェーデンをはじめ、アメリカやスイスからの教育関係者の学校訪問を受け入れ、国内だけでなくグローバルな視点から児童の教育について考える機会となっている。また、国内では院生による学会発表・学会参加などの機会も増えつつある。教員養成や教師教育の在り方について今後もこのような機会を通して、広い視野に立って研究を推進していくつもりである。</p> <p>キーワード:○省察的実践の深化, ○教員養成や教師教育の可能性, ○グローバルな視点からの研究推進</p>
245	<p>教職大学院の講義に参画している</p> <p>キーワード:○講義に参画, ○教科の実践</p>
246	<p>大学教員と、附属学校の現職教員がベアになって大学院生を現在指導している。</p> <p>附属学校と大学院の距離があるため遠隔システムを活用していきたい。</p> <p>キーワード:○遠隔システム</p>
247	<p>・教職大学院所属の教員による本校研究授業における指導助言 ・教職大学院所属の院生による本校研究授業の参観、院生を研究協力者として要請 ・教職大学院所属の院生の研究協力</p> <p>キーワード:○公立学校のニーズ</p>
251	<p>教職大学院の学生に、実践の資料等を提供している。</p> <p>キーワード:○共同研究</p>

253	・研究への協力をしている。 キーワード:○研究協力
254	附属学校における実習として、大学卒教職大学院生(ストレートマスター)を受け入れている。 副校長は、実務家教員として院生の指導にあたりるとともに、教職実践高度化専攻会議(概ね月1回)に出席している。 キーワード:○実習, ○四校園, ○専攻会議
255	教職大学院での講義を担当し、連携を深める。 キーワード:○大学院との連携
261	各研究室ごとに、授業観察や講義・講話等の依頼が附属学校にあり、必要に応じて授業等の提供を行っている。 主として授業実践を通じて大学院の学生の研究への協力を行っている。 キーワード:○各研究室との連携, ○授業実践を通じた協力
262	教職大学院の実習を受け入れている。また、教職大学院の研究に協力している。 今後、教職大学院に、教科の授業力向上の専攻が作られる際に、新たに実習を受け入れる予定。 キーワード:○実習受け入れ, ○研究協力, ○教科の授業力
263	教職大学院生の学校実習を受け入れ、学校の課題を共有し、大学院生の研究をサポートしている。 本校教員が、教職大学院生に講義を行い、理論と実践の融合を進めている。 キーワード:○実習, ○実践, ○融合
264	教職大学院生の教育実習を受け入れ。 修士論文のための参観やアンケート、聞き取りなどの実施。 キーワード:○教育実習, ○修士論文
265	連合教職大学院の学生を受け入れ、現場での教育実践を基に指導している。 キーワード:○学習指導, ○学習法, ○児童中心
266	各教科単位で行っている教科研究会において、授業実践方法や内容について指導助言を受けるとともに、さらにその内容を自身の授業で実施し、複数の教職大学院教員及び附属学校園内教諭に意見等を求める検証を行っている。 また、主に附属学校から教職大学院に就学している教員を中心に、教職大学院の教員と大学独自の現職教員対象の研修・講習を共同実施するなど、教職大学院の学びを社会貢献として活用するようにしている。 キーワード:○指導助言, ○研修会, ○社会貢献
267	各教職員の研究に対し、共同研究や指導助言という形で連携している。 教職大学院との連携はさらに充実をはかるべきであるため、学部・教職大学院と協議することで、その方向性を定める予定である。 キーワード:○共同研究, ○指導助言
271	アクションリサーチ実地研究の受け入れ 附属学校教員がメンターの役割 キーワード:○メンター
272	教職大学院は学生の定員を増やす方向で動いており、実習先として附属の役割もこれまで以上大きくことが予想される。こうした要望には可能な限り応えたいと思うが、そのために受け入れ期間や研究内容の打ち合わせ等きめ細かい情報交換が必要になってくる。 キーワード:○きめ細かい情報交換, ○附属の役割
273	話題にはなりますが、現時点では特筆すべきものはありません。
281	教育実習の受け入れ
282	教職大学院生を教育実習期間に一定期間受け入れている。 ストレートに上がってきた教職大学院生を週1日、配属クラスで受け入れている。 本校の教員がみなし専任教員として教職大学院運営に関わっている。 キーワード:○教育実習, ○週1日の受け入れ, ○みなし専任教員
283	一年間を通して毎週金曜日に本校にて1名の院生が実習を行っている。 今年度は2年生の配属となり、主には授業サポートをしながら子供たちに関わっている。 これまで、1学期に1本、2学期に1本、計2本の研究授業を行った。大学と実習校それぞれの指導を受け、発問の精選や構造的な板書等、子供たちの実態を踏まえながら授業づくりができています。 今後は他学年の授業参観を行い、発達段階の違いに応じた指導法を学べるように展開していきたい。 キーワード:○授業づくり, ○個に応じた指導, ○発達段階に応じた指導
284	教員養成特別コースの基礎インターンシップの受け入れに伴い、大学院教員が度々本校に訪れ打ち合わせ及び観察・指導を行っている。 本年度からの実施の教科系の教職大学院生のフィールドワーク(教育実習)受け入れに伴い、大学院教員と実施方法等の協議を行っている。 本校校長は、県教委からの交流人事による常勤校長であるが、大学の実践教授としての発令も受け、本年度より募集した教科系教職大学院生のフィールドワーク受け入れ時の直接指導を担当することができるようにしている。 キーワード:○大学院教員との共通理解
292	大学院と附属学校の成果の相互交流 大学院生の教育実習の充実 現職教員との交流 キーワード:○連携, ○双方向
293	(内容)授業などの提供・・・(方法)授業参観、会議等の参観 など (内容)研究への協力・・・(方法)飛び込み授業の受け入れ、授業反省 など キーワード:○スケジュール, ○研究テーマ
294	研究したことの実践の場の提供 キーワード:○理論と実践の往還
295	・管理職養成コースの実地研修の受け入れ ・調査活動への協力(アンケート調査など) キーワード:○連携, ○ニーズに応える, ○研修の充実
296	インターンシップ教育実習の受入(4週間) キーワード:○教育実習
297	教職大学院生の各種教育実習での指導及びサポートを行っている。 本年度は2週間のメンタリング基礎実習、4週間の実践力開発実習の実施に協力した。 キーワード:○教育実習
298	一学期に、3週間程度学級に入っていたいただき、学級経営に関わっていただくとともに、検証授業を2度行っています。 キーワード:○3週間, ○学級経営, ○検証授業

311	年2回(6月・11月)の俯瞰実習の受け入れ 協議会・成果発表会への附属学校教員の参加 キーワード:○実践的な指導力の向上, ○多用な教育活動に関する知見
312	・教職大学院の研究への協力体制 ・教職大学院生の附属講師としての研修活用 キーワード:○教職大学院教師との兼任, ○教職大学院生の講師活用
313	大学との連携と同様
321	教職大学院生の研究に対して、調査や実践の場を提供する等の協力をしている。 キーワード:○院生への研究協力
322	中学校での授業参観及び大学院生の授業実践。 キーワード:○授業参観, ○授業実践
323	・教育実習の場所と、終了論文や研究に関するデータを提供している
324	教職実践インターンシップの実施 キーワード:○連絡調整, ○コミュニケーション, ○選択と集中
325	・年度始めに大学が教職員大学院についての説明会を開催する。 ・説明会后、教職大学院担当の先生が来校し、大学院生の紹介、研究内容、来校予定日の確認等を行う。 ・教職大学院生は、来校したときには本校担当教員の授業を参観したり授業について話し合ったりしている。 ・研究授業時には、教職大学院担当の先生が授業を参観し、授業についての指導助言を行っている。
331	・授業研究のための授業参観と研究協議 ・学校運営に関わる現場の教員業務観察と支援 ・授業実習 ・カリキュラムマネジメント研究(アンケート等) キーワード:○授業研究, ○カリキュラムマネジメント, ○学校運営
332	・授業研究のための授業参観と研究協議 ・学校運営に関わる現場の教員業務観察と支援 ・授業実習 ・カリキュラムマネジメント研究(アンケート等) キーワード:○授業研究, ○カリキュラムマネジメント, ○学校運営
334	5月に4日間、教職大学院課題発見実習の受け入れを行っている。 キーワード:○課題発見実習
335	教頭が年に2回大学で講義を行う。また、教職大学院からインターンシップを受け入れ、大学の担当教員と院生の研究のサポートをしている。 キーワード:○インターンシップ
336	教職大学院の課題発見実習及びインターンシップを受け入れている。 キーワード:○大学主体
337	実習を受け入れている。 キーワード:○Win Winの連携協力, ○資質向上
338	附属学校教員が教職大学院の実務家教員として授業等に関わっている。 附属学校が教職大学院の学生の実習を受け入れている。 キーワード:○実務家教員
339	教職大学院教職専門実習生(書道科)3名を受け入れている。 教職大学院生の授業参観を受け入れている。 キーワード:○教職専門実習生の受入れ, ○授業参観の受入れ
341	学校実習の受け入れ(院生の研究テーマに応じた授業実践の場+学部生の指導補助) 本校教育研究発表会の共催 キーワード:○学校実習, ○研究会共催
342	当校の研究に指導者として関わっている大学教職員との連携、当校の講師を担っている大学院生との連携をしている。 教職大学院生の教育実習の受入をしている。 キーワード:○研究協力者
343	・授業参観の機会の提供 ・本学校園職員が教職大学院の学生として学んでいる ・本学校園職員が実務家教員として、教職大学院生の指導を行っている。 キーワード:○授業提供, ○実務家教員, ○学生
344	○教職大学院生の現場実習(前期期間)の受け入れ ○教職大学院・教育フォーラムへの参加協力 ○教職大学院・教職カリキュラムに、附属学校職員がゲストスピーカーとして参加 キーワード:○教職大学院カリキュラムへの貢献
345	・2週間に1回、金曜日に職員が赴き、講義を行ったり、指導案を検討したりする。 ・教職大学院生が附属学校で授業を行い、協議会等を行う。 キーワード:○授業づくり, ○新学習指導要領, ○評価
346	教職大学院から大学院生を受け入れ、授業の様子を観察してもらったり、時にはT2として指導してもらったりしている。また、学校運営のスタッフとして、校内研修や諸行事にも参加してもらっている。 キーワード:○協働
351	教職大学院生への講義 生活教育研究協議会への参加 キーワード:○連携の日常化, ○研究の日常化
352	今年度後期より附属学校の教員が教職大学院を受講できるシステムが可能となり、秋から試行で3名の教員が、教職大学院の講義を受講している。最短2年から最大4年間での取得を目指して、来年度以降も連携を進めていく計画である。 テレビ会議システムでの講義受講の導入と、教授との連携実践で集中講義の受講システムを可能にしている。 キーワード:○テレビ会議システム, ○教授との連携実践

353	大学卒の教職大学院生は、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校という異なる校種全てでの実習を行いながら、それぞれの学修テーマに沿った研究を進めると共に、発達段階や特性に応じた指導について理解を深めている。 また、副校長は実務家教員として院生の指導にあたりると共に、専攻会議にも出席しFDに取り組んでいる。 キーワード:○附属実習, ○異なる校種, ○実務家教員
354	教職大学院の院生の教育実習を本校で受け入れる。 本校の教員が教職大学院で学ぶ。(現職教員研修) キーワード:○院生の実習, ○現職教員研修
355	・教職大学院の学生の研究に協力している。 キーワード:○教職大学院への研究協力
361	子どものいる研修・研究センターとして、実習と研修の充実を図る。 キーワード:○子どものいる研修・研究センター
362	・教職大学院生が週に1日の頻度で附属天王寺中学校に来て、教科教育の現場に入り込み、授業見学あるいは授業実践を行っている。 ・上記に当該する実習生は、今年度の場合、社会科で1名である。
363	・教職大学院の実習を受け入れる。 ・教職大学院の授業のフィールドとして提供する。 ・教職大学院の授業に附属教員を使ってもらう。 ・教職大学院の学生として、附属教員を派遣する。 キーワード:○実習, ○授業, ○内地留学
364	公開研修会などで、研修機会を提供している。 附属中の研究会議へオブザーバ参加してもらっている。 キーワード:○研修機会の提供, ○研究会議への参加
365	教員を教職大学院へ長期研修員として派遣 教職大学院授業の場所及び題材として本校を活用 キーワード:○長期研修, ○附属学校を授業活用
372	教職大学院の院生(1・2名)が、前期・後期(各2~3週間)に研修に来る(アクションリサーチ現地研究)。 その支援と協力をする。 キーワード:○院生, ○アクションリサーチ, ○支援
373	・アクションリサーチ実地研究における授業実践の場を提供し、メンターとして指導助言にあたっている。 キーワード:○アクションリサーチ実地研究, ○授業実践, ○メンター
374	アクションリサーチ実地研究をはじめ、授業研究を中心とした授業を附属学校が協力している。 キーワード:○授業研究
375	・教職大学院在籍者が、本校の授業研究会等に参加している
376	○教職大学院の授業に附属学校の教員が関わる。「学校経営と組織開発」というコースを附属学校が担当している。 キーワード:○交流
381	教職大学院に本校の教員が出向き、講義を行っている。 教職大学院の学生が講師となり、本校生徒に、理科などの教科の授業やスマホや携帯電話の利用に関する授業を行っている。 キーワード:○本校教員による出前授業, ○教職大学院生による授業
382	教職大学院生を教育実習中に2週間受け入れている キーワード:○教育実習期間
383	「教職大学院実習連絡協議会」を設定し、緊密な連携体制の元で質の高い実習・研修プログラムを実施している。 ・教職大学院生が、教育実習期間中に実習生とともに実践的授業研究を附属学校で行っている。 ・教職大学院生が、定期的に附属学校を訪問し、授業研究に関する指導・助言をもらっている。 キーワード:○実践的授業研究, ○教育実習期間
384	現職教員の院生が研究内容に関して、本校で授業実践をおこない、共同研究をすすめる。 キーワード:○現職教員, ○共同研究
391	現職教員(メンター)の実習、ストレートマスターの実習において事前打合せや意見交換、助言等を行っている。 キーワード:○教育実習, ○意見交換, ○助言
392	教職大学院生の実証授業の場の提供
393	教職大学院の先生方がいつでも授業参観に来て意見交換をしている。 キーワード:○授業実践, ○意見交換
394	・教職大学院院生の実習を受け入れている。 キーワード:○使命, ○人材育成
434	「大学院で理論を学び、教職専門実習や課題研究、演習を通じて、学校の中でその応用を図る」「学校の課題を大学院に持ち寄り、理論的に考察・検証する」など、理論と実践の往還の場を提供 キーワード:○教職専門実習, ○課題研究, ○考察・検証
441	教職大学院生の学校実習の受け入れ マネジメントコース院生への講義 キーワード:○学校実習
451	学校サポート活動として教職大学院の学生を受け入れ、長期にわたってTA,TT等を行い授業研究などのフィールドとして連携を行っている。 キーワード:○フィールドワーク
461	教育実習および実習後の共同研究の取組 キーワード:○教育実習, ○共同研究
462	大学院生1名を受け入れている。 キーワード:○大学院生の受け入れ
463	大学院生の学校実習を受け入れる。 大学院生の研究テーマを利用して、学校の現状に関する分析を行う。 大学院生に授業の一部を担当してもらう。 キーワード:○学校実習, ○分析, ○授業
471	・アクションリサーチ実地研究における授業実践の場を提供し、メンターとして指導助言にあたっている。 キーワード:○アクションリサーチ実地研究, ○授業実践, ○メンター

532	(内容)IB 教員養成に関する共同研究 (方法)実地研修および授業参観の受け入れ 附属学校教員による講義 キーワード:○IB(国際バカロレア), ○教科横断的
562	長期インターンシップとして附属学校に受け入れる キーワード:○インターンシップ
611	現在教職大学院との連携は行っていない。 今後は、人材育成という視点で連携していきたい。 キーワード:○共同研究, ○人材育成, ○学校経営
621	実践実習(学卒)、連携協力校実習(現職)の場を提供している。 特別支援教育力開発実習の場を提供している。 学卒院生総合実習の場を提供している。 院生個人の研究への協力を行っている。 キーワード:○実習校, ○研究協力
622	院生に対して、担当教官と綿密な計画・企画のもとに、授業紹介や公開研究および分科会参加等を積極的に行っている。 院生対象の「応用実践研究IB」の「熟達教師による師範授業」において本校の小学部の熟達教師による師範授業の見学ならびに検討会を行っている。 キーワード:○協働, ○育成, ○コンサルテーション
623	大学と同じ
624	大学院学生への実習及び研究への協力 学生による主体的な実践への協力。(児童生徒理解、学級経営等) 連絡調整に係る教員を校務分掌業務として命課する。 キーワード:○主体的実践
625	附属学校園での教職大学院生の演習等受け入れ キーワード:○授業づくりへの参加, ○教職大学院生による授業
631	・課題発見学習として、特別支援学校についての理解を深める機会とするとともに、幼・小・中・特支の異なる学校種における教育活動を観察することで、幅広い視野で自身の研究課題をとらえることができるようにする。 キーワード:○研究課題, ○異なる教育活動, ○理解
632	教職大学院生を対象とした附属特別支援学校の研修プログラムを実施している。 具体的な内容としては、教育実習の見学と一日授業体験をパッケージとして設定している。 教職大学院で学ぶ現職教員の特別支援学校に対する理解促進に役立っている。 教職大学院の指導教員が附属特別支援学校の研修担当者と連絡を取り合い、実施計画を作成している。 キーワード:○研修プログラム, ○見学・授業体験, ○特別支援学校への理解促進
634	教育実習や研究のフィールドとして、また可能な範囲で本校の教員の指導補助として連携している。 キーワード:○教育実習, ○研究フィールド, ○インターンシップ
635	ストレートマスター院生の実地研究を本校で引き受けている。 キーワード:○実地研究
636	教育実習協力校である キーワード:○教育実習
639	現状でほとんど連携できていないので、今後の連携を模索しているところである。
641	大学院生への学校マネジメントに関する講義の実施 学校実習の協力 教職大学院についてもできる限り協力する体制を構築している。 キーワード:○大学院生の活用, ○大学院生の意思の尊重, ○本校教員の研修
642	教職大学院生と本校の研究との関連を図り、教職大学院での研究が本校の研究にフィードバックされるようにしている。 キーワード:○研究テーマの関連
643	・研究会でのポスター発表者としての参加 ・当校の取組についての講義 キーワード:○情報交換, ○情報提供
644	・教職大学院の連携協力校として、院生の実習を受け入れている。授業の一環として公開授業も行い情報提供している。 ・担当者を設け、院生の来校日時や実習内容について教職大学院教授と連絡調整を行っている。 キーワード:○担当者の必要性, ○研究への参画, ○研究成果の還元
645	教育実践研究公開クロスセッションの場で本校の研究の方法や成果を、ポスターセッションの形式にて発表。 キーワード:○協働・研究, ○探求, ○組織作り
652	教職大学院生が本校を訪問し、特別支援教育の実際を参観している。 教職大学院のスタッフの学校訪問で連携を図っている。 副校長に教職大学院の兼務発令(准教授)がされており、実務家教員として講義及び指導を行っている。 キーワード:○学校訪問, ○大学院での講義
662	年間5日間の実習を受け入れている。 現職教員学生は、特別支援教育を学校全体で推進できる高度な教育実践力を養うことを目標にしている。 学部新卒学生は、通常学級における特別支援教育を推進できる確かな教育実践力を養うことを目標にしている。 キーワード:○特別支援教育, ○教育実践力
664	本校教員の派遣 実習受け入れ キーワード:○教員派遣, ○実習受け入れ
665	・教職大学院生の実習の受け入れ ・教職大学院生への授業における本校施設の活用、授業参観などの受け入れ キーワード:○大学院生の受け入れ, ○施設活用
671	特になし(教職大学院生の研究テーマに応じて、協力できることはする)
672	教職大学院生の附属学校における学校実習 附属学校における実践研究を通じたデータ収集 キーワード:○効果的効率的指導力, ○コーディネーション能力, ○地域をリードする人材育成

681	<p>年に1回教職大学院1回生を対象とした授業の一コマとして、本校の概要説明と授業参観、施設見学の機会を設けている。研究大会にも授業の一コマとして終日参加している。</p> <p>キーワード:○概要説明, ○授業参観, ○施設見学</p>
682	<p>・本校教諭1名が教職大学院で学んでいる。研究テーマは「実態把握に基づいた指導の追求と教育相談技術の向上」で、地域の公立小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級で教育実習を行い、特別支援学級担任の指導力の向上及び本校教諭の教育相談技術の向上を目指して取り組んでいる。教育実習の内容は、対象児童の心理検査による実態把握、授業観察、個別の指導計画及び教材教具の作成助言、自立活動の授業実施等である。教職大学院の指導教員に研究計画に基づいた指導助言を受け、研究成果を「土佐の皿鉢ゼミ」で発表している。</p> <p>キーワード:○教育相談技術の向上, ○心理検査による実態把握, ○自立活動の授業実践</p>
683	<p>本学子ども発達支援コース(特別支援教育分野)は、教職大学院に位置付けられている。教職大学院の学生が本校でフィールドワークを行っている。大学教員が取り組んでいる就学前幼児の早期発達支援の場である「わくわく教室」には、教職大学院の学生が参加したり、本校教員が研修を行ったりして、学び合う機会となっている。</p> <p>キーワード:○フィールドワーク, ○教員研修</p>
691	<p>・来年度から教職大学院に特別支援教育のコースが導入されるため、今後連携に関する具体的な協議が行われる予定。</p> <p>・本校職員も実務家教員の役割を果たす非常勤講師として教職大学院に関わり、本校で行われる授業も増える予定。</p> <p>キーワード:○実務家教員, ○授業実践</p>
693	<p>みなし教員が教職大学院の講義の一部担当するとともに、5日間の実践演習を受入れている。本校職員と一緒に授業研究を行うことを通して、授業づくりを行い、期間中にCTとして授業を行う。</p> <p>キーワード:○授業づくり, ○授業研究</p>
694	<p>管理職養成コースができ、今年度から管理職養成コースの学生(現職教員)の実習を受け入れている。学生はそれぞれに研究テーマをもっており、アンケート調査やインタビューに協力している。</p> <p>キーワード:○管理職養成コース, ○現職教員</p>
741	<p>週1回の研究企画会議に、毎週参加してもらい、助言をいただく。</p> <p>教職大学院のインターン生を複数名受け入れ、教育実践研究に協力する。</p> <p>本校職員が2名、教職大学院の准教授を併任しており、連絡調整が速やかにできるようにしている。</p> <p>教職大学院と附属学園を併任する「特別支援コーディネータ(3年任期)」を配置し、一対化を促進している。</p> <p>本校校舎に教職大学院があり、授業づくりや授業参観の際は頻繁に参観していただける体制である。</p> <p>キーワード:○研究交流, ○研修の受け入れ</p>
761	<p>教職大学院の学生の実習を受け入れて、教職員と同様に授業を行い、研究会に参加している。</p> <p>また大学の授業一環で教職大学院のフィールドワークを本校で行い、授業の参観やその授業の協議会を開き、授業づくりについて本校職員と教職大学院の学生と対話をする場を設けている。</p> <p>キーワード:○研究会</p>
771	<p>・校長が定期的に、教職大学院の授業視察に行っている。</p> <p>・教職大学院生が、附属学校の授業視察に訪問している。</p> <p>キーワード:○学校創造力, ○授業デザイン力, ○子ども支援力</p>

4-3 研究成果を他の附属校園とどのように共有しているか(問4-2で「ある」の校園のみのため別掲)

No.	4-3 研究成果を他の附属校園とどのように共有しているか
111	・北海道教育大学には4つの附属学校園があり、月1回実施の附属学校運営会議、年3回実施の附属学校研究推進連絡協議会、年1回実施の附属学校研究成果交流会等において、それと幼稚園では研究大会の相互参加などを通じて研究成果の共有を行っている。 キーワード:○研究推進連絡協議会、○成果交流会、○相互参加
122	全附属幼稚園部会リーフレットへの投稿、研修会での研究発表 キーワード:○リーフレット、○研究発表
126	全国、または地区の研究集会などにおいて発表園による発表が行われるため、参加者が成果を共有する機会となっている。 また、部会におけるリーフレット、文科省委託研究の冊子なども、成果の活用と共有につながっていると考える。 キーワード:○研究集会、○発表
133	幼稚園部会では、文科省の委託研究を受けており、それを進めるにあたり情報を共有する機会をもつことができている キーワード:○委託研究、○情報の共有
136	「対話」について研究している山梨大学教育学部附属幼稚園とほぼ全員の常勤の教諭が合同研修会を開いたことがある。 今年度、同じテーマで研究している熊本大学附属幼稚園を2名の教諭が訪問し、参観と研修ができるように依頼した。 同じようなテーマの園の公開研究会には参加するようにしている。 公開研究会後に、附属園の先生方と情報交換できる場を設けている キーワード:○合同研修会、○公開研究会、○情報交換
142	研究紀要の配本 現地視察 キーワード:○研究紀要、○現地視察
143	・公開研究会で発表したり、ラウンドテーブルで意見交換をしたりする。 ・研究成果を送付すると共に、地区や全附属の副校長会や部会で議論する。 キーワード:○公開研究会、○ラウンドテーブル、○全附属
145	研究集会の相互参加
161	かなり以前に近畿地区で年次持ち回りの共同研究テーマで研究し、近畿の附属幼稚園研修会で発表した キーワード:○近畿地区、○年次持ち回り、○共同研究テーマ
162	全附属大会での実践発表 近附属研修等での情報交換会 研究会への参加 キーワード:○実践における工夫
163	附属幼稚園では、毎年文部科学省の委託研究を全附属で協力しながら順番に受けている。この委託研究に研究協力することにより、共通のテーマで事例を提供して研究を行なってきた。 キーワード:○文部科学省委託研究、○研究協力、○事例提供
165	全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会が発刊している「国立大学附属幼稚園からの提案」のリーフレットによって研究成果を共有できていると思われる。 キーワード:○リーフレット、○研究紀要
172	研究紀要、視察による共有 キーワード:○研究紀要、○視察
173	研究紀要など発行物を読む。 研究会に参加する キーワード:○出版物、○研究会参加
174	文部科学省委託研究における研究成果の共有 中附属幼稚園部会研究集会等での共有 キーワード:○委託研究、○中附属
181	互いに持ち寄り、協議で話題にして紹介し合ったりしている。 キーワード:○互恵性
182	研究紀要の送付 連盟会議での発信
192	熊本の四附属(中学校、小学校、特別支援学校、幼稚園)で年に1回合同研修会を開催し、研究について情報交換を行っている。 キーワード:○合同研修会、○情報交換
194	附属小学校公開研究時に保育提供を行い、生活科との合同分科会を実施した。 附属小・附属中・附属特別支援学校から教諭の参加を継続している。(保育参観・年齢別協議会・講話) キーワード:○幼小接続、○他校種参観
211	北海道教育大学の附属学校間で、「成果交流会」等を通して共有し、必要に応じて相互に活用している。
213	北海道教育大学内だけでも11校園あるので、その中では様々な機会を通して研究成果の交流を行っている。 キーワード:○成果交流会、○研究推進会議
221	・持ち回りで開催する附属学校連盟研究大会での授業参観や情報交流と通じて互いに交流している。 ・学校公開研究会の分科会に招かれて実践発表している。 ・研究紀要、実践記録集等の書籍を献本している。 キーワード:○附属学校連盟研究大会、○他附属での実践発表、○献本
222	・東北附属の教科ごと分科会での情報共有 キーワード:○共有
224	東北附属の秋の研究会(令和元年10月31日～11月1日)で、本校の授業の一部を公開し、その後の分科会での協議においても話題に合わせて研究成果を説明している。毎年、東北地区の他附属の研究協議会や研修会に職員を派遣し、研究成果の発進を行ったり、課題を共有したりしている。 キーワード:○大会の活用、○公開研への参加
225	○ 東北附属の教科等部会で、各学校の研究や実践の取り組みを説明したり、作成した冊子や本等を紹介したりした。 ○ 各種研修会で出会った県外の附属教員と交流し、メールやSNS等を通じた継続的な情報交換を行っている。 ○ 先進的に研究を進めている県外の附属校園に視察へ行き、研究内容の交流を行っている。 ○ 本学の附属幼稚園、中学校、特別支援学校との持続可能な連携(情報交換、実践協力・支援、教材貸与等) キーワード:○東北附属、○県外の附属校園への視察、○メールやSNSでの交流

238	日本教育大学協会の研究集会で発表すること。 本学附属学校間の研究集会で成果を積極的に発信する。 キーワード:○教大協
244	3-5のような形の中で、同附属他校の実務家教員、高度教職実践専攻担当教授指導のもと、大学院生および学校教職員と共に研究成果を共有している キーワード:○実務家教員, ○教職大学院生, ○担当教授
245	県内の附属学校と研究協議会をもっていた(働き方改革の一貫で今年度から実質的な活動を停止した) キーワード:○研究協議会
246	文部科学省の研究開発学校発表研究会 視察 全附連地区大会 県内附属学校連絡協議会 キーワード:○研究開発学校, ○研究会, ○視察
247	・全附北信越の折に、研究担当が集まり、各校の研究について情報交換をする。 ・かなり昔の話になるが、本校で算数科の研究授業を行ったときに、上越教育大と金沢大の算数科主任に来てもらい、協議会をしたことがあった。 キーワード:○研究会案内の熟読
253	・「岐阜大学教育学部附属中学校」とは常に情報を共有している。 キーワード:○中学校
261	近隣3校園(附属幼稚園、附属桃山中学校及び本校)で共同研究テーマを持った共同研究を20年以上、継続している。 また、英語教育についても附属3校(附属桃山中学校、附属高等学校及び本校)共同研究発表会を継続している。 あわせて、大学とも連動するが、教育研究交流会議での交流も続けている。 キーワード:○近隣3校園共同研究, ○近隣3校英語研究発表会, ○教育研究交流会議
263	学校の安全管理および危機意識の研究成果をキャンパス内の中学校、高校と共有し、不審者対応訓練の精度向上などにつもめている。 全国の附属学校およびPTAの学校見学も受け入れ、それらの附属学校の安全意識の向上に貢献している。 キーワード:○安全, ○危機意識
265	他附属学校の校内研究会に招かれて指導助言を行っている。また、他附属学校の研究機関誌の原稿執筆を依頼されている。 キーワード:○校内研究会, ○研究機関誌
271	本校での公開研究会にシンポジストとして参加していただく。 他附属学校園の研究会を参観する。 キーワード:○研究会相互参観, ○研究会参加
272	広島大学には11校園(小学校だけで3校)の附属が存在しており、研究の成果物を送付し合ったり、互いの研究会等への参加を積極的に行うようにしている。 キーワード:○研究の成果物, ○研究会等への参加
283	・四国内にある附属学校が年1回集まる会において、研究成果の紹介や意見交流を行って、共有している。 ・坂出市にある附属幼稚園、附属中学校、附属特別支援学校の教員が年度の初めに集合する会で、共有している。 キーワード:○四附連, ○附属坂出学園内の共有
295	・夏季に開催される九附連において、各教科ごとに理論と実践について、情報交換を行っている。 キーワード:○同教科の研究者とのつながり, ○情報交換の場
298	互いに学校訪問を行い、授業視察と意見交換会を行っています。 研究発表会の案内を行い、動員をかけて参観するようにしています。 キーワード:○学校訪問, ○授業視察, ○意見交換会
311	本校の道徳教育に関する取組と共通する内容について、昨年度、教科調査官の示唆を仰いでいる群馬大附属中学校から教員を招き、本地区におけるセミナーで講演していただいた。 キーワード:○課題や取組の共有, ○Win-Winの関係性
312	・大学で行われる北海道教育大学11附属学校が集めて行われる成果交流会 ・11附属内で行われている先進的な取組を、取り組んでいる附属の先生を講師と引き研修を開催。 ・相互間の出前授業の開催 キーワード:○授業実践の公開, ○相互出前授業, ○成果と課題の共有化
322	公開研究会や研究授業に参加することによる成果の共有。 *同校園である幼・小・特支において。 協同研究会議にて成果の共有。*同校園である幼・小・特支において。 キーワード:○公開研究会, ○研究授業, ○協同研究
323	東北地区の附属学校では毎年集まって交流を行っている。
331	・2月実施の研究発表会 ・研究テーマに沿った本校教員製作による書籍出版 ・日常的な視察受け入れ及び講師派遣 キーワード:○研究発表会, ○書籍出版, ○視察受け入れ
332	・10月実施の附属鎌倉小学校との小中合同研究発表会 ・研究テーマに沿った本校教員製作による書籍出版 ・日常的な視察受け入れ及び講師派遣 キーワード:○研究発表会, ○視察受け入れ
333	研究推進委員会のメンバーによる学校視察などで情報交換を行っている。 キーワード:○対話, ○情報共有
337	キーワード:○情報交換, ○学びあい, ○学校文化の理解
341	ESD研究を実施した時、他県の附属校から視察があり、その研究の中でのカリキュラムマネジメントを共有できた。 キーワード:○視察
342	研究紀要の発送 SNSによる実践内容の発信 キーワード:○SNS

345	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟大学教育学部附属新潟小・中学校や上越教育大学附属小・中学校の教員が年に3回(3回中2回は、教頭と研究主任のみ)集まり、研究成果の共有を行っている。 ・他附属への研究協議会への参加 <p>キーワード:○県内の附属学校との交流, ○研究協議会への積極的参加</p>
351	<p>愛知教育大学附属岡崎小学校及び附属特別支援学校間で、各校研究部が授業参観及び研究協議を行っている。</p> <p>キーワード:○特になし</p>
372	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会において、パネルディスカッションをおこない、そのパネリストに他の附属学校を呼ぶ等して共有した。 ・他の附属学校園に視察に行き、双方向の情報交換をおこなった。 <p>キーワード:○パネリスト, ○双方向, ○情報交換</p>
373	<ul style="list-style-type: none"> ・広島大学学部・附属学校共同研究プロジェクトに他の附属学校とともに参画 ・いくつかの教科においては、広島大学附属学校全体での共同研究会を実施 ・各校研究会への相互参加 <p>キーワード:○学部・附属学校共同研究</p>
376	<p>○山口大学の教育学部には6つの附属学校園があり、研究成果については各学校園で共有されている。また、山口地区については附属幼稚園、附属山口小学校、附属山口中学校の3校園による共同研究である。</p> <p>○その他年1回行われる中国地区附属学校園副校長会では各県からの発表があり、どのような研究が行われているかについて概要を知ることができる。</p> <p>キーワード:○連携</p>
377	<p>中国地区等の教科教育の学会で成果を発表している。</p> <p>キーワード:○学会で成果発表</p>
382	<p>1点目は附属高松小学校との共有で、研究会の議事録を送ってもらいどのような研究をしているか共有している。また、研究開発学校として小学校の研究開発の情報を教えてもらい、中学校のカリキュラム開発につなげている。</p> <p>2点目は研究開発学校間の共有で、カリキュラム開発の先進校として、他の研究開発学校にそのノウハウや研究内容を伝え合うなどしている。</p> <p>キーワード:○議事録メール, ○小中連携, ○研究開発学校間の連携</p>
383	<ul style="list-style-type: none"> ・附属坂出学園として一貫教育やインクルーシブ教育を進めており、学園内においては、互いの公開授業を参観したり、定期的に研究協議会を開催したりして、同じ方向で研究が進んでいくよう密に連携を取り合っている。 ・大学の連絡協議会や懇談会などを通して、附属高松学園の研究についても十分把握できている。 ・附属改革の柱にしている「一貫教育」「コミュニティスクール化」等については、関連する附属学校や大学に電話連絡したり訪問したりして情報収集を行っている。 <p>キーワード:○県内は懇談会等の開催, ○県外は電話連絡や訪問</p>
391	<p>研究紀要を他の附属学校園に送付している。</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○送付</p>
393	<p>毎年夏に行われる九附連大会で各教科が実践の紹介をし、意見をもらっている。</p> <p>キーワード:○九附連</p>
394	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの授業研究公開
431	<p>学校訪問、研究会への参加、研究紀要の交換など</p>
432	<p>教科、個人レベルになってしまうが、互いの学校の教育研究大会に参加し、現状を共有している。</p> <p>キーワード:○教育研究大会</p>
433	<p>生徒同士の交流活動として実践している</p>
434	<p>研究紀要の送付やHPへの公開、全附連高等学校部会</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○HP, ○全附連高等学校部会</p>
441	<p>全附連高校部会で研究実践報告をしている</p> <p>キーワード:○全附連高校部会</p>
461	<p>SSH活動うち、海外研修に関する取組</p> <p>キーワード:○海外高校生との交流</p>
471	<ul style="list-style-type: none"> ・広島大学学部・附属学校共同研究プロジェクトに他の附属学校とともに参画 ・いくつかの教科においては、広島大学附属学校全体での共同研究会を実施 ・各校研究会への相互参加 <p>キーワード:○学部・附属学校共同研究</p>
481	<p>目指す研究成果の類似性に着目し、同行との連携によりイベントを企画・運営している。</p> <p>キーワード:○類似性, ○Win-Win, ○連携</p>
531	<p>全国規模の教員研修会を主催し、教科の研究成果を発信・共有している。</p> <p>キーワード:○全国規模, ○教員研修会, ○教科</p>
532	<p>研究協議会の開催</p> <p>紀要の発行</p> <p>附属学校研究会での共有</p> <p>キーワード:○研究協議会, ○紀要, ○附属研</p>
562	<p>総合的な学習の時間の先行研究を発表する場を共有した。</p> <p>SSH研究成果を発表する場を共有した。</p> <p>キーワード:○発表会</p>
611	<p>附属学校同士で公開研究会時にポスター発表を行っている。</p> <p>学会において、共同で発表している。</p> <p>キーワード:○ポスター発表, ○学会</p>
622	<p>他県(特に東北)の附属学校の研修会に本校の特色ある授業実践を発表している。その場において、教材研究や研究成果について積極的に意見の交換を行っている。</p> <p>次代の風を読み、共生社会の実現に向けて情報共有の機会を積極的に設けていきたい。</p> <p>キーワード:○ネットワークの構築, ○やり甲斐・生きがいの構築</p>

631	<ul style="list-style-type: none"> ・(同大学の附属学校園において)研究主任が集まり、各校の研究の取り組みに関する情報交換を行う。 ・関附連において、研究の取り組みを発表。他校と意見交換を行う。 ・公開研究会の実施 <p>キーワード:○研究会, ○情報交換の機会</p>
636	<p>他の校園と教員の自主的な交流を行っている。公開研究会へも参加しポスター発表を行っている。</p> <p>話題提供者として、他校園のシンポジウムに参加している。</p> <p>学会において交流を図っている。</p> <p>キーワード:○自主的な教員の交流, ○話題提供, ○学会</p>
637	<p>ポスター発表による共有</p> <p>キーワード:○ポスター発表</p>
638	<ul style="list-style-type: none"> ・他附属学校2校と同じテーマ、研究課題で、学会でのシンポジウムを企画し、発表した。 <p>キーワード:○同じ研究課題, ○附属学校, ○シンポジウム</p>
643	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要等成果物の送付 ・県内附属学校園の研究主任会での情報交換 <p>キーワード:○研究紀要, ○研究主任会</p>
662	<p>インターネットを使って、遠隔地の特別支援学校と共同学習を進めた(チャレンジキッズ)。</p> <p>キーワード:○チャレンジキッズ</p>
663	<p>研究会を開催し実践内容を共有している。</p> <p>キーワード:○研究会</p>
664	<p>平野五校園共同研究発表会を毎年度開催</p> <p>平野五校園連携型教育実習</p> <p>キーワード:○平野地区, ○五校園共同研究, ○五校園連携型教育実習</p>
682	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の附属校園の研究部で各校の研究の取組を共有している。 ・四国国立大学附属学校連盟 四国国立大学附属学校 PTA 連合会の研究集会・協議会で各校の研究の取組について共有している。 <p>キーワード:○附属校園間での研究成果の共有, ○四附連の研究集会・協議会での研究成果の共有</p>
691	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の九附連(特別支援教育部会熊本大会)及び教大協全国特別支援教育研究部門合同研究集会佐賀大会において、研究成果を共有した。 ・特殊教育学会に参加し、自主シンポジウムやポスターセッションにより情報共有を行った。 ・同一大学の附属学校間(四附)で研究交流会を開催し情報共有 <p>キーワード:○九附連, ○特殊教育学会, ○四附交流会</p>
693	<p>公開研究会に招待し、分科会等で情報交換を行うようにしている。</p> <p>九附連特別支援教育部会を通じて、各校の研究について情報交換を行う機会が設定されている。</p> <p>キーワード:○公開研究会, ○九附連特別支援教育部会</p>
694	<p>研究紀要の送付。</p> <p>キーワード:○研究紀要</p>
761	<p>研究協議会でお互いに参会したり、共同で研究会を行ったりしている。</p> <p>キーワード:○共同, ○研究会</p>

2-4 大学との連携で工夫していること、2-6 今後大学との連携で工夫したいこと、2-10 地域の公立学校や教育委員会との連携内容、4-5 附属校園間の交流に必要なこと

No.	2-4 大学との連携で工夫していること	2-6 今後大学との連携で工夫したいこと	2-10 地域の公立学校や教育委員会との連携内容	4-5 附属校園間の交流に必要なこと
111	<p>・附属学校園の正副校長と大学キャンパス長、事務長、連携担当教員が学期1回以上出席する連携委員会の実施</p> <p>・研究大会、特別支援教育研修会、授業力向上セミナー等に向けての研究会議への出席要請、指導助言の依頼</p> <p>・研究大会、特別支援教育研修会、授業力向上セミナー等における講師・助言の依頼</p> <p>キーワード:○連携委員会、○研究会議、○講師・助言</p>	<p>・連携委員会において実務面での踏み込んだ議論による連携の深まり</p> <p>・研究大会や研修会等の大学講義等との連携</p> <p>・日常の保育と大学講義とのICTを活用した連携による相乗効果</p> <p>キーワード:○連携委員会、○研究大会、○ICT活用</p>	<p>・地域の国公立幼稚園こども園長会に所属し、研究を推進している。本園研究大会は主任研修と位置づけている。</p> <p>・旭川私立幼稚園教育研究会、旭川民間保育所相互育成会と連絡を取り、研究会・研修会等で相互交流している。</p> <p>・北海道教育委員会とは人事交流、研修会等の講師の依頼、授業力向上セミナーの依頼を受けての実施等の連携。</p> <p>・旭川・上川地域の教育研修センターの研修講座で講師の依頼を受け、園長及び副園長が講師を行っている。</p> <p>キーワード:○研修、○講師</p>	<p>・無理なくできることが重要である。(近い、定例)</p> <p>・互いの顔が見え、考えや取組を共有しやすいこと</p> <p>キーワード:○無理なく、○顔が見える</p>
121	<p>教育学部プロジェクト推進支援事業(学部 GP)への論文提出</p> <p>学部生や大学の先生の研究協力</p> <p>キーワード:○幼小連携、○教材の工夫、○教員の資質向上</p>	<p>・幼児教育の課程はないが、教員養成の内容充実のためにも、幼児期の教育や幼児理解について、学部学生も院生も体験的に学ぶ機会を作る。</p> <p>・現在大学の数学、体育、音楽、美術、特別支援の先生方とかかわりがあり、研究協力をしているが、全体的にみるとかかわりが少ない。幼児教育を広く知ってもらうとともに、それぞれのご専門からの意見もいただき、互恵的な連携ができるようにしたい。</p> <p>キーワード:○子ども理解、○連携、○互恵性</p>	<p>初任者研修、中堅教員研修の保育実践提供、教員免許更新講習、各それぞれにおいて講義・講師</p> <p>キーワード:○幼児理解、○環境構成と援助、○幼児期の運動遊び</p>	<p>他大学の附属との連携も大切などころだが、自大学附属同士の研究がもう少しつながり合えるとういと感じる。</p> <p>キーワード:○連携、○資質・能力、○教育や教員の質</p>
122	<p>本園の今年度の取組として</p> <p>1 研究協力者として幼児教育講座3名、家庭科教育講座1名を研究協力者として、各学年に1名ずつ入っていただいている。公開研究会を含め、年間を通して保育や研究への助言や支援をいただいている。保育カンファレンスにも参加していただき、助言をいただいている。また、その先生方の研究に協力し、共同研究として進めているものもある。</p> <p>2 今年度は、文部科学省委託調査研究を受託しているので、教員キャリア研究機構幼児教育(保幼小連携)部門の教員4名に研究協力者として、講演や助言を行ってもらっている。</p> <p>3 現職教育研修として、幼児教育講座、家庭科教育講座、特別支援教育講座等の教員に年間7~8回講話をしていただいている。</p> <p>4 社会科教育講座教員の研究に研究主任と教務主任が協力している。</p> <p>キーワード:○日常的な連携</p>	<p>外部に向けた研修会(公開研究会以外の)の共同開催の実施</p> <p>キーワード:○地域支援、○リカレント研修、○子育て支援</p>	<p>1 宮城県国公立幼稚園・こども園協議会事務局を預かり、県内の国公立幼稚園・こども園の取りまとめ役として、協議会主催の公開研究会や各種研修会、調査研究、研究紀要作成等の活動を実施している。</p> <p>2 園内研修会等に県内公立・市立幼稚園・こども園・保育所等の教員が参加できるようにしている。</p> <p>3 宮城県教育委員会依頼の公立幼稚園・こども園への調査取りまとめや研修会の案内周知、研究会講師を務める等行っている。</p> <p>キーワード:○国公幼、○地域支援</p>	<p>教員同士の話合いの場を設定する 幼児・児童・生徒を計画的に交流させる 計画立案を教員同士で行う PDCAサイクルで交流を行う</p> <p>キーワード:○教員同士、○子ども同士、○PDCA</p>
123	<p>大学教員の日常的な保育観察</p> <p>研修の日常化</p> <p>情報の共有</p> <p>キーワード:○日常化</p>	<p>保育の質向上に関わる指導・助言の日常化</p> <p>研究成果や事例の提供</p> <p>キーワード:○保育の質、○指導・助言、○事例提供</p>	<p>幼児教育の重要性の啓蒙</p> <p>幼小の円滑な接続についての提言</p> <p>キーワード:○啓蒙、○幼小接続</p>	<p>事例の積極的な交流</p>

124	年間計画およびカリキュラムの理解 キーワード: ○エビデンス, ○専門性, ○実践研究の場の提供	大学との連携成果の発信 キーワード: ○変形労働時間	教員研修受け入れ及び講師派遣 キーワード: ○幼小接続, ○保育の質向上	ブロック研修による協議会は、意義がある。幼稚園に関しては、全国での協議会も実施されているので、今後も継続していきたい。 キーワード: ○管理職の意識
125	園の実態をよく理解してもらうため、学部教員に日常的な保育観察を依頼している。 キーワード: ○園の実態, ○日常的な保育観察	現在の関係が良好であり、特になし。	県教委主催の幼稚園・保育所・認定こども園新規採用者研修を本園を会場に実施している。 キーワード: ○県教委主催, ○本園を会場に実施	職員間の交流 キーワード: ○職員間の交流
126	大学教員と事前のメールなどで日程調整をし、可能な限り園内研修に参加いただき、保育・研究についてアドバイスをいただく。 学生・院生の卒論・修論のデータ収集やアンケート、保育観察などに応じている。 実習の事前・事後指導、実習前の観察などにおいて講師を務めたり、学生の授業に協力している。 〔「人形劇作りの授業で、人形劇を発表する場を提供する」、「遊園地作りの授業で、完成した遊園地で園児が遊ばせてもらう」〕 保育参加日の親子活動では、美術関係・体育関係の教員に講師を依頼している。 キーワード: ○メールの活用, ○日程調整, ○大学教員の活用	連携について、問題の所在を明確化し、大学教員と本園職員とがその問題を共有して連携・協力体制を確立していく。 距離が離れているため、保育実践の記録を映像化するなどして、リアルタイムで観察しなくても共有できる方法を模索したい。 子ども達もつ日常的な疑問に、さまざまな分野の専門教員からアドバイスをいただけるよう連携を深めたい。 キーワード: ○実践の記録, ○問題(テーマ)の共有	県との人事交流により、幼稚園免許を所有する小学校教諭を派遣いただいている。 教育委員会主催の幼児教育関係者の研修に教諭を講師として派遣している。 公立幼稚園・小学校などの依頼に応じ、初任者研修や10年研修に対応している。 地区の公立幼稚園やこども園と同じ研究会に所属し、共同研究を行っている。 地域の学習センター(教育委員会管轄)の紹介で、近隣の農家の方に「畑の先生」としてご指導いただいている。 キーワード: ○人事交流, ○共同研究, ○教員研修	社会の変化に対応した保育課題を共有することが必要であると考え。 キーワード: ○課題, ○共有
131	日本最古の幼児教育雑誌「幼児の教育」の編集を大学教授が主幹、附属幼稚園、学内者向け乳幼児施設「いずみ」ナースリー主任保育士、文京区立お茶の水女子大学こども園長、附属幼稚園副園長が連携して発刊する中で、幼児教育関係の研究を深めている キーワード: ○幼児の教育, ○座談会, ○編集発信	人間発達教育科学研究所所属の教員の専門に幼児教育が含まれておらず、連携が難しい。 キーワード: ○人間発達教育科学研究所	文部科学省の開発研究の指定を受けている。研究を進める中でまずは近隣、文京区の幼稚園、保育園、こども園等に、研究のためのアンケート協力等をお願いしている。 キーワード: ○社会に開かれた, ○地域との連携	現在、附属4校園の教員が参加する連携研究会をほぼ月1回、実施。また4校園の副校長が不定期に必要な情報交換をおこなっている キーワード: ○定期的情報交換, ○連携研
132	話し合いの時間を捻出したり、園内の研修や外部に開く研究会に参加いただいている。 キーワード: ○時間の捻出, ○園内研修参加, ○研究会参加	一人でも多くの大学の先生に幼稚園を知ってもらうために研究会等の情報を発信する キーワード: ○情報の発信	県教委主催の研究会の本園開催。(新採研、5年目研、中堅教諭資質向上研、幼小連携推進者養成研、生活科担当指導主事会等) キーワード: ○研究会会場園, ○講師	人事交流を含めた交流。時間と資金(旅費等) キーワード: ○人事交流, ○時間, ○資金
133	先生や学生の調査等を受け入れるようにしている キーワード: ○調査, ○協力	園での実践を大学にアピールするようにしている キーワード: ○アピール, ○実践	公開研究会を開催し園の様子を見ていただいている 教育委員会の指導主事に日頃から指導・助言を依頼している 県や関係団体の研修会場として提供している キーワード: ○研修会	情報交換の機会を多くもつこと キーワード: ○情報交換
134	大学教員と意思の疎通を図り、課題と研究内容に関する共通理解を進める。その上で研究を進め、成果を共有する。 キーワード: ○共通理解, ○成果の共有, ○意思の疎通	人的なつながりを強化することや、大学教員の研究と本園の研究内容がリンクし、互恵性のあるものとする。 キーワード: ○人的つながりの強化, ○互恵性	県の研修会の指導者や提案者として任務を担い、教員の資質向上に尽力している。 地域のモデル園としての責務を果たしている。 キーワード: ○教員の資質の応力の向上に尽力, ○地域のモデル園	人的なつながりを確保した上で、他園と本園で共通理解をもち、交流が互恵性のあるものであること。 キーワード: ○人的なつながり, ○共通理解, ○互恵性

135	<p>中期計画に基づき、大学に山梨県と大学、附属学校園の連携を推進する部署が教育学部附属教育実践総合センターを改組され「教育実践・教員養成研究協議会」が設置された。特任教授が1名配置され、大学と山梨県教育委員会及び附属学校園とのより高度で多方面にわたる連携を推進している。</p> <p>キーワード:○研究テーマの共有化, ○実践と理論, ○多分野との連携</p>	<p>地域に貢献するための研究・研修のあり方を大学教員とともに探っていこうと考えている。</p> <p>キーワード:○地域のニーズ, ○子育て支援, ○大学の専門性</p>	<p>H28年度の山梨大学と山梨県教育委員会の連携協定締結により、「教育学部附属教育実践総合センター」が中心となり、附属学校園が地域への貢献を行っている。これまでの公開研究会開催に加え、附属学校園の教員が地域の学校園の要請に応じて講師となる「派遣事業」や附属学校園が中心となって開催する「スキルアップ講座」、大学の教員と附属学校園教員がともに開催する「研究会」の実施があげられる。</p> <p>キーワード:○育成・養成, ○研修, ○研究</p>	<p>相互の公開研究会等に積極的に参加しあう。また、互いの研究内容について関心をもって学びあう姿勢が必要だと考える。</p> <p>キーワード:○相互の学びあい</p>
136	<p>上記に示したように、教育学部と附属学校園で連携研究をいくつも実践しており、その成果を毎年冊子にしている。</p> <p>また、教育学部だけではなく工学部デザイン科とも連携して園庭の遊具の研究をするなど、総合大学の良さを生かして様々な学部と連携している(このほか医学部・国際教養学部への協力など)。</p> <p>大学の先生たちの研究や授業に協力しており、なるべく調査や参観は受けるようにしている。</p> <p>キーワード:○連携研究, ○総合大学, ○参観・調査・授業への協力</p>	<p>もっと様々な学部と連携ができるのではないかと模索中である。</p> <p>保育を理解してもらい、しっかりした知識の基に新しい角度からのアドバイスをもらえるようにしたい。そのためには、まずは幼稚園の存在や、幼稚園教育をアピールしていきたいと努力している。</p> <p>いろいろなところと連携していくためには、それだけ時間も必要であり、勤務時間の配分も工夫が必要である。</p> <p>キーワード:○多様な学部や先生との連携, ○幼児教育への理解, ○時間の使い方</p>	<p>総合教育センターによる、新採研・中堅研・園長研の参観の場として活用してもらったり、講師となったりなどしている。</p> <p>公開研究会を年に2度開き計450名程度の地域の先生方に参加してもらっている。</p> <p>国公立幼稚園・こども園協会の副会長、また、その教頭主任部会の会長を副園長が務め、毎年研究成果をまとめたリーフレットを作成している。</p> <p>地域の教員養成校の参加を受け入れ、質疑応答の時間を設けて指導している。</p> <p>教育委員会の幼児教育担当者に学校評議員になっていただき、本園に対しての意見を頂いている。</p> <p>キーワード:○研修の場, ○リーダーシップ, ○学校評議員</p>	<p>どこの学校園も忙しいので、なかなか交流する時間をとることができない。幼児教育に対する理解が低いように思う。接続や連携に対する意識が低いように思う。</p> <p>キーワード:○時間の余裕, ○意識の高揚, ○幼児教育への理解</p>
141		<p>研究内容のアピール</p> <p>キーワード:○アピール</p>	<p>幼児教育研究会の振り返り no ファシリテーターを公立幼稚園教諭に、助言を県教委指導主事をお願いしている</p> <p>キーワード:○助言, ○ファシリテーター</p>	<p>日常の勤務に加えて、交流に時間を割かなければいけない</p> <p>より研究を進めるには、実際に顔を合わせて会議をする必要がある</p> <p>キーワード:○時間, ○お金, ○人</p>
142	<p>附属学校改革推進専門部会を設置している。</p> <p>学生ボランティアやワークスタディの学生を多く受け入れている。</p> <p>キーワード:○情報共有, ○働き方改革, ○研究連携</p>	<p>学生スタッフの力を、たくさん貸る。</p> <p>キーワード:○ボランティア, ○教育実習, ○園庭整備</p>	<p>研究会への参加を促している</p> <p>県や市町村教育委員会の研修会に参加したり、講師を引き受けたりしている</p> <p>キーワード:○研究会, ○研修会, ○講師</p>	<p>副校園長会を通じての情報共有と研究視察</p> <p>キーワード:○副校園長会, ○研究視察</p>
143	<p>他学部との連携推進</p> <p>附属学校園運営委員会を毎月実施</p> <p>附属学校園運営協議会で大学学長や理事との協議</p> <p>キーワード:○運営委員会, ○運営協議会, ○他学部との連携</p>	<p>教育学部以外の医学部や附属病院などと研究協力</p> <p>他学部学生の教育実習協力</p> <p>附属病院や子どもの心診療部との連携協力</p> <p>キーワード:○医学部, ○附属病院, ○教育実習</p>	<p>地域の教師が集まって最新の実践を学ぶ拠点校</p> <p>教育委員会の課題を解決する先進学校</p> <p>地域の教師が集って課題を話し合う拠点校</p> <p>キーワード:○拠点校, ○先進学校</p>	<p>大学を越えた共同研究</p> <p>積極的な情報交換</p> <p>人事を含めた人的交流</p> <p>キーワード:○共同研究, ○積極的な情報交換, ○人的交流</p>
144	<p>互いの目的について共通理解できるようにしている</p> <p>キーワード:○目的の共有</p>	<p>働き方改革を受け、教員の負担軽減に努めたい。</p> <p>キーワード:○働き方改革, ○負担軽減</p>	<p>教員免許状更新講習や11年次教職員研修の受講者を受け入れている。</p> <p>新規採用教職員研修会では保育参観の場を提供したり、副園長が講義を行ったりしている。</p> <p>キーワード:○教員免許状更新講習, ○年次研修受講者の受け入れ, ○研修の場の提供</p>	<p>互いの目的について共通理解をする</p> <p>キーワード:○目的の共通理解</p>

145	<p>昨年度、今年度と、教職大学院に1名ずつ院生を輩出している。 大学と附属幼稚園の兼務者が、学部からの求めに応じて、講義に出向いている。 教職大学院の海外教員養成事業の視察対応等を行っている。</p> <p>キーワード:○教職大学院</p>	<p>教職大学院のラウンドテーブルにおいて、異校種の教員や大学関係者等による「接続」を意識した協議を行っていききたい。</p> <p>キーワード:○接続, ○ラウンドテーブル</p>	<p>県教委(幼児教育支援センター)との連携を密にしている。 ①本園での幼児教育経験者が県の幼児教育指導主事となっている。 ②県教委による市町幼児教育アドバイザー養成研修の一部を本園の公開研究会等を兼ねている。 ③市町と大学の協定を結び、市町からの人事交流を実現し、教職大学院にも行くシステムとなってきた。2市町 ④市との連携により、公私立保育所・認定こども園・幼稚園の園内リーダー研修等の講師依頼を受けている。など</p> <p>キーワード:○研修機能強化</p>	<p>異校種の接続に有効であると考えられるが、異動者の負担が大きい。異校種間で異動を行うなら、「接続」の推進者として 対象者の立場や研究推進の役割を明確にするシステムのバックアップが必要である。</p>
151	<p>附属幼稚園での研究を推進するにあたり、研究テーマに関連する助言を幼児教育科の先生以外にもアプローチして研究の視点を広げたり考えを深めたりする。</p> <p>キーワード:○教材研究, ○専門性, ○互恵性</p>	<p>教員の研究への協力だけでなく、園児や保護者に直接かかわり、豊かな経験ができるようにしたい。</p> <p>キーワード:○多様で専門的な学識</p>	<p>・公開保育、研究会を通じて地域の幼稚園・保育園・子ども園の幼児教育の質の向上を図る ・教育委員会の研究に協力する</p> <p>キーワード:○汎用性, ○活用, ○一般化</p>	<p>必要な情報交換はよく行っているが、研究成果の共有などはあまりしていない。研究について園内だけでなく他園と情報交換し互いに高め合う意識を持つことが必要である。</p>
161	<p>打合せ等のためのチャットワーク 幼児教育協働研修用メールアドレスの使用 事前研修の時間の確保</p> <p>キーワード:○メール, ○チャット, ○時間の確保</p>		<p>・人事交流を行っている ・協働研修を行っている ・公立幼稚園の幼児教育研究会に、賛助会員として参加し、</p> <p>キーワード:○人事交流, ○協働研修, ○賛助会員</p>	<p>密な連絡 同じぐらいの教師の研究に対する能力レベル リーダー性のある副園長や教員</p> <p>キーワード:○連絡, ○能力レベル, ○リーダー性</p>
162	<p>特別な工夫はまだしていません</p>	<p>現在検討中です。</p>	<p>・公立園等の研究会への指導助言、視察研修の受け入れ教育委員会関係の研修会における講師等 ・近隣園との園児の交流活動や、教員同士の交流 など</p> <p>キーワード:○高めあい, ○学びあい</p>	<p>現在、研究会の案内、紀要の送付等を通して相互の交流が図られていると思います。</p> <p>キーワード:○発信の工夫</p>
163	<p>上記のテーマは、文部科学省の幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究であり、本研究の実行委員として附属の職員も名前を連ねている。つまり、幼稚園現場を活用した大学の研究を共に行う共同研究を実際に行っている。附属を活用し、共同研究をしたいと考えてくださる先生と、園内研究、研究開発学校の取組、大学の授業での幼稚園現場の活用等、日常的な連携を行い、意思疎通を行っている。</p> <p>キーワード:○日常的な連携, ○意思疎通, ○共同研究</p>	<p>附属の教員に研究者番号を付与できる仕組みが出来上がった。研究者番号を付与できるだけの研究者としての力をつけていく必要がある。現時点では、研究者番号が付与された職員は1名のみである。今後、一人でも多くの職員が研究的実践者として大学の教員と学術的な研究において共同研究をおこなっていけるように、学術的な研究の実績を積んでいく。</p> <p>キーワード:○学術研究, ○研究的実践者, ○研究者</p>	<p>教育委員会や地域の園からの依頼に基づき、講師派遣、研修のコーディネートと実施、短期の内地留学の受入等をおこなっている。</p> <p>キーワード:○講師派遣, ○研修, ○内地留学</p>	<p>共同研究を行えるようにするための組織的な協力体制の構築による</p> <p>キーワード:○共同研究, ○組織的協力体制構築</p>
164	<p>大学の先生と日頃から連絡を取り合い、研究だけでなく幼稚園の行事などにも来てもらったりしている。</p> <p>キーワード:○連絡, ○行事参加</p>	<p>様々な分野の先生方と連携したい。</p> <p>キーワード:○様々な分野</p>	<p>教員研修の実施。 本園の研究協力員として参加してもらう。 学校評議員になってもらっている。</p> <p>キーワード:○教員研修, ○研究協力員, ○学校評議員</p>	<p>時間の確保、地理的な問題</p> <p>キーワード:○時間, ○距離</p>

165	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に保育を見て子どもの姿に沿った実践となるよう要望している。 ・子どもの発達について理解が深まる授業をしてもらう。 ・幼児教育がご専門出ない先生には本園の教育課程や子どもの発達の本などを事前に読んでもらった。 ・研究テーマに沿って子どもたちの発達につながるような実践となるように事前の打合せを綿密にしている。 ・大学の実践内容の提案の前に要望を伝える。 <p>キーワード:○共有, ○子ども理解, ○計画性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に保育を見てくださる先生が少ないので、必ず見てもらえるように要望する。 ・実践の後の評価をする機会がないので、その時間をもつ。 <p>キーワード:○保育観察, ○事後評価</p>	<p>公開保育研究会の公開カンファレンスに、奈良市のアドバイザーに参加してもらう</p> <p>キーワード:○共学, ○新たな視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容のデータベース化 ・研究内容のポイントを同じ形式でまとめる ・テレビ会議システム <p>キーワード:○テレビ会議システム</p>
171	<p>定期的に協議会を開催し、継続的な連携を行う。公開保育を行い、幼児の姿を共有する。研究アドバイザーを1名依頼し、研究内容や研究についての進め方に対する指導助言を受ける。</p> <p>キーワード:○継続性, ○幼児の姿の共有, ○研究アドバイザー</p>	<p>副学部長が統括する運営委員会が今年度より開催し始めたため、学校側が課題と感じていることや大学側の考えを共有し、長期的視点にたった課題解決方法を探っていく。</p> <p>キーワード:○情報の共有, ○長期的視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会の指導助言者依頼 ・県の研修の公開保育及び指導助言者に本園教員の派遣 ・教育研究会の開催 ・地域運営委員会の開催 <p>キーワード:○地域のニーズを把握, ○地域の意見集約, ○指導的役割</p>	<p>先行研究として他園の研究を参考にすることがしばしばある。どのような研究をどの附属がしているのかを把握できるように、情報収集を行っていくことが必要であると考える。</p> <p>キーワード:○情報収集</p>
172	<p>日程の調整・連携内容の明確化・連携担当教員による計画等</p> <p>キーワード:○調整, ○明確化, ○担当教員</p>	<p>形式的にならないように、日常的に必要な時に、メール等も含めて教員と大学の先生とのやり取りができるようにさらに進めていく。</p> <p>キーワード:○日常的, ○メール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県教育委員会、広島県乳幼児教育支援センター等の研修会場として受け入れている。 ・幼稚園中堅教諭等資質向上研修・幼小接続に係る担当者研修・小学校初任者研修 他 ・小学校教諭の1年間の長期研修の受け入れ ・県教委との人事交流 ・近隣市町の保育者を対象に、公開園内研修の実施 ・広島県内、三原市内の国公立の幼稚園・保育園等を組織した協議会の事務局として拠点としての役割(研修会の実施等) <p>キーワード:○研修受け入れ, ○事務局, ○拠点</p>	<p>共通部分についての交流を効率的に行うことは必要だと思う。</p> <p>キーワード:○共通部分</p>
173	<p>互いに興味・関心のあるところのすりあわせをする。組織同士ではなく、個人同士の方が進めやすい大学教員の専門分野・得意分野を活かす</p> <p>キーワード:○互恵性,</p>	<p>エビデンスに関する意見・知恵を貸してほしい単年度でなく、継続的に進めたい。</p> <p>キーワード:○互恵性, ○人材活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡協議会で年3回情報交換や、公開保育・授業を実施している。 ・市教育研究会幼稚園部会で一緒に研究会(公開保育・協議・講演)を実施し、教育委員会が指導助言。 ・県国公立幼稚園連盟で、一緒に研究会(公開保育・協議・講演)を実施し、教育委員会が指導助言。 <p>キーワード:○共通の目的意識, ○情報共有</p>	<p>各校の研究内容等がよく分かること 各校の課題や現状などが似ていること</p> <p>キーワード:○情報共有, ○共通性</p>
174	<p>大学関係者(各学部)と附属学校部の会議を実施する。大学における人材等の資源について知り、カリキュラムに合わせた活用について協議する。</p> <p>キーワード:○大学関係者との会議, ○大学における資源, ○活用</p>	<p>大学にある施設及び人材をさらに活用するために、関係者との共通理解を深める。附属学校部の取り組みの発信に努める。</p> <p>キーワード:○さらなる活用, ○取り組みの発信</p>	<p>公開研究会の実施による研究成果の発信 教育委員会の研修に協力(会場園・実践発表・講師等) 教育委員会が作成する冊子の検討委員</p> <p>キーワード:○研究成果の発信, ○研修に協力</p>	<p>研究における交流 互いの教育を見合う機会 情報交換等をする時間の確保</p> <p>キーワード:○研究, ○公開保育, ○情報交換</p>
181	<p>普段から行き来をしている</p> <p>キーワード:○日常的なかわり</p>	<p>教育学部の研究助成(学部長裁量経費)を獲得し、大学教員と幼稚園教員との共同研究を行う。</p> <p>キーワード:○研究助成, ○学部長裁量経費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公立幼稚園と組織を同じくして、共に研究を進めたり、協力して講演会を開催したりしている。 <p>キーワード:○協同的学び</p>	<p>互いに顔を知り合う関係であること。メール等でも日頃からやりとりをして、互いの思いや考えを交流していること。困った時に助け合える関係であること。必要感に支えられた交流であること。</p> <p>キーワード:○日頃からのやりとり, ○必要感</p>

182	<p>定期的な協議による実践と理論の関係を深めていくこと 実践の継続</p> <p>キーワード:○協議, ○研究が深まっていく過程</p>	<p>定期的な協議や参観などの連携</p> <p>キーワード:○連携, ○協議</p>	<p>法定研修の場 若年保育者への保育公開 ニーズに応じた内容による講演(具体的な実践を通して) 園内研修に参加いただくことによって、保育者集団や研修のあり方を実感してもらう キーワード:○子どもがいる研修の場, ○具体的な実践事例の提供, ○キャリアに応じて</p>	<p>旅費</p> <p>キーワード:○旅費</p>
183	<p>大学教員に何度も附属幼稚園に来ていただき子どもたちの活動の様子や各学年の発達を見ていただくとともに、幼稚園教員とのミーティングを通してお互いのアイデアとすり合わせながら、実際の活動計画を作成している。</p> <p>キーワード:○ミーティング, ○幼児の発達, ○アイデアのすり合わせ</p>	<p>音楽や体育など、アート活動のほかに活動の幅を広げ、幼稚園の教育課程と関係づけながら大学教員との連携を進めていけたらと考えている。</p> <p>キーワード:○音楽活動, ○運動, ○教育課程</p>	<p>・県教育委員会と連携して研修を受け入れ、キャリアアップや、教育センターのミドル研など実践の場として提供する。 ・幼稚園、保育所等の新規採用者研修の講師として、指導計画について講話を行う。 ・高知県幼保研修運営協議会の副委員長として、高知県教育センターの体系的かつ効果的な研修実施に向けて協議を行う。 ・高知県国公立幼稚園・こども園会の研究部長として、公立園の公開研究会の充実を図り、実践力の向上につなげる。 ・市町村等の依頼に基づき、幼児期の教育についての説明や保護者講話を行う。 キーワード:○研修場所の提供, ○講師, ○研究支援</p>	<p>積極的な情報開示 教員間の意見交流</p> <p>キーワード:○情報開示, ○意見交流</p>
191	<p>統括長を通して、大学の先生方へ協力依頼して、新たな協力体制を構築している。 共同研究教科を中心に、授業や保育の参観を可能な範囲で行っている。(公開等を活用) 大学の講義依頼があれば、積極的に受諾している。 キーワード:○大学教員活用, ○共同研究, ○幼小中学部連携</p>	<p>大学構内の活用 大学教員による保育支援・保護者支援</p> <p>キーワード:○環境の工夫, ○子育て支援, ○職員の協力体制</p>	<p>新規採用者研修会の講師派遣・会場及び保育等提供 県大会及び他大会における研究発表資料作成の支援等 近隣の公立小学校区の保幼小連携会議への参加</p> <p>キーワード:○新採研, ○保幼小連携</p>	<p>働き方改革に伴う会議設定の工夫による時間の生み出し 情報の共有 文書形式の工夫による事務負担削減による交流実施の負担軽減</p>
192	<p>学部・附属学校園運営委員会や学部・附属学校園連絡協議会で、本園の状況や要望を伝え、必要に応じて来園してもらっている。 大学の教授・准教授 3 名に研究推進委員会の委員になって頂いている。 年間 4 回程度の研究推進委員会において、専門的な視点から様々な指導・助言を頂いている。</p> <p>キーワード:○研究推進委員会, ○専門的な視点からの指導・助言</p>	<p>大学附属ならではの、専門的で特色ある取組(美術、音楽、理科、体育、英語などの分野)を実施したい。 子ども対象の取組だけでなく、保護者を対象とした大学附属ならではの研修の場を提供したい。 そのために、大学と連絡を密に取り、情報の共有を行っていききたい。</p> <p>キーワード:○専門的で特色ある取組, ○情報の共有</p>	<p>附属幼稚園の副園長が熊本県国公立幼稚園・こども園会の研究部長となり、研究の推進役を任されている。 市教委が開催する幼児教育関係の研修で、副園長が講師となり指導・助言を行った。 市教委が開催する研修会や協議会の会場として、本園のリズム室を提供している。 県や市の指導主事に本園の研究推進委員会の委員になってもらい、定期的に来園した際に指導・助言を頂いている。 キーワード:○国公幼の研究推進, ○教育委員会の研修, ○研究推進委員会の委員</p>	<p>何のために連携するのかという、共通の目的をもつこと。 コーディネートする担当の位置づけ。 それぞれの学校園における、管理職の理解と推進力。</p> <p>キーワード:○共通の目的, ○コーディネート担当教員, ○管理職の理解と推進力</p>
193				<p>・研究レベルでの頻繁な交流が必要。 合同研究会を開いたり、研究主任会を開いたりする等。 ・共同教育課程を作成し、附属学校園間の「つなぎ」を明確にする。 ・授業レベルでの教員の参観。特に幼稚園への保育参観は充実されるべき課題。 キーワード:○合同研究会, ○共同教育課程, ○教師間交流</p>

194	<p>学生の実験や卒(修)論作成のための調査等に積極的に協力している。 教育実習をより充実したものにするための努力を怠らない。 大学の講義を担当している。 免許状更新講習を園単独で実施し、大学のニーズに 応えている。 キーワード:○実験・調査への協力, ○大学講義への協力, ○大学のニーズに応える</p>	<p>教員免許状発行のための協力 学部が設定した中期目標達成に向けた園としての努力 キーワード:○教員免許状発行, ○中期目標達成</p>	<p>県国公立幼稚園・こども園協会事務局(70園:理事会・研究会等の調整) 県教育委員会及び教育センター主催研修会等への講師派遣 新規採用研修会会場園(保育提供・年齢別研究協議・講話) キーワード:○事務局, ○講師派遣, ○新規採用者研修</p>	<p>管理職同士の信頼関係 教諭間同士の信頼関係 キーワード:○信頼関係, ○同僚性</p>
195	<p>大学の学部教員と密に連絡を取り合い、行き来する中で、お互いの課題を共有し、協力し合う人間関係ができています。 キーワード:○課題の共有, ○協力関係</p>	<p>教育学部の教員にとどまらず、学問の近接領域にいる教員などへも情報発信したり、自園の課題解決に助力を求めたりする。 附属幼稚園の研究内容を教育学部全ての教育学部の教員に伝わるようにし、まずは、附属の研究について知っていただく。 附属幼稚園を、教育学部の教員には、研究フィールドとして活用していただけるよう積極的・具体的にアピールする。 キーワード:○情報発信, ○研究フィールド</p>	<p>大分県教育委員会との連携 大分県幼児教育センターと連携した幼児教育モデルカリキュラムの作成協力、およびモデルカリキュラム作成に向けた「10の姿」の事例、保育案の提示 大分県幼児教育センターのアドバイザーと連携した研修モデルづくり 附属幼稚園に置ける取組を公開・普及する方法の検討(例:研修会の様子を紹介、公開保育を教育庁チャンネルで取り上げる等) 法定研修への協力として、公開保育、分科会、園長講話などを行う キーワード:○幼児教育センター, ○研修協力園, ○モデルカリキュラム</p>	<p>テレビ会議システム等のハード面での環境整備。また、そのための予算確保。本当に交流(共同)しなければならないことであるか、内容の吟味・精選 キーワード:○環境整備, ○予算確保, ○交流内容</p>
196	<p>・月に一度の「附属学校運営協議会」において、こちら のお願いを伝える。 ・学部や大学の先生の研究協力依頼には極力対応する。 ・保護者対象の講演会や職員対象の研修会の講師として、学部の先生を招く。 ・学部の先生の専門分野を保育に生かす。昆虫博士、ピタゴラ博士、芋博士・・・ ・特別支援教育の専門の先生と月に一度「園内支援委員会」を行い、具体的な配慮について助言をいただく。 キーワード:○協力, ○活用, ○互惠関係</p>	<p>・大学教官の实地研修の受け入れ キーワード:○連携, ○实地研修, ○保育への活用</p>	<p>・研究科発表会の開催(隔年) ・リカレント研修の開催 ・県教委からの依頼で「新任教員研修」や「園長研修」の会場として提供 ・大学の先生による「ミニ講座」の開催(未就園児の保護者も対象) キーワード:○働き方改革, ○公開</p>	<p>・管理職同士の人間関係の構築 ・時間の調整 キーワード:○コミュニケーション能力, ○時間調整</p>
211	<p>日常的な情報交換及び連絡調整 窓口の一元化(副校長) キーワード:○日常化, ○担当者の明確化</p>	<p>本校の研究(授業改善)への大学教員の一層の参画 キーワード:○日常化, ○大学教員の参画</p>	<p>汎用性のある、地域のニーズに応じた研究推進 授業実践交流事業による講師派遣及び視察の受入 授業力向上セミナーの開催 地教委主催の研究事業への講師派遣 人事交流 キーワード:○ニーズ, ○出前授業</p>	<p>必要感や共通性をもつこと キーワード:○必要感, ○共通性</p>
212	<p>・大学教員が授業づくりから関わり、研究授業当日、事後の振り返り等と連続して研究に携わるようにしている。 ・研究大会だけではなく、研究年次の1年間を継続して研究協力の依頼をしている。 ・大学教員、大学院生等の研究に係る協力では、できるだけ実現できるよう、内容理解や日程調整等、協力体制をつくっている。 キーワード:○継続, ○事前事後, ○協力体制</p>	<p>・大学教員の小学校での授業実践や、研究協議等の連携。 ・小学校教員の大学での授業や大学教員、学生への授業公開、研究協議等の連携。 ・教育実習に係る指導や運営についての連携。 キーワード:○大学教員の研修, ○授業協力, ○教育実習</p>	<p>・公立学校教員の本校研究大会、研修会の参加。 ・公立学校主催の研究大会への参加、研究協力、助言等。 ・公立学校主催の研修会での研修講師。 ・研究大会での教育委員会指導主事からの助言。 ・教育委員会の研修会、研究会への参加。 キーワード:○研究大会, ○研修会, ○指導・助言</p>	<p>・附属校園間の情報の発信、受信 ・附属校園間の情報を求める意識 ・自校の研究に係る情報発信 キーワード:○発信, ○意識改革, ○受信</p>

213	<p>積極的に大学(大学院・教職大学院)と関わりを持つ。科研費応募等にも助言をいただいたり、共同提出したりする。</p> <p>キーワード:○大学教員の研究協議会への参加, ○授業の参観, ○研究視点での話し合い</p>	<p>研究実践の協働(研究交流校連携への大学教員の支援, 地域向け講座への大学の協力等)</p> <p>キーワード:○協働, ○支援, ○地域</p>	<p>地域の公立学校 11 校と研究交流校提携を行い, 授業づくりや研究協議会への相互参加, 出前授業等を行っている。北海道教育委員会と大学が共催する授業力向上セミナーの会場, 授業提供や, 初任段階教員研修の授業提供・研修等を行っている。</p> <p>キーワード:○研究交流, ○研修, ○教育委員会と大学との連携</p>	<p>先進校の取組を本校研究に生かすこと。</p> <p>キーワード:○先進研究の活用, ○教員の交流, ○今後の見通し</p>
221	<p>・学習指導に関する共同研究の実施。 ・学校公開研究会や研修会で大学教員をアドバイザーとして招いている。 ・教科教育法の講義に本校の教員が出向いて講師を務めている。</p> <p>キーワード:○共同研究</p>	<p>・大学が特色として力を入れようとしている学校安全学や英語教育と連動させた教育実践に取り組む。</p> <p>キーワード:○大学の特色との連動</p>	<p>・公立学校や教育委員会が実施する各種研修会の出前授業や講師の受入。 ・各種教育団体の事務局としての活動。</p> <p>キーワード:○講師受入, ○事務局</p>	<p>・管理職が積極的に動くこと。</p> <p>キーワード:○管理職の積極性</p>
222	<p>・研究会だけでなく、日常の授業づくりでも大学の先生に相談するなど、日常的に指導を頂く機会を設けている。 ・授業づくり以外でも、合唱や表現運動などについても共同で研究している。 ・本校独自のカリキュラムである「コンピュータ・サイエンス」のカリキュラム作成を行っている。</p> <p>キーワード:○時間の確保, ○情報と認識の共有, ○共同性</p>	<p>・話し合ったり相談したりする時間の確保 ・附属小学校の中に、大学の教員と一緒に研究するため「共同研究室」を令和元年度から開設した。</p> <p>キーワード:○時間の確保, ○情報と認識の共有</p>	<p>・公開研究会や全校授業研究会で助言者を依頼している。 ・依頼のあった学校に、研修会の講師として派遣したり出前授業の授業者として派遣を行っている。</p> <p>キーワード:○地域貢献, ○存在意義, ○独自性</p>	<p>・日常的な交流の場の確保</p> <p>キーワード:○日常化</p>
223	<p>附属学校園の教員は、原則いづれかの研究部に所属し、部会毎に共同研究テーマを設け、年度末に共同研究報告書に研究成果をまとめている。大学の先生方に研修会の指導助言をお願いすることはもちろん、授業づくりについても事前に相談している。</p> <p>キーワード:○共同研究テーマ, ○共同研究報告書, ○研修会の指導助言</p>	<p>学生が卒業論文作成のために記録した映像や授業記録、アンケート等を、授業者本人の授業研究にも生かしていけるように、人的交流をより一層図る。スクールサポート的な役割も果たしてもらえるようにする。</p> <p>キーワード:○学生, ○人的交流, ○スクールサポート的な役割</p>	<p>県教育委員会が推進している探究型学習研究推進協力校として、全国・県学力テストのデータ提供や、探究型学習研修会の実施、公立小学校の授業研究会の指導・助言者として職員を派遣している。</p> <p>キーワード:○探究型学習研究推進協力校, ○探究型学習研修会の実施, ○授業研究会の指導・助言者</p>	<p>出張し、交流できる人員の余裕と時間の余裕</p> <p>キーワード:○人員の余裕, ○時間の余裕</p>
224	<p>研究の方向性や、実践後の成果や課題を共有する場をもつ。また、各教科等部で、授業づくりについて助言を得ながら検討を重ねている。</p> <p>キーワード:○研究の方向性の共有, ○共同体制による授業づくり</p>	<p>教材分析協力者(内容学の大学教員)の専門性を活かした教材開発</p> <p>キーワード:○共同教材研究, ○プログラミング教育</p>	<p>公開研究会への招待、教職員の各種研修会への講師としての派遣、実践例の紹介</p> <p>キーワード:○効果的な連携体制の確立, ○教職員の資質向上, ○地域貢献</p>	<p>共通の課題意識 交流の場の設定</p> <p>キーワード:○研究の方向性の共有, ○交流目的の明確化</p>
225	<p>各教科等の授業実践における指導助言及び授業参観(大学教授, 学部生, 教職大学院生等) 附属小学校教諭による大学での授業(教科教育法, 教科指導論等) 教育実習, 教職実践演習等の学生実地研修の受け入れ 総合的な学習の時間における講師招聘授業, 子どもの学びを発信する場の提供・発信の支援 学生による附属小の業務補助(データ打ち込み, 資料整理等)</p> <p>キーワード:○学生の活用, ○大学の授業, ○総合的な学習の時間</p>	<p>附属校園における大学の先生方の出前授業 学生ボランティアによる放課後の学習指導 大学にある物品(備品)の簡単な借用 研究紀要の共同執筆(大学の先生が附属教員の授業実践に対して、学問的見地から意味付けをする) 附属教員の研究支援(大学院への受け入れ, 研究費助成等)</p> <p>キーワード:○出前授業, ○学生ボランティア, ○研究紀要の共同執筆</p>	<p>地域の公立学校への出前授業, 指導助言等の講師派遣(学校独自で依頼可能) 地域の公立学校教諭の研修の受け入れ(附属小学校の授業参観, 研究情報の交流等) 教育委員会主催の研修や行事等への補助(人的・物的支援) 教育委員会の作成物への協力</p> <p>キーワード:○出前授業, ○研修の受け入れ, ○人的・物的支援</p>	<p>持続可能な連携をつくる(メールや SNS での情報交換等) 全附連での研究主任会の設置(研究交流, 学校同士のコラボレーション等が起こる期待がもてる)</p> <p>キーワード:○持続可能な連携, ○全附連の活用, ○研究主任会</p>

230	<p>小学校の研究テーマに即して、大学の先生方の専門的な知見と小学校教員の実践とを合わせることで、研究を深めるようにします。そのために、大学の先生に共同研究者になってもらい、随時参観や協議会を持ちます。</p> <p>キーワード:○共同研究者, ○研究協議会, ○授業参観</p>		<p>公立学校・教育委員会等への講師派遣と、本校への参観受け入れを行っています。</p> <p>キーワード:○講師派遣, ○参観</p>	
231	<p>連携のテーマはないが、副学部長(附属担当)と四附属小委員会(副校長)を設置し、月1回の会議を開催することで、今後の附属校園のあり方について協議を行っている。</p> <p>キーワード:○四附属小委員会</p>	<p>大学教員と小学校の教員が共同研究等をスムーズにできるよう、副校長が調整役となり連携を強化できるようにしたい。</p> <p>キーワード:○共同研究</p>	<p>研究会の実施(授業公開) 出前授業、校内研修への講師派遣 採用前教員研修等、県の教育研修事業への協力</p> <p>キーワード:○出前授業, ○講師派遣</p>	<p>各校の研究内容をいつでも閲覧可能なサイト等があるとよい。 各校のHPを見なくても、いつでも閲覧できるような共通サイトがあるとよい。</p>
232	<p>・教科ごとにプロジェクトを立ち上げ、月に数回会議を行っている。 ・大学教員が研究の中心となり、研究紀要も大学教員が書いている。 ・大学と副校長の会議が月に1回、大学とプロジェクト主任の会議が3か月に1回、大学と研究主任会議が月に2回など、会議が位置付けられている。 キーワード:○定例会議, ○大学のガバナンス</p>	<p>・各プロジェクトで独自に研究会を開催するような教科ごとの独自性を大学主導で行っていききたい。 ・グループウェア等を活用し、連絡調整を簡便にしたい。</p> <p>キーワード:○グループウェア, ○教科独自性</p>	<p>・公立校でのインターンシップを教育委員会が仲介している。</p> <p>キーワード:○インターンシップ</p>	<p>・連絡調整</p> <p>キーワード:○連絡調整</p>
233	<p>研究面での連携を図るために、研究発表会に向けた授業研究会等でご指導いただいているのが現状</p> <p>キーワード:○事前検討, ○模擬授業</p>	<p>本校の研究テーマをふまえて、助言をいただいている大学教員が小学校で授業をする。</p> <p>キーワード:○大学教員の授業</p>	<p>1地域の公立学校から学校研究会への講師派遣依頼や各政令市教育委員会から研修会への講師派遣依頼にこたえている。 2人事交流 キーワード:○講師派遣, ○人事交流</p>	<p>授業実践の場に数多く足を運び、学校として主張している授業になっているのかどうかを自分の目で確かめに行くことが必要</p> <p>キーワード:○授業</p>
234	<p>附属学校と学部の代表者が集まる会議(「附属学校企画・運営会議」)を毎月設け、情報交換や協議を行っている。</p> <p>キーワード:○日程の効率化(他の会議と合わせる), ○事前に協議内容を周知</p>	<p>一部の学部の教員ではなく、多くの学部の教員に様々な協力を得られるようにする</p> <p>キーワード:○教授会への情報提供, ○企画・運営会議を通しての学部への提案</p>	<p>県教委との連携 ・人事交流(100%県教委) ・研究を進める上での指導・助言、公開研究会の後援、県教委事業への協力 ・公立学校への講師等の協力 ・県教育研究会の各教科部の事務局を担当 キーワード:○教育の方向性の共通理解, ○教育ニーズ</p>	<p>明確な目的と成果の可視化</p> <p>キーワード:○お互いの利益, ○目的の明確化, ○成果の可視化</p>
235	<p>・校内授業研究会に指導者としてお招きしている。 ・関連のある学校行事にお招きし、御指導をいただいている。 ・学生ボランティアなどを積極的に導入している。</p> <p>キーワード:○校内授業研究会, ○学校行事, ○学生ボランティア</p>	<p>・地域のニーズに合った研究内容を進めていくため、教育委員会も含めた3者で共同研究に取り組みたい。</p> <p>キーワード:○地域のニーズ</p>	<p>・公立学校や教育委員会の開催する研修会等に指導者として出向いている。 ・各教科団体の事務局として、教員の資質向上に貢献している。 ・研究協議会等において本校の研究成果を発信し、地域の教育振興に努めている。 キーワード:○研修会等の指導者, ○教科団体等事務局, ○研究成果の発信</p>	<p>・交流する時間的な余裕 ・交流することによるメリットの共有(ゴールの共有)</p> <p>キーワード:○時間的余裕, ○メリットの共有</p>
236	<p>教員養成・教育実践研究協議会、附属学校運営協議会、附属教育実践総合センターなど、組織を作り連携を図っている。</p> <p>キーワード:○研究開発, ○実習・養成・育成, ○地域支援</p>	<p>大学と附属校とを取り持つガバナンス組織ができることを望んでいます。</p> <p>キーワード:○ガバナンス組織, ○連携</p>	<p>本年度より、公立校へ「研修・研究協力のための教員派遣」事業を始めました。 初等教育公開研究会への指導主事の招聘、県総合教育センターへの講師派遣など、連携を進めています。 キーワード:○教員派遣事業, ○指導主事の招聘, ○講師派遣</p>	<p>核となる大学教員を中心として、各地の附属学校の教員が集い共同研究・実践を進めることができると、研究の広がりができると思います。</p> <p>キーワード:○核となる大学教員, ○共同研究・実践, ○研究の広がり</p>

237	<p>・年間3回の4校研(小・中・高・大の教員が一斉に集まり、各教科ごと同一テーマの研究にあたる)を開催している。</p> <p>キーワード:○4校研, ○年間3回, ○各教科ごと</p>	<p>・研究内容や方法などについての相談窓口を大学側に設置していただく。</p> <p>キーワード:○相談窓口, ○研究内容, ○研究方法</p>	<p>・研究公開を年間2回(6月・2月)開催し、各教科・領域の研究を発表している。</p> <p>・地域の校内研究会に講師を派遣し、研究の成果を還元している。</p> <p>・教育委員会や学校単位での学校視察を受け入れている。</p> <p>キーワード:○研究会, ○講師派遣, ○学校視察</p>	<p>・交流の頻度を上げ、コミュニケーションを密にすること。</p> <p>キーワード:○交流, ○頻度, ○コミュニケーション</p>
238	<p>文部科学省の事業に応募して、共同研究のための予算を積極的に獲得している。</p> <p>予算の獲得では協賛企業からも協力を得ている。</p> <p>キーワード:○産学連携</p>	<p>普遍性、汎用性のある教育活動を、本校教員、大学教員、企業スタッフ等でチームとして共同で構築すること。</p> <p>キーワード:○普遍性, ○汎用性, ○チーム</p>	<p>近隣の公立学校教員が、本校の研究授業・協議会に定期的に参加している。</p> <p>本校教員が毎月5〜10名程度、地域公立学校で行われる研究授業に講師として参加している。</p> <p>キーワード:○研究授業</p>	<p>日本教育大学協会の研究集会への積極参加。</p> <p>交流するための時間の確保、設定。</p> <p>キーワード:○教大協</p>
239	<p>・本学の大学の先生には、各教科毎に行っている授業研究会・現職研修会などの講師・研究同人を依頼することをきっかけとし、教科の研究を深めることを通して、本校の校内研究にもかかわっていただけるようにしている。</p> <p>キーワード:○教科研究, ○授業研究会・現職研修会, ○講師・研究同人</p>	<p>・現時点では、「学びを自分でデザインする子」の育成に関しては、運営指導員の他大学のその分野を研究している先生のご指導をいただいている。今後、附属学校研究推進委員会等を活用し、教科研究以外の点でも本学の大学の先生方と連携していきたいと考えている。</p> <p>キーワード:○附属学校研究推進委員会</p>	<p>・地域(世田谷区)の小学校とは、区の研究会(世小研)で教科研究を通して、ともに研究を深めている。また、広く一般に現職研修会を開催し、多くの地域の先生方にも参加していただき、研究をしている。</p> <p>キーワード:○区の研究会, ○現職研修会</p>	<p>・研究課題が似ている学校があれば、互いに連携までもいかずとも、情報を共有しながら進めることができると、互いにとって深まりのある交流となると思う。</p> <p>キーワード:○研究についての情報共有</p>
241	<p>・教科等の小委員会の取組</p> <p>・フォーラムの開催</p> <p>キーワード:○小委員会, ○フォーラム, ○共通テーマ</p>	<p>小委員会の持ち方、役割分担等</p> <p>キーワード:○小委員会の年間計画, ○統括長と校長との連携</p>	<p>・毎年、教育研究発表会を開催し、県内や県外からの教員や大学生・院生などの教育関係者へ授業公開、分科会で授業研究を行っている。</p> <p>・県教育委員会や市教育委員会等の研修の参加</p> <p>・市内の授業研究会に参加し、研究授業を行うなど、協同して授業研究を行っている。</p> <p>キーワード:○地域連携, ○研修の充実, ○協同研究</p>	<p>・交通費、時間、人的配置等</p> <p>キーワード:○交通費, ○時間, ○人的配置</p>
242	<p>互恵関係のもと、持続可能な連携になるように、事前の話し合いをもつ。</p> <p>キーワード:○互恵関係, ○持続可能, ○事前の話し合い</p>	<p>連携のための連携にならないようにしたい</p> <p>キーワード:○連携のための連携</p>	<p>・年1回の研究会開催</p> <p>・研究会以外に年2回の授業公開</p> <p>・初任者研修等での授業公開</p> <p>キーワード:○授業公開, ○研究会</p>	<p>・学校運営上の課題や取組の情報交換</p> <p>キーワード:○課題や取組, ○情報交換</p>
243	<p>・研究授業の共同研究者として、授業作りから参加して頂いている。</p> <p>・研究授業の共同研究者として、授業後に指導を頂いている。</p> <p>・全体研究の共同研究者として、研究方向にアドバイスを頂いている。</p> <p>キーワード:○共同研究者, ○授業作り, ○指導</p>		<p>・人事交流</p> <p>・授業公開</p> <p>・研修公開(ラウンドテーブル)</p> <p>・授業参加</p> <p>キーワード:○人事交流, ○授業公開, ○研修公開</p>	<p>・時間</p> <p>・旅費</p> <p>・ICT</p> <p>キーワード:○時間, ○旅費, ○ICT</p>

244	<p>研究体制の工夫 大学学部との連携をよりよいものにしていくための工夫としては、働き方改革の一つとしての視点も含め、(現在も取り組みが進んでいる状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部附属共同研究(附属学校の教員と学部の専門家教員との教科別の研究チーム)を教科ごとに推進 ・附属学校での公開教材研究会・公開研究会などへの助言 ・教職大学院の院生を中心とした日常的な授業公開・演習など省察的実践の具現化 ・共同研究として、公開研究会の時のみでなく、日常の授業づくりや教材研究を協働して行う機会を設ける。 ・教職大学院設置に伴って配置された実務家教員による院生への支援や大学教員との連携体制 <p>このような研究体制は短時間ながらも充実した成果を出すことが期待でき、今後さらに学部との協働が実現していくよう校内の研究体制について考えていきたい。</p> <p>キーワード:○働き方改革, ○教職大学院生, ○実務家教員</p>	<p>2-4内容と同じ</p> <p>キーワード:○附属教員への支援, ○協働, ○連絡体制</p>	<p>長野県教育委員会指導主事との懇談会 附属長野小・中学校の教員が集い、教科指導における県下の情勢やめざす授業について、指導主事の先生方からご指導をいただくことを通して、今後の実践の方向を具体化する機会とする。</p> <p>キーワード:○県下の情勢, ○研究実践の評価, ○情報交換</p>	
245	<p>教員養成の高度化に向けて、会議に参加したり、情報を提供したり、講座等に参画している。</p> <p>キーワード:○教員養成の高度化</p>	<p>教員養成にかかわる共同研究や共同実践</p> <p>キーワード:○教員養成, ○実践的な資質の向上</p>	<p>新学習指導要領にそった教育課程に関する情報提供 初任者研修の実施 土曜日の授業公開 校内研修への職員派遣</p> <p>キーワード:○情報提供, ○初任者研修, ○研修協力</p>	<p>交流における研究活動の活性化</p> <p>キーワード:○研究活動の活性化</p>
246	<p>大学の実習委員会、実習改革 WG、コアカリ検討 WG等に附属学校職員も参加している。 大学、大学院の授業に指導者として参加している。 教職サポートセンターで学生向きの講座を実施している。</p> <p>キーワード:○教育実習改革, ○教職サポート</p>	<p>総合大学として様々な学部機関に附属学校に関わっていただき実践的な研究を推進していきたい。 大学の産学担当部局とも連携していきたい。</p> <p>キーワード:○他学部</p>	<p>管内教育委員会に附属学校が出向き教育長との懇談を毎年続け、その中で連携の内容・方法を具体化していく。 校内研修会等の指導者養成に応えたり、地域のニーズに応じた研修機会の提供を継続していく。</p> <p>キーワード:○地域ニーズ</p>	<p>それぞれに忙しさもあるため「交流の場」を設定するコーディネーター役がいるとよいのではないかと。</p> <p>キーワード:○交流の場</p>
247	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の教員を積極的に指導講師として招聘している。 ・大学と附属の「共同研究プロジェクト」という組織がある。 <p>キーワード:○大学の学術的知見, ○附属学校の実践の蓄積</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人間発達科学部だけでなく、富山大学の他学部とも連携する。 <p>キーワード:○薬物, ○特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公立学校研究授業における本校教員の指導助言 ・公立学校6年次教員研修、免許更新講習等の受入 ・学力調査委員、各教科副読本編集委員等の派遣 <p>キーワード:○公立学校のニーズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員同士の交流、情報交換 <p>キーワード:○教員同士の交流</p>
251	<p>アンケート等を協力している。</p>	<p>単元を通して、大学の先生と実践を進めていく。</p> <p>キーワード:○共同研究</p>	<p>地域の要請により、地域の研究の核となる教員の授業研究・研修指導・研究支援、教育研究論文の指導・審査を行っている。</p> <p>キーワード:○授業研究, ○研究指導, ○教育研究論文</p>	<p>教員同士の交流会 研究主任の交流会</p> <p>キーワード:○交流会</p>
252	<p>教科ごとに共同研究者になってもらい、研究を進めている。 「メール一本でやり取りできる関係」を目指し、随時指導を仰いで実践に生かしている。</p> <p>キーワード:○メール一本, ○共同研究者</p>	<p>附属学校から、大学教員からの積極的な情報提供</p> <p>キーワード:○情報提供</p>	<p>春の発表会と秋の公開授業の二本立てで実践を公開し、先生方の研修の機会を提供 研究紀要の在り方を見直し、公立学校の先生方に分かりやすく、実践に役立つ内容に精選 講師派遣などによる学習会・研修会などへの参加</p> <p>キーワード:○春と秋の授業公開, ○分かりやすい紀要, ○研修会への講師派遣</p>	<p>これまでの経緯と研究の在り方についての相互理解 専門的な内容にとらわれず、現場レベルでの課題解決につながる提案の交流</p> <p>キーワード:○研究の在り方, ○現場レベル</p>

253	<p>・大学内の「支援委員会」を中心として連携。</p> <p>キーワード:○支援委員会</p>	<p>・大学内の「支援委員会」との更なる連携強化。</p> <p>キーワード:○支援委員会</p>	<p>副校長以下の職員は全員、県からの割愛者である。</p> <p>キーワード:○割愛</p>	<p>・仲間意識の醸成 ・積極的な情報交換</p> <p>キーワード:○仲間意識</p>
254	<p>学部教員と連携しつつ、多彩な連携授業(年間延べ15講座以上)を計画し、実施している。</p> <p>学部・附属学校連携推進協議会、教育実習委員会等を通して、大学との意思疎通や共通理解を図っている。</p> <p>キーワード:○連携授業, ○協議会、委員会</p>	<p>連携授業の一層の充実</p> <p>キーワード:○充実</p>	<p>県教育委員会主催の初任者研修や指導改善研修への協力</p> <p>当該中学校区・市校長会への参加</p> <p>市町の教育研究会等への参加</p> <p>キーワード:○行政機関との連携, ○現場教員との連携</p>	<p>常日頃からの交流による相互の意思疎通</p> <p>キーワード:○意思疎通</p>
255	<p>大学の先生との教科研究の場を設ける教育実習を通しての学生との連携を密にする</p> <p>キーワード:○教科研修, ○大学の業務に協力, ○教育実習</p>	<p>大学の先生との共著論文の作成等、更に連携を深めたい。</p> <p>キーワード:○共著論文, ○時間の設定</p>	<p>研究協議会等の協力依頼</p> <p>キーワード:○教科研究の連携</p>	<p>ゆるやかで継続的な交流が望ましい</p> <p>キーワード:○継続的</p>
256	<p>各教科・領域に共同研究者という形で研究の助言をいただいている。</p> <p>キーワード:○共同研究者</p>	<p>大学との距離が離れているため、なかなか授業デザインの構想での相談ができないことがあるので、遠隔会議システム等で気軽に相談できるような整備をしたい。</p> <p>キーワード:○遠隔会議システム</p>	<p>研究発表会等において教育委員会の指導主事に助言者として助言をいただいている</p> <p>研究発表会等において公立学校の職員から分科会の司会者、協力員、サポーターという形で研究の協力を得ている。</p> <p>キーワード:○助言者, ○協力員, ○サポーター</p>	
261	<p>附属学校教育研究推進専門委員会という組織を設置し、年度当初に各附属学校を周り、ヒアリングや助言を行っている。</p> <p>また、上記委員会として各附属学校ごとの研究に対して、適宜指導・助言をいただく。</p> <p>夏季休業期間に大学と各附属学校と共同で教育研究交流会議を開催し、それぞれの所属を超えて、教科や領域ごとの研究を進める機会を持っている(教科によっては、年間を通じて数回の活動も行っている)。</p> <p>キーワード:○専門組織, ○所属を超えた研究会活動</p>	<p>各附属学校独自の動きや視点を活かせる連携が大切である。各附属学校の特徴を生かした教員養成の取組や現場で生かせる実践研究を今後も大切にしたい。そのためにも各附属学校の考え方や特徴を大学とより深く共有できるよう工夫が必要である。</p> <p>キーワード:○独自の動きや視点を活かした連携</p>	<p>研究の柱の一つである伝統文化教育の実践においては、特に地元地域との連携を重要視して活動を進めている。</p> <p>本校での研究の成果としての授業実践をDVDにデジタル化したり、youtube 大学公式チャンネルから動画配信するなど新しい連携の方法を模索している。</p> <p>この研究活動では、地域の公立学校でも研究成果を活用するべく、京都府教育委員会・京都市教育委員会との連携の中で活動を推進している。</p> <p>キーワード:○伝統文化教育, ○デジタル配信, ○研究成果活用方法の模索</p>	<p>それぞれの附属学校における個性は大切にしながらも、特に教育実践レベルでの情報共有や実践共有が大切である。</p> <p>それぞれの強み、特徴から学び合い、生かせることを互いに取り込むことで、学校腫を超えた有機的な連携が深まるものと思われる。</p> <p>キーワード:○各学校の個性, ○情報共有・実践共有, ○学び合い</p>
262	<p>研究協議会の際の指導助言だけでなく、日常的に、指導案検討等の場を、教科教育の大学の先生方と一緒に行うようにしている。</p> <p>キーワード:○日常的, ○授業づくり, ○指導案検討</p>	<p>教育学部だけでなく、本学の他学部(データサイエンス学部、及び、経済学部)との連携・共同研究を拡充していく。</p> <p>キーワード:○他学部, ○データサイエンス, ○共同研究</p>	<p>大津市教育センターの初任者研修の受け入れ(会場提供・授業公開・講話等)</p> <p>滋賀県総合教育センターの2年次研修の受け入れ(会場提供・授業公開・研究協議等)</p> <p>滋賀県総合教育センターの各種研修講座への講師派遣(本校教諭が講師を務める)</p> <p>県費教職員との人事交流(教諭全員が公立校からの異動)</p> <p>滋賀県小学校教育研究会・各教科の研究部会の事務局を本校教諭が担当</p> <p>キーワード:○研修受け入れ, ○講師派遣, ○人事交流</p>	<p>各校園で抱える課題が共通しているようで、実は個別に事情が異なる(例:校長の常勤化)ので、なかなか難しいと思います。</p> <p>研究主任レベルの情報交換ができる仕組みがあるとよい。</p> <p>キーワード:○研究主任レベル, ○情報交換</p>

263	<p>大学教員の指導・助言を受け研究を進めている。 本校教員が、大学生、教職大学院生に講義を行い、理論と実践の融合を進めている。</p> <p>キーワード:○研究, ○融合</p>	<p>大学教員との定期的な会合の数の増加。</p> <p>キーワード:○定期</p>	<p>地域の教育委員会より、初任者研修や中堅教員研修を委託され、事業公開等の研修を行っている。 公開授業研究会を実施し、地域の教員の授業力の向上を図っている。 学校安全に関する講義や学校見学の受入を行っている。</p> <p>キーワード:○研修, ○公開, ○安全</p>	<p>互いの研究を交流するための機会の確保。</p> <p>キーワード:○機会</p>
264	<p>共同研究をすすめるために、研究分野や教科を明確に設定し何を課題とするかを共有している。 本校児童の成長・発達につながるかという視点を大切にしている。</p> <p>キーワード:○課題設定, ○児童の成長・発達</p>	<p>働き方改革を視野に入れ、連携が過重な負担にならないように気をつけたい。</p> <p>キーワード:○働き方改革, ○負担</p>	<p>人事交流。 研究・実践を交流するために研究報告書・紀要等の送付。 教育委員会主催の研修への講師の派遣。 定期的な連携会議・情報交換等の会議の実施。 研究会の後援依頼。 キーワード:○人事交流, ○研究・実践の交流, ○情報交換</p>	<p>形式的なものにならないように本質的なところで理念や実践を交流し合いたい。</p> <p>キーワード:○本質的, ○理念</p>
265		<p>初等教育原理や教育方法についての研究者を大学に着任できるように働きかけたい。</p>	<p>研究指定を受けている公立学校や共同研究校の研究について指導助言を行ったり、公的な研究団体が主催する研修会の講師を務めたりしている。教育委員会主催の講演会の講師も務めている。</p> <p>キーワード:○研究指定, ○共同研究, ○指導助言</p>	<p>附属合同教育実践研究会を開催して、互いの研究成果を授業レベルで議論することが必要。</p> <p>キーワード:○附属合同教育実践研究会, ○授業実践</p>
266	<p>実習校としての機能を充実させる。 ユニバーサルデザイン化や IT 機器などを活用してすべての子ども達に必要に応じた学習ができる仕組みを作る。 プロジェクト的な学習やアクティブラーニングを促進する。 研究発表会などでの教科ごとの指導助言や大学の教授と授業研究を行っている。 キーワード:○実習校, ○個に応じた学習, ○アクティブラーニング</p>	<p>プログラミング教育の充実に向けて、外的・内的環境のバランスを図りながら大学教員の指導と助言のもと、連携をとっていく。</p> <p>キーワード:○プログラミング教育, ○環境整備, ○専門家</p>	<p>地域のモデル校として、先導的の学校教育実践を深化させる。</p> <p>キーワード:○地域のモデル校, ○実践発表, ○還元</p>	<p>各附属校園の研究内容の共有 研究発表会等への参加</p> <p>キーワード:○研究内容の共有, ○研究発表会への参加</p>
267	<p>公立学校教職員も巻き込むことで、研究成果を地方教育の進展に生かすよう、工夫している。 本校教職員の研究について、共同で実践研究することで、その質を高めるようにしている。</p> <p>キーワード:○公立学校教職員との連携, ○地方教育の進展</p>	<p>附属学校部を窓口とし、本校の研究等のニーズを提示し、研究協力してもらえようようにしたい。 大学教員と附属学校教員が対等の立場で行えるようにしたい。</p> <p>キーワード:○附属学校部, ○対等の立場</p>	<p>教育学部・附属学校・公立学校との連携を共同研究という形で実現している。 各地方の教科研究会等の研究協力者や指導助言として協力している。 各教育委員会等の要望に応じ、研究成果等の資料やデータを提供している。</p> <p>キーワード:○共同研究, ○研究協力, ○研究成果の提供</p>	<p>それぞれの学校の置かれている現状も含めて、相互に理解し合った上で交流すること。</p> <p>キーワード:○相互理解</p>
271	<p>研究構想・授業研究・公開研究会等、年間を通して研究に携わっていただいている。 質問紙調査、授業観察、研究授業実践等、大学の研究に積極的に協力している。 大学の附属学校支援グループが大学と附属学校園の研究協力にかかわっての窓口になっている。 キーワード:○相互協力, ○組織的な連携</p>	<p>ICTの活用することによる遠隔地の授業参観・協議会の実施</p> <p>キーワード:○ICT活用</p>	<p>人事交流(県内, 他県) 校内研修会などへの講師派遣 公開研究会以外に授業づくり研修会の実施 年度当初に県教委・市教委へ挨拶</p> <p>キーワード:○人事交流, ○講師派遣</p>	<p>研究テーマの類似性 研究主任等が直接会って話をする。</p> <p>キーワード:○研究テーマの類似性, ○直接会う</p>

272	<p>大学とは離れた位置に学校があるので、メールで細かにやり取りをしている。また、大学に行って話をしたり大学から来ていただいたり、スカイプを使ったりと可能な限りコミュニケーションを図るようにしている。</p> <p>キーワード:○メール, ○スカイプ</p>	<p>研究目的と計画, 実践, 成果・課題のまとめ等のサイクルの中で, 特に研究目的と計画について大学としっかりとかわり</p> <p>合いながら質の高いもの, 世の中の課題に応えるものになるよう連携を図っていきたい。</p> <p>キーワード:○目的と計画</p>	<p>公立学校の校内研修や研究会の指導助言や講師として招かれ, 研究面の手助けを行っている。</p> <p>また教育委員会主催の講座や研修会に授業提案という形で協力している。</p> <p>キーワード:○指導助言, ○講座や研修会の協力</p>	<p>それぞれの特色をしっかりと理解し, 研究成果や課題, 教育課題への対応や日常の取組など幅広く, また率直に情報交換すること</p> <p>キーワード:○特色へ理解, ○情報交換</p>
273	<p>・公開授業研究会, 研究発表大会, 授業づくり研修会等での指導助言。(全分科会)</p> <p>・校内の授業公開スケジュールを学部周知し, 自由に授業を参観していただき, 助言をいただく。</p> <p>・共同プロジェクトの実施。(本年度は国語, 社会, 理科, 音楽)</p> <p>・学部教員と連携した授業の実施。(4年体育科陸上運動, 食育等)</p> <p>・研究発表大会と授業づくり研修会を免許更新講習を兼ねて実施。</p> <p>キーワード:○指導助言, ○共同プロジェクト, ○免許更新講習</p>	<p>・共同プロジェクトの増加。</p> <p>・授業参観できない学部教員への授業動画提供。</p> <p>・授業動画の学部での活用。</p> <p>キーワード:○共同プロジェクト, ○授業動画</p>	<p>(1)「授業アドバイザー事業」: 学部と県教委との連携事業</p> <p>・授業研究や指導案づくり, その他研修会等の依頼を市町教委が取りまとめて附属学校に依頼。</p> <p>・附属学校から市町教委を通して派遣日を通知。</p> <p>・派遣にかかる費用は学部が負担し, 依頼側の費用は不要。</p> <p>(2) 国研研究指定校(周南市立徳山小)への研究協力</p> <p>キーワード:○教育委員会との連携, ○研究協力</p>	<p>・共通の視点が先にあれば交流が容易になるのではないかと考える。</p> <p>キーワード:○共通の視点</p>
281	<p>合同研修会の開催</p> <p>キーワード:○連携の取組紹介, ○教科等部会</p>	<p>時間と場の確保</p>	<p>地域連携会議(附属学校園の取組の紹介, 委員会からの指導, 要望等の交換)の実施</p> <p>市町教育委員会からの短期研修の受け入れ</p> <p>市町教育委員会の研究会への協力</p>	<p>目標を同一のものとする。</p>
282	<p>教職大学院生を週1回受け入れ</p> <p>学部・附属合同研究集会を年度末に開催</p> <p>学部・附属運営協議会を定期的に開催</p> <p>キーワード:○教職大学院生, ○学部・附属合同研究集会, ○学部・附属運営協議会</p>	<p>大学との共同研究の実施</p> <p>日常的な授業研究に大学の先生を講師として招聘</p> <p>学部・附属合同研究集会の充実</p> <p>キーワード:○共同研究, ○授業研究, ○学部・附属合同研究集会</p>	<p>県教育センターで実施している中堅教員等資質向上研修への協力</p> <p>高松市総合教育センターが行っている1年経験者研修への協力</p> <p>日常的に本校の研究集会を公立学校に公開</p> <p>本校の研究発表会の指導者として教育委員会の指導主事を指導者として招聘, 公立学校の教員を司会者・協力者として依頼</p> <p>キーワード:○研修への協力, ○研究集会の公開, ○研究発表会</p>	<p>附属学校間は距離があるため, 交流するための費用の捻出</p> <p>自校の研究だけでも忙しいため, 交流に費やす時間の確保</p> <p>交流を行うための必要感</p> <p>キーワード:○費用, ○時間, ○必要感</p>
283	<p>・教科ごとに連絡を取り, 指導を仰いだり, 共同研究を積極的に行ったりしている。</p> <p>・大学との合同研究集会ということで, 毎年1回研究授業を大学の先生にも参観してもらい, 一緒に研究協議を行っている。</p> <p>キーワード:○共同研究, ○合同研究集会, ○定例行事</p>	<p>・日常の授業参観や研究活動に関わる指導や助言を仰ぐ機会の創出</p> <p>・一層のwinwinの関係を進める。</p> <p>キーワード:○日常的な交流, ○研究活動への指導・助言, ○共通のテーマ</p>	<p>・地域の公立学校から指導の要請があれば, 研究授業を参観し, 指導・助言を行っている。</p> <p>・指導要請のあった研究授業のための授業づくりを一緒に行っている。</p> <p>・教育研究発表会の際に, 教育委員会の指導主事に指導を仰いでいる。</p> <p>・教育研究発表会の研究授業を参観してもらい, 公立学校の先生方とともに研究協議を行っている。</p> <p>・法令研修の講師を務めている。</p> <p>キーワード:○研究授業への指導・助言, ○やりがいい, ○教育研究発表会</p>	<p>・互いの研究内容について尊重しながら, 本音で語り合う研究姿勢。</p> <p>・労働時間に配慮しつつ, 日常の業務に支障のないような交流の場や機会の設定。</p> <p>・教科の本質のつながり。</p> <p>キーワード:○互いに尊重する, ○本音で語り合う, ○無理のない交流の場や機会の設定</p>

284	<p>本校の研究へ共同研究をお願いしているが、2年間のスパンでの研究とすることで、時間的余裕ができ、負担軽減と研究の進化の両立をめざしている。</p> <p>大学のプロジェクト研究や学生院生の研究協力については、教員の働き方改革への取り組みもあり、負担過重にならないようお願いしている。</p> <p>キーワード:○長期的計画的実施, ○働き方改革</p>	<p>働き方改革のために負担過重にならないように。</p> <p>キーワード:○働き方改革, ○負担過重防止</p>	<p>小学校プログラミング教育の研究。 消費者教育の研究。 教員研修への寄与。</p> <p>キーワード:○小学校プログラミング教育, ○消費者教育, ○教員研修</p>	<p>情報共有のためのシステム。 人的交流。人間関係等が作れる交流の場。 校長等管理職, 研究主任のリーダーシップ。 キーワード:○システム作り, ○人的交流, ○リーダーシップ</p>
291	<p>共同研究の時間を毎月1回設定し、定期的に確実に研究ができるようにしている</p> <p>大学との連携の際、窓口を教頭として、情報を一元化する</p> <p>キーワード:○情報の一元化, ○共同研究の定期的な開催</p>	<p>大学との会議の在り方</p> <p>キーワード:○会議の在り方</p>	<p>地域の研究団体の事務局を本校が担っている教科がいくつかある</p> <p>県教育委員会と大学が連携した研修について、本校で授業公開等を行っている。</p>	<p>情報共有</p> <p>キーワード:○情報共有</p>
292	<p>教育実習の充実 学部と附属学校との連携の充実 研究発表会等での連携・協力 大学と附属学校の成果の相互交流 大学での講義協力</p> <p>キーワード:○連携, ○双方向</p>	<p>教育実習の充実 大学との共同研究 学部の教育内容の充実(教育実習とつながらない)</p> <p>キーワード:○教育内容の質の向上</p>	<p>人事交流 研究発表会等での助言・指導 学校の校内研修への参加 地域の教育研究会との連携・協力</p> <p>キーワード:○人事交流, ○研修</p>	<p>九州内での各教科間の交流は、定期的にあるが、共同研究には至っていない。</p> <p>日程の関係で、九州内の附属学校の研究研究会に参加していない。</p> <p>各学校の研究部との交流が必要だと感じる。</p> <p>キーワード:○意識, ○相互交流</p>
293	<p>・学部の学部長や事務長と常に情報を共有している。</p> <p>キーワード:○情報共有, ○すぐに確認, ○Face to Face</p>	<p>目的の共有</p> <p>キーワード:○教育実習, ○みなし教諭</p>	<p>(公立学校)各教科等における自主研究団体の会に出席、運営の補助、校内研修への講師派遣(教育委員会)研究公開における指導・助言を依頼、教育委員会主催の研修への協力</p> <p>キーワード:○地域貢献, ○存在価値</p>	<p>目的の共有 定期的な協議の設定</p> <p>キーワード:○迅速な対応, ○信頼関係</p>
294	<p>連絡を密に取るようにしている</p> <p>キーワード:○挨拶, ○コミュニケーション</p>		<p>研修の場の提供</p> <p>キーワード:○授業改善, ○人材育成</p>	<p>附属校園の使命についての共通理解</p> <p>キーワード:○附属校園の使命</p>
295	<p>・共同研究</p> <p>・2月開催の研究発表会では、各教科・領域において、大学教授、准教授による指導助言の場を設定している。</p> <p>・幅広い教育実習(1年次:参加型の観察実習 2年次:計10回のテーマ別講義 3年次:主免、副免実習管理職養成実習)</p> <p>・実習委員会(出席者:本校職員、大学教授、准教授)を開催し、教育実習の在り方について、検討している。</p> <p>キーワード:○協働, ○理論と実践, ○教育実習の充実</p>	<p>・双方にとってメリットとなるように(学部のニーズに応え、本校児童に研究の成果が還元されるように)</p> <p>キーワード:○ニーズ, ○メリット</p>	<p>・出前授業や出張講義の要請に応じている。</p> <p>・県教育センターの講座に、本校職員を派遣し、授業(国語科)や講話(算数科)を行った。</p> <p>キーワード:○地域(学校)の課題に応える, ○認知・活用</p>	<p>・交流の場の設定 ・他附属の研究発表会への参加</p> <p>キーワード:○情報交換の場の設定, ○日程調整, ○研究成果の検証</p>
296		<p>授業をベースとした研究協力の推進</p> <p>キーワード:○授業, ○研究協力</p>	<p>各学校の校内研修での指導助言、教科等研究委員会主催の研究発表会での指導助言、市町村教育研究所での指導助言</p> <p>キーワード:○指導助言</p>	<p>テレビ会議システムの利用</p> <p>キーワード:○テレビ会議</p>

297	<p>大学教員による授業実践研究、実地指導研修の実施に際して、附属学校を実践指導研究の場として提供している。</p> <p>研究発表会、秋季授業研究会にむけての授業づくりの相談及び研究協議会での指導助言を大学の教員にお願いしている。</p> <p>キーワード:○授業実践, ○授業づくり, ○指導助言、講話</p>	<p>年間を通じた研究協議会における指導助言研究の進め方、内容に関する定期的な会議の実施</p> <p>キーワード:○定期的実施</p>	<p>地域の研究サークルと連携し、公開授業研究会を実施している。</p> <p>サークルの教員、附属学校の教員が授業者となり、授業、研究協議会を通して学び合っている。</p> <p>教育委員会の指定する研修会として、公立学校の教員も参加し、研修の場ともなっている。</p> <p>教育センターの中堅教員研修会の授業を附属教員が行い、研修の場を提供している。</p> <p>キーワード:○研究サークルとの連携, ○教育センター研修</p>	<p>同じような研究内容であること 定期的な交流会が持てるような物理的条件を整えること</p> <p>キーワード:○研究内容, ○物理的条件</p>
298	<p>共同研究者という立場で関わっていただくことで、研究構想や授業構想についてご指導をいただくことができます。</p> <p>教育実習中、大学の先生も実習生の授業を参観していただくことで、大学の先生との連携をしています。</p> <p>小倉・久留米・福岡の3つの小学校と大学の先生とで、年に一度「初等教育研究会」を開催し、意見交流をしています。</p> <p>大学の先生と本校教員で共同実践授業を行っています。</p> <p>キーワード:○共同研究, ○教育実習, ○意見交流</p>	<p>現在のところ、とくにありません。</p>	<p>講師という形で、公立学校の研究に関わっています(指導出張)。</p> <p>公立学校の若年教員の研修と重ねて、授業公開をしています。</p> <p>年に2回オープンスクールを設定し、公立の先生方が自由に授業を参観できるようにしています。</p> <p>キーワード:○指導出張, ○若年教員, ○オープンスクール</p>	<p>互いの研究の取組を見合うために、学校訪問を行うことです。</p> <p>キーワード:○研究, ○学校訪問</p>
311	<p>連携協議会を開催し意思疎通を密にしている。</p> <p>本校の研修に大学教員に参加してもらっている。</p> <p>シラバスにおける「教科指導」のコマの一部を本校教員が担当している。</p> <p>キーワード:○共通理解, ○Win-Winの関係性, ○継続性</p>		<p>本校教員が地域の教科別教育団体へ所属し、相互交流や団体の研究推進に携わっている。</p> <p>少し離れた地域の学校から遠隔授業の求めがあり、本校から当該校へ遠隔授業を実施している。</p> <p>教育委員会から依頼を受け研修(授業力向上、初任者研修など悉皆研修等)を本校が行っている。</p> <p>教育委員会から依頼を受け出前授業等を本校教員が行っている。</p> <p>キーワード:○Win-Winの関係性, ○具体的な指導や授業の提供, ○実践研究の推進役</p>	<p>各校学校園での取組の共有</p> <p>キーワード:○取組の共有, ○取組の可視化</p>
312	<p>・大学教員を兼任する学校長をパイプ役とした連携強化体制</p> <p>キーワード:○連携強化, ○大学への働きかけ</p>	<p>・大学教員、教職大学院教師の附属教員兼任体制</p> <p>キーワード:○附属教員兼任体制</p>	<p>・附属の教員研修支援センターとして活用を広くPR</p> <p>・公教研での積極的な研修協力</p> <p>・公立校や各教育委員会からの出前授業や講師派遣要請に対する積極的な協力体制</p> <p>キーワード:○教員研修支援センター, ○出前授業, ○ニーズに対応</p>	<p>綿密な共通理解を図るための情報交換、相互交流</p> <p>キーワード:○日常的な活動, ○共通認識と共通理解, ○過度な負担にならない工夫</p>
313	<p>本校研究に関わって授業づくりからの参画と助言生徒の変容に関わる見とり、データ分析等に対する助言</p> <p>キーワード:○大学の人的資源の活用, ○教員研修機能の充実</p>		<p>初任段階研修の積極的な受入(他校参観等)研修講座の開設</p> <p>キーワード:○共に学ぶ姿勢, ○若手教員の育成</p>	<p>課題意識の共有化</p> <p>キーワード:○課題意識の共有化, ○定期的な情報交流</p>

321	<p>学部兼務の校長が、教育学部と附属中の合同プロジェクトである、上記2-2「Society5.0時代の新しい学校教育の理論と実践」の研究代表者となり、多様な研究分野から構成される、教育学部の共同研究者8名と本校との橋渡し役を担っている。</p> <p>共同研究者の専門性と本校各教科の問題意識等とを勘案しながら、何より生徒の学力向上等に寄与するものになっているか、教育学部(共同研究者)と本校(各教科等)にとって有益かどうか、また働き方改革という時代の流れを視野に入れながら、時間対効果はどうか等、様々な面に配慮しながら、連携して研究実践を行っている。</p> <p>キーワード:○大学教員の専門性と現場の問題意識, ○生徒の学力向上, ○時間対効果</p>	<p>先進的な研究という視点はもちろん、本校のみならず、「地域のモデル」校として、他校へ還元するという前提を共有すること。</p> <p>キーワード:○地域のモデル, ○他校への還元</p>	<p>市教育研究会に全員が所属し、毎年3～4回の研修会を通して、教科ごとに市内の公立学校の先生方と情報交換を行ったり、授業参観、理論研究等を行ったりしている。任意団体である県教育研究会に全員が所属し、同様に県内の公立学校の先生方と研修を行っている。毎年5～6月に開催する本校の学校公開研究会では、県内から毎年数百人の参観者をいただき、授業参観や研究会での協議を通して、よりよい授業のあり方をともに模索している。</p> <p>上記学校公開研究会の分科会の助言は、毎年県教育委員会に依頼しており、各教科、当日はもちろん、事前の準備等から指導主事の方々にご助言をいただいている。</p> <p>キーワード:○市教育研究会, ○県教育研究会, ○学校公開</p>	<p>研究の方向性を共有する附属校園との提携 研究発表会当日に限らず、定期的・継続的な情報交流及び相互訪問の機会</p> <p>キーワード:○研究提携, ○情報交流, ○相互訪問</p>
322	<p>各教科で、公開授業や公開研究会に向けて、指導計画や指導案の作成及び教授法に関わる話し合いやアドバイスの提供。</p> <p>教育実習全般に関わるサポート体制の確立。</p> <p>教育学部研究紀要作成に関わる協同研究。</p> <p>キーワード:○協同研究, ○教育実習</p>	<p>大学と現行の事業を進めるにあたって連絡を密にすることとための時間の確保。</p> <p>現行の事業に対するとらえ方や考え方に対して出てくる大学と中学校との相違やギャップを埋めるために意思疎通を図ること。</p> <p>キーワード:○時間確保, ○密なる連携, ○意思疎通</p>	<p>本校教員の授業公開。</p> <p>近隣の市町村教育委員会が主催する当該地区教員を対象とした授業実践。</p> <p>キーワード:○授業公開, ○師範授業</p>	<p>地域のニーズに沿った取組や、公立学校で活用できる研究成果の還元に関する情報共有</p> <p>キーワード:○情報共有, ○地域のニーズ, ○研究成果の還元</p>
323	<p>・大学の教育学担当の先生を中心に連携を取っている</p> <p>・教科によっては、教育法の授業の講師として中学校教員が特別講義を行う</p>	<p>・大学で附属中生向けの講座内容などを考えてもらえる</p> <p>るとよい</p>	<p>・県で推進している「探究型学習」のモデル授業を研究実践として多数提供している。</p> <p>・山形市内の中学校と相互に研究授業を参観し合っている。</p> <p>・「探究型学習出前授業」として県内各地の中学校で出前授業や講演などを行っている。</p> <p>・本校の研究協力者として、県内教員を対象に公募している。</p> <p>・市内や県内の教育研究会には事務局等として参加し、協力している。</p>	<p>附属学校は教員の人数が定数ギリギリか、不足している状態なので学校を空けて交流の場に行くこと自体が難しい。</p>
324	<p>公開研究協議会等では、すべての教科・領域で大学教員に共同研究者として関わってもらっている。</p> <p>キーワード:○授業を見合う会, ○学部・附属共同委員会</p>	<p>共著論文の執筆</p> <p>キーワード:○連絡調整, ○コミュニケーション, ○選択と集中</p>	<p>公開研究協議会の指導助言者に県教育委員会の指導主事を依頼</p> <p>地域の教科等研究会に加入、ともに授業公開や研究協議を実施</p> <p>キーワード:○教育委員会学校訪問, ○人事交流, ○地域連携協議会</p>	<p>副校園長会のプログラムの充実</p> <p>キーワード:○リーダーシップ, ○コミュニケーション</p>
325	<p>・公開授業を作り上げるまで、大学の先生に助言をいただく場を、教科ごとに設定して。</p> <p>・校内研修会に大学の先生を講師としてお招きし、研究内容に係る話をしてもらっている。</p> <p>・総合的な学習の時間に1年生が行っている「環境」の学習で、大学の先生に専門的な立場から話をしてもらっている。</p> <p>・大学の先生からの要請には可能な限り応じている。</p> <p>キーワード:○大学リソースの活用</p>	<p>・大学の先生から専門的な話を聞けるのは、生徒にとって意義のあることだと思われる。本校の教育活動の様々な場面で大学の先生に関わってもらえないかどうかなど、大学の附属学校ならではの連携を模索していきたい。</p> <p>・研究集録をまとめる際に、大学の先生の力を借りることができないか検討中である。</p> <p>キーワード:○大学リソースの活用</p>	<p>・任意団体だが、福島県中学校教育研究会の5教科(国語、数学、英語、理科、社会)の事務局が本校内にある。</p> <p>・上述の研究会が開催する研修会の指導助言者等に招かれている。</p> <p>・福島県教育委員会の要請に応じて、県教育委員会が主催する授業研修会に授業を提供している。</p> <p>キーワード:○地域貢献</p>	<p>・他校園の先生方と顔を合わせる時間の確保</p> <p>・学校行事をはじめとした他校園の教育活動の理解</p> <p>キーワード:○時間の共有</p>

331	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究のための授業参観と研究協議 ・研究テーマに沿った指導案作成時の助言 ・大学生または大学院生による授業参加(プレゼンテーション等) ・教育人材育成充実を目指した教育実習・実地研究・教育インターン等 <p>キーワード:○授業研究, ○研究テーマ, ○授業参加</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の探究活動の合同発表会 ・教員の合同研修会 ・県立高等学校との連携入試 ・本校生徒対象の学校説明会や体験授業及び部活動体験 <p>キーワード:○リテラシー教育, ○連携入試, ○合同発表会</p>	
332	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究のための授業参観と研究協議 ・研究テーマに沿った指導案作成時の助言 ・教育人材育成充実を目指した教育実習・実地研究・教育インターン等 <p>キーワード:○授業研究, ○研究テーマ, ○授業参加</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の探究活動(総合的な学習の時間)の学習発表会の公開 ・教員の合同研修の実施(市教育研究会への積極的参加と授業公開) ・県教育委員会及び市町村教育委員会主催の教員研修の実施 ・本校生徒対象の学校説明会や体験授業・部活動体験 ・校内研究の実施方法にかかるモデル提示 <p>キーワード:○総合的な学習の時間の充実, ○教員研修の場の提供, ○研究方法のモデル提示</p>	
333	月1回、大学と附属校園の連携研究会を開催している。	大学と附属校園との連携研究の継続	短期研修の受け入れ。学校視察の受け入れ。授業参観等の受け入れ。 キーワード:○授業研究	研究課題の共有。継続性。 キーワード:○継続性
334	教育実習生の研究授業の参観を強くお願いしている。教科によっては、大学の先生による授業を行ってもらっている。中学1年生が大学図書館を訪れ、今後調査などがあった時に図書館を活用できるようにしている。 キーワード:○教育実習生の研究授業, ○大学教員による授業, ○大学図書館	大学の短期海外留学への便乗ができないか検討している。 キーワード:○短期海外留学	校長や講師以外、県教育委員会との交流人事で勤務している。教科によって「授業づくり研究会」を休業日に行っている。 キーワード:○交流人事, ○授業づくり研究会	教員の必要感, 切実感 教員の時間的余裕 キーワード:○必要感, 切実感, ○時間的余裕
335	大学との連携であるために、大学のガバナンスが求められるところではあるが、幼少中の副校長が集まりある程度先を見通した計画を前もって話し合うなど三附で連携を図るようにしている。 キーワード:○見通し, ○ロードマップ, ○情報共有	大学側に、附属学校園の状況を的確に伝え理解してもらおうこと、そして、大学と学校園の間での役割分担や大学への要求を明確に示すこと キーワード:○役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会とは共催で、また、県教育委員会や教育連合会等には後援を頂いて、公開研究発表会を開催している。 ・公立学校には指導助言者として、授業作りや公開研究発表会をサポートしている。 ・年に1回、公立校の教員を対象に、授業公開・研究協議会を開き、普段の授業作りに関するセミナー等を行っている。 <p>キーワード:○地域貢献, ○指導助言者, ○授業参観</p>	
336	教育学部と附属4校園の連携により、「子ども総合サポートセンター」「教員養成FDセンター」「学部・附属学校共同研究推進センター」といった3つのセンターを運営している。 キーワード:○子どもサポート, ○教員養成, ○共同研究		群馬県教育委員会の「はばたく群馬の指導プラン」の作成に執筆者として全教科の教員が関わるとともに、そのプランに則った公開授業が県内各地で実施される際には、本校の教員も参加し、研究会等で授業改善に関わる助言や意見を述べている。 キーワード:○情報提供, ○授業改善, ○成果の還元	一口に附属学校といっても、都道府県によって様々な面で異なっており(教員が大学採用か人事交流か等)、一つのテーマについて話し合うにしても、温度差がある。交流には学部本体の関わりがまず重要である。 キーワード:○学部同士の情報交流

337	<p>キーワード:○情報交換, ○近さ</p>	<p>キーワード:○日常的連携</p>	<p>・研修会や研究会、指導案作成などの協力依頼に対して、担当教科教員を派遣し、協力している。 ・教育委員会等の主催する研修会の講師等の依頼を受けている。 キーワード:○授業力の向上, ○地域貢献, ○若手の育成</p>	<p>・公開研究会への積極的参加。 キーワード:○情報交換, ○人の交流</p>
338	<p>教育学部と附属学校との連携研究を公募し、採択されると研究費が支給される。 連携研究のメンバーには必ず教育学部教員と附属学校教員が含まれることを条件としている。 毎年50テーマほどが採択され、年度末には報告書としてまとめられている。 キーワード:○連携研究</p>		<p>各教科で全国大会や関東大会の開催地が本県である時、地域の公立学校と連携して研究に取り組んでいる。毎年公開研究会の際、教育委員会に後援をいただいている。また、当日は研究に関する指導・助言をお願いしている。 キーワード:○公開研究会, ○指導・助言</p>	
339	<p>本校は、大学構内にあるので、日頃から大学の先生方と直接会うことや、学生の授業参観の受入れを積極的に行っている。 大学からの授業参観等の依頼に応えるため、時間割は固定せずに、依頼に対応したものに修正する。 キーワード:○直接に会う, ○学生を積極的に受け入れる, ○時間割を固定しない</p>	<p>附属側からも連携に関わることの提案を積極的に行う。大学との連携を行うための時間を確保する(日々の生徒指導の追われるだけではいけない)。 キーワード:○附属からの提案, ○時間の確保</p>	<p>地域の公立校長会に参加させていただいている。地域の公立副校長会に参加させていただいている。地域の公立校の生活指導主任研修会に参加させていただいている。地域の公立校の教科ごとの研究会にオブザーバーとして参加させていただいている。 キーワード:○公立校長会への参加, ○公立副校長会への参加, ○生活指導主任研修会への参加</p>	<p>日頃からお互いに授業参観等の行き来を行う(学校訪問の励行)。 全附属や全附P連などへ積極的に参加する。 「国立附属学校園が丸となる」ことを共通理解する。 キーワード:○学校訪問の励行, ○全附属への参加, ○国立附属学校園が丸となる</p>
340	<p>附属学校として取り組みたいことを積極的に提案している(公開研のシンポジウムなど) キーワード:○附属学校からのアプローチ</p>	<p>附属学校から積極的に大学に働きかけること、授業研究の場を提供すること キーワード:○授業研究, ○附属学校からのアプローチ</p>	<p>大学と自治体と連携して、経済的に困難な家庭の児童を受け入れる連絡進学制度を実施している。 キーワード:○大学・自治体との連携, ○連絡進学制度, ○経済的困難性</p>	<p>研究交流する目的の明確化、研究交流する場の設定 キーワード:○目的の明確化, ○場の設定</p>
341	<p>学長主導の下の GP(グッドプラクティス)事業。 本校教育研究発表会の共催 キーワード:○学長, ○GP(グッドプラクティス)</p>	<p>大学の先生方の研究フィールドとしての附属学校の利用を呼び掛ける。 キーワード:○附属学校の利用</p>	<p>中学校教育研究会(=中教研)、中学校文化連盟(=中文連)、中学校体育連盟(=中体連)への参加及び事務局引き受けや幹事・専門委員等の職の担当。 本校教育研究発表会に対する県教委・市教委の後援 キーワード:○中教研事務局, ○県教委・市教委の後援</p>	<p>研究主任等の実務を行なっている教員が集まる会があればよいと考えます。 キーワード:○研究主任, ○実務</p>
342	<p>附属学校改革ワーキンググループ会議を定期的に行い、大学と附属校園の代表が情報や要望などを交換し合っている。 キーワード:○ワーキンググループ</p>	<p>特別支援教育、学力向上などの担当者会議を立ち上げるとともに、大学教員からアドバイスを受ける場を設定する。 キーワード:○担当者会議</p>	<p>地域(上越教育事務所管内)の県教委主催の初任者研修、免許外指導研修の研修会場として、授業公開を行っている。 キーワード:○初任研, ○免許外研, ○教育事務所</p>	<p>ICT機器の活用とデジタルデータの共有 キーワード:○ICT機器</p>
343	<p>・授業参観を研究会への参加の要請 ・メール等を用いた連絡 キーワード:○メール, ○授業参観, ○語り合い</p>	<p>・ワーキンググループの開催数を増やしたい ・大学と本学校園が離れているため、ICTやテレビ会議等も活用したい。 キーワード:○ICT, ○テレビ会議, ○ワーキンググループ</p>	<p>・公開研究会や公開授業の開催、情報提供 ・研修会の開催 ・ラウンドテーブル キーワード:○公開研究会, ○語り合い</p>	<p>・直接情報交換をするための時間や費用 ・人と人との交流 ・お互いの情報を容易に知ることが出来るような検索システム、情報データベース キーワード:○時間, ○情報共有の手段</p>

344	<p>教育学部の教職カリキュラムに、附属学校職員がゲストスピーカーとして参加 教育学部の教科専修カリキュラムに、附属学校職員がゲストスピーカーとして参加 教育学部・教育実習を年間4回実施（1年次・入門教育実習、2年次・観察実習、3年次・春季教育実習、3年次・秋季教育実習） キーワード:○教育学部カリキュラムへの貢献、○教育実習の実施回数の工夫</p>	<p>教職実践演習における現場実習シラバスの提案と実践 附属学校職員による講義「学校現場で求められる資質・能力」「実践演習等のポートフォリオの統括と省察」 キーワード:○現場実習シラバス</p>	<p>新潟市立総合教育センター主催の「免外研」に関する授業公開・協議会 新潟県教育委員会・下越教育事務所主催の「初任者研修・現場実習」に関する授業公開・協議会 新潟市・新潟県内の公立学校へ当校の春の公開授業研究の一般無料公開 新潟市・新潟県内の公立学校へ当校の夏期研修会・冬季研修会の一般無料公開 キーワード:○研修講座連携、○一般公開</p>	<p>ホームページの活用方法の交流 メディアの活用方法の交流 実践ビデオなどの動画活用による実践の発信方法についての交流 キーワード:○メディア活用方法</p>
345	<p>・年に2回、運営指導委員会を開催し、大学の先生から助言をいただく。新領域「いのち」を研究開発するにあたり、「指導計画チーム」「評価推進チーム」「質問紙調査チーム」「渉外チーム」の4つのワーキングチームを立ち上げた。それぞれのチームに大学の先生に入っただき、助言を頂いている。 ・研究協議会において、助言者として、事前指導・事後指導をしてもらっている。また、中間検討においても、指導をいただいている。 キーワード:○「いのち」ワーキングチーム、○運営指導委員会、○研究協議会</p>	<p>・通信設備の拡充・改善によって、迅速で確実・丁寧な打合せができる環境づくり ・教育研究における将来的なビジョンの共有 キーワード:○通信設備、○ビジョンの共有</p>	<p>・授業づくり公開講座(公開授業)を年度初めに若手教員を対象に開催している。 ・初任者を対象に、年に2回授業を公開し、協議会を行っている。 ・地域の研修講座において、講師を務めたり、公立学校で授業を行ったりしている。 キーワード:○授業づくり</p>	<p>・附属がそれぞれどのような研究をしているのか、一覧で分かるウェブページなどがあると、共同研究の相手が見付けやすくなるのではないかと思います。 キーワード:○ウェブ</p>
346	<p>児童・生徒にとって楽しく・分かる授業づくりを目指してそれぞれの校種の立場からの成果、意見を交流させながら研修する。その際、時間的な負担を少なくするため、従来から行っていた各校の研究発表会や教育実習の場を活用する。研究のための研究にならないよう、常に児童・生徒を対象にした実践ありきの姿勢で進める。 キーワード:○研究発表会の場を活用、○教育実習の場を活用、○児童・生徒のための指導</p>	<p>特別な支援を要する児童・生徒への指導のあり方、ICTの効果的な活用等、今日的な課題についての最新事情についての情報交換を適時的に行う。 キーワード:○タイムリーな情報提供、○最新情報の共有、○理論的裏付け</p>	<p>・地域の公立学校からの要請に応じて、その学校の校内研修会に講師として参加している。 ・地域中学校教育研究会の研究推進委員、学力調査問題作成委員等、中心的な立場で協力している。 キーワード:○学力調査、○研究推進</p>	<p>各校園の目指す方向(教育目標、教育方針、育成したい児童・生徒像)等の共通理解。 キーワード:○目標の共通理解</p>
351	<p>各教科に専任の助言者をお願いしている。 遠隔地にあっても、気軽に相談できるよう、本年度からSLACKを活用している。 キーワード:○連携の日常化、○研究の日常化</p>	<p>SLACKの活用を日常化していきたい。 キーワード:○連携の日常化、○研究の日常化</p>	<p>本校の研究の魅力を広く共有できるよう、地域の公立学校に対して、本年度から研究協力者を公募している。地域の公立学校及び教育委員会の求めに応じて、授業研究の指導助言に当たっている。 キーワード:○連携の日常化、○研究の日常化、○研究の魅力の共有</p>	<p>互いの必要感、ニーズの共有 交流の時間確保 キーワード:○ニーズの共有、○時間の確保</p>
352	<p>研究授業の際に事前に指導案を見てもらい指導を受けている。 研究授業の際に授業を観てもらい助言・指導を受けている。 本校での実践を大学での講義等で利用している キーワード:○授業</p>	<p>研究発表会等の機会に講演をお願いできるとよい。 研究発表会等の機会に各教科での情報交換会に参加してもらい地域の教員の相談の場となるとよい。 キーワード:○講演、○情報交換</p>	<p>教育委員会から公立学校の教員を推薦していただき、研究発表会を核にその授業実践への助言や指導をいただく形での連携を進めている。また、普段の実践の公開授業も含めて、年間に40回近い公開を行い、県内外の公立学校の先生方にご参観いただき、授業実践についてご意見をいただき、地域に生きる実践への変革を進めている。 また、今年度より発表会や公開授業の研究協議後に情報交換会を設定し、地域での授業実践に活用するための工夫や資料提供、公立学校の先生方が普段の授業づくりでの悩みなどを話し合える会を設けている。 キーワード:○情報交換会、○地域に生きる実践</p>	<p>情報交換の機会の設定 キーワード:○情報交換</p>

353	<p>学部附属学校連携協議会、学部・附属連携授業委員会、教育実習実施委員会等を通じて大学との意思疎通や共通理解を図っている。</p> <p>連携授業では、本校教員の要望と大学教員の指導内容とのマッチングを図っている。</p> <p>教育実習では実習実施委員会を通し、実習生の担任とも連携を図りながら指導にあたっている。</p> <p>教科によっては大学の実践講座で本校を活用している。</p> <p>キーワード:○学部附属学校連携協議会, ○学部・附属連携授業委員会, ○教育実習実施委員会</p>	<p>大学教員との連携授業の活性化を目指し、日常の連携を大切にしていきたい。</p> <p>全ての教科で連携を深めていきたい。</p> <p>教育学部だけでなく、大学全体の資源も活用していきたい。</p> <p>キーワード:○連携授業, ○日常の連携</p>	<p>市町の教育研究会やサークル活動への参加</p> <p>初任者指導研修や指導改善研修への協力</p> <p>校区や市町、県の校長会への参加</p> <p>中体連への参加</p> <p>キーワード:○行政との連携, ○現場の先生方との連携</p>	<p>日常的な交流を通して相互の意思疎通を図っていくこと</p> <p>キーワード:○日常的な交流</p>
354	<p>教育学部の先生を各教科の共同研究者としてお願いをする。(年度初めに学部と調整、教科1~3人)</p> <p>各教科で教育学部の先生(共同研究者)を含めた教科協議会を年2~3回実施する。</p> <p>「研究評議委員会」を立ち上げ、委員に教育学部の先生を2~3人指名する。</p> <p>キーワード:○共同研究者, ○研究評議委員会</p>	<p>教育学部の先生との共同研究の成果を発信する一つの方法として、2年に一回、論文を協力して作成する。</p> <p>教育学部以外の先生との共同研究を受け入れ、対応・実施する。</p> <p>キーワード:○論文の共著, ○教育学部以外</p>	<p>地域の公立学校の先生を研究協力委員として共同研究を進める。</p> <p>地元の市教委の依頼を受けて、経験5年未満研修の研修員への指導を行う。</p> <p>キーワード:○研究協力委員, ○市の研修への協力</p>	<p>全附連や教大協等の機会を使って、本校の研究内容を積極的に発表、発信していく。</p> <p>キーワード:○全附連, ○教大協</p>
355	<p>・本校の教育研究について、大学の同じ先生方に共同研究者として、継続して関わっていただいている。</p> <p>・大学の先生のもとに積極的に出向き、教育研究に対して、ご指導や助言をいただいている。</p> <p>・大学の先生、大学・大学院の学生の研究に協力している。</p> <p>キーワード:○継続, ○積極的に出向く, ○大学への研究協力</p>		<p>・地域教科研修会への本校教員全員参加。</p> <p>・地域の公立学校との研修交流の実施。</p> <p>・本校の教育研究について、地域教育委員会に指導・助言の継続的な依頼。</p> <p>・本校の教育研究について、地域の公立学校教員を研究協力委員として依頼。</p> <p>・地域の教育研究団体の事務局を担う。</p> <p>キーワード:○地域の研修に参加, ○公立校との研修交流, ○本校の研究への継続的な関わり</p>	<p>・校園長会・副校園長会の際に、顔見知りになったり情報交換したりすることが、附属館の交流の第一歩として、大変有効。</p> <p>キーワード:○関係づくり</p>
356	<p>・校長が大学の職員であるため、橋渡し役となり、連絡を取りやすい形をつくってくださっている。ただし、それは本年度限り。来年度から態勢が変わるため、本年度までのようにはいかなることが予想される。</p> <p>・同大学の他附属中学校の研究発表会等では、大学の先生方と会う機会もあり、そういった時に親交を深めている。</p> <p>キーワード:○特になし, ○特になし, ○特になし</p>	<p>・校長の常勤化に伴い、橋渡し役が不在となるため、何らかの形で連絡を取り合う形をつくっていく必要があるが、具体的には決まっていない。</p> <p>・附属浜松小学校と進めている小中一貫教育の推進に力を貸していただけるような態勢を整えていく。</p> <p>キーワード:○小中一貫, ○特になし, ○特になし</p>	<p>・地域の公立学校とは、教科教育の面で連携をしている。教育研究発表会では、研究協力員として市内外の先生に本校の取組を参考にして行った実践を紹介してもらっている。各教科部では、教科研究のサークルや同好会をつくり、地域の先生方に参加してもらい、共に指導力を高める活動を行っている。</p> <p>・教育委員会との連携について、人事面での協力態勢はもとより、市、県教委主催の研修会等に参加し、共に研修を積んだり、講師として講話を行ったりしている。市主催の教職5年目研修では、本校を会場として授業公開や協議会を実施し、若手教員の育成に貢献している。</p> <p>キーワード:○教科教育研究, ○研修会講師, ○若手教員育成</p>	<p>他校の研究発表会に積極的に参加できる体制づくりと、大学のリポジトリなど、研究成果を発信できる場の設置</p> <p>キーワード:○研究発表会, ○リポジトリ</p>
361	<p>教育実習生の指導を軸に、積極的に学校内へ参観および指導に来ていただけるようお願いしている。</p> <p>中学1年生では、大学の各研究室を訪問し、それぞれの研究の一端にふれ、大学の先生から学ぶ活動を展開している。</p> <p>キーワード:○来校依頼, ○大学訪問</p>	<p>新設されたデータサイエンス学部との連携について、探っていきたい。</p> <p>キーワード:○教育ビッグデータ, ○e-learning, ○学校のICT推進</p>	<p>人事交流をすすめ、附属で学んだことを、地域の学校や教育行政などに還元・環流できるように努めている。</p> <p>キーワード:○人事交流, ○還元・環流</p>	<p>日々多忙な中での研究交流時間の確保(開催会場への移動時間を含む)</p> <p>キーワード:○時間の確保, ○場の調整</p>

362		教科別研究部会への大学教員の招待 キーワード:○情報共有	・寝屋川市教育委員会主催の教員研修の場として、授業公開および研究協議を行っている。 ・本校主催の教育研究会において、府教委、大阪市教委、堺市教委の後援を受けている。 キーワード:○法定研修, ○研究協議, ○授業公開	・特定の学校どうしの交流をとくに設ける必要はないと考える。附属学校教員が、さまざまな附属学校の研究会に出向きそこでの研究会のあり方についての情報をもちかえり、各附属内で共有・応用すればよい。
363	密に連絡を取る キーワード:○連絡	・大学の教員と附属の教員の距離を縮めるため、交流の機会をできるだけたくさん設ける ・大学の教員の研究領域を附属の教員に周知する ・小さなことでも大学教員に相談を持ちかけるように促す。 キーワード:○交流, ○周知, ○相談	地域の公立学校の研修センター的な機能を持てるよう、教育委員会などにも働きかけていきたい。 キーワード:○研修センター, ○研究, ○交流	・お互いの研究の熟知 ・交流に必要な時間の確保(他の仕事の縮小・整理) ・交流に必要な資金の獲得 キーワード:○他校調査, ○交流時間の確保, ○交流資金の確保
364	学生の職能成長を図るための学生の長期インターンシップの実施 大学の授業を附属の教員が分担している 中等教育法に講師として協力 教育実践基礎演習に講師として協力 大学のセンタープロジェクトに参加 キーワード:○長期インターンシップ, ○大学の授業への協力, ○大学センタープロジェクト	教育実習を、教科や学級指導以外の全ての教育領域を体験できたり、実践できたりするようなものにと考えている。 大学は来年度から、学校フィールドワークという名の下、学生が学校全体の活動に関わる仕組み作りを進めている。 キーワード:○学校フィールドワーク	県や市の教科研究大会の開催をしばしば担っている。科学部が進めているロボット技術を地域の講習会などで伝達している。 理科の授業実践について、県の伝達講習会に講師として招聘されている。 キーワード:○教科研究大会, ○講習会への協力	附属校園間で情報共有できるサイバースペースなどを設置して、交流しやすくする。 また、データを共有できるフォルダなどを設定し、教材や指導案、生徒に関する情報などに自由にアクセスできるようにする。 キーワード:○サイバースペース, ○データ共有フォルダ
365	学生のみを対象とした公開授業研修を開催。教育実習のフォローアップ、大学開設授業として位置づける。生徒のコミュニケーション力向上支援の手立てについて共同研究。大学教員、スクールカウンセラー、学校教員の協働。 キーワード:○学生対象の公開授業研修, ○生徒支援	具体的な教育課題改善をテーマとしたプロジェクト型の共同研究 キーワード:○プロジェクト型共同研究	校長を除く全教員(正規)を交流人事で配置。地域の教育委員会の要請を受けて、教員研修を実施。公立学校教員の授業参観を随時受入れ。 キーワード:○交流人事, ○教員研修	同一地区が現実的。教員の共同研究や、生徒の学習成果を交流する場合には、本研究委員会の調査結果を活用するとよいと思われる。 キーワード:○同一地区, ○学習成果の交流, ○共同研究
371	教科指導に関する専門的な見地から指導・助言をいただいている。 実践発表会の研究協議会等の講演を行っていただいている 大学の先生や学生の研究に、授業等で協力している 大学の先生による講義を中学生向けに行っていただいている キーワード:○教科教育, ○理論と実践		教育委員会に指導・助言を依頼している。 公立学校長等に司会を依頼している。 公立学校教員に研究協力員を依頼している。 キーワード:○教育委員会との連携, ○公立学校との連携	交流に必要な人員・人材及び時間の確保 キーワード:○人員・人材の確保, ○時間の確保
372	日程の調整・教科の連携・育成区分の連携・連携内容の明確化・連携担当教員による連携計画 キーワード:○調整, ○明確化, ○担当教員	日常的に教諭レベルで内容重視のフランクな連携ができるように進めていく。 キーワード:○日常的, ○教諭レベル, ○内容重視	・研究会への参加人数(公立学校教員)を増やす。・本校校園の研究の活用状況を調査し、その割合を高める。 ・教育委員会(県・事務所・市)の指導主事から研究会前に指導案の連携をおこなう。当日は指導・助言をいただく。 ・研究運営委員として、教育委員会(県・事務所・市)の教育長や課長に助言をもらっている。研究運営委員会は年3回。 キーワード:○活用状況の把握, ○指導・助言	・お互いの研究内容を知り、共通点と差異を知り、情報交換をする必要がある。 キーワード:○研究内容を知る, ○共通点, ○差異

373	<p>・国内外からの広島大学への訪問者を積極的に附属学校へも案内し、授業参観や意見交換などを行っている。</p> <p>キーワード:○授業参観</p>	<p>・高大連携・接続システムの構築 ・テレビ会議システムを活用</p> <p>キーワード:○高大連携・接続, ○テレビ会議システム</p>	<p>・人事交流 ・長期研修教員の受け入れ ・教育研究大会への招聘 ・研究交流や講師派遣 ・研究報告書研究紀要の送付</p> <p>キーワード:○人事交流, ○教員研修, ○研究交流</p>	<p>・共同研究プロジェクトの運営 ・テレビ会議システム等を積極的に利用した交流 ・研究の時間と予算の確保</p> <p>キーワード:○テレビ会議システム, ○時間, ○予算</p>
374	<p>大学との距離が離れているが、大学を訪問したり、校内研修会に大学の先生に来ていただく機会を設けている。</p> <p>キーワード:○校内研修会</p>		<p>本校教員の約半分は交流人事で市・県の教育委員会から派遣されている。 学区が同じ公立中学校・小学校との連絡協議会を年1回行っている。(PTA活動のひとつ)</p> <p>キーワード:○人事交流</p>	<p>住宅手当や通勤手当など個人の生活を保障すること</p>
375	<p>・附属大学共同プロジェクトの稼働 ・学部人材の積極的な導入～学部から、人材についてリストの提供 ・学部教員と本校教員によるコラボ授業 ・ICTを用いた遠隔授業システムの構築</p> <p>キーワード:○人材交流, ○学部の知見を学校現場に</p>	<p>・より緊密な学部との連携の強化と人材交流 ・教職大学院との結びつきの強化 ・大学と一般の公立校との関係性を強める媒介としての附属校の役割強化</p> <p>キーワード:○教職大学院, ○人材交流, ○中-大連携</p>	<p>・授業アドバイザー事業 ・講師、指導助言者依頼 ・教科ごとの公開授業研究会の実施 ・研究発表大会の開催</p> <p>キーワード:○研究発表大会, ○小中一貫教育, ○授業アドバイザー</p>	<p>研究や校務分掌など、様々な分野での交流を活発化する。現在は校長、副校長レベルでの交流は盛んに行われているが、それがなかなか実践レベルに下りていかない。研究担当者の全国規模の会議などの実施も必要。</p> <p>キーワード:○研究, ○全国規模の会議</p>
376	<p>附属学校運営委員会を毎月開催している。学部長、副学部長、事務長、副事務長、各附属学校校長、副校長が情報共有、提案、課題解決について協議を行う。副学部長3名のうち、2名が光地区、山口地区それぞれの附属学校担当になっている。山口地区においては、毎月開催する山口地区附属学校園運営会議(校長・副校長・教頭・主幹教諭)に山口地区附属学校担当副学部長が参加している。</p> <p>キーワード:○組織づくり, ○ガバナンス</p>	<p>大学教員が日常的に附属学校の教科研究に参画する仕組みづくり。 教育学部(大学)に附属学校係(市町の教育委員会の役割を果たす部署)を置くことができないか。</p> <p>キーワード:○大学のガバナンス, ○大学の組織づくり</p>	<p>教員(校長、教頭を含む)はすべて県との交流人事による。 公立学校の校長会、教頭会の会員になっており、毎月の市の校長会、教頭会で市教委との情報共有、市内の中学校校長との情報共有ができています。 全教員が県、市の教育研究会の会員になっており、市の教育研究会研修会に参加している。</p> <p>キーワード:○ウインウイン</p>	<p>副校長だけに限らず、校長、教頭、あるいは設置者である大学の担当課(係)も含めた中国地区の協議会があるとよい。 研究だけに限らず、その他附属学校園が抱えている課題について共有すること。</p> <p>キーワード:○大学間連携</p>
377	<p>公開研究協議会(研究発表大会)を免許状更新講習と兼ねて実施している。 研究発表大会の指導助言だけでなく、年間を通して、研究に係る連携を行っている。</p> <p>キーワード:○研究発表大会, ○免許状更新講習</p>	<p>教育実習について企画・検討する組織を活用して、その内容が教育実習のカリキュラムや講義内容改善に反映させる。</p> <p>キーワード:○教育実習のカリキュラム</p>	<p>公開研究会を6月に開催、免許更新講習も兼ねており、リカレント教育の場を提供している。 鳥大附属4校園で取り組んでいる教育研究の「今」を伝えるパンフレットを年2回発行し県内幼中高教員全員に配布している。 地域運営協議会を年2回開催し、県教委・市教委と附属学校の運営と地域との連携について協議している。</p> <p>キーワード:○リカレント教育, ○研究の「今」を伝えるパンフレット, ○地域運営協議会</p>	<p>地域の教育課題や社会的ニーズを踏まえた情報交換・交流を進める。</p> <p>キーワード:○地域の教育課題, ○社会的ニーズ</p>
381	<p>4月当初に、教育学部と附属学校園の全教員が一堂に会し、大学附属合同研修会を行っている。 附属教員による授業研究はもとより、普段の授業も学部教員が自由に参観できるようにしている。 教科別に、大学教員と附属教員が定期的に研修会やミーティングを行い、情報交換を行っている。 年3・4回、学部教員と4校園の研究部長で構成される教育コーディネーター会議を開催し、校園間の研究連携を図ったり、学部教員との共同研究を推進したりしている。</p> <p>キーワード:○大学附属合同研修会, ○自由な授業参観, ○定期的な教科別研修会</p>	<p>働き方改革を進めていく中で、教育研究や教育実習等における教職員の負担軽減を図りながら、質を維持するための工夫をする。 連絡入学等で配慮を要する生徒のニーズが多様化する中、特別支援教育を推進するため支援体制の充実を図る。</p> <p>キーワード:○教育研究の在り方, ○教育実習の在り方, ○特別支援教育の充実</p>	<p>年1回の県教育委員会と教育学部・附属学校園の関係者で構成する地域連携会議を開催している。また、その会議で県教委からあった要望に基づき、附属小中間で小中連携プログラムを行っている。 希望する公立学校に研修講師として訪問し、本校の研究内容について周知している。 各教科の研修会の講師として、公立学校教員に指導法について指導を行っている。 研究大会の助言者として県教委の指導主事に、各教科の研究に対する指導・助言をいただいている。</p> <p>キーワード:○地域連携会議, ○研修講師, ○指導主事による指導・助言</p>	<p>各附属学校園の研究内容を把握しマッチングしてくれるコーディネーターが必要と考える。</p> <p>キーワード:○コーディネーター</p>

382	<p>附属学校園の在り方懇談会などの折に合わせて協議会を適宜開いている</p> <p>キーワード:○協議会, ○参加者の負担軽減</p>	<p>香川大学の専門性を有する人々が、本校の実践を質的(エスノグラフィック、臨床社会学的)に調査し、協働で本校の研究の実態を評価し、実践と研究が同時に成立し、win-win の関係になるような連携を期待する。</p> <p>キーワード:○実践と研究, ○質的研究</p>	<p>本校では多くの先生方が公立中学校から本校に赴任し、実践と研究を積んだ後、地域の公立中学校や市や県の教育委員会に配属される。本校で培ったノウハウが公立中学校現場で広がったり、教育委員会の活動の中で活用されることが多い。</p> <p>直接的な連携としては、公立中学校の先生に研究協力者になってもらい、研究発表会の授業と一緒に作るという取組を行っている。研究発表会の授業は教育委員会の指導主事を招き、指導していただくという体制もついている。</p> <p>キーワード:○教員養成, ○研究協力者, ○指導・助言</p>	<p>香川大学内や、四国の他附属との交流は頻繁に行えるが、他地域との交流機会は多くはない。</p> <p>在り方懇談会等の機軸を使って交流機会を増やす必要がある。</p> <p>キーワード:○在り方懇談会</p>
383	<p>・大学教員をスーパーバイザーとして附属学校教員と緊密な連携をとっている。</p> <p>・学部・附属連携事業コーディネーターを位置づけ、両者の連絡窓口となってサポートできる体制をとっている。</p> <p>・定期的に連絡協議会を開催して理解や協力をもらっている。</p> <p>・校長(大学教授)が連携に向けた強いパイプ役になっている。</p> <p>キーワード:○スーパーバイザー, ○コーディネーター, ○連絡協議会</p>	<p>・学長との懇談会の実施(学部長や副学部長との連携は取れている)</p> <p>キーワード:○学長, ○懇談会</p>	<p>・法定研修(中堅教諭等資質向上研修)での授業づくり指導(県教育委員会との連携)</p> <p>・中高の接続に関する研究(県教育委員会の依頼による丸亀高校との共同研究)</p> <p>・高校の教員養成カリキュラム開発に協力(坂出高校教育創造コースとの連携)</p> <p>・県内教科部会の事務局、若年研修での授業公開、指導(香川県中学校教育研究会との連携)</p> <p>・近隣中学校の全教員に対するアンケート調査の実施</p> <p>・各市町教育長や教育事務所長との懇談会の実施</p> <p>キーワード:○法定研修での指導, ○県教育委員会との共同研究, ○教科部会の事務局</p>	<p>・県内の附属学校間は、定期的な懇談会などの開催による協働と改革に向けた推進</p> <p>・県外については、同様の取組をしている附属学校の把握と積極的なアプローチ</p> <p>キーワード:○県内は懇談会等の開催, ○県外は電話連絡や訪問</p>
384	<p>2年生の総合的な学習の時間を使って、「課題探求学習」と称して、10の講座を開き、子どもたちが興味、関心のある講座で</p> <p>大学教員の授業を年間5時間程度、受けている。</p> <p>キーワード:○課題探求, ○興味, 関心</p>	<p>大学の先生方の研究内容について、本校の各教員が意見交換できる機会をつくりたい。</p> <p>キーワード:○研究内容</p>	<p>人権教育、生徒指導部会、校長会、教頭会に所属している。県教委との教育課程研修等の教員研修で連携している。</p> <p>キーワード:○校長会, ○教頭会, ○教員研修</p>	<p>時間的な余裕が必要。そのために教員増が必要。働き方改革に沿ってできる内容の精選も求められる。</p> <p>キーワード:○教員増, ○働き方改革</p>
391	<p>年10回、幼稚園、小学校、中学校、大学による共同研究の部会(各教科、道徳科、ICT 活用推進)が行われている。</p> <p>キーワード:○共通のテーマ「かかわる力」, ○共同研究, ○幼・小・中・大連携</p>	<p>総合的な学習の時間やキャリア教育について、大学と連携し小中学校で一貫した教育の在り方を検討したい。</p> <p>キーワード:○総合的な学習の時間, ○キャリア教育, ○小中一貫</p>	<p>県教育委員会による公開授業・研究内容についての指導助言</p> <p>公立学校職員に対する研究協力の依頼(研究協力者)</p> <p>県教育委員会と連携した各教科等の研修会の実施</p> <p>各研修会における本校職員に対する講師依頼</p> <p>キーワード:○指導助言, ○研究協力者, ○研修会の講師依頼</p>	<p>九附連等での情報交換の充実、全国の附属学校園間の情報交換の場の設定</p> <p>キーワード:○九附連, ○全国, ○情報交換</p>
392	<p>無理なく続けられる体制づくり</p> <p>キーワード:○教科の特性に合わせる, ○win-win, ○無理なく</p>		<p>各学校の校内研修の協力</p> <p>教育センターの講座の一部を附属学校で開催</p> <p>県内の教育委員会との合同研究</p> <p>キーワード:○無料, ○手軽, ○人材育成</p>	<p>時間</p> <p>キーワード:○時間</p>
393	<p>年間 2 本行う研究授業(公開研究会、実証授業)において事前の段階から指導を頂き、授業をつくっていくようにしている。</p> <p>キーワード:○研究授業, ○授業研究</p>	<p>普段の授業から大学との連携を図る。</p> <p>キーワード:○PDCAサイクル</p>	<p>公立学校については、代用附属学校園との連携を各教科部で行う。</p> <p>教育委員会には、年間 2 本行う研究授業にて指導を頂く。</p> <p>キーワード:○教科部会, ○指導助言</p>	<p>研究テーマの共有や情報交換</p> <p>キーワード:○情報交換会, ○他校種参観, ○他校種での授業</p>

394	2か月に一回、各教科で大学教員と三附属中学校の教員で研修会を行い、構築した論をもとにした実践研究を行っている。 そして、3年に一回、「大学・三附属中学校共同研究発表会」(現在18回)を行い、成果と課題を発信している。 キーワード:○連携, ○発信, ○継続		・各中学校 校内研修会 講師 ・各市町村教育委員会 研修会 講師 ・各市郡中学校教育研究会からの本校授業参観・協議 キーワード:○使命, ○モデル, ○人材育成	
431	高等学校の授業終了後に大学の授業を受講できるように、時程を大学に合わせている 大学が高大連携実施委員会を組織して定期的に会合を持ち、情報共有を行いながらプログラムを改善している。		現時点での具体的な連携はない	交流に必要な時間と予算
432	教育研究大会での講演や、各教科の分科会で助言者として参加していただき、高校での授業研究の内容を共有していただいている。 教科の中には、教育研究大会以外に、教科で小中高合同研究会を設け、大学の先生に助言者になっていただいていることもある。 高校 2 年生の進路指導の一つとして、筑波大学や他大学の研究室訪問をしたり、講演をしていただいている。 テーマにもよるが、2 年次の「総合的な探究の時間」に取り組む際に、大学の先生や研究室に協力していただいている。 教育実習では、卒業生以外に筑波大学の学生を毎年 40 名程度受け入れており、その事前指導・事後指導・実践演習などを行っている。 キーワード:○教育研究, ○教育実習, ○四校研	2-4の内容はこのまま継続し、大学の先生も含めた教員同士による教育研究の機会や、生徒のより深い興味・研究に繋がるような機会を増やしていきたい。 それぞれの企画・運営に向けて綿密な打合せ キーワード:○教育研究, ○教育実習, ○四校研	筑波大学には、附属学校 11 校について統括及び調整をする「筑波大学附属学校教育局」という機関があり、学校教育に関する実地的なグループ研究・教育相談の実施・研究成果を広く社会に公開・教育実習の調整及び支援・附属学校教員のための研修の企画・実施などを行っている。 キーワード:○学校教育, ○研究成果, ○研修	4-3 だけでなく、大きな教育研究大会でなくても学校を見学できるような機会をもち、意見を交換できるとよい。
433	個人的なつながりから少しずつ本校に対する理解を広げている	先取り履修などはハードルが高いため、できることから、協力してくれる先生とのつながりをつけながら徐々に広げていくことを考えている。	現在特になし	お互いの生徒にとって学ぶ場となることが必要 キーワード:○相互理解, ○協働性
434	コンテンツの作成 キーワード:○コンテンツ	予算配分 キーワード:○プロジェクト予算獲得	SSH 事業や教員研修 キーワード:○SSH 事業, ○教員研修	定期的な研究会の開催 キーワード:○研究会開催, ○情報交換
435	大学教員と高校教員との意見交換		現在、連携はしていないが今後検討する	
441	大学法人を管理機関とし、学長を長とする北陸アドバンスラーニング・ネットワークの構築 テレビ電話システムの構築による情報共有の円滑化 キーワード:○大学法人との連携		公立学校とのアドバンス・ラーニング・ネットワークの構築 キーワード:○アドバンス・ラーニング・ネットワーク	校長専任化が進む中で、校園長会議と副校園長会議の在り方の再検討が必要だ。 キーワード:○校園長会議, ○副校園長会議
451	高校側の教員が研究などで大学教員に協力を依頼したい場合は、積極的に働きかけるよう促している。また逆に、大学側から教員や学生の研究のため協力を依頼される場合もある。 キーワード:○大学の積極的利用	高校と大学の教員がお互いにやってみたい研究を調査し、マッチングを行って橋渡しをする工夫が必要。 キーワード:○マッチング	県の主催する地域環境に関するプログラムに参加し、環境に関する調査研究、成果発表などを行っている。 キーワード:○地域環境	教員間の人的交流。 キーワード:○人的交流

461	<p>附属学校運営委員会、校園長会、および副校園長会を通じて、大学との連携を密にする。 キーワード:○附属学校運営委員会、○校園長会、○副校園長会</p>	<p>附属学校園の取組の全大学教員への周知 キーワード:○全大学教員</p>	<p>SSHの取組の1つであるSSN(スーパーサイエンスネットワーク)活動 キーワード:○SSN、○科学技術人材育成、○地域還元</p>	<p>開発したものの共同実施と成果の還元 キーワード:○共同実施</p>
462	<p>池田地区小中高の共同研究会に、協働研究者、指導助言者として関わってもらっている。 キーワード:○共同研究会、○協働研究</p>	<p>協働研究者としての関わりをより実質化したい。そのためには、研究テーマや研究目標の共有が必要である。附属学校への関心を、より高めることから始めることが必要と感じている。 キーワード:○協働研究</p>		<p>共通する教育課題(研究課題)についての、合同の教員研修の実施 キーワード:○教員研修</p>
463	<p>課題研究の指導に関与してもらう。研究会の分科会の指導講師を依頼する。集中授業の講師を依頼する。 キーワード:○課題研究指導、○指導講師、○集中授業</p>	<p>各教科の研究テーマに対して大学の担当者を決め指導してもらう。授業の講師として生徒を指導してもらい機会を増やす。 キーワード:○研究指導担当者、○授業の講師</p>	<p>授業見学の受け入れ SSN(サイエンス・スクール・ネットワーク)に参加する。サイエンス・デー(SSH校を中心とした生徒研究発表会)に参加する。 キーワード:○授業見学、○SSN、○生徒研究発表会</p>	<p>教員が実際に顔を合わす機会を増やす。研究交流や協議の場を増やす。校園間の共同で実施する取り組みを設定する。 キーワード:○研究交流会、○共催行事</p>
471	<p>・国内外からの広島大学への訪問者を積極的に附属学校へも案内し、授業参観や意見交換などを行っている。 キーワード:○授業参観</p>	<p>・高大連携・接続システムの構築 ・テレビ会議室システムの活用 キーワード:○高大連携・接続、○テレビ会議システム</p>	<p>・人事交流 ・長期研修教員の受け入れ ・教育研究大会への招聘 ・地域とのSSH指定校との連携(課題研究発表会での生徒相互交流) ・研究報告書研究紀要の送付 キーワード:○人事交流、○教員研修、○研究交流</p>	<p>・共同研究プロジェクトの運営 ・テレビ会議システム等を積極的に利用した交流 ・研究の時間と予算の確保 キーワード:○テレビ会議システム、○時間、○予算</p>
481	<p>しっかりとした連携組織の構築 キーワード:○高大連携教育プログラムの開発、○高大連携組織の拡大、○附属以外の学校への普及</p>	<p>できるだけ多くの教員が関わることのできるシステムの構築 キーワード:○一般化、○多様性、○発信</p>	<p>人事交流 キーワード:○計画性、○Win-Win、○研修機関としての役割</p>	<p>教員個々の繋がりの拡大 キーワード:○繋がり、○協働、○Win-Win</p>
531	<p>大学本体とは距離があるため、近くの附属学校教育局のプロジェクト研究に参加している。スーパーサイエンスハイスクール事業の運営指導委員に大学関係者になっていただいている。大学と附属の連携委員会を設置し、定期的に会合もっている。中学3年生と高校2年生が大学訪問を行い、大学の研究室の先生方のお世話になっている。 キーワード:○附属学校教育局、○連携委員会、○大学訪問</p>	<p>さまざまな分野での共同研究の提案と実施。高校2年生～3年生で実施する「理科課題研究」「課題研究」の指導における連携を強化する。 キーワード:○共同研究、○理科課題研究、○課題研究</p>	<p>教育委員会の後援・共催による地域住民向け公開講演会、公開講座を年3回実施している。地域の小学校児童向け理科実験教室を生徒主体で実施している。 キーワード:○公開講演会、○公開講座、○理科実験教室</p>	<p>研究のプラットフォームをどのように確立するか。研究資金をどのように確保するか。 キーワード:○プラットフォーム、○研究資金</p>

532	<p>大学に研究推進委員会が設定されており、各附属の教育研究に対する助言をもらっている。</p> <p>上記研究推進委員会では、公募制のプロジェクト研究を募集しており、大学との連携研究に対する助成がされている。</p> <p>SSH/SGH 合同推進委員会を設置し、定期的に大学および他附属との情報交換を行っている。</p> <p>SSH および SGH においては、各研究開発に関して専門性の高い大学教員から指導助言をもらっている。</p> <p>キーワード:○推進委員会の設置, ○研究助成</p>	<p>教職大学院との連携の運営管理者(コーディネーター)が必要</p> <p>キーワード:○教職大学院</p>	<p>練馬区中学校研究会 初任研、中堅研</p> <p>キーワード:○区中研, ○初任研, ○中堅研</p>	<p>時間の確保 オンライン会議等の環境整備 大学の附属学校課による附属学校園調整(定例会議の設定など)</p> <p>キーワード:○時間, ○設備環境</p>
551	<p>大学での会議に参加している</p> <p>大学の留学生と積極的に交流をしている</p> <p>キーワード:○国際性, ○接続教育</p>	<p>大学執行部との積極的な交流</p> <p>キーワード:○大学執行部</p>	<p>教育学部が交流協定を結んでいる</p> <p>教員交流を積極的に行っている</p> <p>キーワード:○交流協定</p>	<p>教員相互の交流 附属学校間での人事交流</p> <p>キーワード:○相互理解, ○人事交流</p>
561		<p>新たなセンターを設立することができないか、検討している。</p> <p>キーワード:○センター, ○共同研究, ○連携</p>	<p>人事交流 公開授業研究会 講師派遣</p>	
562	<p>連携担当の教員の負担軽減</p> <p>キーワード:○負担軽減</p>	<p>連携担当教員を大学籍とする</p> <p>キーワード:○大学籍</p>	<p>奈良市内の小学校と連携して、プログラミング教育の研修会等を実施している。</p> <p>キーワード:○プログラミング</p>	<p>共通のテーマ設定を設ける。 副校園長会や連絡進学委員会による交流を実施。</p> <p>キーワード:○研究テーマ, ○副校園長会, ○連絡進学委員会</p>
611	<p>授業づくりからかかわっていただく。</p> <p>キーワード:○コミュニケーション, ○アセスメント, ○情報発信</p>	<p>大学が附属学校の研究に共同的にかかわるため、学校研究と学生の研究の共同を探ること</p> <p>大学と一緒に取り組める地域貢献</p> <p>キーワード:○学生, ○実習, ○地域貢献</p>	<p>本校職員も地域の研究団体へ入会し、授業や研究協議に参加するようにしている。</p> <p>キーワード:○授業参観, ○研究協議, ○講師派遣</p>	<p>現在の教育課題の共有 附属の役割について共有した研究テーマの設定 各学校の役割の違いについて共有(地域の独自性をお互いに認め合う)</p> <p>キーワード:○教育課題, ○附属の役割, ○独自性の発揮</p>
621	<p>研究部を窓口として、特別支援教育科教員と日常的な連絡が取れるようにしている。</p> <p>本校で行われる校内研究会、授業研究会の際には案内し、可能な範囲で参加していただくようにしている。</p> <p>本校主催の研修会での講師を依頼している。</p> <p>キーワード:○連絡体制</p>	<p>学部で行われる研究報告会へ参加し、大学の研究活動への理解を深める。</p> <p>キーワード:○研究活動の理解</p>	<p>地域の市町の就学支援委員会委員・調査員に任命されている。</p> <p>地域の市の特別支援教育チーム委員会メンバーとして、市内小中学校への巡回相談を行っている。</p> <p>県の事業で実施している地域の特別支援教育コーディネーター連絡協議会の事務局を担当している。</p> <p>地域の小中学校からの相談依頼に対応している。</p> <p>小中学部児童生徒(希望者)が居住地校での「交流籍を活用した交流及び共同学習」を行っている。</p> <p>キーワード:○就学支援委員会, ○相談支援, ○交流及び共同学習</p>	<p>各校園で行われている研究活動や特色ある取組等がデータベース化されると良い。</p> <p>キーワード:○データベース</p>

622	<p>大学の校地内にある特別支援学校であるという地の利を生かしながら、まだまだ不十分ではあるが、共同研究を含め、活発な意見交換の場を設けるとともに、気軽に相談や助言をいただける以下のようなラポート作りが不可欠である。大学の校地内にある特別支援学校であるという地の利を生かしながら、まだまだ不十分ではあるが、共同研究を含め、活発な意見交換の場を設けるとともに、気軽に相談や助言をいただける以下のようなラポート作りが不可欠である。しかしながら、大学の先生方もお忙しく、なかなか話し合いの場の調整・設定が困難である。</p> <p>キーワード:○コンサルテーション、○共感、○協働</p>	<p>教育実習、四校園連携会、ICT活用への取組、大学出前講座など継続して連携を図り、教員と大学が新たな連携の在り方を模索してきた。今後は、その成果の発信について課題等洗い出し、検討し、更なる大学との連携強化を図っていききたい。</p> <p>キーワード:○風通し、○進取、○理解啓発</p>	<p>公開研究会や主管する特別支援研究集会の案内や宮城県・仙台市の特別支援教育課や教育センターに指導助言をいただくことにより、附属学校としての使命を果たしている。</p> <p>発達障害の指導及び通級指導教室の在り方等と年1回、特別支援教育に関わる教職員を対象に研究会を開催している。</p> <p>キーワード:○理解・啓発、○普及・推進、○授業作り</p>	<p>各校種の特性を理解しながら、お互いの学校に教員を派遣し、研修の場を確保する「仕掛け」が必要である。そのための、宮教大の附属四校園会で校種間交流を実施しようとしている。</p> <p>キーワード:○校種間の壁を取り除く仕掛け、○共生社会の実現</p>
623	<p>2-3に関し、定期的に大学と附属校園の協議会を行っている。</p> <p>年数回、教科等毎に協同研究を行っている。</p> <p>キーワード:○定期的</p>	<p>連携の評価</p> <p>キーワード:○効率・効果、○働き方改革</p>	<p>本校で行っているスポーツ事業への参加案内 地域の幼保園、小・中高等学校に対する教育相談 地域の教育相談協議会への参加 教育委員会との研究協議会の開催 大学と地域の教育委員会との連携推進協議会における3テーマについての事業の推進</p> <p>キーワード:○教育相談、○行事、○合同事業</p>	<p>目的の共有 成果の評価</p> <p>キーワード:○目的の共有、○成果の評価</p>
624	<p>拡大研究部会の開催や日々の連絡調整程度で、特段の工夫は行っていない。</p>	<p>金銭的な面でのバックアップ 障がいのある児童生徒に関する医学的、教育的見地による先行研究の定期的な情報共有 研究実践の発信</p> <p>キーワード:○発信、○情報共有、○バックアップ</p>	<p>授業研究会における助言者派遣 授業づくりにおける協力者派遣 教育相談に関する電話等での対応、助言、派遣</p> <p>キーワード:○児童生徒支援、○教員支援、○保護者支援</p>	<p>情報交換 金銭的補助</p> <p>キーワード:○情報、○参加、○参画</p>
625	<p>附属四校園(幼・小・中・特)合同のプロジェクトを平成26年度に立ち上げ、附属四校園で求める人間像「自己デザイン」できる</p> <p>人間」を共有し、継続してプロジェクトに取り組んでいる。次年度からは、新たなプロジェクトを模索している。</p> <p>キーワード:○附属四校園、○求める人間像、○自己デザイン</p>	<p>大学の組織改編により、学校連携部門を立ち上げ、附属学校園との窓口を一本化して対応している。</p> <p>キーワード:○学校連携部門</p>	<p>福島県特別支援教育研究会や福島地区特別支援教育研究会を通して、研究会や各種行事等の実施 県教育委員会主催の初任者研修会、特別支援学校研修に伴う授業提供や研究協議、講義協力 市教育委員会の就学相談へ教員の派遣 市教育委員会の特別支援教育に関する巡回相談への教員の派遣 特別支援教育に関するセミナーや座談会の開催</p> <p>キーワード:○特別支援学級、○初任者研修、○就学相談</p>	<p>児童生徒の相互のメリットの共有と教員同士の事前打ち合わせ</p> <p>キーワード:○児童生徒のねらい、○事前打ち合わせ、○継続</p>
631	<p>・授業参観の機会を設け、意見交換を通して、授業改善を図ることができるようにする。</p> <p>・学習指導要領の改訂など、特別支援教育の動向に関する研修会を設定する。</p> <p>キーワード:○授業参観、○意見交換、○研修会</p>	<p>・日々の実践における教員のニーズを把握し、大学教員に伝え、連携を図っていききたい。</p> <p>・研究だけでなく、教員一人一人の専門性の向上を意識した連携を図っていききたい。</p> <p>キーワード:○専門性、○ニーズ</p>		<p>・日頃からのつながり(情報交換、連絡、相談)</p> <p>キーワード:○つながり</p>
632	<p>研究主題の設定から最後のまとめに至るまでを一つのプロジェクトとして、四附属学校園と大学が共同で取り組んでいる。</p> <p>連携の中核を担う者として、附属学校園と大学の各教科分野からそれぞれ主任を選出し、定期的に会合している。</p> <p>キーワード:○合同プロジェクト、○四附連携一貫、○大学主任・学校主任</p>	<p>特別支援教育分野はもとより、各教科分野の大学教員と連携し、教科教育の視点から特別支援学校の教育活動を捉えたい。</p> <p>キーワード:○新たな視点、○教科教育</p>	<p>教職員サマーセミナーや公開研究会を開催し、地域の公立学校の教員に対する研修の場を提供している。</p> <p>教育委員会から公開研究会に対して後援の承認を得ている。</p> <p>キーワード:○研修機能</p>	<p>研究推進力のある教員の配置、情報交換のための資金、働き方改革を阻害せずむしろ促進するような画期性・計画性。</p> <p>キーワード:○人材、○資金、○計画性</p>

633	研究助言者との綿密な連絡調整 キーワード:○連絡調整	授業研究に対する共同研究者の拡充 キーワード:○授業研究, ○共同研究	夏季における職員研修の連携 キーワード:○職員研修	働き方改革:時間的余裕ができることで、交流する機会が増えるのではないかと キーワード:○働き方改革, ○時間的余裕
634	今年度からこれまでの教育課程を刷新し、純粋に各教科・領域、各教科等を合わせた指導で組織し直した。今年度は特に、各教科を対象として研究を進めている。そのため、障害児教育が専門の先生方だけでなく、通常の教科教育の先生方とも積極的に連携を図っている。 キーワード:○教科教育, ○専門性, ○学び	学生オーケストラによる音楽鑑賞会、大学キャンパスを利用したジョギング大会など、学校行事等に採り、大学の施設をフルに活用したい。 キーワード:○学校行事, ○大学施設, ○コミュニケーション	・公立小中学校との居住地校交流や農園芸作業を通じた近隣の高等学校との交流及び共同学習を推進している。 ・教育委員会が主催する研修会の講師派遣、総合教育センターが行う研修講座講師派遣また本校の公開研を初任者研修や経験者研修の場として提供したりしている。 キーワード:○交流及び共同学習, ○講師派遣, ○初任者・経験者研修	・お互いの強みやよい点を参考にし合うことはとても大事なことで感じる。 ・共同研究となると、何かを1から始めるにしても、それぞれの学校文化やしきたり等があり、擦り合わせが難しい。 キーワード:○共通課題, ○教育課程, ○仲間意識
635	連絡をとり、こちらに来ていただいたり、出向いたりしている。 キーワード:○連絡, ○顔を合わす。	テレビ会議システムの検討 キーワード:○ICT, ○移動時間のない	研究協議会や公開講演会の実施し、本校の研究成果や授業づくりのコツなどを紹介し、明日の実践につなげてもらっている。 キーワード:○研究協議会, ○授業づくり, ○地域貢献	お互いの学校を知ること キーワード:○お互いを知る
636	附属学校園と大学学部との連携を推進する組織を設置し、実践を進めている 日常的は教員の交流 キーワード:○附属校園, ○日常的	連携・協働に関する組織を活用し情報、アイデアを交流しながら実践を進める 日常的な教員の交流拡大 キーワード:○アイデア, ○日常的	市町の教育協議会に参加し、協同研究を行っている。県教育委員会に研究の指導助言を依頼している。学校研究の公開研究会では後援をしてもらっている。大学学部と県教育委員会が連携協力に関する覚書を締結し、具体的な連携や共同について検討している。本学と県立大学で連携協力に関する協定を結び、具体的な連携や協同について検討している。 キーワード:○協同研究	共通するテーマ キーワード:○テーマ
637	小・中・高等部共に、共同研究者として研究に関わってもらう。 キーワード:○共同研究者	学部・附属学校兼任教員制度の活用 キーワード:○兼任教員制度	人事交流、研究交流、紀要の送付、公立学校で行う校内研修会への講師派遣、児童生徒の交流 キーワード:○交流, ○紀要	教員間の相互理解 キーワード:○相互理解
638	毎月1度以上、研究会や連絡会を持ち、連携を深め、継続して取り組んでいる。 キーワード:○目的の共有, ○連携, ○継続	工学系とは連携できつつあるので、障害系との連携委員会を定期的に行うこと キーワード:○連携委員会の活性化	・地域の乳幼児からの子育て支援・就学相談。公立学校(幼稚園、保育園、特別支援学級)への授業改善の支援 キーワード:○子育て支援, ○就学相談, ○特別支援	・情報の発信であり、共有すること ・今日的な研究課題や本質的な教育課題などに関する意識を高く持つこと キーワード:○情報の発信, ○今日的な課題, ○本質的な教育課題
639	1.年2回の連携会議 2.研究協議会への全面的な協力 3.幼稚部から高等部の各学部の研究への助言 キーワード:○連携会議, ○全面的な協力	教育実習や事前指導などの学生育成への協力 キーワード:○教育実習, ○学生支援	特別支援教育のセンター的機能に関して、地域連携を行っている。 キーワード:○センター的機能, ○地域連携	管理職同士の交流 キーワード:○管理職
641	日頃より、教師間で附属学校の使命を確認し、大学の要望にできる限り応えるようにしている。 キーワード:○附属学校の使命, ○児童生徒の教育の質向上, ○教員自身の研修	本校の教育実践に対する協力を積極的に依頼する。 キーワード:○自立活動, ○授業づくり, ○win-win	県高等学校長協会、県特別支援学校長会に所属し、県の教育行政情報を共有 県立特別支援学校の合同行事、交流学習など キーワード:○県特別支援学校長会, ○交流人事	大学教員との共同研究に注力したい。
642	授業研究や、地域の教員向けの研修会の講師を大学の先生にお願いし、専門性を活かした研修をしていた。 キーワード:○大学の専門性を活かした研修	特別支援教育にかかわる専門性を中心に、他分野での連携(ICT, 防災教育等)も模索したい。 キーワード:○多分野で連携	人事交流、研修の受け入れ、研究成果の発信、講師の派遣 キーワード:○人事交流, ○研究成果の発信	隣接する小中学校とは、交流および共同学習を実施しているが、日程調整や双方の児童生徒理解が必要である。

643	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティアの活用 ・授業等におけるゲストティーチャーなど、大学教員の活用 ・メールを活用した情報交換 ・生徒が作った製品を、実際に大学に出向き学生に販売活動を行う取組 <p>キーワード:○ボランティア, ○メール, ○ゲストティーチャー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の充実 ・大学施設の活用 <p>キーワード:○共同研究, ○施設の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修としての協力 ・研修会の講師派遣 ・ポスター発表の依頼 ・通級指導教室の設置 ・教育相談の実施 <p>キーワード:○研修協力, ○通級指導教室, ○相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材、教育設備等の情報共有 ・テレビ会議システムなどの設備の充実 ・特別な教育的ニーズのある児童生徒にかかわる相談と助言 <p>キーワード:○共有, ○設備, ○相談・助言</p>
644	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究プロジェクトのグループに多くの教員が所属し、興味のある分野について共に研究を進めている。 ・大学教員や学生が授業を参観したり、携わったりし、学校教員と共に成果と課題を分析する。 <p>キーワード:○共同研究プロジェクト, ○授業, ○学生・院生の参画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの大学の先生の専門分野について具体的に知り、本校の授業での助言や、研修会の講師として招へいしたい。 <p>キーワード:○情報収集, ○交流の場, ○時期・時間の調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校知的障害教育校研究協議会や特別支援教育研究協議会に県立学校と共に所属し、県内における特別支援教育に関する課題やニーズを共有し、研修会等の運営に当たっている。本校の研究の取組についても発信し、公開研修会への参加を呼びかけ共に学ぶ機会としている。 ・教育委員会が主催する年次研修等を受け入れ、本校を会場にして、情報提供している。 <p>キーワード:○地域の課題やニーズ, ○研究内容の発信の方法, ○授業による情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校の研究内容について十分に理解する機会(研究発表を聞く場など、交流の場) <p>キーワード:○研究概要の理解の場, ○時間, ○担当者</p>
645			<ul style="list-style-type: none"> 自立支援協議会委員として連携 就学支援員会委員として連携 教科書調査委員として連携 新任特別支援学級担任研修会講師として連携 研究のための助言者・協力者として連携 <p>キーワード:○就学, ○特別支援, ○研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織作り ・情報収集 ・時間の構造化 <p>キーワード:○連携, ○情報, ○時間</p>
651		<ul style="list-style-type: none"> 障害種に合ったニーズを研究していくことで、大学と連携していきたい。 <p>キーワード:○ニーズ, ○カリキュラムマネジメント, ○自立活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共生教育 居住地交流 教育相談 特別支援教育に関する教員研修 特別支援教育推進に関わる公開セミナーの実施 <p>キーワード:○共生教育, ○特別支援教育推進, ○教員研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教員のゆとり 研修時間の確保 業務削減、人的配置 <p>キーワード:○研修時間の確保, ○人的配置, ○ゆとり</p>
652	<ul style="list-style-type: none"> 学部附属連携会議での情報共有 教育実習・介護体験等学生支援実施に関する連携会議 特別支援教育講座を行うことでの連携 <p>キーワード:○学部附属連携会議, ○教育実習, ○大学講義</p>		<ul style="list-style-type: none"> 高等部では、農業高校との交流を行い、農業に関する体験とともに同世代の生徒との交流を行っている。 県教委、各市町の教育委員会を訪問し、人事交流に関する情報交換を行っている。 市町の研修の依頼に対して本校スタッフを講師として派遣している。 <p>キーワード:○交流学習, ○人事交流, ○研修講師</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な行事での交流 定期的な授業研究の協働 <p>キーワード:○交流学習, ○授業研究</p>
661	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画を早く立て、大学教員の予定とすりあわせる。 <p>キーワード:○年度計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業に大学教員の専門性を取り入れる。 <p>キーワード:○大学教員, ○専門性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学部では、居住地校交流を行っている。 市教委、府教委と教員の人事交流を行っている。 市教委、府教委の指導主事に研究発表会で助言を依頼している。 <p>キーワード:○居住地校交流, ○人事交流, ○研究発表会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事予定を共有し、年度計画を早くつくる。 <p>キーワード:○年間行事予定, ○年度計画</p>

662	各学部のニーズに合わせて連携の方法を調整している。 高等部では、大学構内でのユニット就労(清掃作業、事務仕事、軽作業等)を計画的に実施している。 中学部では、理科や社会科での出前授業を計画し依頼している。 キーワード:○ユニット就労, ○出前授業	高等部では、卒業後に就職や採用に結びつくような連携を模索していきたい。 中学部では、教科学習に関する出前授業を継続的に実施していきたい。 小学部では、授業づくりや関りについての指導助言を継続的に受けていきたい。 キーワード:○大学での採用, ○出前授業, ○指導助言	研究年報や研究紀要の送付、夏季実践ワークショップや研究発表大会の案内、講師派遣、人事交流、センターの機能の発揮 児童生徒の交流学习 キーワード:○研究発表大会, ○センター的機能, ○実践ワークショップ	研究を進めるにあたって必要な予算の確保すること お互いの校内事情を理解し、無理のない範囲で交流すること キーワード:○予算の確保, ○相互理解
663	附属学校での日常的な研究会に参加してもらっている。		教育委員会主催の新担任者研修会の講師派遣 地域の教員を対象とした教育実践研修会の開催 キーワード:○初任者研修会, ○特別支援教育の専門性	
664	本学の特別支援教育講座及び関係講座の担当教官との共同研究協議会の開催 特別支援教育に関する本校夏期公開講座を通じた連携事業 キーワード:○共同研究協議会, ○夏期公開講座, ○連携	科研費申請と関連した共同研究企画 キーワード:○科研費, ○共同研究企画	大阪教育大学附属特別支援学校相談・支援センターの運営 特別支援教育に関する研修会への講師派遣・受け入れ キーワード:○相談・支援センター, ○研修会講師派遣	定期的に行事を設定する(定着化をはかる) 交流自体が目的にならないように、具体的な教育目標・ねらいを明確にする(目的化) キーワード:○定着化, ○目的化
665	・附属校の研究に関する共同研究者の依頼 ・学部への推進する共同研究事業への参加 ・学部学生や教職大学院生の研究への協力 ・学部学生や教職大学院生への授業における本校施設の活用、授業参観などの受け入れ ・教育実習等学部学生の実習や教職大学院生の実習の受け入れ キーワード:○共同研究者, ○学生への協力, ○学生の受け入れ		・研究発表会、公開研修会、公開講座など、本校の研究会・研修会への参加(公立学校) ・研究発表会でのポスター発表の発表者としての参加(公立学校) ・本校の研究に関する助言及び研究発表会への助言者としての参加(教育委員会) キーワード:○研究会・研修会への参加, ○助言	・副校園長会への参加と、積極的な情報交換 ・他校の研究会への参加と、積極的な情報交換 キーワード:○研究会への参加, ○情報交換
671	定期的に大学教員との情報交換、意見交換 キーワード:○大学との共同研究	更なる連携のために、情報交換、意見交換の回数を増やす キーワード:○大学との共同研究	研究として、特に設定はしていない 研究発表会の指導助言者として、市教育委員会、県教育委員会から招聘する	
672	大学教授の参画 →研究授業後の研究協議への参加ならびに指導助言 →公開研修会での分科会指導助言や全体会議・演習講師 →附属学校の校内研修会講師 →附属学校教員への教育相談 キーワード:○研究協力, ○教職員の研修協力, ○教育相談協力	本校は、平成 28 年度から募集する児童生徒を「発達障害を伴う知的障害」に特化した。 発達障害の子どもたちの指導・支援について共同し、取り組んで行く。 キーワード:○発達障害, ○ASD(自閉症スペクトラム), ○応用行動分析	・人事交流 ・公開研修会の開催 ・教育委員会の研修会や公立学校の校内研修会への講師の派遣 ・幼児児童生徒の交流及び共同学習 ・特別なニーズのある子どもに関する連携 キーワード:○人事交流, ○研修機会の提供, ○交流及び共同学習	時間の確保 ニーズの確認 キーワード:○ニーズの確認, ○Win-Win
673	小部会による附属校・園職員の定期的な協議 キーワード:○共同研究	テーマと取組の焦点化 キーワード:○連携する具体的取組の重点化	鳥取市教育委員会の依頼により鳥取市小中学校の中堅教員の一日体験研修を希望により受け入れている。 キーワード:○本校教育の先進性の発信	
681	それぞれの学部や担当者が密に連携をとり、スケジュールを合わせながらできるだけ支援学校での研修に大学側に参加してもらおうとしている。学生も含めて、支援学校に來校しやすい雰囲気を作るよう心がける。 キーワード:○連絡, ○調整, ○來校しやすい雰囲気	合同研修会や懇親会を五校園(幼・小・中・高・特支)で合わせて行っているが、行き来がしやすい雰囲気を作るためにも各校園でもできるようにしていきたい。 キーワード:○合同研修会, ○懇親会, ○行き来しやすい雰囲気作り	教育委員会から依頼を受け、教育委員会主催の公立学校教員対象の研修会に講師や指導助言者として参加している。 教育委員会に研究大会の指導助言者を依頼しており、事前の研究授業段階からアドバイスを受けている。 キーワード:○講師, ○指導助言者	全国の附属学校園の情報が集まるホームページがあれば、情報交換しやすくなるのではないだろうか。 キーワード:○情報交換, ○ホームページ

682	<p>・授業研究を行う際には、大学教員を助言者として授業参観していただき、研究協議での指導・助言をお願いしている。</p> <p>・研究紀要の作成に当たり、大学教員の指導・助言に基づいた研究のまとめを行っている。</p> <p>・学会等の研究発表では、共同研究者として大学教員が入り、に発表内容の指導・助言を受けている。</p> <p>キーワード:○研究協議での指導・助言, ○研究紀要作成の指導・助言, ○学会発表での共同研究・指導助言</p>	<p>・知的障害教育の各教科等を合わせた指導の充実を図る上で、大学教員による教科の専門的な立場から指導・助言を受け ることで、学習内容、教材・教具の工夫や補助具の開発を行っていきたい。</p> <p>キーワード:○各教科等を合わせた指導の充実, ○教材・教具の工夫, ○補助具の開発</p>	<p>・高知県特別支援教育研究会の高知地区内の公立小中学校特別支援学級及び特別支援学校と共同で研究活動を実施。</p> <p>・高知市教育研究会に加入し、特別支援教育部会でテーマごとの研究・研修に取り組む。</p> <p>・高知県教育委員会と提携した校内研究会(講演会を含む)の開催。</p> <p>キーワード:○共同研究活動, ○テーマ別研究・研修, ○公開研究会の開催</p>	<p>・特別支援教育の視点で幼稚園、小中学校の園児、児童生徒の教育相談や個別の支援会議への協力を行う。</p> <p>・校種間での交流及び共同学習を行い、各校の取組や課題を共有し、協力関係を築く。</p> <p>・教科の専門性を生かし、教員の学習指導力を向上させるための協力体制を築く。</p> <p>キーワード:○教育相談, ○個別の支援会議, ○交流及び共同学習</p>
683	<p>附属学校園を統括する組織として「附属学校部」が附属小学校内に設置され、大学教員による附属学校部長[2016(平成 28)年度からは、附属学校担当副学長]が配置されている。</p> <p>大学の方針のもと、附属学校園の連携や運営調整のために「附属学校部会議」を定期的に開催し大学との連携テーマの進捗状況の確認や課題等についても協議している。</p> <p>キーワード:○附属学校部会, ○連携テーマの協議</p>	<p>本校の研究に対する指導助言に加え、公開授業研究会等の講演や情報提供について依頼していく。</p> <p>大学教員が取り組んでいる就学前幼児の早期発達支援の場である「わくわく教室」は、本校の教育相談室などのリソースを活用して実施しており、今後もそのような連携の機会を探りたい。</p> <p>本学では、附属幼・小・中一貫型教育を推進しているが、今後は、そこに特別支援学校としての視点からの連携を図れるよう提案したい。</p> <p>キーワード:○リソースの活用, ○特別支援学校の視点</p>	<p>本校における特別支援教育のセンター的機能を代表する「発達支援センター」から、地域の保育所、こども園、幼稚園、小・中・高等学校に専門家を派遣している。また、本校教員にPT・OT・ST が同行し、専門的な助言を元に教育相談を行っている。また、本校教員は、県及び各市町村設置の各種委員会の委員や特別支援教育に係る講演会や研修会の講師等に委嘱されている。長期休業日期間中には、公立学校等の教員を対象とした特別支援教育に関する研修会を毎年5回以上開催している。</p> <p>キーワード:○発達支援センター, ○教育相談, ○専門的助言</p>	<p>共通のテーマについて、共通の校務担当者(職名は異なっている)が協議する機会を得ることが必要と考える。</p> <p>キーワード:○共通のテーマ, ○共通の校務担当者</p>
691	<p>・校長(熊本大学教育学部教授)が、大学と附属特別支援学校の懸け橋となり、情報共有や協議を円滑にしている。</p> <p>・学部・附属学校運営委員会等に副校長が出席する機会が増え、連携を深めている。</p> <p>・校長が、教授会で共同研究者に呼びかけ、教育学部教員が分野横断的に本校の研究に関わっていただけるようにしている。</p> <p>・本校の研究の中には、大学の先生方が共同研究者となっていたりしているものがある。共同研究者の先生方が本校の授業を気軽に参観したり協議したりできるような、敷居を低くしている。</p> <p>・大学の研究に関することで協力依頼があるケースがある。その場合、両者にとってプラスとなるように連携を進めている。</p> <p>キーワード:○校長マネジメント, ○共同研究, ○相互利益</p>	<p>・近年中に校長常勤化が導入されることが予想されるので、連携が円滑になるよう役割分担等の協議を行っていききたい。</p> <p>・校長(併任)としては、特別支援教育を専門とする教育学部教員はもちろん、教科や教職に関する教員との情報交換ができるよう努めていきたい。</p> <p>・共同研究を継続したい。</p> <p>キーワード:○役割分担, ○校長マネジメント, ○共同研究</p>	<p>・特別支援教育コーディネーターを中心に、地域の公立学校に対し助言・講話を行うなどセンター的役割を果たしている。</p> <p>・地域の学校の教員等を対象に、ニーズの高い進路指導や高校での特別支援教育の推進等に関する研修会を行っている。</p> <p>・県教育委員会主催の事業に案内をもらったり、技能検定や文部科学省説明の復講などでは本校も業務分担を担ったりするなど、双方向の連携を継続的に行っている。</p> <p>・熊本市教育委員会から特別支援教育に関する研修教員(2名)の派遣(1年間)を受け入れている。</p> <p>キーワード:○センター的機能, ○双方向, ○研修職員</p>	<p>・単発に終わらず、継続的に交流を行うことが必要である。</p> <p>・常に新しい情報を得ようとする姿勢が必要である。</p> <p>・今後、四附(同一大学の附属校園)間で共通の研究テーマを設定することで、連携研究を促進することなどを検討中。</p> <p>キーワード:○継続, ○研究テーマ</p>
692	<p>・事前に大学の先生方との日程の調整を行い、できるだけ大学の先生方に合わせている。</p>	<p>・特別支援教育専攻の先生方だけでなく、教科教育専攻の先生方にも、特別支援学校に足を運んでもらいたい。</p> <p>・本校の「センター的機能」を大学の附属教育実践総合センターの教育相談機能と連携させたい。</p> <p>・本校の作業学習について、大学の先生方から指導や助言をいただきたい。</p> <p>キーワード:○指導・助言</p>	<p>・本校の研究発表会の時に公立学校の先生方に参加していただいている。</p> <p>・県の特別支援教育研究会に所属して、地域の公立学校の先生方と一緒に活動している。</p> <p>キーワード:○情報交換</p>	<p>・お互いに他の学校園の状況を知ること。まず、「交流および共同学習」等を通じての児童生徒間の積極的な交流。</p> <p>・本校の「センター的機能」の発揮による附属学校園への貢献(附属学校園への巡回相談、研修会講師派遣等)。</p> <p>キーワード:○相互理解, ○貢献</p>

693	共同研究を推進するために、指導助言をいただきたいことを明確にしている。 地域の小・中学校を対象にスキルアップセミナーを開催した際、共同研究者に協力をいただき、講話を依頼した。 キーワード:○共同研究, ○指導助言, ○講話	本学から立地的に離れていることもあり、積極的に来校してもらえようようにしたい。 キーワード:○来校	特別支援教育スキルアップセミナーの開催 鹿児島県特別支援学校授業力向上実践協議会への参加 公開研究会の後援申請 巡回相談の実施 就学教育相談会への職員派遣 キーワード:○スキルアップセミナー, ○巡回相談	研究紀要を献本するなど、お互いの学校の取組を知る機会をつくること。 キーワード:○献本
694	大学教育学部特別支援教育コースの先生方には共同研究者として参加してもらっており、連携テーマと本校の研究テーマは共通である。 小中学部、高等部ごとに大学の先生が分かれており、部ごとの研究会に参加してもらったり、本校の研究の進捗状況について説明するための全体研究会を実施し、その会にも大学の先生に入ってもらっている。 キーワード:○共同研究者	知的障害教育における教科指導について日常の実践を通して研究を進めたい。 そのためには、特別支援教育コースだけでなく、小学校、中学校のコースの先生とも連携を図っていききたい。小学校、中学校との連携も検討したい。 キーワード:○教科指導	県教育センターの調査協力校として、「特別支援学校における『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」というテーマで、教育センターの指導を受けながらモデル授業を提供した。県の特別支援教育研究会では分科会での発表を行った。 キーワード:○教育センター, ○授業改善, ○モデル授業	ホームページによる研究や教育活動の紹介 校園長会、副校園長会のそれぞれ全校大会にも参加したいが、予算の関係で参加できないのが現状。 教員の研修交流人事 キーワード:○研修交流人事
741	学部新卒院生の附属学校非常勤講師採用。 ライフパートナー等のボランティア受け入れを実施する。 教育実習の事前・事後学習に学校支援活動を加え、大学と連携して学校支援体制を構築する。 キーワード:○学部生との関わり	大学の先生に来校していただく機会を多く設け、授業研究について深く連携していけるとよい。 大学の先生による出前授業の増加。 キーワード:○授業研究, ○出前授業	人事交流を行っている。 研究会や研究会には指導助言者・協力者として参加を依頼している。 個々の教員が個人的なレベルで交流している。 研究報告書・紀要等を送付している。 キーワード:○人事交流, ○研究交流	附属学校の研究主任等を対象にした全国的な交流会を実施する。 各学校の研究テーマ、研究している簡単な内容、研究主任等のメーリングリスト等を共有する。 キーワード:○交流会
761	日常的に研究授業(各教科年に3回)を行い、その都度、大学教員と教材開発や指導法に関して指導を得ながら進めている。 大学の連携協力の先生が授業参観がしやすいように日程を調整したり、月1回の研究会の案内を送付して参加していただいたり、参加できない場合は研究会の資料を送付して、本校の研究の進捗状況が分かるようにしている。 キーワード:○研究授業, ○研究会	研究会時に大学教員が参加しやすいように会議日を設定する。 個々の連携協力の大学教員の専門分野について、全教科で活用できそうな部分については、研修会を設定して講演していただいたり、他教科であっても関係する内容であれば授業を参観していただき、指導助言を得ることも考えていきたい。 キーワード:○会議日, ○研究会	人事交流による教員の異動や研究会の後援依頼などを行っている。 研究協議会などを介して情報交換を行っている。 キーワード:○人事交流, ○情報交換	お互いの研究に関して、関心を高めて、積極的に意見を交流する。 キーワード:○意見交流, ○関心
771			初任者研修で通常の授業(示範授業)を提供する。 教育センター主催の能力開発研修へ授業を提供する。 本校主催の教員研修会へ公立学校の授業を提供していただく。 キーワード:○授業提供, ○相互連携	・情報交流と教職員交流 キーワード:○情報交換の場, ○総会等への参加, ○研修会の際の分科会の充実
1231	各教科領域から大学へ研究協力者として依頼している。 キーワード:○研究協力者, ○事前研究, ○幼小中での分科会	大学の先生による授業 キーワード:○大学の先生による授業	地区3年次研修(教員になって三年目に行う授業を中心とした研究会)の講師を本校教諭が行う。 近隣公立校の校内研修として、日常的な授業公開を行う。 地区の研究会(月1回程度行う区主催の研究会・各教科領域の分科会)に全員参加する。 区主催の体育実技研修会に参加する。 区主催の校長会や生活指導主任研修会に参加する。 キーワード:○講師として派遣, ○研究会に参加, ○各種研修会に参加	時間の確保 キーワード:○時間の確保

3-1 研究成果の地域への発信の現状、3-3 今後研究成果をどのように発信したいか、3-5 研究成果の大学への発信の現状、
3-7 今後研究成果をどのように大学に発信したいか

No.	3-1 研究成果の地域への発信の現状	3-3 今後研究成果をどのように発信したいか	3-5 研究成果の大学への発信の現状	3-7 今後研究成果をどのように大学に発信したいか
111	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の研究大会における研究成果の発信 ・本園の特別支援教育研修会における本園取組の成果の発信 ・北海道全域の公立幼稚園への研究紀要の送付 キーワード:○研究大会, ○研修会, ○研究紀要	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川私立幼稚園教育研究会, 旭川民間保育所相互育成会への更なる成果の発信 ・園のホームページを活用した研究成果の発信 ・地域公立小学校への研究成果の発信 キーワード:○地域幼保, ○ホームページ, ○公立小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・大学幼児教育の教員への情報提供の実施 ・大学教育発達の教員への情報提供の実施 キーワード:○幼児教育の教員, ○教育発達の教員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も幼児教育を中心に研究成果の発信に努める。 ・小学校課程の教員にも幼児教育に関する成果の発信を行い, 幼児教育への理解を促す。 キーワード:○幼児教育, ○小学校課程
121	公開保育研究会、研究紀要発行、ワークショップ研修会、県大会研究事例発表 キーワード:○幼児理解, ○教材の工夫, ○幼小連携	公開保育研究会、研究紀要発行 講義や各研修会において、豊かな遊びの保育実践提供をする。 キーワード:○幼児理解, ○教材の工夫, ○教員の資質向上	公開保育研究会等の案内はしているが、一部の先生とのかかわりにとまっている。 教育学部プロジェクト研究推進事業(学部 GP)においてポスター発表をしているが、まだ関心が低い。 キーワード:○一部のみ, ○関心が低い	共同研究委員会において、幼稚園の研究や実践についてアピールする キーワード:○共同研究委員会
122	公開研究会の実施 研究紀要の販売 ホームページの活用 キーワード:○公開研究会, ○研究紀要, ○ホームページ	研修会実施 SNSの活用 キーワード:○研修会	公開研究会の実施 紀要の提出 キーワード:○公開研究会, ○研究紀要	成果を発表する場を設定して、大学教員に聞いて頂くことができると考えている。 キーワード:○発表, ○大学教員全体への周知
123	公開研究会の実施 研究冊子の配布 研修の講師 小学校教員に向けての保育提案 キーワード:○研究提案, ○小学校教員	幼児教育の質向上のために継続した実践をしたい キーワード:○継続実践	教育学部体育・保健・健康分野の先生方への研究成果の発信 データの提供 事例の提供 協同研においての話し合い キーワード:○事例の提供, ○協同研	私たちの実践をもっと専門的な知見と合わせて整理していただき、成果を共有したい キーワード:○専門的な知見, ○成果の共有
124	従来の公開研究会から、資質・能力の「幼小接続」を意識した「遊びと学びフォーラム」へと変更して開催した。 キーワード:○県教委との連携	今年度、変更しての初年度なので、継続して実践していきたい。 キーワード:○小学校への積極的発信	グランドデザインを用いた学長へのプレゼンテーション キーワード:○グランドデザイン	グランドデザイン作成については、今年度初年度なので、四校園でより良い方向性を探していきたい。 キーワード:○附属一貫
125	年2回、公開研究協議会を開催し、研究の成果を発信している。 研究紀要を作成し、公開研究協議会の参観者に配布したり、関係機関等に送付したりしている。 キーワード:○公開研究協議会, ○研究紀要	公開研究協議会の開催や研究紀要を発行する。 キーワード:○公開研究協議会, ○研究紀要	年2回、公開研究協議会を開催し、研究の成果を発信している。 研究紀要を作成し、送付している。 キーワード:○公開研究協議会, ○研究紀要	公開研究協議会の開催や研究紀要を発行する。 キーワード:○公開研究協議会, ○研究紀要
126	年に数回行われる教育研究会(公開研究会)においてテーマに沿った保育の提案と研究成果を発信している。 HP 上では保育のヒントにより、日常の保育活動についてその必要性や意味を明らかにする試みを行っている。 これらの成果を大学紀要にも掲載し、多方面への発信に心がけている。 キーワード:○HP, ○公開研究会, ○紀要	地域の学習センターなどに紀要を置いていただくことで、広く地域の皆様に発信できるようにしたい。 保護者の方に向けて、掲示板の活用や PTA の部屋に紀要を置くなどして、いつでも見られるように準備しておきたい。 公開という特別な場でなくても、普段の保育から研究を発信していける方法(実践研究会など)を模索したい。 キーワード:○学習センターの活用, ○保護者への発信, ○実践研究会	年に一度行われる学長主催の運営会議での報告により、学長や事務局長、事務方に発信している。 最近では研究に向けての条件整備を学長裁量経費で賄うため、報告書の内容に研究成果が含まれており、大学への発信につながっている。 キーワード:○運営会議, ○報告書	研究成果はもちろんであるが、それ以前に大学執行部に幼稚園の実情(人手不足や園舎の老朽化など)を見ていただく機会を作りたいと考えている。 例えば、学長を始めとする役員に来ていただく機会の提供。本園職員との懇談会など。 キーワード:○現状把握, ○役員へのアピール

131	<p>公開保育研究会の参加について優先的に受け付ける、開発研究の報告書を送付するなど。</p> <p>キーワード: ○研究報告書, ○公開保育研究会</p>		<p>附属学校課に所属しており、附属学校教育研究推進専門委員会が月1回、開催される。また学長がメンバーである附属学校本部会議でも、附属の研究について報告、共有する機会がある。</p> <p>キーワード: ○附属学校教育研究推進専門委員会, ○附属学校本部会議</p>	
132	<p>公開研究会の開催、及び保育を語る会の開催(年4回)</p> <p>キーワード: ○公開研究会, ○保育を語る会</p>	<p>研究会ではなく幼稚園の組織(国公幼、全国研、県幼連等)に参加する中で日常的に発信したり、園内研修に講師として呼んでもらえるようになる中で発信したいと考える。</p> <p>キーワード: ○外部の園内研参加, ○講師</p>	<p>研究紀要の配布</p>	
133	<p>公開研究会での発表 研究紀要の教育委員会への配付 教育委員会等主催の研修会での講師</p> <p>キーワード: ○研究紀要</p>	<p>HPを活用していきたい</p> <p>キーワード: ○HP</p>	<p>研究紀要の送付</p> <p>キーワード: ○研究紀要</p>	
134	<p>冊子にして配布したり、HPに掲載して、研修成果を公表している。 協議会を開催し、研究成果を説明する場を設けている。</p> <p>キーワード: ○紙面・ウェブでの公表, ○協議会の開催</p>	<p>関係者が集う県等の研修などの場を積極的に活用し、発信したい。</p> <p>キーワード: ○研修等の活用</p>	<p>冊子にして配布したり、HPに掲載して、研修成果を公表している。 協議会を開催し、研究成果を説明する場を設けている。</p> <p>キーワード: ○紙面・ウェブでの公表, ○協議会の開催</p>	<p>大学の学内誌などで発信したい。</p> <p>キーワード: ○学内誌にて発信</p>
135	<p>公開研究会・新採用研修会・スキルアップ講座等研究会の実施。本園職員を地域の園からの要請に応じ、講師として派遣する「派遣事業」の実施。大学の教員との共同での論文執筆、学会発表。</p> <p>キーワード: ○研修, ○紀要, ○論文</p>	<p>派遣事業に取り組んでみて、地域のニーズがこれまでとは異なって見えてきている。どんなことが求められているのかをもう一度見直しながら、地域のニーズに合った研究内容にまずは取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>キーワード: ○地域のニーズ, ○地域の課題</p>	<p>まず取り組んでいるのが、大学教員との共同研究と論文の共同での執筆である。また、大学教員からの要請にできる限り応えながら、園をできるだけ多くの教員に訪れてもらい、その際に保育内容を理解してもらえよう取り組みを行っている。</p> <p>キーワード: ○共同研究, ○論文掲載, ○学会発表</p>	<p>職員の資質向上に努め、共同研究をより広げ、深めていきたい。</p>
136	<p>年2回の公開研究会にはたくさんの方々に来てもらっている(450名程度)会場に入りきらないため、定員を設けており、参加お断りをしている状態である。 大学と幼稚園で、隔月、千葉乳幼児研究会を第3土曜日に行っており、様々な講師を招いて自由に学べる場も提供している。(毎回30名程度の参加)</p> <p>キーワード: ○研究会, ○自由の学べる場の提供, ○大学との連携</p>	<p>研究紀要を作り発信しているが、より、多くの先生方に読んでもらえるように、今年は全ページカラーにしてページ数を少なくし、読みやすいものを作成した。手にとってもらいやすいような発信をしていきたい。 研究成果だけでなく、研究のプロセスも発信し、研究を推奨するようなことも発信していきたい。 どちらかというと待機児童が問題になり質より量害我がちな幼児教育だが、幼児教育の質を高めるようなものを発信していきたい。</p> <p>キーワード: ○読みやすさ, ○研究の推奨, ○幼児教育の質</p>	<p>連携研究の冊子は教育学部全ての教員に渡るので、その場を借りて幼稚園をアピールしている研究会の案内、園便りなどは全ての大学の教員に紙ベースで配り、幼稚園の存在(園便りには研究協力の欄も設けていてどのような研究協力をしているか知ってもらえるようにしている)などをアピールしている 研究紀要や成果物を来園してくれた先生方に配布している。 研究会の講師に招き、幼稚園への関心を高める。</p> <p>キーワード: ○研究成果の配布, ○研究会の講師, ○存在のアピール</p>	<p>読みやすい成果物を配布する、また、HP等も活用すると良いかと思っている。 幼稚園の方から様々な提案をし、大学を巻き込んでいけるような研究をする。</p> <p>キーワード: ○研究の成果物, ○HP, ○巻き込む</p>
141	<p>・幼児教育研究会(公開保育、振り返り、研究発表、講演会)を年に1回行っている。その際、研究紀要作成している。</p> <p>キーワード: ○公開保育, ○研究発表, ○研究紀要</p>	<p>研究内容に興味を持っていただき、活用していただけるように、研究紀要のビジュアルの工夫、リーフレット化</p> <p>キーワード: ○リーフレット</p>	<p>教育学類、教職大学院の教員に幼児教育研究会の開催案内を出し、来賓として招待している人間社会学域長、学校教育学類長、学長に研究紀要を送付している</p> <p>キーワード: ○研究紀要, ○招待</p>	<p>紀要の内容をデータ化し、より多くの大学教員に送付する</p> <p>キーワード: ○データ化</p>

142	研究会(年1回)、公開保育(年2回)の開催 研究紀要の作成と配本 キーワード:○研究会, ○公開保育, ○研究紀要	公私立の幼稚園, 保育園, こども園に, もっと保育を公開するとともに研修に協力する。 キーワード:○保育園, ○こども園, ○研修	大学の講堂(503人収容)を利用しての研究会の開催 研究プロジェクトへの応募と報告書の作成 研究紀要の贈呈(寄贈)と研究冊子の作成	これまでどおり キーワード:○研究会, ○研究紀要, ○研究プロジェクト
143	SNS ブログやホームページの活用 研究発表会 語る会の実施 出張出前研修の実施 ラウンドテーブルでの実践を語る場の実施 キーワード:○SNS, ○出張出前, ○ラウンドテーブル	フェイスブックでの情報発信 ラインでの情報交流 出前研修講座 キーワード:○フェイスブック, ○ライン, ○出前研修講座	学部学生の研究会参加 大学教授との共同研究 大学ホームページへの研究投稿 キーワード:○学生の参加, ○共同研究, ○研究投稿	他学部教授と学生の研究会参加の推進 大学ホームページと研究のリンク キーワード:○他学部, ○大学ホームページリンク
144	研究紀要を地域の園に配布している。 園内研を公開している。 キーワード:○研究紀要, ○園内研修の公開	研究紀要をデータ化し、ネットで公開する キーワード:○研究紀要のデータ化, ○ネット公開	研究紀要を配布している キーワード:○研究紀要の配布	大学の研究紀要に本園の研究論文を掲載してもらう キーワード:○大学の研究紀要, ○研究論文の掲載
145	ホームページでの掲載、日々の活動の保護者へのアプリ配信、SNS(facebook)による地域・海外への活動発信を行っている。 キーワード:○SNSの活用	1年間のfacebook活用を継続した結果、SNSの活用は反響や広がりが著しく、国内・海外に多数の理解者を得られることが分かった。保護者の同意のもと、幼児教育の理解推進、日本の教育の質発信等の可能性を考えていきたい。 キーワード:○SNSによる発信	国際課、教育学部等、学内の事業に積極的に手を上げながら、研究内容が周知されるよう工夫している。	教員の負担軽減との両立を図りつつ、共同研究行いながら発信していきたい。 キーワード:○共同研究
151	研究紀要を配布する。紀要の内容、様式を改訂し、読みやすく日々の教育活動で活用できるようにする。 キーワード:○写真を多用して視覚化, ○手に取りやすいページ数	研究協議会の在り方を変化させて、少人数で複数回開催するなど、実践を深く理解してもらえるようにする。 キーワード:○ニーズに応える, ○参加型, ○実地研修	紀要の配布	
161	研究内容の学会発表 研究論文の公募に応募 キーワード:○学会発表, ○論文応募	地域の教員に気軽に研究発表会に参加できる気張らない研究発表会の形式を工夫したい 学期に1回ペースで、保育を語り合う会のような、続けられる会を考えたい キーワード:○気軽に, ○継続, ○多数回	研究発表会の要項を大学教員に配布し、参加を呼び掛ける 教授会等で研究発表会終了や、参加人数を報告する 附属学校全体の研究発表会において、発表分担があれば成果を発表する キーワード:○参加人数, ○要項配布, ○附属学校研究発表会	関心をもってくれそうな大学教員に、積極的に参加を要請する キーワード:○関心, ○要請
162	関係機関への紀要の配布 など キーワード:○保育の可視化, ○写真の活用	通信やホームページ等での発信の必要性を感じています。	紀要の配布、大学の学校園運営会議での公表など キーワード:○幼児教育の重要性	教育実習での実践につながるようなカリキュラム等を具体的に発信していければと考えています。 キーワード:○カリキュラムマネジメント
163	研究発表会で発信する。 参加型の研究会をおこない、その中で本園の研究の一部を実際に使いながら、その有用性を体感してもらう。 教育委員会指定の研究会等に講師として関わった際に、本園の研究成果や研究手法を紹介し、活用してもらう。 キーワード:○研究発表会, ○参加型研究会, ○講師	本園の研究手法を取り入れている地域と共に共同研究を実施し、その研究手法の効果と共にさらに発信し、研究の輪を広げていくことで、地域の教育力の向上に寄与したい。 キーワード:○共同研究, ○効果発信	附属学校年次報告書において、研究、大学との連携、地域貢献の現状を発信している。 附属学校在り方検討ワーキンググループにおいて、附属学校部長より発信してもらえるように、具体的な取組を対応部会にて説明している。 キーワード:○附属学校年次報告書, ○附属学校在り方検討ワーキンググループ	研究大学の附属幼稚園として、学術研究での実績あげてその存在意義を示す。 附属学校部の機能強化をしていくことにより、附属幼稚園が果たしている研究面、地域貢献として行っている教育水準の向上に向けて行っていることを組織的に把握してもらいながら、継続して具体的に示していく。 キーワード:○学術研究, ○地域貢献, ○組織的把握

164	<p>研究発表会の実施。 教員研修で成果を発表。 紀要の作成、配布 キーワード:○研究発表会, ○教員研修, ○紀要</p>	<p>リーフレットの作成。 キーワード:○リーフレット</p>	<p>研究発表会の案内、参加。 紀要送付。 大学と附属学校教員の交流会で発表。 キーワード:○研究発表会, ○紀要, ○交流会</p>	<p>特定の教員だけでなく、様々な分野の教員に発信したい。</p>
165	<p>・公開保育研究会を開催して、参観者に本園の研究内容を報告するとともに考える ・本園の研究についてHPにアップする。 ・公開研究保育で、紀要を配布する ・地域の教育関係者に紀要を送付する キーワード:○一方通行</p>	<p>研修などを請け負い、その時に本園の研究内容を伝える 年に一度の公開研究だけでなく、一年に数回研修スタイルの公開保育などをする。 キーワード:○リカレント</p>	<p>研究紀要の配布 公開保育研究会の案内配布 附属学校部運営委員会での公開保育研究会の報告 キーワード:○事後報告</p>	<p>発信の場を提供してほしい。以前学長裁量経費の研究はポスターセッションのようなものがあって、そのような機会をつくってほしい。 キーワード:○成果発表</p>
171	<p>教育研究会の開催 研究紀要の送付 キーワード:○教育研究会, ○研究内容の周知</p>	<p>地域では、認定こども園への移行が急激に進んでいるが、どのような施設形態になろうとも、幼児教育の質の維持・向上が求められている。現場の先生方が、どのような課題をもっているか、研修の形態はどのようなものがよいのか、情報取捨を行いつつ、教育研究会の時期や方法を考えていきたい。また、本園の研究をホームページに載せていることを積極的に知らせていきたい。 キーワード:○研究内容の周知, ○情報発信</p>	<p>研究紀要の送付 キーワード:○研究内容の周知</p>	<p>教育研究会の案内だけでなく、実際に保育(幼児の姿)を見ていただき、育ちを共有することにより、本園での研究をより理解していただけるのではないかと考えている。 キーワード:○育ちの共有</p>
172	<p>・公開研究会での公開保育・協議会を通して・出版物・公開園内研修の実施・ ・研修会講師、大学授業等を通して ・保育参観、視察等の受け入れを通して キーワード:○公開研究会, ○出版物, ○視察</p>	<p>幼稚園独自での保育公開や保育参加、公開園内研修等を増やしていく。 キーワード:○保育公開, ○保育参加, ○公開園内研修</p>	<p>研究開発の報告書、出版物等の成果物の共有 キーワード:○成果物, ○共有</p>	<p>教育学部に向けては、大学教員との連携や成果物の共有などにより、発信しているが、大学全体の中で、附属学校園の存在価値を示していくためにも、大学全体への研究成果の発信について検討していく必要がある。 キーワード:○大学全体</p>
173	<p>自校研究会で発表、 研究紀要の発行 地域の研究会で機会を捉えて発信 発信が一方向で、研究会の参加者には伝わるが、HP発信などしていないので、必要な時に必要な情報が受信できるようになっていない。 キーワード:○一方向</p>	<p>webによる発信を考えたい キーワード:○web発信</p>	<p>大学紀要に掲載 読み手のみに伝わる 研究報告会での報告 参加者のみに伝わる 研究に関心がなければ伝わらないが、あまり関心をもってもらえない。 キーワード:○無関心, ○一方向</p>	<p>リーフレットなどで簡単な要約を発信し、一見してわかるような発信方法を考えた。不特定多数の教員の目に触れるようにして。関心をもってもらいたい。 キーワード:○要約の発信, ○周知</p>
174	<p>公開研究会の開催 地域等の幼稚園・保育所・小学校への研究紀要の送付 附属研究ラウンジの送付 ホームページ 県教育委員会主催研修での発表 キーワード:○研究成果の発信</p>	<p>園についての理解を深めていただくために、地域住民にも園の取り組みについて、いろいろな方法で発信する。 キーワード:○理解を深める, ○地域住民</p>	<p>教職員・学生等も対象にした公開研究会 研究紀要の送付 キーワード:○公開研究会, ○研究紀要</p>	<p>大学の紀要論文に投稿</p>
181	<p>・本園の研究大会において、保育を公開するとともに、協議や講演会の場を設定し、研究成果を発信している。 キーワード:○モデル</p>	<p>・地域の幼稚園にとって、分かりやすく、それぞれの園でも実践してみたいと思える研究を広く発信していきたい。 キーワード:○試してみたい研究</p>	<p>附属校園と教育学部の全教員が参加する「教育学部合同研修会」のシンポジウムで共同研究の成果を発表している。 大学教員が参加する「愛媛教育研究大会(幼稚園・小学校の部)」で保育を公開し、研究発表を行っている。 研究成果をまとめた「幼年教育研究紀要」を作成し、関係する大学教員に配布している。 キーワード:○合同研修会, ○教育研究大会, ○研究紀要</p>	<p>現状を維持する。 キーワード:○継続</p>

182	<p>研究発表会(2年に1回 参加者300人) 保育について語ろうデー(年に約10回 参加者1回約20人) ホームページでの研修報告 キーワード:○やりとり(協議の充実), ○キャリアやニーズに応じた内容</p>	<p>地域のニーズに応じた研究内容を直接のやりとりを通して発信していく キーワード:○ニーズ</p>	研究会等に主催者として参加していただく	
183	<p>・公開研究発表会において、保育を公開し、研究発表を行っている。 ・公開研究発表会を中心に、研究紀要の配付・販売を行っている。 キーワード:○保育公開, ○研究発表, ○研究紀要の配付</p>	<p>・研究発表会の実施 ・研究紀要の配付・販売 ・リーフレット等にまとめ、各園へ配付 ・県施策に基づく実践の成果・課題を県教育委員会へ提供 キーワード:○研究発表会, ○リーフレット等の配付, ○県への情報提供</p>	<p>研究成果を大学教員が論文にまとめ、大学紀要に掲載している。 キーワード:○大学紀要</p>	<p>大学のホームページに幼稚園の研究紀要を掲載することを計画している。 キーワード:○ホームページ</p>
191	<p>公開研究会の開催 HPに掲載 夏季研修会の開催 園長会・主任会等での報告 論文 キーワード:○公開研究会, ○教員研修, ○ホームページ</p>	<p>地域の募集する論文等にも応募していきたい。</p>	<p>公開研究会の案内 学部紀要、協働研修センター等への論文執筆 キーワード:○論文</p>	
192	<p>年に1回開催する研究発表会で、公開保育と分科会、研究協議、講演を行っている。 熊本県教育課程研究協議会で、本園の研究の取組を発表している。 熊本県生活科・総合学習学会や九州体育・スポーツ学会シンポジウムなど、様々な場で研究発表を行っている。 熊本県内の公立幼稚園の園内研究会に、本園職員が講師として出向いている。 国立教育政策研究所のホームページに、本園の研究報告書が掲載されている。 キーワード:○研究発表会, ○様々な場での研究発表, ○ホームページの活用</p>	<p>研究発表会の案内に、国立教育政策研究所教育課程研究の研究指定であることを明記する。 成果と課題だけでなく、研究のプロセスも分かりやすく明示し、他園でも活用しやすいように発信する。 本年度の研究発表会で得られたアンケートの回答を参考にして、ニーズに応じた内容を検討する。 キーワード:○研究指定, ○研究のプロセス, ○ニーズに応じる</p>	<p>大学関係者に研究発表会の案内をして、来賓として招いている。 教育学部附属学校関係者に、研究紀要を配付している。 会合の際に、学長や副学長、学部長とコンタクトをとり、本園の研究についてアピールしている。 キーワード:○研究発表会の来賓, ○研究紀要の配付, ○学長・副学長</p>	<p>本大学は幼児教育養成課程がないため研究成果の発信が難しい部分もあるが、心理学や教育学の教授を特に中心に発信する。 園長(大学と兼務)と相談しながら、有効な発信方法を探る。 キーワード:○心理学・教育学, ○大学教授と相談</p>
193	<p>年3回の年齢別保育研究会と年1回の公開保育研究会を実施し、研究の成果を公開するとともに、バズ討論による研究会を行っている。 キーワード:○公開保育, ○バズ討論</p>	<p>ホームページを活用して広く発信する。 キーワード:○ホームページの活用</p>	<p>3年に1度の研究発表会の折、研究紀要を作成し周知を行っている。 キーワード:○研究紀要</p>	<p>研究の進捗状況を学校運営委員会や校園長会等で定期的に報告する。 研究だよりを発行する。 キーワード:○定期的な報告, ○研究だより</p>
194	<p>公開研究会の実施(年2回) 教員免許状更新講習の実施(年2回) キーワード:○公開研究会, ○教員免許状更新講習</p>	<p>現職教員の受け入れ(ブラッシュアップ) キーワード:○現職教員研修</p>	<p>協同研究の成果を大学発行の研究誌に掲載 大学講義を担当(副園長) 教育実習科目を担当(教諭) キーワード:○研究誌, ○大学講義, ○教育実習科目</p>	<p>教職大学院講義の担当 キーワード:○教職大学院</p>
195	<p>「保育研究協議会」公開研の開催(年1回) 研究集録や紀要の配付 ホームページ上で「日常の保育(ドキュメンテーション)」公開 『リカレント研修』受入による現場教職員への再教育の場の提供 キーワード:○公開研, ○研究集録, ○ホームページ</p>	<p>「園内研修の方法」など、保育力向上に寄与できる内容を、動画で配信する。 「教育課程」をホームページ上に公開する。 キーワード:○動画配信, ○ホームページ</p>	<p>公開研の開催案内の学部教授会での連携統括 長よりアナウンス 研究集録の送付 ホームページの閲覧 キーワード:○学部教授会, ○ホームページ</p>	<p>研究集録の内容をホームページ上で公開 若しくは、冊子(データ)の全教員への配付 キーワード:○全学部教員, ○データ配信</p>

196	<ul style="list-style-type: none"> 研究科発表会の開催(隔年) キーワード: ○働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 研究冊子の配布の充実 キーワード: ○現場感覚	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育コースの専任教官の活用 キーワード: ○協同研究, ○指導助言	<ul style="list-style-type: none"> 学部への研究発表会の案内状の発送 キーワード: ○教授会の活用, ○一斉送信メールの活用
211	<ul style="list-style-type: none"> 年間複数回開催する授業力向上セミナー 出前授業 ホームページ上の実践事例の紹介 キーワード: ○複数回, ○汎用性	<ul style="list-style-type: none"> (左記に加え) 子供がいる研修センターとしての視察の受入 キーワード: ○子供がいる研修センター	<ul style="list-style-type: none"> 「論集」への掲載 キーワード: ○論文	<ul style="list-style-type: none"> 実践事例レベルでの発信 キーワード: ○実践事例
212	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要での発信。 研究会及び研修会での発信。 大学での授業、研究協議での発信。 学会、研究団体等における発信。 教育実習等における発信。 キーワード: ○研究紀要, ○研究会, ○大学	<ul style="list-style-type: none"> 研究大会、研修会(授業力向上セミナー)等での研究理論発表。 教育委員会主催の研修会等での発信。 理論と実践を往還させたエビデンスを示す発信。 地域にとって活用された理論や実践を調査し、実態を把握することでのフィードバック。 キーワード: ○理論, ○実践, ○エビデンス	<ul style="list-style-type: none"> 研究大会、研修会(授業力向上セミナー)等での発信。 研究協力者である大学教員との連携による発信。 大学教員、大学院生との研究協力による発信。 キーワード: ○研究協力, ○連携, ○実践	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践を生かした研究について、大学研究紀要や論文等へ。 具体的な研究成果を大学教員に提供。 大学教員の意識調査や研究協力の実態把握のデータをもとに。 キーワード: ○大学研究紀要, ○提供, ○意識調査
213	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究大会と授業力向上セミナーがちょうど半期に一度ずつの間隔で開催することから、そこが地域公立学校への発信の場となっている。 本校やPTAが主催する講演会の参加対象を、本校以外の保護者や地域住民に広げ、地域の家庭教育力を向上させる取組をスタートする予定である。 キーワード: ○研究の波及と活用, ○家庭教育力の向上への寄与	<ul style="list-style-type: none"> 大学・教職大学院との連携を視野に、発信内容の充実と発信する相手側対象者についても考えを持って進めたい。 キーワード: ○大学連携, ○学校, ○地域	<ul style="list-style-type: none"> 大学本部の附属学校運営会議や、函館校の附属学校運営委員会を通じて取組の様子を具体的に紹介している。 教職大学院も附属学校園の取組に高い関心を持ってくださっていることから、相互の情報共有と発信を進めたい。 キーワード: ○附属学校運営会議等, ○教職大学院との連携	<ul style="list-style-type: none"> 3-5に同様 キーワード: ○附属学校運営会議等, ○教職大学院との連携
221	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要、実践記録集、単行本などの書籍の発刊。 公開研究会、研修会での提案や発表を通じた研究成果の発信。 キーワード: ○書籍, ○発表	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要、実践記録集等をコンパクトに分り易く構成して発刊すること。 キーワード: ○コンパクト	<ul style="list-style-type: none"> 日常的なやりとりの中で伝えている。 公開研究会、研修会等の開催を周知し、来校を促している。 キーワード: ○日常的, ○研修会開催周知	<ul style="list-style-type: none"> これまでと同様に日常的なやりとりの中で伝える。 公開研究会、研修会等の開催を周知し、来校を促す。 キーワード: ○日常的, ○研修会開催周知
222	<ul style="list-style-type: none"> 2日間公開で共同研究の成果や今日的な課題に対応した本校独自の取り組みを公開している。 公開研究会だけでなく、研修会についてもホームページやチラシの配布を通して広報し、参加を呼び掛けている。 キーワード: ○広報活動, ○存在意義, ○関心		<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要へのコラムの執筆の依頼を通して、関心を高め、成果物を配布している。 キーワード: ○コラム執筆	
223	<ul style="list-style-type: none"> 6月の探究型学習研修会を実施した際、前年度の研究結果をまとめた「授業の創造」を参会者に配付した。 11月に児童理解・教材研究を根拠に本校研究を生かした授業づくりの実際を提案した。 授業づくりの事前検討会・授業実践・事後研究会をセットにした研修で、対象を教職10年までの若手教員に絞った。 キーワード: ○研究成果をまとめた「授業の創造」, ○事前検討会・授業実践・事後研究会をセット, ○教職10年までの若手教員	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントについての本校の取組をもとに、次年度のカリキュラムについて提案したい。 対象を研究主任・教務主任等のリーダーに絞り、山形大学の教授によるマネジメントに係る講話もいただきたい。 キーワード: ○カリキュラム・マネジメント, ○研究主任・教務主任等のリーダー, ○マネジメントに係る講話	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や授業研究会の度に大学にも案内を出し、各教科の共同研究協力者として学習プランについて事前に相談し、当日も事後の話し合いで意見をいただいている。 キーワード: ○各教科の共同研究協力者, ○事前に相談, ○事後の話し合いで意見	<ul style="list-style-type: none"> 大学の共同研究協力者にも指導・助言をいただきながら、科研費に応募したい。 キーワード: ○大学の共同研究協力者, ○指導・助言, ○科研費
224	<ul style="list-style-type: none"> 公開研究会、オープン研究会、研究リーフレットの配布、ホームページへの研究情報の掲載、学部の「教職高度化センター」リポジトリによる発信をしている。 キーワード: ○提案性のある単元づくり, ○実践に活かせる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の学びにおける成果や課題について、年に数度の公的な文書だけでなく、ブログ形式で日々の更新が可能なスタイルで発信していくようにできれば、有用情報が迅速に提供できる場となる。 キーワード: ○ブログによる情報発信, ○情報発信とフィードバックの促進	<ul style="list-style-type: none"> AU-CISへの掲載、研究リーフレットの配付などを電子ファイルで発信している。 キーワード: ○学内LANの活用	<ul style="list-style-type: none"> 電子ファイルによる情報交換の維持の他、特にありません。 キーワード: ○紙媒体の廃止

225	<p>研究紀要の発刊(教育研究公開での販売、公立学校への出前授業時に周知・配付) 見方・考え方エピソード集」の作成・販売 (各教科等の見方・考え方を働かせて、資質・能力を発揮する子どもの姿の写真集。注文販売にして、在庫を減らした) 出前授業、講演による本校の研究発信</p> <p>キーワード:○研究紀要、○見方・考え方エピソード集、○出前授業、講師派遣</p>	<p>学校ホームページを活用した定期的な発信を行う。 日々の授業実践の蓄積をリーフレット化し、教育研究公開等で配付する。 各種学会や研究会での発表を積極的に行う。(大学教員の指導・協力を受けて) 福島大学学達臨床支援センター紀要への寄稿による実践報告をする。(外部からも検索・閲覧可能にする)</p> <p>キーワード:○ホームページの活用、○リーフレット化、○学会での発表</p>	<p>大学教員へ研究紀要を送付・提供する。 研究紀要を附属図書館に納入する。 教育研究公開へ招待する。(附属小学校の取り組みを実際に見てもらう) 大学の指導助言の先生方に、定期的に授業を参観していただき、子どもや教師の変容について助言いただく。 キーワード:○研究紀要の送付・納入、○教育研究公開への招待、○定期的な指導助言</p>	<p>大学の全教員が、年に一度必ず附属学校園を参観し、取り組みや現状を確認できるようにする。 教育活動において大学を積極的に活用し、取り組みや子どもの姿を発信する。 研究紀要だけでなく、大学で刊行している紀要や報告書に附属教員が積極的に寄稿する。 キーワード:○大学教員の附属参観、○大学の積極的な活用、○各種刊行物への寄稿</p>
230	<p>附属学校研究・論文データベースでの発信。公開研究会の実施。研究冊子の発行。 キーワード:○研究・論文データベース、○公開研究会、○研究冊子</p>		<p>公開研究会への参加依頼、例年学長も参加していただきます。研究紀要の送付。研究冊子の発行と送付。 キーワード:○公開研究会、○研究紀要、○研究冊子</p>	
231	<p>教育研究発表会の参加者数(県外からの参加者も含む) 平成29年6月…322人、平成30年7月…379人、平成31年1月…324人、令和元年7月…249人 出前授業、校内研修の講師派遣…多数 茨城県学力アップ推進事業(公開授業撮影協力)</p> <p>キーワード:○授業の質、○参観者の減少</p>	<p>なるべくたくさんの先生方にご来校いただき、実際に授業を見ていただくことが一番である。 研究成果としての授業を見せられるよう授業の質を向上していく。 「この研究会に行きたい」と思えるようなプログラムを考え、事前に広く周知(PR)できるようにしていきたい。</p> <p>キーワード:○授業の質向上、○研究会の魅力度アップ、○さらなるPR</p>	<p>学習案集・研究紀要を提出し、研究テーマに基づいた授業とその後の成果を報告している。</p>	<p>教育学部以外の学部に対して、附属学校園の実績や存在意義を発信していく必要を感じる。 その理由として… 他学部から、附属学校園の職員に支払う時間外勤務手当が、大学の経営を圧迫しているとの批判があると聞いている。 地域の教育を支えている附属学校園の存在意義をきちんと理解していただきたい。 キーワード:○他学部への情報発信</p>
232	<p>・公立小学校の校内研究会より講師要請があり、研究内容を発信している。 ・公立の研究会より講師要請があり、研究内容を発信している。 ・公開研究会、セミナー等、本校開催の発表会で研究内容を発信している。 キーワード:○講師要請、○公開研究発表会</p>	<p>・本校主催のセミナーを増やす。 ・講師要請の広報。 キーワード:○セミナー開催、○広報</p>	<p>・共同で研究しているので発信していない。</p>	<p>・共同で研究しているので発信していない。</p>
233	<p>研究発表会を開催している 研究紀要を地域の公立小学校に配布している キーワード:○授業公開、○研究紀要</p>	<p>現状のまま</p>	<p>大学の図書館においている キーワード:○大学図書館</p>	<p>教育成果を大学に発信するだけでなく、授業公開していることを大学教員に今以上に周知し、より多くの教育学部の学生に実際に足を運んでもらうことを必要である。 キーワード:○宣伝</p>
234	<p>研究紀要や学習指導案(Webと紙) キーワード:○ビジュアル、○写真</p>		<p>研究紀要や学習指導案(Webと紙) 大学の研究誌、広報誌等 キーワード:○ビジュアル、○写真</p>	
235	<p>・研究協議会等において、本校の研究成果を発信している。 ・研究協議会参加者に事後アンケートを実施し、本校の研究内容を具体的に活用しているか調査する。 キーワード:○研究協議会等、○事後アンケート</p>	<p>・引き続き研究協議会等で発信していくことはもちろんのこと、HPやメディア等を通じて広く発信していきたい。 キーワード:○研究協議会、○ホームページ、○メディア</p>	<p>・年1回開催の教育実践フォーラムにおいて、研究成果を発表している。 ・研究協議会等への参加を促したり、冊子等を送付したりしている。 キーワード:○教育実践フォーラム</p>	<p>・検討中</p>

236	<p>毎年6月に、初等教育公開研究会を開催し、研究成果を地域へ発信しています。</p> <p>キーワード:○初等教育公開研究会, ○現職教育学校, ○研究成果</p>	<p>初等教育公開研究会の充実・発展</p> <p>キーワード:○初等教育公開研究会</p>	<p>初等教育公開研究会へ、共同研究者として参加している。</p> <p>キーワード:○共同研究者</p>	<p>大学教員と附属学校教員との、年間を通じた共同研究・実践に繋がっていくことを希望しています。</p> <p>キーワード:○年間を通じた共同研究・実践</p>
237	<p>・教育月刊誌『教育研究』の発行</p> <p>・書籍の出版(単著・編著・共著・監修)</p> <p>・全国各地の校内研究会、教育委員会主催の授業研修会等に講師を派遣し、研究成果を発信</p> <p>キーワード:○出版, ○書籍, ○研修会</p>	<p>・インターネットを使った発信</p> <p>キーワード:○インターネット</p>	<p>・4校研などを通して、情報を発信している。</p> <p>・年2回の研究会に講師として大学の先生をお呼びして情報を共有している。</p> <p>・教育雑誌『教育研究』を送付している。</p> <p>キーワード:○学会, ○研究会, ○4校研</p>	<p>・現状の方法を維持、強化したい。</p> <p>キーワード:○維持, ○強化</p>
238	<p>本校教員が研究授業の講師として指導助言を行う。地域教員が本校に来校し、本校教員による授業を参観し協議するという研修の場を提供すること。</p> <p>キーワード:○研究授業, ○地域教員, ○研修</p>	<p>現在、文科省から受諾している事業の研究成果を、地域教育界に積極的に発信する。発信は、研究発表会での授業公開、研究冊子の配布によって行う。</p> <p>キーワード:○研究発表会</p>	<p>研究会等の開催を、大学のホームページを活用して積極的に発信している。</p> <p>大学と附属学校との合同のセミナーで、研究成果を積極的に発信している。</p> <p>キーワード:○ホームページ活用</p>	<p>大学の研究紀要に研究成果に係る論文を積極的に投稿する。</p> <p>大学教員に対して、共同研究者を募るための発信を積極的に行う。</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○共同研究</p>
239	<p>・毎年、研究発表会・授業研究会を開催し、本校の研究の成果について発信している。</p> <p>キーワード:○研究発表会</p>	<p>・今後は研究の成果を発表するという視点よりも、自分の学びをデザインし、「じぶん de ラボ」「みんな de ラボ」を進めていく上で、地域の人材を活用し、学校外での学びの可能性を探っていきたいと考えている。</p> <p>キーワード:○地域の人材活用, ○学校外での学び</p>	<p>・現状では、研究成果を研究紀要にまとめ、それを大学に共有している。また、何年かに一度は研究成果を研究図書にまとめ研究の成果を広く一般に発信している。</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○研究図書</p>	<p>・本学の大学の先生と連携を深めていくことで、時には大学の先生に子どもたちのラボ活動を直接指導していただいたり、大学の授業の一環として本校の教育についての様子を学部生・大学院生に参観していただくなどの可能性が広がり、そのことを通じて成果が発信できればと考えている。</p> <p>キーワード:○大学教員によるラボ指導, ○学部・大学院生による授業参観</p>
241	<p>・紀要の配布による研究成果の発信</p> <p>・本校における教育研究会などの場の提供</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○教育研究会</p>	<p>・附属学校園全体としての研究成果の発信</p> <p>キーワード:○附属学校園全体</p>	<p>・研究紀要の配布</p> <p>・附属学校園フォーラムの開催</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○フォーラムの開催</p>	<p>・研究紀要の配布</p> <p>・附属学校園フォーラムの開催</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○フォーラムの開催</p>
242	<p>・研究会の開催</p> <p>・研究紀要から研究リーフレットへと、スリム化することにより、研究の内容や成果を簡潔に示すようにした。</p> <p>・研究会の日程を変更し、地域の公立学校職員が午後からでも参加しやすい日程とした。</p> <p>・ホームページの更新回数を増やした。</p> <p>キーワード:○研究会, ○スリム化</p>	<p>・附属小の取組をこまめに発信したり、なるべく簡潔に示したりする工夫。</p> <p>キーワード:○こまめに発信, ○簡潔</p>	<p>・大学関係者の研究会への参加要請</p> <p>・中期目標に沿った成果と課題を明らかにし、共有している。</p> <p>キーワード:○研究会参加, ○中期目標</p>	<p>・中期目標に沿った成果と課題の共有を今後も継続していく。</p> <p>キーワード:○中期目標, ○成果と課題, ○継続</p>
243	<p>・公開授業研究会(2年に1度)</p> <p>・ラウンドテーブル(2年に1度)</p> <p>・学びのワークショップ(年に複数回)</p> <p>キーワード:○公開授業研究会, ○ラウンドテーブル, ○ワークショップ</p>	<p>・今後も子どもの姿を通して発信したい。</p> <p>キーワード:○子どもの姿</p>	<p>・共同研究者のため、常に連携している。</p> <p>キーワード:○共同研究者, ○連携</p>	<p>・共同研究者として、さらに連携を深める。</p> <p>キーワード:○共同研究者, ○連携</p>

244	<p>初等教育研究会(隔年開催) 教職大学院の設置に伴い、公開研究授業(初等教育研究会)を計画的に松本地区と交代で隔年開催していくこととなり、昨年度は提案3教科(国語、体育、社会)及び全学級授業公開を行った。附属関係者、学部、保護者、一般参加者の総計は451人で、そのうち一般参加者は135人だった。研究紀要は資料として一般参加者に有料で販売している。 ラウンドテーブル(隔年開催) 初等教育研究会と同様の理由により、初等教委研究会と交互に隔年開催。小・中・特別支援学校の3校共済による。参加者には「中小企業家同友会」という、県内で中小企業を営んでいる方々が組織する集まりがあり、長野市の事業主のみなさんを中心に参加いただき、各校の現状や研究について知っていただく機会を得ている。 地域への授業公開 授業は研究と切り離せないものと考え、5月、10月に授業を開き、研究内容の一端を地域、保護者の方に見て頂いている。 キーワード:○提案教科, ○参加者数, ○隔年開催</p>	<p>初等教育研究会における研究公開 及びホームページにて キーワード:○子どもの姿, ○教育理念, ○授業実践</p>	<p>研究成果の報告としては附属学校園に所属している現職院生による教職大学院での発表・学会参加などの機会がある。特に平成29年度には校内研究の内容を教職大学院でさらに深め、学部の研究紀要に掲載するなど、理論と実践が往還していく研究が実現しつつある。今年度も附属長野小での同僚性の研究や地域素材の教材化についての論文・報告書などを教育学部の研究紀要に投稿(12月発行予定)している。このような機会を通して、これまで以上に附属学校園での実践に基づく研究が、学部の専門家教員の専門的な知見に触れ、より広くより深くなっていくよう考えている。 キーワード:○現職院生, ○理論と実践の往還, ○専門家教員の知見</p>	<p>現状通り キーワード:○現職院生, ○実践に基づく研究, ○紀要への投稿</p>
245	<p>研究会の実施 視察の受け入れ ホームページ キーワード:○研究会, ○視察, ○ホームページ</p>	<p>直接的に発信する方法を探りたい</p>	<p>特に行っていない</p>	<p>大学に附属学校の組織ができたので、そこを活用したい(担当の統括長がいる) キーワード:○大学組織</p>
246	<p>毎年恒例となっている研究会で発信していく。 幼小中の接続について研究していることから、研究会は幼小中の同日開催とし、各校種自由に参観できるようにしている。 キーワード:○研究会, ○幼小中</p>	<p>学習指導要領の改訂などタイムリーな教育課題や、地域の実情やニーズに応じた形にカスタマイズして発信していく。 キーワード:○地域ニーズ, ○教育課題</p>	<p>研究会指導者を大学教官に依頼しているが、単発ではなく共同研究者としてかかわっていく中で発信するようにしている。 キーワード:○共同研究者</p>	<p>大学の教職サポートセンター等を活用し、研究成果を大学教官や学生に伝えていく工夫を検討する。 研究会での発信を当面継続する。 キーワード:○研究会</p>
247	<p>・研究発表会・公開校内研究授業研修会での発信 ・研究紀要の送付、出版本での発信 ・各種研修会の指導講師として、本校の研究を発信 キーワード:○公立学校のニーズ</p>	<p>・公立学校の全教員が参加する小学校教育研究会の組織において、本校教員は各教科のリーダーの役を担っている。 その研修の場において、本校の研究成果を積極的に発信させたい。 キーワード:○公立学校のニーズ</p>	<p>・附属学校の研究成果をよく分かっている大学教員もいるが、そうでない教員もいる。温度差がある。 ・他学部や学長までは届いていないと思われる。</p>	<p>・①大学教員が附属学校に対して協力していること、②附属学校が大学に対して協力していることを文章にし、附属学校運営協議会等で伝える。 キーワード:○学部を超えた発信</p>
251	<p>地域の研究会にて指導・助言者として訪問させていただいたところで、研究内容・成果を発信している。 キーワード:○問題解決, ○非認知</p>	<p>地域の先生方に共同研究者を募り、本校の研究に携わっていただいたり、実践していただいたりする。 キーワード:○共同研究者</p>	<p>大学の研究室と附属との合同研修会にて、本校の研究成果を発信している。 キーワード:○問題解決</p>	
252	<p>春に実践研究発表会を開催し、地域の学校等への参加を呼びかけている(1日で20の授業を公開)。 秋に公開授業を行い、地域の学校等への参加を呼びかけている。(5日間で27の授業を公開) 教科で、学習会を開催し、地域の学校等への参加を呼びかけている。 キーワード:○分かりやすさ, ○授業づくりのヒント</p>		<p>日本教科教育学会で発表 研究発表会に大学教員を招き、参観してもらったり、協議に参加してもらったりする。 キーワード:○学会発表, ○研究発表会への招請</p>	<p>大学教員に附属学校での取組を知ってもらい、さらに共同研究の充実を図りたい。</p>
253	<p>・研究発表会(中間研究会を含む)は県内外に広く案内している。 ・研究成果をまとめた機関誌「人間教育」を県内学校に毎年配付している。 ・市立学校に研究協力校を3校もち、双方の研究会等へ参加している。 キーワード:○案内, ○機関誌, ○研究協力校</p>	<p>・割愛から地域の学校に戻った者が実践を広める。 キーワード:○割愛</p>	<p>・各教科に大学担当指導者がいる。 キーワード:○担当者</p>	<p>・大学内の支援委員会との連携を強化する。 キーワード:○支援委員会</p>

254	<p>・公開研究会(年1回)で授業公開・研究協議会を行っている。 ・研究紀要(各教科の紀要・実践例・指導案)を発行している。 キーワード:○公開研究会, ○研究紀要</p>	<p>・公開研究会の県内からの参会者を増やし、研究を発信して地域貢献に寄与したい。 キーワード:○ホームページ</p>	<p>公開研究会の開催を案内し、参会を呼びかけている。</p>	<p>今後の検討課題</p>
255	<p>市町等教育委員会主催の研修会に参加し、発信を行う研究協議会にて発信 キーワード:○授業実践, ○刊行物等</p>	<p>現在を継続しつつ、インターネットを活用し効率的に行う キーワード:○AI</p>	<p>大学の先生と連携し、発信を行う キーワード:○連携</p>	<p>相互の関係を密にして、協働的に行う キーワード:○協働</p>
256	<p>公開授業研究会、研究発表会を通して実践の発表をしたり、提案をしたりしている。 季刊誌を発行することで、本校の取り組みを発信している キーワード:○季刊誌</p>	<p>同様の方法を継続するとともに、地域の学校や研究会に出向いていく キーワード:○研究会の参加</p>	<p>発表会へ参加していただいたり、季刊誌を届けている キーワード:○ラウンドテーブル, ○季刊誌</p>	<p>共同研究推進連絡会を立ち上げたので、さらに連携を深めていきたい。 キーワード:○共同研究推進連絡会</p>
261	<p>視察や研究発表会等での授業公開を通じて、本校の研究成果の発信に勤めている。 また、各校の依頼に応じて、当該校での授業研究に参加したり、講師派遣を行い、指導助言するなどの活動に積極的に取り組んでいる。 キーワード:○視察, ○研究発表会, ○講師派遣</p>	<p>これまでも積極的に研究発表会の開催や視察受け入れを進めてきたが、より多くの人に本校に足を運んでもらうよう工夫を重ねたい。具体的には、地元教育委員会と連携するなどして、初任者や若手教職員が研修の機会等を通じて、本校の実践に触れられるようにしていきたい。そのために研修講座等向けへの授業公開や本校教員による講義・講話の開発を検討したい。 キーワード:○初任者等研修講座との連動, ○本校実践に触れる機会の増加</p>	<p>共同研究等に関わっていただいている大学教員や附属学校教育研究推進専門委員会等関係の教員を除いて附属学校の研究成果共有の意識が薄いと思われる。 キーワード:○連携意識の偏り</p>	<p>大学の講座と本校実践の関係性を深めたり、研究紀要への投稿等も検討し、大学の様々な場面で本校の研究成果に注目が集まるように進めたい。 キーワード:○大学講座との連携, ○研究紀要への投稿</p>
262	<p>本校の公刊図書や研究紀要を県内全ての小学校や市町教育委員会に配布。 年1回の教育研究発表協議会を開催し、授業公開、研究発表、協議会を実施。 本校教諭が、県内各市町の公立小学校に出向き、研修講師を務めている。 キーワード:○研究紀要, ○授業公開, ○講師派遣</p>	<p>市や県の教育センターとの連携を拡充し、「子供がいる研修センター」としての機能を強化する。 具体的には、研修講座において、本校が会場となる研修や、本校教諭が講師を務める研修の数を増やす。 キーワード:○県市との連携, ○子供がいる研修センター, ○講師派遣</p>	<p>本校の公刊図書を教育学部の全教員に配布。 本校の研究協議会の案内を教育学部の全教員に配布。 キーワード:○全教員, ○配布</p>	<p>大学の紀要等に、本校の実践を掲載してもらえるよう、科研費をとったり、大学教員と連名の研究論文を増やす。 キーワード:○科研費, ○研究論文, ○大学紀要</p>
263	<p>年間30回以上、学校安全に関する講義や学校見学の受入等を行っている。 公開授業研究会を実施し、授業の在り方を提案している。 公開不審者対応訓練を実施し、学校安全に関する危機意識を高めている。 キーワード:○研究会, ○安全, ○訓練</p>	<p>初任者研修や中堅教員研修を定期的に受け入れ、地域の研修拠点校として発信していく。 公開不審者対応訓練やSPSの普及を通して、国内外に学校安全の研究成果を発信していく。 キーワード:○拠点, ○安全, ○SPS</p>	<p>大学の教員等を公開授業研究会等に招き、研究成果を発信している。 本校教員が、大学生、教職大学院生に講義を行う中で、研究成果を発信している。 キーワード:○研究会, ○講義</p>	<p>大学生、教職大学院生が本校で学ぶ機会を増やし、学生の様子より大学に発信したい。 キーワード:○学生</p>
264	<p>研究紀要の配布。 研究成果・実践のホームページへの掲載。 教育研究会での授業公開。 キーワード:○研究紀要, ○ホームページ</p>	<p>教育研究会での授業公開や研究紀要の配布だけではなく、ホームページをより有効的に活用したい。 キーワード:○ホームページ</p>	<p>研究紀要の配布。 研究成果・実践のホームページへの掲載。 教育研究会への参加呼びかけ。 キーワード:○研究紀要, ○ホームページ</p>	<p>大学の先生方に教育研究会はもちろん、これまで以上に日常のとりくみも参観していただく機会を設ける。 キーワード:○教育研究会, ○日常</p>
265	<p>年間2~4回の公開研究会を開催して研究成果を発信している。また、研究機関誌を年4回発行している。県や市町村主催の教科ごとの研修会で実践事例を紹介している。 キーワード:○研究機関誌, ○公開研究会, ○研修会</p>	<p>夏休みに公開授業研究セミナーなどを開催して、自律的な学習・指導について発信していきたい。また、一定期間、現職教員を受け入れ、当校の具体的な教育実践を研修してもらいたい。 キーワード:○公開授業研究セミナー, ○教員研修制度</p>	<p>本学の教育システム研究開発センターの研究紀要に教育実践や教育研究の成果を公表している。 キーワード:○研究開発センター, ○研究紀要</p>	<p>当校が発行する著書の一部を大学の教育研究者に執筆してもらう。公開研究会に大学教員を招待する。 キーワード:○著書, ○公開研究会</p>

266	兵庫県、他府県や市町の教育委員会との連携を図り、各都道府県や市町に教職員が向かい、附属小学校の研究実践発表会を行っている。 人事交流元の各県や市町に向き、人事交流に関する説明や成果について伝えている。 県、市町の教育委員会の視察訪問を行っている。 キーワード:○実践発表会, ○人事交流	現在の人事交流先はもとより、他府県、他市町に、研究成果発表を積極的に行っていく。 キーワード:○研究成果発表会	実践交流会や研究発表会などを活用し、研究成果を大学に発信している。 一年間の研究の成果として提案要項や書籍にまとめて発信している。 キーワード:○実践交流会, ○研究発表会, ○研究の成果物	これまで通り、実践交流会や研究発表会などを活用し、研究成果を大学に発信していく。 一年間の研究の成果として提案要項や書籍にまとめて発信していく。 キーワード:○実践交流会, ○研究発表会, ○研究の成果物
267	複式授業研究会・公開授業研究会・研究発表会・ICT 授業研究会を開催し、授業等を提案している。 研究広報誌「LIVE 創 REATOR」として年間 4 回発刊している。(紙媒体と web 掲載) 一年間の研究成果を研究紀要としてまとめ、発信している。 キーワード:○研究発表会, ○研究広報誌, ○研究紀要	公立学校教職員ニーズを捉え、身近に感じられる内容を、活用しやすい形で手元に届けられるように工夫している。 キーワード:○ニーズ	研究成果の発信を地域に発信する際は、同様に、大学にも発信するようにしている。	特になし
271	公開研究会の実施 授業づくり研修会の実施 書籍の出版 キーワード:○研究会・研修会, ○書籍	県教委・市教委などの研修会の受け入れ キーワード:○研修受け入れ	附属学校園評価委員会実地調査 附属学校園評価委員会への報告書 キーワード:○実地調査, ○報告書	地域貢献に関して、公立学校等への還元について具体的な事例を報告 キーワード:○地域貢献
272	目的や対象を明確にし、そのニーズに合わせた公開授業や研究会を開催している。 本校の場合、複式教育・朝の会や帰りの会を含めた学級づくり・小中で行う各教科等の授業公開の年3回の公開を実施している。 キーワード:○目的や対象, ○ニーズに合わせた公開	公立小学校も予算や勤務の負担、自習体制の問題から平日の研究会参加が困難な状況がある。 ホームページでの研究紀要の公開など、先生方が求めている内容や具体的な方法を手軽に入手できるようにしたい。 キーワード:○ホームページ, ○手軽さ	大学からは特色を活かした実践の発信を求められている。また、持続可能な社会に向けての思い切った取り組みをうように言われている。これらの大学の求めに応えるだけの研究推進・成果の発信は現段階ではできていない。 キーワード:○特色を活かした実践	本、リーフレット、パンフレット等わかりやすく「見える化」を図る。 キーワード:○見える化
273	「研究だより」(年 2 回配付)により、研究への取組状況を分かりやすく発信。 キーワード:○研究だより	・「研究だより」の内容の充実や発行回数の増加。 ・小中一貫教育に関する授業づくり以外の取組の情報発信。(小規模研修会の開催) ・業務改善等、公立学校現場の課題に対する幅広い情報提供。 キーワード:○小規模研修会, ○現場の課題	・授業づくりの段階から学部教員と連携を図っており、成果についても共有できていると考えている。 ・大学の教授会で研究の取組について説明する機会が設けられており、直接の発信もできている。 キーワード:○共有, ○教授会	・学部教員との連携の強化。 ・学部への発信というよりは、学部との協働により、学外への発信ができるとうと考える。 キーワード:○連携強化, ○学部との協働, ○学外への発信
281	教育研究団体との連携		合同研修会の実施	
282	「悉驅嚮學」と名付けた学園だよりを年 2 回発行 ホームページに研究成果の抜粋を掲載 日常的に本校の研究集会を公立学校に公開 キーワード:○学園だより, ○ホームページ, ○研究集会の公開	研究集会の公開を拡充 キーワード:○研究集会	学部・附属合同研究会での発表 附属学園運営会議での研究内容紹介 研究発表会への参加の要請 キーワード:○学部・附属合同研究会, ○附属学園運営会議, ○研究発表会	研究開発学校指定に向けて、定期的な研究の方向性の紹介 日常の授業研究に大学の先生を講師として招聘 学部・附属合同研究会での発表の充実 キーワード:○研究開発学校, ○授業研究, ○学部・附属合同研究会
283	・教育研究発表会の際に、研究提案を行ったり、研究だよりを発行したり、ホームページ等で情報を公開したりしている。 ・授業づくりワークショップを年数回開催し、公立学校の先生方に授業づくりの在り方や教材研究について提案している。 ・日常の校内研究授業を公開し、公立学校の先生方に参観してもらって、研究内容について伝えている。 キーワード:○授業公開, ○研究だより, ○授業づくりワークショップ	・中堅研修や初任者研修等の各種研修に、本校の授業参観を位置付けてもらうことで、研究授業参観者を増やしたい。 ・公立学校との共同研究のような形にして、研究成果を伝え、一緒に研究を深めていきたい。 キーワード:○各種研修との連携, ○公立学校との共同研究, ○デザイン力	・大学との合同研究会ということで、毎年1回研究授業を大学の先生にも参観してもらい、研究提案も行っている。 ・研究紀要や研究だよりを送付し、研究内容を伝えている。 キーワード:○合同研究会, ○研究紀要, ○研究だより	・日常の研究授業についても参観してもらおうことで、研究内容及び成果を理解してもらおう。 ・研究成果について、実際に大学に行って、プレゼンテーションを行い、説明する機会をもつ。 キーワード:○日常の研究授業への参加, ○研究成果報告の場を設定

284	2年ごとの研究発表会と共に、その非開催年に公開授業研修会を開いて地域の先生方に授業を公開し、研修会を行っている。 キーワード:○研究発表会, ○授業研修会	可能であれば、校内の授業研究会等を近隣の学校へ案内するなどできればよいのでは無いかと考えている。 気軽に参加できる公開授業研修会の充実 県小学校教育研究会の各教科部会の研究に本校での研究成果をいかす。 キーワード:○公開授業研修会	本校の研究については、大学・大学院の教員との合同研究会を年に2〜3回開催している。 校内の授業研究会、研究発表会、授業研修会等の案内を大学ポータルサイトで行っている。 キーワード:○合同研究会, ○ポータルサイト	
291	各種研修会で、派遣研修を行い、そこで、本校の研究に基づいた授業等を公開している。 キーワード:○派遣研修	県の研修会等で、本校の研究の成果について発表する機会を設けたい	研究していることの情報提供 キーワード:○情報提供	
292	研究発表会での授業を公開したり、自主的な研究会への参加を呼びかけたりしている。 研究便りの配布 HP等での発信 キーワード:○授業公開, ○地域のニーズ	地域のニーズをより把握したい。 新学習指導容量の内容や各教科等の成果を積極的に発信したい。 キーワード:○ニーズ	研究発表会や研修会での情報を提供したり、助言者・協力者で協力をお願いしたりしている。 また、広報誌や研究便りを配布している。 キーワード:○積極的発信	大学としっかり連携し、どんなニーズがあるかを把握したい。 大学職員(教授等)との連携を図りたい。 人により意識の差が大きい。 キーワード:○ニーズ
293	年2回の授業公開 各教科等の自主研究団体主催の研究会における実践発表 教育関係の論文募集への出典 キーワード:○地域貢献, ○個人的な研究, ○業務改善	・必要な情報を必要な学校や団体、個人へ提供できるようにしたい。 キーワード:○情報化, ○個人のつながり	・学部長や事務長への報告 ・共同研究者への情報提供 キーワード:○研究内容, ○公開授業への参加人数	大学の中期計画等に沿った実践や成果の強調 キーワード:○アピール, ○予算
294	県の研修の場として本校の授業を活用してもらっている。 セミナーという形で授業を見せ、ともに学ぶ機会を作っている。 キーワード:○県の教育課題, ○授業づくり, ○エビデンス	地域の先生方が本当に活用できているのかを確かめながら、求められるものに応えられるような研究・実践を発信したい。 キーワード:○県の教育課題, ○人材育成, ○授業づくり	大学も地域貢献が使命であるので、方向性は同じである。 キーワード:○県の教育課題, ○人材育成, ○授業づくり	地域の先生方が何を求められるものに応えられるような授業実践を教育実習などを通して発信したい。 キーワード:○県の教育課題, ○授業づくり, ○人材育成
295	・例年、2月に教育研究発表会を実施し、研究紀要や学習案集で成果を発信している。 ・出前授業や出張講話の中で研究成果について発信し、認知・活用を図っている。 キーワード:○認知・活用の検証	・研究内容の認知、活用が図られるように、県内外の教職員に行き届くような発信の工夫を考えている。 キーワード:○認知・活用, ○発信形態の工夫	・研究紀要や学習案集を通して、研究成果を発信している。 ・共同研究を行った教科や領域においては、集約したデータや数値を基に検証している。 キーワード:○新たな連携の模索, ○データの編集	・進捗状況とともに現段階における成果や課題を積極的に発信し、よりよい共同研究を目指したい。 キーワード:○積極的に, ○リアルタイム, ○共同
296	公開研究会(2日間)、研究発表会(2日間) キーワード:○発表会	ホームページを利用して、公立学校への発信を充実させる。 キーワード:○ホームページ	附属学校運営員会での報告 キーワード:○附属学校運営委員会	ホームページに研究成果を掲載し、広く知らせること キーワード:○ホームページ
297	研究発表会での研究発表、授業提案、研究紀要などによる発信 研究著作物の発刊による発信 公立校の校内研修、教育研究サークルでの実践発表、教育研究会等での指導助言、講話による発信 キーワード:○研究発表会, ○研究著作物, ○指導助言、講師	インターネット等を用いた発信 クラウドファンディング等の活用 キーワード:○メディア	研究発表会及び研究紀要、研究著作物 キーワード:○研究発表会, ○紀要, ○研究著作物	数値、効果等のアウトカムが分かるような形(エビデンス)での発信 キーワード:○数値、効果, ○アウトカム
298	問2-10と同じです。 キーワード:○指導出張, ○若年教員, ○オープンスクール	問2-10と同じです。 キーワード:○指導出張, ○若年教員, ○オープンスクール	教育研究発表会の場で、研究成果をプレゼンテーションで発信しています。 研究紀要として冊子にまとめ、大学に報告しています。 キーワード:○教育研究発表会, ○プレゼンテーション, ○研究紀要	問3-5と同じです。 キーワード:○研究発表会, ○プレゼンテーション, ○研究紀要

311	<p>「紀要」「要項」等の文書での発信 Webページへ掲載 教育団体における実践情報の提供 出前授業や遠隔授業の様子を、実際に近隣学校教員や教育委員会職員に見てもらふ機会を設定 本校における授業実践の様子を、実際に教育委員会職員に見てもらふ機会を設定 キーワード:○必要な時に必要な情報を提供, ○積極的な提案, ○実際に参観</p>	<p>取組について、教育委員会により広く理解してもらい、教育委員会からも周知や活用を呼びかけてもらう。 キーワード:○実効性の周知</p>	<p>「紀要」「要項」等の文書での発信 日本学校教育実践学会での研究発表 日常的な大学の教科指導担当教員との連携</p>	<p>連携が一層密になれば、必然的に本校の取組を理解してもらえる仕組みを作っているため、この取組を充実させる。 キーワード:○日常的な連携</p>
312	<p>・各教科のセミナー開催時に教科研究成果を配付している ・HP等にも研究実践の授業案や資料をアップし発信している キーワード:○セミナー, ○ホームページ, ○アンケート</p>	<p>・近隣の教育委員会、各種教育研究団体との密接な連携体制を構築し、子どものいる教員研修支援センターとしての位置づけでの成果の発信 キーワード:○子どものいる教員研修支援センター</p>	<p>・各教科の共同研究者と適宜、大学教員を通じて附属の実践を発信している キーワード:○共同研究者</p>	<p>・附属は授業や教育臨床実践を提供し、大学が附属教員と共に研究論集等にまとめ、各紀要や学会発表等で発信する キーワード:○大学教員との共同研究, ○研究論集, ○学会</p>
313	<p>・教育研究大会実施(7月末) ・道徳科学習会実施(11月下旬) ※授業力向上セミナー ・研修への協力(各教科教育連盟、北海道各管内教育局、他市町村中学校等への出前授業や助言)6月～10月 合計5回 ・札幌市教育委員会主催の各教科授業実践研修での実践報告 キーワード:○共に学ぶ姿勢, ○多面的・多角的な視野からの思考</p>	<p>・地域の教育委員会との連携を更に深め、特に「若手教員育成」の視点から地域のニーズに応じていく。 ・研究大会だけではなく、学習会開催によって課題の共有化とはかると共に、実践例の提案や助言を行う。 キーワード:○教員研修機能の強化, ○若手教員の育成</p>	<p>・附属学校運営会議(年間6回程度)による定期的な情報共有 ・例年2月に行われている成果交流会(北海道教育大附属学校園)での実践交流 キーワード:○大学のガバナンス機能明確化</p>	<p>大学ホームページの有効活用</p>
321	<p>毎年開催する学校公開研究会では、これまでは隔年(これからは3年に1度)で研究紀要を作成し、参観者に配布してきた。 研究紀要を作成しない年は、研究総論、各論、各教科の実践例を提供している。 教育学部の教員と本校職員の共同研究である「学部GP」の成果を論文にまとめ、WEB上で公開している。 キーワード:○研究紀要, ○実践例, ○学部GP論文</p>	<p>毎年春の学校公開研究会での授業公開、研究紀要等の作成・配布、学部GP論文の公開等を今後も継続して行う。 今後は、校内研究会への参加案内を市ならびに周辺地域の公立校に出し、研究の過程ならびに成果を共有する場を持ちたい。 キーワード:○校内研究会, ○学校公開研究会, ○学部GP論文</p>	<p>共同研究者以外の学部教員に対しても、学校公開研究会への参加について案内している。 キーワード:○学校公開情報</p>	<p>教育学部との共同プロジェクトである、前記2-2「Society5.0時代の新しい学校教育の理論と実践」の成果を、教育学部教員と附属中教員が共同で論文にまとめ、年度末に3～4本公開する予定である。 キーワード:○論文</p>
322	<p>研究授業参観者へ指導案の公開。 キーワード:○研究実践の公開</p>	<p>これまでと同様の研究授業の公開。 ウェブサイトを利用した研究の経過や成果の発信。 キーワード:○研究授業の公開, ○ウェブサイトの有効活用, ○経費削減</p>	<p>年間数回実施している協同研究会において、協同研究者と顔を合わせて成果の確認。 研究授業の指導案や授業後の研究協議会の記録の公開。 キーワード:○協同研究, ○研究実践及び成果の公開</p>	<p>これまでと同様に協同研究会において、協同研究者と顔を合わせて成果の確認。 ウェブサイトを利用した研究の経過や成果の発信。 キーワード:○協同研究, ○ウェブサイトの有効活用</p>
323	<p>・県で毎年編集している「探究型学習に関わる報告書」に実践事例と研究成果を提供している。 ・教員向けの講演や教員対象の出前模擬授業等の実施。 ・HPに実践事例と研究成果を継続的に掲載している。</p>	<p>・出前授業の回数を増やす ・研究協力者の先生が所属する学校との連携を密にする ・県の教員研修計画の段階で連携をとり、研修会参加者を増やしたい</p>	<p>・校長が大学との連携会議などでプレゼンを行っている。 ・教科毎連携をとっている</p>	
324	<p>公開研究協議会、オープン研修会等の開催 副校長が校長連絡会で広報活動 市内中学校への実践記録動画等の配付 キーワード:○研究成果の還元, ○成果の追跡と深化</p>	<p>本校の教育実践に賛同してくれる学校との個別連携 地域の実態や要望に応じた研究実践活動 キーワード:○研究成果の還元, ○成果の追跡と深化</p>	<p>附属学校研究・研修委員会の設置 学部の教職高度化センターとの連携、実践研究紀要への論文投稿 キーワード:○連絡調整, ○コミュニケーション, ○選択と集中</p>	<p>学部と附属学校園の垣根を低くする取組の実践 キーワード:○組織の機能強化, ○連携の充実</p>

325	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果を研究集録としてまとめ、研究公開参加者に配付している。 研究公開等の授業案を本校ホームページにアップし、誰でも利用できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで時間と労力をかけて研究集録をまとめてきたが、その集録は、研究公開の参加者にしか渡らない。一人でも多くの先生方に研究の成果を理解してもらえるように、研究成果の発信の仕方を考えていきたい。 <p>キーワード:○負担軽減, ○簡略化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究の成果は研究集録にまとめている。できあがった研究集録を研究協力者である大学の先生に渡している。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで、研究成果の主な発信先は県内の公立学校だったので、大学への発信についても検討していきたい。 教育実習に関わる学生にも、研究成果が伝わるような方策を考えていきたい。 <p>キーワード:○学生への発信</p>
331	<ul style="list-style-type: none"> 2月実施の研究発表会 研究テーマに沿った本校教員製作による書籍出版 日常的な視察受け入れ及び講師派遣 <p>キーワード:○研究発表会, ○書籍出版, ○視察受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、従前のやり方をさらに発展させ充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2月実施の研究発表会 研究テーマに沿った本校教員製作による書籍出版 共同研究者を通じた発信 <p>キーワード:○研究発表会, ○書籍出版, ○共同研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、従前のやり方をさらに発展させ充実させる。
332	<ul style="list-style-type: none"> 10月実施の附属鎌倉小学校との小中合同研究発表会 日常的な視察受け入れ及び講師派遣 教員研修の場の提供 <p>キーワード:○研究発表会, ○視察受け入れ, ○講師派遣</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、従前のやり方をさらに発展させ充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月実施の附属鎌倉小学校との小中合同研究発表会 大学の教授等からの指導助言 <p>キーワード:○研究発表会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、従前のやり方をさらに発展させ充実させる。
333	<p>教育研究協議会の実施。研究紀要による研究成果の発信。HPによる研究成果及び実践題材などの公開。</p> <p>キーワード:○実践的授業研究, ○教育研究開発</p>	<p>教育研究協議会の実施。研究紀要による研究成果の発信。HPによる研究成果及び実践題材などの公開。</p> <p>キーワード:○実践的授業研究, ○教育研究開発</p>	<p>教育研究推進委員会での報告及び大学HPへ研究成果の掲載している。</p> <p>キーワード:○実践的授業研究, ○教育研究開発</p>	<p>引き続き、教育研究推進委員会での報告及び大学HPへ研究成果や実践題材などの掲載を継続していく。</p> <p>キーワード:○実践的授業研究, ○教育研究開発</p>
334	<p>5月、6月に授業研究会を実施している。研究紀要の原稿データを本校ホームページに掲載している。</p> <p>キーワード:○授業研究会, ○ホームページ掲載</p>		<p>大学教員は各教科の共同研究者を兼ねているので、その方には理解していただいていると思う。</p> <p>キーワード:○共同研究者</p>	
335	<p>公開研究発表会や教員研修会については、ホームページ上に掲載すると同時に、県内の小中学校に通知を出し参加を呼びかけている。授業後の研究協議会で研究の成果等を話すとともに、日頃の先生方の悩みを相談を受ける等、地域への貢献を図っている</p> <p>さらに、公開研究発表会の資料・要項等については開催後に全国の附属中に送付し、成果等の発表としている。</p> <p>また、年度末には、全国の附属中学校に本校の研究をまとめた研究論集を送付している。</p> <p>キーワード:○ホームページ, ○研究協議会, ○研究論集の送付</p>	<p>大学との連携の中で、本校の授業等が活用されたかどうかのエビデンスを示す方向で動こうかと模索中である。</p> <p>キーワード:○ホームページ, ○エビデンス, ○地域貢献</p>	<p>大学との附属学校園との連携がスタートしたので、共同提案者または指導助言者として研究に携わってもらうようになった。</p> <p>キーワード:○共同研究, ○共通のロードマップ, ○成果と課題</p>	<p>3-5に同じ</p>
336	<p>研究中間報告会や公開研究会を開催することで発信している。</p> <p>キーワード:○成果の還元</p>	<p>HP等での発信も検討し、より広範囲に発信したい。</p> <p>キーワード:○情報提供</p>	<p>大学の教員FDセンターを介して、本校の研究について学部教員の本校の授業の視察を推進している。</p> <p>教科によっては、共同研究に取り組んでいる。</p> <p>キーワード:○特になし</p>	<p>特になし</p>
337	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業等で作成した指導案をホームページ上で公開している。 <p>キーワード:○地域貢献, ○ホームページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを利用して、研究成果を発信したい。 <p>キーワード:○地域貢献, ○公立中でも実践できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要を配布している。 <p>キーワード:○相互理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要等の研究成果を配布する。 <p>キーワード:○成果と課題, ○発信内容の活用事例</p>

338	公開研究会、授業研究会の実施 研究紀要の送付 キーワード:○公開研究会, ○授業研究会, ○研究紀要	地域の教育研究会や職員研修等で紹介していく。 キーワード:○教育研究会, ○職員研修	附属学校の研究の成果を教育学部で取り纏め、 大学に報告している。	
339	教育研究協議会を毎年開催している。 研究紀要をHPで公開している。 地域の学校の研修会に講師として伺う。 キーワード:○教育研究協議会, ○研究紀要のHP公開, ○研修会の講師	本校の研究成果がどのように活用されているかを確認 する(一方通行で終わらせない)。 組織的な発信と並行して、個人的なつながりも大切に する。 キーワード:○研究成果の還元の確認, ○個人的なつながり	大学の研究紀要に発表する。 大学の附属学校研究紀要に発表する。 大学が主催するシンポジウムに講師として参加 する。 キーワード:○大学の研究紀要, ○附属学校研究紀要, ○シンポジウムの講師	紙面(活字)による発信だけではなく、生 徒の活動の様子を直接に見合いながら、 研究成果の報告や検討を行いたい。 学校全体としての発信と並行して、教科単 位や個人単位での発信も行う。 キーワード:○生徒の活動を見合う、 ○教科・個人単位の発信
340	毎年実施している公開研究会、研究紀要・研究書籍の発刊、 校内授業研究会を地域の公立学校に公開 キーワード:○公開研究会, ○地域の公立校に公開, ○研究紀要・書籍の発刊	引き続き、公開研究会を実施し、また校内授業研究会 を地域に公開する。 また、研究成果を積極的に書籍化し、一般に発信す る。 キーワード:○公開授業研究会, ○研究成果の書籍 化	毎年実施している公開授業研究会、研究紀要 や書籍による発信 キーワード:○公開授業研究会, ○研究成果の書籍化, ○研究紀要	公開授業研究会の実施や、研究成果を 研究紀要や書籍にまとめ、積極的に発信 する。 キーワード:○公開授業研究会, ○研究紀要, ○積極的に発信
341	北陸3県への教育研究発表会の案内発送 北陸3県への紀要の発送 国研や自校ホームページでの成果発信 書籍等への寄稿 中教研での発表 キーワード:○紀要発送, ○ホームページ, ○書籍への寄稿	上記の現状を継続する。 加えて、研究会を市・県教育委員会と共催で行なうこと を検討したい。 キーワード:○教育委員会との共催	紀要の発送 大学・附属学校園とのフォーラムでの実践報告 キーワード:○紀要の発送, ○フォーラム	メールによる校内研究会の案内送信 キーワード:○校内研究会案内送信
342	研究の進捗状況、成果や公開授業などを掲載した研究だより を地域の中学校に配信している。 年に一度の研究協議会のほか、教科単位で授業公開を行っ ている。 キーワード:○研究だより	ICTを活用したデジタル配信による成果の発信 キーワード:○ICT機器, ○デジタル配信	期目標期間の業務実績に係る自己点検・報告 書 研究協議会への参加 キーワード:○自己点検	大学教員と附属学校職員の連携を深め、 研究成果を共有する。 キーワード:○成果の共有
343	・研究紀要の提供 ・各種研修会での実践発表(生徒の発信も含む) ・地域の教育会刊行誌への投稿 キーワード:○研究紀要, ○実践発表	・地域の先生方が気軽に授業参観をしてもらえるように したい。 ・ホームページなどによる実践の発信 ・総合的な学習の時間を通じて、生徒達ともに地域で 活動を行っていく ・地域の先生方と一緒にラウンドテーブルの充実 キーワード:○ラウンドテーブル, ○総合的な学習の時間	・学部・附属共同研究会の開催(年1回の総会、 ワーキンググループごとの研修会) キーワード:○ワーキンググループ, ○学部・附属共同	・現状のままでよい キーワード:○現状
344	HPを通して、春の公開授業研究ならびに教育研究発表会の 指導案の無料ダウンロードによる発信 日本教育新聞社等を通して、当校の学習評価(プログレスカ ード、評価課題設定の工夫)の発信 教育実践を一般書籍にまとめ発刊し、地域・全国の教育関係 者に発信 文部科学省 AL 事業指定校として、アクティブ・ラーニングサミ ット 2019 東京 & 京都会場で2回実践発表 OECD 日本イノベーション教育ネットワークの実践校として、 OECD・Education 2030 への実践ビデオの寄稿 キーワード:○HP・メディア活用, ○書籍発刊, ○指定校事業	○HPを通して、指導案の無料ダウンロードによる発信 ○メディア等を通して、当校の研究実践の発信 ○教育実践を一般書籍にまとめ発刊し、地域・全国の 教育関係者に発信 ○指定校事業を通した実践発表 キーワード:○HP・メディア活用, ○書籍発刊, ○指定校事業	○大学への発信は現在していない	○大学の研究実践紹介 HP への掲載募 集時期に、当校の研究論、各教科、領域 の実践を応募し、発信していく。

345	<p>・年に1回研究協議会を開催している。研究協議会では、全体発表により、研究の概要を理解してもらい、授業を見る視点を与える。公開授業では、研究の視点に立って参観してもらい、研究の成果を具体的な姿で見ってもらう。協議会においては、成果と課題を共有することで、地域へ発信している。また、紀要を作成し、研究協議会に参加された方に配布している。 キーワード:○公開授業・協議会, ○全体発表, ○紀要</p>	<p>・研究協議会の公開授業だけでなく、中間検討を行う授業においても地域の先生の参加を呼びかけ、途中経過も含めて地域に発信していきたい。 ・ウェブ上での研究成果の公開 キーワード:○中間検討会</p>		
346	<p>研究紀要を県内中学校、高等学校に送付している。 キーワード:○研究紀要</p>	<p>・HPによる発信 キーワード:○HP</p>	<p>・研究紀要の送付 ・指導助言者、研究協力者として、日々の共同研究の中で成果を共有している。 キーワード:○日々の共同研究, ○研究紀要</p>	<p>これまでと同様の方法で行ってきたい。 キーワード:○日々の共同研究, ○研究紀要</p>
351	<p>生活教育研究協議会を開催し、授業提案及びその研究協議を行っている。 毎年の研究の取り組みについて、「あゆみ」として著し、生活教育研究協議会等で配付している。 キーワード:○特になし</p>	<p>特になし</p>	<p>特になし</p>	<p>特になし</p>
352	<p>年に一度研究発表会として、授業公開と協議会を行うことで発信している。 研究紀要を作成し、研究発表会の際や地区への挨拶で配布している。 キーワード:○研究紀要, ○公開授業, ○地域のニーズ</p>	<p>研究発表会以外の公開授業を積極的に行う公立学校教員との情報交換の機会を設定していくHPでの情報公開 キーワード:○公開授業, ○情報交換会, ○HP</p>	<p>研究紀要の配布 キーワード:○研究紀要</p>	<p>大学の教科教育の立場から、もっと日常的に研究実践に係わる形での情報発信や指導をお願いしたい。 キーワード:○日常的な研究実践として</p>
353	<p>本校のプレ公開授業研究会、公開研究会、研究紀要等で発信 地域の研究会・研修会等に参加して発信 キーワード:○研究紀要, ○本校の研究会等, ○地域の研究会等</p>	<p>ホームページ、研究だよりなどの活用を図りたい。 教育関係だけでなく、研究に関わる多方面に発信していきたい。 キーワード:○ホームページ, ○多方面への発信</p>	<p>研究の推進にあたり、指導助言をいただきながら、本校の取り組みへの理解をいただいている。 研究の成果を紀要にまとめ、大学にも送付している。 キーワード:○研究推進における指導助言, ○研究紀要の送付</p>	<p>可能なものは論文として大学の論文集に応募していきたい。 キーワード:○論文</p>
354	<p>学校ホームページの「教育研究」に研究成果を掲載する。 地域の学校の先生が、教科研究会に参加し、本校の研究成果を自校に持ち帰る。 キーワード:○学校ホームページ, ○教科研究会</p>	<p>学会での発表や、論文・教育誌等への寄稿によって発信していきたい。 キーワード:○学会, ○論文</p>	<p>教育学部の研究紀要などに、教育学部の先生と論文を寄稿する。 キーワード:○研究紀要, ○論文の寄稿</p>	<p>教育学部の先生との共同研究をさらに増やし、大学・学部内での情報ツールに掲載されるようにする。 キーワード:○大学の情報ツール</p>
355	<p>・教育研究協議会・発表会の実施。 ・教育研究だよりの発行。 ・教科研修会の実施。(大学との連携実施もあった) キーワード:○教育研究協議会, ○教育研究だより, ○教科研修会</p>	<p>・今年度、教科研修会は理科、美術、家庭科で実施した。次年度は、実施教科や開催数が増加できるとよい。 キーワード:○教科研修会の拡大</p>	<p>・研究紀要の作成。 ・大学リポジトリへの掲載。 キーワード:○研究紀要の作成, ○大学リポジトリへの掲載</p>	<p>・大学リポジトリへの掲載数の拡大。 キーワード:○大学リポジトリへの掲載拡大</p>
356	<p>例年10月に行われる教育研究発表会が、地域だけでなく、全国に向けて教育研究の成果を発信する大きな機会となっている。研究紀要は大学のリポジトリにアップロードされている。その他は、上記2-10に記載した機会を生かして、本校の研究成果を発信している。 キーワード:○教育研究発表会, ○リポジトリ</p>	<p>特に新しい企画は考えられていない。</p>	<p>教育研究発表会では、各教科で大学の先生方を1~2名、共同研究者としてお招きしている。上記3-1に記載したリポジトリを通して、成果を確認できる環境を整えている。 キーワード:○共同研究者, ○リポジトリ</p>	<p>特に新しい企画は考えられていない。</p>
361	<p>研究協議会を開催し、広く研究の成果を公開するとともに、県総合教育センターと連携し、ステージ研修の場のひとつとして位置づけてもらい、研修の成果の普及も含めて学ぶ場としていただいている。 キーワード:○学ぶ場, ○研修連携</p>	<p>多くの方に「授業」を見ていただき、「授業」について語り合う中で、「授業に困ったら。附属へ聞け!」と言ってもらえるようにする。 キーワード:○授業に困ったら。附属へ聞け!</p>	<p>研究に対して指導助言をいただくことで、成果の発信としている。 キーワード:○指導助言を通じて</p>	<p>研究協議会などにおいて進んで指導助言を求めることで、何に取り組んでいるかについて把握してもらおう。 キーワード:○指導助言の機会を活かす</p>

362	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究会の開催 ・教員向け授業公開の開催 ・研究集録の発送 <p>キーワード:○集録の公開, ○授業公開, ○研究会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員向け授業公開日の増加 <p>キーワード:○授業公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究集録の送付 ・研究会での指導助言の依頼 <p>キーワード:○研究集録, ○指導助言</p>	
363	<p>現状は、研究発表会を実施したり、研究報告書(研究紀要)を発行したりして、研究成果を世に問うことが多い。また、一部はホームページに掲載することもある。</p> <p>キーワード:○研究発表会, ○研究報告書, ○ホームページ</p>	<p>研究発表会などの申込み書やアンケート用紙にメールアドレスを記入してもらい、追跡調査をさせてもらうようにしている。</p> <p>キーワード:○メール, ○追跡調査</p>	<p>大学ホームページへの掲載、学内(教員、学生)向け掲示、図書館への寄贈</p> <p>キーワード:○ホームページ, ○掲示, ○図書館</p>	新しい方法を開発したい
364	<p>本年度から、年4回(+特別支援学級教育研究会)の公開研修会を開催し、県内外から参加を募っている。毎年、研究紀要を配付している。ホームページでの情報発信</p> <p>キーワード:○公開研修会, ○研究紀要, ○ホームページ</p>	<p>ホームページの研究に関するコンテンツを充実させたい。</p> <p>本校の取組について、小冊子にまとめて地域の公立学校に配付したい。</p> <p>本校の取組について、著書を発行し、広く世の中に知らしめたい。</p> <p>キーワード:○ホームページ, ○小冊子, ○著書</p>	<p>大学のセンター紀要に本校の取り組みについて寄稿している(総合、生徒指導、学級経営、教育実習、道徳、体育など)</p> <p>キーワード:○センター紀要</p>	特にありません。
365	<p>公開研修の機会に資料を提供 研究のまとめ冊子を、各教育委員会及び近隣学校に送付、WEBで公開 学校や教育委員会の要請を受けて、授業公開等の研修機会を提供 大学において教育学部連携事業報告会での発表および報告書</p> <p>キーワード:○教員研修, ○WEB</p>	<p>人事交流を活用し、本校に勤務した教員が、転任先の学校や地域において、研究成果を活用した実践を普及する。</p> <p>WEB上の成果コンテンツに対して、教員がよりアクセスしやすい仕組み、活用したことを把握・集約する仕組みを工夫。</p> <p>キーワード:○人事交流, ○実践による普及, ○WEB</p>	<p>附属学校部をとおして報告 研究のまとめ冊子を送付</p> <p>キーワード:○まとめ冊子</p>	<p>学内メール等を活用して、全教員に対して定期的に成果を発信する。</p> <p>キーワード:○全体周知, ○メール活用</p>
371	<p>県下教育委員会・教育事務所、公立学校に教育研究発表会の案内を送付している。</p>	<p>普段の授業実践、教育活動に対する参観希望の受入</p> <p>キーワード:○地域貢献</p>	<p>学部教員に教育研究発表会の案内を送付している。</p> <p>キーワード:○学部との連携</p>	<p>指導・助言者から研究協力(同人)者への移行</p> <p>キーワード:○学部との連携</p>
372	<ul style="list-style-type: none"> ・文献の発行、公開研究会の開催 ・研修会講師、大学の授業等 ・参観、視察の受け入れ <p>キーワード:○文献の発行, ○公開研究会, ○視察受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会の地域公立学校等の受け入れ人数、地域公立学校等の本校の研究の反映状況、地域公立学校等の本校の研究の反映内容の把握、とこれまで内容をステップアップさせて来た。よって、今後は本校の研究の反映内容を分析しながら、地域公立学校のニーズにあった内容を発信していきたい。 <p>キーワード:○地域公立学校等, ○ニーズ, ○把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発の報告書、出版物等成果物の共有、公開研究会での指導・助言、大学評議員会実地委調査での報告。 <p>キーワード:○成果物, ○指導・助言, ○大学評議員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学部への発信はしているが、他学部、大学幹部への発信をより一層したい。 <p>キーワード:○他学部, ○大学幹部</p>
373	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要の送付 ・授業実践事例のWeb公開 <p>キーワード:○相互参加, ○Web公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Web公開による発信 ・研究会や授業公開への相互参加を通じた発信 <p>キーワード:○相互参加, ○Web公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「中等教育研究紀要」を広島大学学術情報リポジトリに登録 <p>キーワード:○学術情報リポジトリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の推進による成果発信 <p>キーワード:○共同研究</p>
374	<p>近隣地域の教員に研究会へ参加してもらえるよう努めている。</p>			
375	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表大会による成果の発表 ・「研究だより」を年間2回発行 ・教科ごとの学習会、勉強会等の開催 ・コミュニティ・スクールの機能を活かした成果の発表 <p>キーワード:○研究発表大会, ○研究だより, ○コミュニティ・スクール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとの研究会を充実させ、地域の方と気軽に話し合う機会を増やしたい。 ・研究発表大会の開催時期、規模、頻度についての再考 ・コミスクを活用した、ユニット型研修等の充実 ・事後アンケートの実施による効果の検証 <p>キーワード:○研究発表大会, ○エビデンス, ○ユニット型研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究段階から積極的に参画していただき、研究発表大会等で評価していただく ・刊行物の送付 ・研究発表大会事後アンケートの実施と分析 <p>キーワード:○事後アンケート, ○刊行物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の抱える課題を大学と共有し、大学のもつ知見、教育資産を活用して解決を図り、その結果を大学に提供することで研究の一助となるような体制づくり <p>キーワード:○知見共有, ○大学の教育資産</p>

376	<p>○研究発表会を幼稚園、小学校と合同で行っている。県教委、市教委の後援をもらっている。県の初任研校外研修にあてられている。</p> <p>○県の「授業アドバイザー」事業として、公立学校の要請により、附属学校教員が研修会等の指導助言にあたっている。</p> <p>○市町の教育研究会からの要請により、研修会の指導助言にあたっている。</p> <p>キーワード:○情報発信</p>	<p>○研究発表会だけでなく、日常的に附属学校が公立の現職教員の研修の場になるようにしていきたい。</p> <p>キーワード:○附属学校研究内容の周知</p>	<p>○附属学校の研究成果を附属学校側から積極的に発信していない。</p> <p>○現在、幼小中一貫教育についての実践研究を行っているところであるが、一貫教育については大学の第3期中期目標・中期計画に基づくものであるため、大学の要請によるものであると認識している。</p> <p>○大学教員との共同研究も教科ごとに行っており、大学の教育実践センターで研究の成果がまとめられている。</p> <p>キーワード:○共同研究</p>	<p>大学教員のFDの場になるよう、附属学校の研究内容を大学の全教員に発信できるとよい。</p> <p>キーワード:○大学教員のFD</p>
377	<p>博報財団の研究助成を受けており、成果は財団主催の報告会で発表予定。</p> <p>他は2-10に記載</p> <p>キーワード:○研究助成</p>	<p>ホームページを活用した情報発信</p> <p>キーワード:○ホームページ</p>	<p>研究紀要に掲載の研究成果のPDFファイルは鳥取大学研究成果リポジトリで公開している。</p> <p>キーワード:○研究成果リポジトリ</p>	<p>3-5の取り組みを継続</p> <p>キーワード:○3-6と同じ</p>
381	<p>毎年2月に教育研究大会を実施し、地域の学校教員の研修の場としている。</p> <p>本校のホームページで研究成果を公表している。</p> <p>本校では一人一研究として、各教員が年1回以上の研究授業を行っている。それを公立学校に案内して、自由に参観できるように機会を設けている。</p> <p>希望する公立学校に研修講師として訪問し、本校の研究内容について周知している。</p> <p>キーワード:○教育研究大会、○ホームページでの公表、○研究授業の公開・出前授業</p>	<p>これまでの研究成果を教科別にデータベース化して、ホームページ上で公開し、地域の先生方が利用しやすいようにしたいと考えている。</p> <p>校内の研究授業にできるだけ多くの地域の教員が参観してもらえるよう、県や市町の教育委員会に働きかける。</p> <p>キーワード:○研究成果のデータベース化、○教育委員会との連携</p>	<p>毎年2月に教育研究大会を実施し、大学教員に案内をし、授業参観や研究協議に参加してもらっている。</p> <p>本校では一人一研究として、各教員が年1回以上の研究授業を行っている。それを大学に案内して、自由に参観できるように機会を設けている。</p> <p>4月の大学附属合同研修会において、教育連携コーディネータが企画した、大学と附属の共同研究の成果に基づいたシンポジウムを開催している。</p> <p>キーワード:○教育研究大会、○研究授業の公開、○大学附属合同研修会</p>	<p>研究成果を、現職教員である教職大学院生に公立学校等で実践・検証してもらおう。</p> <p>毎春の大学附属合同研修会以外に共同研究の成果報告を発表する場(例えば、卒論発表会やパネル)を設け、大学教員に附属の研究・取組を知ってもらおう。</p> <p>キーワード:○教職大学院生による実践・検証、○共同研究発表</p>
382	<p>2年に1度行われる研究発表会で、県内の先生方に来校いただき、研究成果を見ていただく。</p> <p>若年研修の授業を本校が引き受け、授業を実際に行って一緒に研修をしたり、授業づくりをサポートしたりする。</p> <p>研究授業等を受け持っている公立中学校教員に、本校教諭が授業づくりのサポートを行う研修会を持っている。</p> <p>キーワード:○研究発表会、○若年研、○授業づくりサポート</p>	<p>研究成果の発信で最も求められることは、授業づくりのネットワークづくりだと考えている。</p> <p>教材と一緒に開発する、複数の学習形態のパターンを共有する、カリキュラムマネジメントの在り方を研修するなどのこれらの教員養成に関わるコミュニティづくりの核に本校の教員が位置づいて、地域の教育力の向上に貢献することが、研究成果の最も効果的な発信の在り方であるとする。</p> <p>キーワード:○授業づくりネットワーク、○コミュニティ、○教員養成</p>	<p>合同研究会集会有り、大学関係者、附属幼小中特別支援学校関係者、大学生等が一堂に会し、研究成果をポスターセッションするという場を設けている。</p> <p>『香川大学教育学部 研究報告』、『香川大学教育実践総合研究』等の研究報告書に実践を紹介する。</p> <p>本校の『研究報告』を発行する。</p> <p>キーワード:○合同研究会集、○研究報告書</p>	<p>研究報告書を発行し、大学に提出するにとどまらず、協働で教育研究を行い、その内容について合同研究会集会で報告する等の人的交流を進め、研究成果を共有していきたい。</p> <p>キーワード:○合同研究会集、○人的交流、○研究成果の共有</p>
383	<p>・本校教育研究発表会に近隣中学校全教員が参加して一斉研修を実施</p> <p>・坂出綾歌地区教育研究会の定期的開催される研修会に参加及び指導・助言</p> <p>・公開授業やオープンスクールの開催</p> <p>・研究だより等の発行</p> <p>・近隣中学校の全教員に対するアンケート調査の実施</p> <p>・各市町教育長や教育事務所長との懇談会の実施</p> <p>・研究成果や附属改革の詳細をホームページに掲載</p> <p>・地域の方々の学校行事等への参画</p> <p>キーワード:○近隣公立学校との密接な連携、○公開授業やオープンスクール、○地域の方々の参画</p>	<p>・コミュニティスクール化を進めることで、地域の方々にも愛される必要とされる附属学校へ</p> <p>キーワード:○地域の方々への発信</p>	<p>・教育研究発表会や学校行事などに、学長、学部長、副学部長を初めとする多くの教授に来てもらう。</p> <p>・定期的に開催する連絡協議会や懇談会を通して発信している。</p> <p>キーワード:○発表会等への参加、○定期的な懇談会での発信</p>	<p>・研究成果を大学に発信するというより、現在行っている大学との共同研究を大切にして、ともに成果を見いだすというスタイルがよいと考えている。(大学との協働及び大学のガバナンス強化)</p> <p>キーワード:○共同研究、○ともに成果を見いだす、○大学のガバナンス強化</p>

384	<p>校長会、教頭会での紹介、ホームページでの発信、複数教科の教科部会において事務局を担当。</p> <p>キーワード:○教科部会, ○事務局, ○ホームページ</p>	<p>今以上に、授業をみてもらい、研究協議する機会をふやしたい。</p> <p>現在は、地域の公立学校と一緒にローテーションを組み授業研究会を実施しているので、年間2教科～3教科の授業公開。</p> <p>キーワード:○授業研究会, ○ローテーション</p>	<p>研究授業等の際には、関係教科の先生方に案内を出して参観してもらっている。</p> <p>教科ごとにそれぞれの担当教科の先生に相談に行き、アドバイスをもらっている。</p> <p>キーワード:○研究授業, ○アドバイス</p>	<p>附属学校部会を通して、附属学校部長から、進捗状況等に関しても、広く多くの先生方に理解いただきたい。</p> <p>キーワード:○附属学校部会, ○附属学校部長</p>
391	<p>公開研究会の実施 研究内容のホームページ掲載 総合的な学習の時間の研究実践を生徒の発表(研究発表会、文化祭等)とおして発信 キーワード:○公開研究会, ○ホームページ, ○総合的な学習の時間の発表</p>	<p>公開研究会の充実 各教科等による授業研究会の実施 県教育委員会と連携した各教科等の研修会の継続 ○各教科等による授業研究会, ○県教育委員会との連携</p>	<p>総合的な学習の時間の研究実践を、生徒による発表をおして行い、大学の構内で大学職員向けに発信する。</p> <p>キーワード:○総合的な学習の時間, ○生徒による発表, ○大学の構内での発信</p>	<p>総合的な学習の時間の研究実践を、生徒による発表をおして行い、大学の構内で大学職員向けに発信する。</p> <p>キーワード:○総合的な学習の時間, ○生徒による発表, ○大学の構内での発信</p>
392	<p>各教科の研究会等で発信 本校の研究発表会で発信 ホームページで発信 キーワード:○研究発表会, ○ホームページ, ○研究会</p>	<p>ICTの活用</p> <p>キーワード:○ICT</p>	<p>各教科の講義を職員が受け持つ 教育実習の事前・事後指導 キーワード:○交流, ○教育実習</p>	<p>特になし</p>
393	<p>毎年5～6月に研究公開を行い研究テーマについての発表や授業提案を行っている。</p> <p>「FBS」という名称のもと、他の学校からいつでも学校参観等ができる制度を設定している。</p> <p>キーワード:○現職教員の参加者不足, ○駐車場の確保</p>	<p>FBSの制度を幅広く知ってもらおう。</p> <p>地域の中の学校というイメージを持ってもらうために、生徒が地域貢献できるような体制をつくっていく。</p> <p>キーワード:○地域貢献</p>	<p>毎年大学が募集している研究紀要を作成している。</p> <p>キーワード:○研究紀要</p>	<p>研究授業前に研究テーマについて発表し指導を頂いているので、それを継続していく。</p> <p>キーワード:○授業研究</p>
394	<p>・研究発表会の開催(公開授業研究会, 大学・三附属中学校共同研究発表会, 本校研究発表会を三年計画で開催) キーワード:○使命, ○モデル</p>	<p>本校満足型ではなく、地域の学校で活用してもらえるように、具体的にわかりやすく発信すること。</p>	<p>年度末に、一年間の「研究のまとめ」を冊子にまとめて発信している。</p>	
431	<p>SGHの成果物として作成した探求学習の進め方についてのパンフレットを、近隣都県の公立高等学校に送付するとともに、HP上に公開した。</p>	<p>研究課題が地域密着ではないので、地域への発信に困難を感じている。</p>		
432	<p>附属学校それぞれの活動を教育局で発表する場があり、附属学校教員だけでなく地域の方にも目に触れる機会がある。</p> <p>地域への取り組みとして、文京ラグビースクール活動支援(小学生へのラグビー普及活動の一環として)を行っている。</p> <p>教科によるが、美術・工芸関係の教員は、今年度は根津での個展開催、来年度作品発表の場所として、豊門会館(静岡県駿東郡小山町)、筑波大学東京キャンパス、ホテル雅叙園東京の3会場を予定している。</p> <p>キーワード:○附属学校教育局, ○文京ラグビースクール, ○展覧会</p>	<p>3-1の内容を継続したい</p>	<p>教育研究大会や教科による合同研究会に大学の先生方に参加していただく(助言者も含め)。</p> <p>キーワード:○教育研究大会, ○小中高合同研究会</p>	<p>3-5の内容を継続したい</p>
433	<p>研究大会およびフォーラムの開催</p>	<p>IB体験授業の実施 教育フォーラムの開催</p>	<p>事業報告書等</p>	<p>IBDPについては最終試験合格者数などの客観的事実を伝える 文科省事業などについてはできるだけ、客観的な指標を用いて成果を発信するようになりたい</p>
434	<p>現職研修会の開催、公開教育研究会の開催、東京都教育委員会の後援 キーワード:○現職研修講座, ○公開教育研究会, ○教育委員会の後援</p>	<p>現職研修会の開催、公開教育研究会の開催、東京都教育委員会の後援などをパンフレットやHPで発信する。</p> <p>キーワード:○後援, ○パンフレット, ○HP</p>	<p>研究紀要を大学のHPに公開</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○HP</p>	<p>研究紀要を大学のHPに公開するだけでなく、共同研究などを通して共有する。</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○HP, ○共同研究</p>
435	<p>地域の小学校へへの出前授業</p>		<p>大学構内での課題研究発表会の実施</p>	

441	本校研究大会への招待 公立高校との課題研究合同発表会 北信越 SGH/WWL フォーラムの開催 県校長会、北信越校長会での実践報告 キーワード:○合同発表会, ○研究大会, ○実践報告	北陸地域の高校と合同でアドバンス・ラーニングネットワークを構築することにより、本校の研究成果を発信していく。 キーワード:○アドバンス・ラーニング・ネットワーク	学校教育学類・附属学校園研究フォーラムにおける発信 キーワード:○研究フォーラム	
451	シンポジウムを開催し、研究成果の発表とそれに対する協議などを行っている。また、研究紀要をHPに掲載している。 キーワード:○研究紀要HP掲載	シンポジウムや研究紀要などを積極的にPRする機会を増やしていきたい。 キーワード:○PRの促進	研究紀要の配付。 キーワード:○研究紀要	大学の連携課への積極的な働きかけ キーワード:○大学の連携課
461	実践研究発表会の開催 研究成果報告書の発刊 開発プログラムの他校での実施 キーワード:○研究発表会, ○研究成果報告書, ○他校実施	他校実施の拡大 教育委員会主催の研修会等での発表 大学主催の研究会等での発表 キーワード:○他校実施, ○教育委員会, ○高大接続	大学広報での発信 大学主催の附属学校園研究発表会 キーワード:○大学広報, ○附属学校園研究発表会	全大学教員への発信の機会設定 キーワード:○全大学教員
462	池田地区小中高合同研究発表会での公開授業、研究協議各教員の地域の研究会等での発表 キーワード:○研究発表会, ○公開授業, ○研究協議	地域の教科ごとの研究会を通じて、授業改善や教材研究等に関心のある教員への発信を強化する。 キーワード:○地域の研究会	合同研究会(公開授業、研究協議)の見学依頼、当日の参加者アンケート結果の報告 キーワード:○研究会見学, ○参加者アンケート	実質的に合同して行った研究成果を研究集録として編集し、HPで公開する。 キーワード:○研究集録
463	教育研究会を開催し、研究成果を発信する。研究集録を発行し、地域の学校等に配布する。生徒研究発表会を開催し、教育の成果を公開する。 キーワード:○教育研究会, ○研究集録, ○生徒研究発表会	学校WEBサイトの内容を充実させる。授業研究会等、地域教員の集まる機会を増やす。地域の研究会等への本校教員の派遣を増やす。 キーワード:○WEBサイト, ○公開, ○講師派遣	附属教員と大学教員の研究交流会で研究・実践の発表をしている。生徒研究発表会で多くの大学教員が評価者として参加している。 キーワード:○研究交流会	大学教員の附属校見学の機会と人数を増やし、現状を知ってもらう。大学の研究紀要に掲載する論文数を増やす。 キーワード:○学校見学, ○研究紀要
471	・研究紀要およびSSH研究開発実施報告書の送付 ・授業実践事例のWeb公開 ・SSH課題研究発表会への相互参加と交流 キーワード:○相互参加, ○Web公開	・Web公開による発信 ・研究会や授業公開への相互参加を通じた発信 キーワード:○相互参加, ○Web公開	・「中等教育研究紀要」を広島大学学術情報リポジトリに登録 ・SSH研究開発実施報告書および課題研究論文集の発刊、送付、Web公開 キーワード:○学術情報リポジトリ	・共同研究の推進による成果発信 キーワード:○共同研究
481	冊子やデータの配布、ホームページ上での公開、コンソーシアムの設置・運用 キーワード:○知名度の向上, ○一般化, ○Win-Win	現状通り キーワード:○現状通り	冊子やデータの配布、ホームページ上での公開、学会等での発表 キーワード:○知名度の向上, ○一般化, ○Win-Win	現状通り キーワード:○現状通り
531	学校ホームページを刷新し、スーパーサイエンスハイスクール実施報告書や開発教材などを発信している。 キーワード:○ホームページ, ○スーパーサイエンスハイスクール, ○開発教材	ホームページでの発信を充実させたい。 キーワード:○ホームページ	附属学校をとりまとめる附属学校教育局の研究発表会や大学の教育学会等で研究内容を発信している。 キーワード:○附属学校教育局, ○研究発表会, ○教育学会	附属学校教育局の研究発表会や大学の教育学会等で研究内容を発信を継続し、充実させたい。 キーワード:○附属学校教育局, ○研究発表会, ○教育学会
532	公開研究会や授業研究会の開催 研究紀要の発行、リポジトリによる公開 SSH/SGH 報告書の作成および公開 SSH/SGH 研究開発の成果物として、テキストや実践報告書等の作成および配布 キーワード:○公開研究会, ○研究紀要, ○報告書	特になし	研究推進員会での情報共有 紀要の発行 研究協議会の実施 キーワード:○研究協議会, ○紀要	特になし
551	公開研究会の実施 公開指導法研究会の実施 キーワード:○公開研究会	教育委員会が主催する研究会での成果発表 附属から地域で移動した教員との積極的な交流 キーワード:○成果発信	公開研究会へ来てもらい指導・助言をうける 大学評価部会へ参加し附属学校での成果を報告 キーワード:○研究会, ○大学評価部会	メディアの利用し、新聞やテレビでの報道をしてもらう SNSの活用し、ホームページやフェイスブックで成果を発信 キーワード:○メディア活用, ○SNS

561	研究紀要の発行 HPによる発信	Webを利用した公開セミナー	大学図書館リポジトリに登録	
562	ラウンドテーブルを実施し、奈良県内ほか、近畿周辺の先生方が教育活動を語り合う場を提供している。 キーワード: ○ラウンドテーブル	ラウンドテーブルのリピーターが増えてきているので、今後も継続していきたい。 キーワード: ○ラウンドテーブル	大学と附属中等教育学校とで高大接続カリキュラムを作成している。 キーワード: ○共同研究, ○高大接続カリキュラム	高大接続文理統合探究コースを平成31年度より附属中等教育学校に設置した。このコースを確実に成果につなげたい。 キーワード: ○高大接続, ○文理統合, ○コース設定
611	本校の公開研究協議会に参加していただき、研究内容を発信している。 地域の研究団体の中で研究発表を行う。 キーワード: ○公開研	具体的な授業づくりを共同で行いながら、本校の研究成果を発信したい。 附属函館小学校との連携により、地域の小・中学校への発信を行いたい。 テレビ会議等で遠方の特別支援学校との連携を進めていきたい。 キーワード: ○実践研究, ○通常の学校, ○遠隔会議	共同研究者としての協力 研究紀要の送付 公開研究会への案内 キーワード: ○共同研究, ○研究紀要, ○公開研究会	日常的な授業づくりや学校づくりに関する共同研究の実践を行いたい 教職大学院と一緒に学校経営や運営に関する取り組みを行いたい キーワード: ○授業づくり, ○学校経営, ○教職大学院
621	学校公開研究会を2年に一度開催している。 キーワード: ○公開研究会	本校で行われる授業研究会を公開し、地域の教員と共に授業研究を進めてみたい。 キーワード: ○授業研究	校内研究については、抄録を作成し、大学のリポジトリに掲載している。 大学教員との共同研究については、学部GP報告会で発表している。 キーワード: ○リポジトリ	大学教員向けに、本校の研究活動や学習活動などを定期的にメール配信してみよう。 キーワード: ○メール配信
622	まだまだ不十分ではあるが、ホームページを含め機会あるごとにマスコミも活用しながら、本校の特色ある教育活動を発信している。 キーワード: ○成果の還元, ○地域のモデル校, ○先進的な取組	地域の研修(モデル)校としての役割を果たすために、公開研究会や各種研修会等において積極的にその実践・取組を丁寧に分かりやすく伝導していきたい。「やってみたい」という実践研究およびの研究授業の追求と発信に心掛けていく。 キーワード: ○身近な研究授業, ○生きた研究授業, ○やってみたい授業作り	研究主題との兼ね合いで大学の先生方とのコンサルテーションが難しいケースがある。障害の特性に合わせた指導法の在り方等を含め大学の専門の先生方との話し合い等を密にしていかなければと考えている。 キーワード: ○共同で, ○協働, ○共通理解	機会あるごとに授業研究等の案内を大学内にアナウンスする。 大学の先生方と共同授業研究を行い、大学生を意図的、計画的に巻き込みながら研究の成果を発表したり、教員養成大学としての使命に還元していきたい。 キーワード: ○ネットワークの構築, ○大学という資源を最大活用
623	研究発表会の開催 HPによる公表 関係機関への記録媒体の郵送 ○研究発表会, ○WEB	自校以外の学会等での発信 キーワード: ○学会	大学の紀要への掲載 キーワード: ○大学の紀要	
624	授業研修会の案内(メール及びホームページ、教育新聞等)は、注目度の高いデザインを考慮し、複数回発信。 教育雑誌等への掲載(国特総研研究者: 神山努氏、本学教授: 三浦光哉氏による推薦等による)。 キーワード: ○注目, ○広く, ○複数回	授業研修会に参加いただくことで、子どもの学びを多面的な視点から語り合い、研究成果を体感していただくこと。 本校職員が、地域の学校へ出向き、地域の子どもの学びを共に語り合うことで、研究成果を共有する。 書籍や雑誌などで、実践を分かりやすく紹介する。 キーワード: ○参加, ○子どもの学び, ○語り合い	大学そのものへの積極的な発信は控えている。 キーワード: ○働き方改革, ○時間外手当	
625	研究紀要の発行 教育研究学校公開の開催 ホームページによる情報開示 キーワード: ○研究紀要, ○学校公開, ○ホームページ	特に県内の特別支援学校に本校での研究成果を広く発信、浸透させたい。 キーワード: ○公立特別支援学校, ○教育内容	研究紀要の発行 キーワード: ○大学図書館リポジトリ	大学の研究のフィールドとしての附属学校の活用を働きかける。 キーワード: ○研究フィールド

631	<p>・公開研究会の実施</p> <p>キーワード:○公開</p>	<p>・公開研究会の実施</p> <p>・ホームページの活用</p> <p>キーワード:○公開, ○ホームページ</p>	<p>・公開研究会の実施</p> <p>キーワード:○公開</p>	<p>・大学と場所が離れているため、日頃、本校に来校する機会の少ない大学教員も多い。まずは、本校に関心をもてるようにする。</p> <p>その上で、公開研究会等において、児童生徒の様子、授業を参観できるよう、情報発信が必要である。</p> <p>キーワード:○関心, ○参観</p>
632	<p>公開研究会を開催すると共に、年度末に研究成果のまとめを学校ホームページ上に掲載している。教員の多忙化や経費の問題から、研究紀要の発行は廃止した。</p> <p>キーワード:○公開研究会, ○学校ホームページ, ○研究紀要の廃止</p>	<p>研究紀要の発行は今後も行わず、公開研究会の開催と学校ホームページの活用の二本立てで発信する。</p> <p>キーワード:○公開研究会, ○学校ホームページ, ○研究紀要の廃止</p>	<p>合同プロジェクトより「研究概要集(大学教員が執筆)」を発行し、大学に配付している。研究協力者と連携して、研究成果を「実践紀要(附属学校教員が執筆)」にまとめ、大学に投稿している。</p> <p>公開研究会の案内を大学教員にも一斉メール配信している。</p> <p>キーワード:○合同プロジェクト, ○研究概要集・実践紀要, ○公開研究会</p>	<p>多くの大学教員に公開研究会に足を運んでもらえるよう、校長(大学教員と兼務)などに広報を依頼する。</p> <p>キーワード:○公開研究会, ○校長(大学教員と兼務)</p>
633	<p>大学所有の研究リポジトリに紀要を登録し、インターネット上で確認</p> <p>キーワード:○研究リポジトリ</p>	<p>公開研究協議会により多くの方々に参加していただき、本校の取り組みについて指導の実態と合わせて理解を深めていただき、各校に還元していただく。</p> <p>キーワード:○公開研究協議会</p>	<p>大学所有の研究リポジトリに紀要を登録し、インターネット上で確認</p> <p>キーワード:○研究リポジトリ</p>	<p>研究リポジトリの内容の拡充</p> <p>キーワード:○研究リポジトリ</p>
634	<p>公開研究会(6月に半日公開研・11月に1日公開研)を通じて発信している。</p> <p>キーワード:○公開研, ○研究基調発表, ○授業提案</p>	<p>・地域の特別支援学級の先生方の研修機会が極端に少ないと感じている。市町村の教育委員会と連携した特別支援学級の先生方との合同研修会を構築し、本校の研究を提案しつつ共に学べればと考える。</p> <p>・研究紀要の発行を廃止し、研究基調や実践例等をホームページに掲載し閲覧してもらう。</p> <p>キーワード:○特別支援学級担任養成, ○合同研修会, ○ネット配信</p>	<p>・大学の発行する紀要に研究実践等を寄稿している。</p> <p>・大学生への講義講師の際、研究の一端に触れている。</p> <p>・教育実習生への指導の際に、エクスを入れていく。</p> <p>キーワード:○研究実践, ○大学紀要, ○講義</p>	<p>・大学と連携し、公開研に障害児教育専攻の学生や特別支援教育に興味のある学生の参加を呼びかけていく。</p> <p>キーワード:○大学のカリキュラム, ○必修化, ○啓発</p>
635	<p>研究協議会 研究集録の配布 ホームページでの紹介 キーワード:○研究協議会</p>	<p>もう少し手軽な研究会を開き、本校に来る機会を増やす。</p> <p>ホームページ等、ICT 手段の一層の活用</p> <p>キーワード:○身近な研究会, ○ホームページ</p>	<p>研究指導者を通しての周知 研究協議会への招待 研究集録の送付 キーワード:○研究指導者, ○研究集録</p>	<p>発信以前に、もう少し大学教員との顔の見える連携を進める必要がある。</p> <p>キーワード:○顔の見える連携</p>
636	<p>研修研究のための附属学校園教員派遣事業を行っている。教材教具集を作成発行している。公立学校では困難な先導的・実験的な研究を行い地域にモデルを示している。</p> <p>キーワード:○教員派遣</p>	<p>単に先導的・実験的な研究ばかりでなく、地域のニーズを踏まえた内容をわかりやすく発信する。研究に取り組む使命を職務の魅力として発信する。</p> <p>キーワード:○地域のニーズ, ○わかりやすさ, ○魅力発信</p>	<p>本校の研究実践を大学全体の研究紀要に掲載してもらっている。</p> <p>キーワード:○紀要掲載</p>	<p>発信のアイデアを検討する。</p> <p>キーワード:○アイデア</p>
637	<p>授業研究会、公開研究会の実施、研究紀要の送付 キーワード:○公開研究会, ○紀要</p>	<p>冊子での配付から、指導案や資料をホームページから閲覧できるようにしたい。</p> <p>キーワード:○ホームページ, ○閲覧</p>	<p>特になし</p>	<p>特になし</p>
638	<p>・研究協議会の実施と研究紀要の発信</p> <p>・公開講座の企画・実施</p> <p>キーワード:○研究協議会, ○研究紀要, ○公開講座</p>	<p>・より地域に向けた、公開授業</p> <p>・「個別の指導計画の作成法講座」「教材作り講座」などより実践的な内容の研修会や公開講座の実施</p> <p>キーワード:○公開授業, ○研修会, ○公開講座</p>	<p>・研究協議会や授業実践からの成果の報告、研究紀要での発信</p> <p>・共同研究での成果の発信</p> <p>キーワード:○研究紀要, ○授業実践, ○共同研究</p>	<p>・学校現場からの成果や課題を共有・連携できる機会を増やす。</p> <p>キーワード:○学校現場の課題の共有, ○連携, ○研究成果の発信</p>

639	学校の独自研究に関しては、研究協議会等で発信。今後、Webでの発信を検討していく。 キーワード:○研究協議会, ○Web発信	地域の特別支援教育関係教員に研究協議会に参加して欲しいと考えている キーワード:○研究協議会参加		
641	教育研修会、教育研究会、研究紀要により発信している。翌年WEBにて研究会参加者に追跡アンケートを実施 キーワード:○教育研修会, ○教育研究会, ○研究紀要	研修会や研究会の内容の見直し 研究内容や研究紀要の見直し キーワード:○大学教員との共同研究, ○研究紀要の簡素化	教育研究会への参加依頼、助言依頼 学校教育学類・教職大学院・附属学校合同研究会 研究紀要の送付	共同研究の実施 キーワード:○共同研究
642	授業公開による研究内容の発信 キーワード:○授業公開	授業公開による児童生徒の学びの姿の具体的な発信、学習計画案による研究内容や授業構想の発信、ネットによる発信 キーワード:○授業公開, ○学習計画案, ○ネット発信		
643	・研究会に、市内保育園、幼稚園、福祉機関、教育関係機関(小・中・高)行政機関等から、毎年400名以上の参加がある。 ・研究会当日の公開授業や研究紀要等で発信している。 ・書籍の発刊 キーワード:○研究会, ○書籍, ○研究紀要	・ウェブサイトの活用 ・地域との協働での研究 ・ICT教材等の紹介 キーワード:○協働, ○教材, ○ウェブサイト	・研究会への参加、参画 キーワード:○参加, ○参画	・ウェブサイトの活用 ・協働での研究 ・研究成果の報告 キーワード:○協働, ○研究の成果, ○ウェブサイト
644	・公開教育研修会で全国に案内を発信し、来校してもらい、研究の概要を発表している。 ・研究成果を紀要や年報としてまとめ、冊子やホームページで発信している。 キーワード:○公開教育研修会, ○紀要・年報の発行, ○日々の情報発信	現在、本校の研修の取り組みは、独立行政法人教職員支援機構「教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」に採択されており、研修内容についてDVDを作成し、発信する予定である。年間8～9回程度の公開授業への参加、一年間の取り組みの成果として年報の発行等で発信していきたい。 キーワード:○公開教育研修会, ○紀要・年報の発行, ○日々の情報発信	・公開教育研修会に大学教員を招待し研究の概要を聞いてもらう機会にしている。紀要・年報の発行時に配付している。 ・学生や院生の実習等に研究の内容を反映させている。 キーワード:○公開教育研修会, ○紀要・年報の発行, ○学生・院生の実習	現状でよい。 キーワード:○公開教育研修会, ○紀要・年報の発行, ○学生・院生の実習
645	ホームページ・メール(全国の附属学園)・郵送(県内)にて、6月頃(1次案内)、10月頃(2次案内)に配信。 キーワード:○開催時期, ○参加者, ○案内	教育研究学校として、時代の要請に応えるとともに広く成果を県内外に配信。 キーワード:○教育課題, ○協働, ○写真許諾	研究紀要を大学に贈呈 キーワード:○研究紀要, ○寄与, ○教育活動	
651	5年間の研究成果をまとめた本を出版した。研究協議会を開催した。 支援ツールの紹介をした。 キーワード:○出版本, ○研究協議会, ○支援ツール	ホームページの活用 本校に設置されている「インクルーシブ教育推進センター」の有効利用 キーワード:○ホームページ, ○インクルーシブ教育推進センター	大学が実施する調査報告への回答 大学紹介冊子等への掲載 教育実習に参加した学生への情報提供 キーワード:○調査報告, ○冊子への掲載, ○教育実習生	できれば、直接、学校の様子を見てほしい。 キーワード:○参観, ○現状把握
652	研究紀要を市町教育委員会に配付し、研究の成果について発信している。 キーワード:○研究紀要	研究の成果とともに研究理論に基づいた授業実践を発信する。 キーワード:○研究主題	研究紀要の配付 キーワード:○研究紀要	大学図書館にデータ保存し、誰もが自由に閲覧できるよう検討している。 キーワード:○データ保存と管理
661	研究発表会の案内の送付をして、参加を促す。 キーワード:○研究発表会		研究発表会への参加の呼びかけ 紀要等資料や参加者アンケートの送付 キーワード:○研究発表会, ○紀要送付	協同研究をする。 キーワード:○協同研究
662	研究年報や研究紀要の送付、研究発表大会やワークショップの案内 キーワード:○研究紀要, ○研究発表大会, ○実践ワークショップ	ホームページ上での研究成果の公開する。 研究年報、研究紀要を写真やカラーページを多用したパンフレットにし、見やすく分かりやすくしたい。 ぜひやってみたい思ってもらえるような実践ワークショップにしていきたい。 キーワード:○見やすい, ○分かりやすい, ○やってみたい		大学の研究紀要に掲載してもらえるように働きかける。 キーワード:○大学の研究紀要

663	ホームページに掲載 研究協議会の開催 研究集録の発行 キーワード:○ホームページ, ○研究会, ○研究集録	ホームページに掲載 研究協議会の開催 研究集録の発行 キーワード:○ホームページ, ○研究会, ○研究集録	研究集録の配布 キーワード:○研究集録	研究集録の発行・配布 キーワード:○研究集録
664	2018年度研究大会 2019年度公開授業(平野五校園共同研究会との共催) キーワード:○研究大会, ○公開授業	これまで同様に、3年をサイクルとした実践報告会・研究大会の開催 相談・支援センターを拠点とした教員研修の企画・開催 夏期公開講座を通じた研修企画・成果発信 キーワード:○実践報告会, ○研究大会, ○教員研修企画	3月 大学との研究交流会における口頭発表及びポスター発表 キーワード:○研究交流会, ○口頭発表, ○ポスター発表	研究紀要への投稿 研究交流会への参加及び成果発信 キーワード:○研究紀要, ○投稿, ○研究交流会
665	・研究発表会の開催 ・研究集録の送付 ・ホームページ キーワード:○研究発表会, ○研究集録, ○ホームページ		・研究発表会の開催 ・研究集録の送付 ・ホームページ キーワード:○研究発表会, ○研究集録, ○ホームページ	
671	研究発表会の開催 研究紀要の提供 キーワード:○研究発表会, ○研究紀要	研究発表会への参加について、公立の小中学校の特別支援学級担当教員を増やしたい キーワード:○特別支援学級	研究発表会の共同開催 研究紀要の提供 キーワード:○大学との共同研究	現在検討中
672	授業参観を基にした研究協議に参加するワークショップ型研修会を実施し、参加者が参画する中で情報発信している。 キーワード:○地域の学校ニーズ, ○公開授業研究, ○成果確認(事後アンケート)	地域の先生方に参加していただける公開授業研や特別支援教育の指導支援について研修する機会をできるだけ沢山設定し、本校の取組を紹介しながら共に学んでいく。 Web会議システムを構築し、県内特別支援学校とを結び、研修をWeb配信していく。 キーワード:○研修会Web配信, ○TV会議システム	授業検討会や研修会で実際に取組を見ていただく。 キーワード:○大学リソースの活用	教育実習生への指導に役立てたい 大学カリキュラムとの連携ができればよい キーワード:○教育実習, ○カリキュラム連携
673	公開研究会の開催。国公立及び私立幼稚園長会、保育園長会、小学校長会、中学校長会、県立学校長会(高等学校・特別支援学校)において、本校の学校概要と将来構想について出前説明を実施。 キーワード:○知的障害者の青年期教育, ○小学部から専攻科までの教育, ○県と連携した多様な教育の展開	様々な校種の学校へのわかりやすい発信、継続的な発信 キーワード:○ホームページの活用		
681	年に1回実施している研究大会での研究授業や実践の発表や冊子の配布 キーワード:○研究大会, ○冊子の配布	研究成果をデータ化して、ホームページ等によるネット上で研究に関する情報が検索できる環境を整えて発信したい。 キーワード:○研究実践のデータ化, ○インターネットの利用	年に1回実施している研究大会での研究授業や実践の発表や冊子の配布 キーワード:○研究大会, ○冊子の配布	研究成果をデータ化して、ホームページ等によるネット上で研究に関する情報が検索できる環境を整えて発信したい。 キーワード:○研究実践のデータ化, ○インターネットの利用
682	・2年に1回、教育研究会を開催している。1年目は中間発表会、外部講師による公開講演会を実施している。 ・2年間の研究成果をまとめた研究紀要を発行し、研究会の参加者及び県内の特別支援学校に配付している。 ・学会等で研究成果を公表している。 ・教育委員会との連携において、連絡協議会及び拠点機能推進委員会の中で教育課題の共有化を図っている。 キーワード:○教育研究会の開催, ○研究紀要の発行, ○研究成果の公表	・教職大学院での研究発表と公立学校との研究交流会の開催 ・県、市レベルの研究団体が開催する研修会等での発表 ・学会等での研究発表 ・ホームページでの本校の研究紹介及び研究会の案内等の情報発信 ・附属と大学の連携協議会を活用する。 キーワード:○各種研究団体との研究発表・研究交流, ○学会発表, ○ホームページでの情報発信	・附属学校園運営委員会で研究案内、研究内容の報告等を行う。 ・大学の中期目標の取りまとめに研究活動や取組状況を報告する。 キーワード:○附属学校園運営委員会での報告, ○中期目標に対する成果報告	・大学の研究紀要に大学教員との共同研究の成果を掲載する。 ・ホームページに研究会の様子や研究内容を掲載する。 ・大学の中期目標の成果報告に本校の研究活動や成果を掲載する。 ・大学教員に授業研究に参加してもらい指導・助言を受ける。 キーワード:○研究紀要への研究成果報告, ○ホームページでの研究活動の発信, ○中期目標に対する研究成果報告

683	<p>ホームページ及び研究紀要による発信を行っている。また、本校作成の「自立活動における指導内容設定表」を巡回相談員が地域の高等学校で活用し、自立活動の視点からの教育相談を行っている。</p> <p>徳島県教育委員会との人事交流により公立学校から受け入れた教員が、附属学校園の使命・役割等のもと、勤務期間中の研修、教育実践や教育実習の指導等、キャリア形成を通して、授業実践力、生徒指導力、学級経営力等を高め、再び公立校に異動した後は、各地域にその研究成果を発信している。</p> <p>キーワード:○ホームページ, ○巡回相談員, ○人事交流</p>	<p>ホームページや研究紀要等は元より、研究成果を地域の保育所、子ども園、幼稚園、小・中・高等学校の教員等に向けて、巡回相談、本校の研修会、各教員の市町村や県下での役割、人事交流等を通して発信している。</p> <p>キーワード:○巡回相談, ○研修会, ○人事交流</p>	<p>大学の複数の出版物やホームページ、実践研究紀要等において発信している。</p> <p>キーワード:○出版物, ○ホームページ, ○実践研究紀要</p>	<p>大学の複数の出版物やホームページ及び実践研究紀要等の質の向上や、大学教員との連携による研究を通して大学の研究紀要等においても発信したい。</p> <p>キーワード:○質の向上</p>
691	<p>・文部科学省の委託事業「新学習指導要領に向けた実践研究」を受託し、その研究成果を年1回研究発表会にて発表している。県内外から300人近くの参観者があった。</p> <p>・令和元年度特殊教育学会において、研究成果を自主シンポジウム2本、ポスター発表4本で発信をした。</p> <p>・本校HPにて、過去3年間分の研究概要やポスター発表を研究成果を掲載し発信している。(アクセス件数8万件以上 R1.11 月現在)</p> <p>キーワード:○研究発表会, ○特殊教育学会, ○ホームページ</p>	<p>・地域に求められる研究を行い、ニーズに応えられる発信方法を検討し、発信していきたい。</p> <p>・本校で研究力を高めた教員が、人事交流により県内の公立学校に移動したとき、本校の研究の成果と方法を広めていく役割を期待したい。</p> <p>・ホームページのさらなる充実</p> <p>キーワード:○人事交流, ○ホームページ</p>	<p>・「熊本大学教育実践研究」に大学教員との共著論文を投稿している。</p> <p>・熊本大学の教育活動表彰に推薦し、研究等取組の成果を発信している。平成30年度はグランプリ、令和元年度は準グランプリを受賞した。</p> <p>キーワード:○論文投稿, ○教育活動表彰</p>	<p>・学部や教職大学院での教育・研究に積極的に生かしていく。</p> <p>・大学の教員との共同研究発表の機会を増やす。(教大協研究集会など)</p> <p>キーワード:○学部, ○教職員大学院, ○発表機会</p>
692	<p>・本校の研究紀要を配付している。</p> <p>・本校の研究発表会に地域の先生方に参加していただいている。</p> <p>キーワード:○研究発表</p>	<p>・地域の公立学校ですぐに利用できるような学習プログラムの提供を考えていきたい。(例:防災教育、性教育等)</p> <p>キーワード:○提供</p>	<p>・本校の研究紀要を配付している。</p>	<p>・本校教員の研究レベルを上げて、研究論文や実践記録を大学の『教育実践報告』等の紀要に掲載してもらう。</p> <p>・本校と大学教員(または大学院生)との共同研究を立ち上げる。</p> <p>キーワード:○専門力向上, ○共同研究</p>
693	<p>2年に1回の公開研究会を実施している。</p> <p>免許状更新講習を4講座開設している。</p> <p>平成24年度に学習指導案と授業研究に関する書籍刊行。地域の幼・小・中・高等学校を対象とした特別支援教育スキルアップセミナーを実施している。</p> <p>ホームページや書籍への寄稿などを通じて、研究成果の発信を行う。</p> <p>キーワード:○公開研究会, ○成果刊行</p>	<p>特別支援学校授業力向上実践協議会等を通じて、県内の特別支援学校に研究成果を発信する。</p> <p>今年度、カリキュラム・マネジメントをテーマに2冊目を刊行予定。</p> <p>受講者のニーズを把握し、免許状更新講習の内容の充実を図る。</p> <p>文部科学省の特別支援教育に関する実践研究充実事業(新学習指導要領に向けた実践研究)の報告会を実施予定。</p> <p>キーワード:○特別支援学校授業力向上実践協議会, ○成果刊行, ○免許状更新講習</p>	<p>成果刊行を行う。</p> <p>研究紀要への投稿をしている。</p> <p>研究成果を基に、教育実習生の指導の充実を図っている。</p> <p>免許状更新講習を4講座開設している。</p> <p>キーワード:○免許状更新講習, ○研究紀要, ○教育実習</p>	
694	<p>2年に一度、公開研究発表会を行っている。</p> <p>毎年夏休みに教育学部との共催で「公開セミナー」を実施している。</p> <p>ホームページに研究紀要を掲載。</p> <p>キーワード:○公開研究発表会, ○公開セミナー, ○教育学部との共催</p>	<p>ホームページによる発信</p> <p>公開セミナーの内容の見直し</p> <p>キーワード:○ホームページ, ○公開セミナー</p>	<p>特にしていない。</p>	

741	<p>研究会の案内送付。 研究報告書・紀要等を送付している。</p> <p>キーワード:○研究会</p>	<p>研究会の充実。 教育総合研究所等での発表。 本校が実践していることや授業作り・カリキュラム作りを生かしながら、校内研修等の講師として派遣。</p> <p>キーワード:○研究会, ○発表, ○講師</p>	<p>年2回の本校主催の実践レポート報告会への参加。 年間を通して、各教科カリキュラム開発、授業作りに関して協働研究者として依頼している。</p> <p>キーワード:○協働研究, ○実践レポート</p>	<p>教員の授業力につながるような協働研究をしていきたい。 本校の研究成果について、HP や研修会等で発表していきたい。</p> <p>キーワード:○協働研究, ○授業力向上</p>
761	<p>学校訪問の受け入れや研究協議会を通して、研究成果を地域等へ発信している。 義務教育学校懇談会を大学主導で開催し、近隣の義務教育学校と情報交換を定期的に行っている。 日本義務教育学会の立ち上げから機関会員として登録し、毎年、学会での発表を行い、本校の研究成果を発信し続けている。</p> <p>キーワード:○研究協議会, ○学校訪問</p>	<p>書籍を作成したり、学校訪問を積極的に受け入れたりして、積極的な発信をしていく。 これまでと同様に、義務教育懇談会や日本義務教育学会での発表や情報交換を続けていきたいと考えている。</p> <p>キーワード:○書籍, ○学校訪問</p>	<p>大学と連携をして研究を進めているので、すべての情報をリアルタイムで共有できている。</p> <p>キーワード:○情報, ○リアルタイム, ○共有</p>	<p>現状維持。</p> <p>キーワード:○現状維持</p>
771	<p>年1回の統一研究会にかわり、各保育・教科による教員研修会を随時行っています。ある教科の開催日に、他の教科は通常に授業をしています。</p> <p>キーワード:○授業づくり, ○地域貢献, ○役立つ</p>	<p>当面は、現在行っているように、各保育・教科による教員研修会を行い、新学習指導要領で求められている授業づくりの提案を発信していく。</p> <p>キーワード:○授業づくり, ○地域貢献, ○役立つ</p>	<p>・研修参加者のアンケート結果の集計を附属学校部長を通じて、大学に発信している。</p>	<p>・今後も附属学校部長を通じて、その成果を発信していこうと考えている。</p>
1231	<p>今年度より、地区の公立の先生方は公開研究会に無料で参加できるようにした。 各教員が講師で話すときに本校の実践を発信していく。 日常の授業を参観したいときに参観できるようにしている。</p> <p>キーワード:○公開研無料招待, ○講話, ○日常的な参観</p>	<p>同上のことをさらにパワーアップする。</p>	<p>公開研究会に招待 授業・行事などをできるだけ参観していただく。</p> <p>キーワード:○参観を促す</p>	

5-1 エビデンスをどのように収集しているか

No.	5-1 エビデンスをどのように収集しているか
111	・幼児の行動記録を数値化している。(道具, 場所, 相手等) ・研修会等の参加者アンケートの項目を工夫し, 数値化する。 キーワード: ○数値化
121	アンケートや感想を取る。 キーワード: ○アンケート, ○感想記述
122	今年度の取組について 1 園内研究・・・アンケート調査・集計・考察・次年度の計画立案 2 国公立幼稚園・こども園協議会園長会・・・アンケート調査・集計・考察・県教委との意見交換会 3 文科省委託調査研究・・・全附連幼稚園部会49園への事例調査・考察・報告書作成・発表 キーワード: ○調査・考察・発表, ○アンケート
123	事例収集 保護者アンケートの継続 幼児運動能力テストの継続測定 キーワード: ○継続, ○保護者アンケート
124	フォーラム等のアンケート形式も含めて, 大学教員の指導を受け, 今年度より実施した。まとめたかたについても, 現在指導を受け, 実施している最中である。 キーワード: ○数値化
125	本園の研究成果について, 公立幼稚園等における活用状況をアンケートにより収集しようとしている。 キーワード: ○本園の研究成果, ○活用状況, ○アンケート
126	教育研究会に参加した方々にアンケートの回答をお願いしている。保育の参考になったこと, 自分でも取り入れてやってみたことなどを項目別に分析する予定である。 HP(保育のヒント)へのアクセス数を地区ごとにカウントしている。 キーワード: ○アンケート, ○HP アクセス, ○分析
131	学校教育研究部のリードの下, お茶の水女子大学附属学校園 教材・論文データベース を2018年度に開設。研究コンテンツをホームページにアップし, 活用コメントを寄せてもらっている。 キーワード: ○教材・論文データベース, ○活用コメント
132	参加者からのアンケート キーワード: ○アンケート
133	保育の事例 保護者へのアンケート キーワード: ○事例, ○アンケート, ○保護者
134	協議会参加者からアンケートをとっている。 キーワード: ○アンケート
135	保育の実践記録や画像ををデータ化し保存して, エビデンスとしている。 キーワード: ○実践記録, ○画像
136	研究会でのアンケートに, 今回の研究会で得たことは何か, また, それをどのように活用したいか, また, 以前に参加したことのある人にはどのように活用したかを書いてもらう欄を設けている。 他園を参観した時に, 本園の保育についてどのような意見を持っているか聞き取りをしている キーワード: ○アンケート, ○研究会, ○聞き取り
141	幼児の能力(認知能力・非認知能力など)を数値化できる尺度などがないか, 大学教員に相談している キーワード: ○数値化できる尺度, ○大学教員との協働
142	研究会に参会してくださった方の人数とアンケート結果 本園作成の研究紀要の注文数 キーワード: ○研究会, ○研究紀要
143	保護者の経年評価 子どもの経年評価 職員の経年評価 研究参加者追跡評価 具体的な事例と課題を含めた評価 キーワード: ○経年評価, ○追跡評価, ○具体的な課題
144	保護者にアンケートを取っている 学校評議員会で意見を聞いている キーワード: ○アンケート, ○学校評議員会
145	県外有識者を交えての協議等を年3回実施している。
151	研究協議会当日アンケート。今後, 現場でどのように活用したか追跡調査をする予定 キーワード: ○応えやすい, ○時期をのがさない, ○簡単
161	保育場面からの事例収集 収集した事例の全教員による分析・考察 キーワード: ○保育場面, ○事例収集, ○全教員
162	ビデオ記録の書き起こし等による実践の蓄積 保護者のアンケート調査の分析 キーワード: ○継続, ○縦断調査
163	エビデンスとして耐えうる実践事例の書式の開発を行い, 実践事例そのものを研究のエビデンスとして収集している。 エビデンスとして耐えうるドキュメンテーションの書式の開発を行い, ドキュメンテーションそのものを研究のエビデンスとして収集している。 キーワード: ○書式開発, ○実践事例, ○ドキュメンテーション
164	研究会参加者へのアンケート実施 キーワード: ○アンケート
165	・小学校に卒園児に関するアンケート調査要望 ・公開保育研究会の一か月後に本園の実践を参考にしたかどうか, その効果などを調査をする キーワード: ○共同研究, ○事後アンケート

171	<p>教育研究会開催後、約半年以内に、参加者に向けてアンケートを実施する予定である。 本園研究会での学びを日々の実践にどの程度活かしているか質問をする。(5段階評価?) キーワード:○アンケートの実施</p>
172	<p>・公開研究会でのアンケートによる。必要に応じて継続して研究会参加後の実践について問うことも検討中 ・県の研修等での参加者のアンケートの記述から。 キーワード:○アンケート</p>
173	<p>アンケート 追跡調査 事例収集 キーワード:○アンケート, ○追跡調査, ○事例収集</p>
174	<p>保護者アンケートの実施・集約 教職員アンケートの実施・集約 子どもの遊びの姿等の事例収集 キーワード:○保護者, ○他園教職員, ○遊びの姿等</p>
181	<p>研究テーマに関連する事例(エピソード)を収集している。 園を卒園した小学校での育ちも継続的に見ていきたい。 キーワード:○エピソード, ○継続した追跡</p>
182	<p>研修に参加いただいた方の感想を集める 研修に参加いただいた方の保育の変容を伺う 研修に参加いただいた方が所属する園の保育の変容を伺う キーワード:○感想, ○変容, ○成果</p>
183	<p>協議内容の記録 週日案・日々の記録の比較・検証 教員の意識・取組内容の変容の収集 キーワード:○協議内容, ○カリキュラム, ○教員の変容</p>
191	<p>実態調査等を含むアンケート 追跡調査アンケート 映像を基にした記録</p>
192	<p>保護者や他園の教職員、その他の関係者などにアンケート調査を行い、できるだけ客観的な評価を得られるようにしている。 アンケートは、記述式や3～5段階評価での記入にしている。 3～5段階評価では集計を行い数値化したデータを示すことで、分かりやすく、説得力をもたせるようにしている。 継続的にデータの収集ができる場合は、経年変化が明らかになるような設問を取り入れるようにする。 キーワード:○客観的な評価, ○数値化したデータ, ○経年変化</p>
193	<p>・研究テーマに関わりのある先行研究事例や文献を全職員で回覧し、研究の方向性の統一を図っている。 ・外部から専門的な見識を持つ講師を招聘し、研究に関わる内容の講演・講話を聴いている。 キーワード:○参考文献の回覧, ○外部講師の活用</p>
194	<p>幼稚園教育要領の理解 全附属・九附属主催の各種研修会 キーワード:○幼稚園教育要領, ○文部科学省</p>
195	<p>各種研修会等の参加者へのアンケート 写真や動画による記録 観察者や保育者による見取り・読み取りなどの記述 キーワード:○ICT環境, ○PC技能</p>
196	<p>・多くの実践事例を集める。 キーワード:○子供の内面を読み取る能力</p>
211	<p>ホームページ上での「見たよ！使ったよ！アンケート」 出前授業等でのアンケートへの協力依頼 キーワード:○アンケート, ○ホームページ</p>
212	<p>・研究大会におけるアンケート調査 ・研修会(授業力向上セミナー)におけるアンケート調査 ・公立学校へのアンケート調査(協力校の設定等) キーワード:○アンケート, ○協力校, ○公立学校</p>
213	<p>アンケート調査を中心に行っている。 今後、活用事例をさらに集めたい。 キーワード:○アンケート調査, ○活用事例, ○研究交流</p>
221	<p>・学校公開研究会と研修会の際にアンケートを実施して成果の活用状況の把握に努めている。 キーワード:○アンケート</p>
222	<p>・アンケートや公開研究会参観者の追跡調査 キーワード:○数値の活用</p>
223	<p>研修会後に参会者にアンケートをもらっている。 キーワード:○アンケート</p>
224	<p>子どもの姿の変容を継続的に見取り、成果と課題を探る。子どもの意識を、アンケートなどにより数値化する。 キーワード:○客観的な証拠, ○子どもの姿の継続的な見取り, ○見取りの確実な記録</p>
225	<p>出前授業、講演の実施回数、アンケート結果 研究公開時のアンケート 保護者への学校アンケート、学校評議員へのヒアリング 子どもと教師へのアンケート(変容を見るために年度初め、年度末の2回実施予定) 学校ホームページの閲覧件数 キーワード:○アンケート, ○ホームページの閲覧件数, ○変容を見る</p>
230	<p>開発研究については、研究実施前・実施中・実施後に児童・保護者にアンケート調査を実施し、外部機関に分析を依頼している。授業研究については、附属学校研究・論文データベースを公開し、活用事例を集めている。また、公開研究会参加者からアンケートをとっている。 キーワード:○児童・保護者アンケート, ○研究・論文データベース, ○活用事例</p>

231	児童にアンケートを実施して、実態把握に努めようとしている。
232	・エビデンス収集の仕方は、各プロジェクトの大学教員に任せている。 キーワード:○大学教員
233	授業後の研究会にてテーマの達成度について検証を行っている。それらを蓄積し、研究紀要にまとめている。 キーワード:○事後研究, ○研究紀要
234	公開研究会への参加者(初任者)の追跡調査(研究会後及び半年後のアンケート調査) キーワード:○目的の明確化, ○継続性(継続した調査)
235	・研究協議会等において参加者にアンケートを実施し、ニーズを把握しそれに応えている。 ・研究協議会等において参加者に事後アンケートを実施し、本校の研究内容を御自身の実践に活用しているかを調査する。 キーワード:○ニーズの把握, ○事後アンケート
236	初等教育公開研究会の参加者へ、アンケートを行っている。また、数ヶ月後に事後アンケートを取り、活用状況を集計している。 キーワード:○事後アンケート
237	・研究の成果を他の学校でも実践していただき、科学的なエビデンスを収集したいと思っている。 キーワード:○研究の成果, ○科学的, ○エビデンス
238	1つの方法としては、事前調査と事後調査で支援等による成果を比較、検証、考察する。 キーワード:○事前調査, ○事後調査
239	・まずは、子どもが実際に行うラボ活動の様子を収集し、まとめようと考えている。 キーワード:○ラボ活動の様子
241	・教育専門家による指導・助言 ・教育実践の分析 キーワード:○教育専門家, ○教育実践の分析
242	・アンケート ・学ぶ子どもの姿の蓄積 キーワード:○アンケート, ○子どもの姿の蓄積
243	・全国学力学習状況調査 ・CRT ・児童、保護者、職員アンケート ・授業の学びの姿 キーワード:○全国学力学習状況調査, ○CRT, ○アンケート
244	地域・保護者への学校地域公開授業の際の感想・評価 全附連北信越大会における北信越地区の他県教育系大学附属の教職員、保護者(PTA)による感想・評価 初等教育研究会での教育関係者、一般参加者からの感想・評価 ラウンドテーブル(小・中・特支で連携して協同開催)の際の教育関係者、一般参加者からの感想・評価 中心講師(他大学に依頼)による研究内容への指導 学校評議員会による感想および評議員からの評価 キーワード:○学校評議員, ○他大学
245	子どもの実際の姿(ノートや発言記録) 子どものアンケート 教員の見取り キーワード:○子どもの姿, ○アンケート
246	研究会参加者の当日アンケート、半年後の追跡アンケート 研究開発学校事業としての評価活動 キーワード:○アンケート
247	・研究発表会や公開校内研究授業研修会におけるアンケートの実施(研究会に参加しての満足度、本校の研究に対する意見、本校の研究に期待することの把握) ・小学校教育研究会の場で、直接、公立学校の教員に、本校の研究に対する意見を聞く。 キーワード:○アンケート, ○公立学校のニーズ
251	記録の蓄積・分析 キーワード:○記録
252	紀要の実用性について積極的に情報収集をしてフィードバックさせていく。 キーワード:○紀要の評価
253	・教育書籍・新聞 ・大学からの指導 キーワード:○書籍, ○新聞, ○大学
254	アンケート調査 インタビュー キーワード:○アンケート, ○インタビュー
255	アンケートや外部人材の活用 キーワード:○定量的
256	アンケートを行う(研究会の後に) 授業での子どもの表れをスタディログとして蓄積して、授業評価、変容把握に生かしている キーワード:○アンケート, ○スタディログ
261	毎年複数回開催している研究発表会においては、継続してアンケート項目として「研究発表会の内容が今後活用できるか」「また、来たいか」といった視点で満足度を測るようデータを積み上げている。 こうした評価資料を積み上げるとともに、今後は、統計的な意味づけのできる評価指標を開発することが必要である。 キーワード:○研究会アンケート, ○評価資料積み上げ, ○評価指標開発の必要性
262	県・市の教育センターと連携した研修講座・参加者の意見収集。 本校の研究発表協議会・参加者へのアンケート及び追跡調査。 県・市教育委員会等(主に県・市の教育センター)への附属の貢献度についての調査。 キーワード:○県・市の教育センター, ○貢献度, ○追跡調査
263	公開研究会でアンケートを実施。 学校見学時の意見の交流・収集。 キーワード:○アンケート, ○見学, ○交流

264	研究会参加者の感想・アンケート調査。 キーワード:○アンケート
265	公開研究会の参加者及び通常の授業参観者へのアンケート調査を実施している。児童・保護者への実態調査を実施している。教育研究者や現職教員に対して、研究機関誌や著書などに掲載する本校の研究に関する原稿執筆を依頼している。 キーワード:○アンケート調査, ○原稿執筆
266	本校作成のアンケート 授業ビデオ撮影 発話記録 子どもの成果物 参観者の授業記録をもとに事後検討会を行い、授業効果を検証している キーワード:○アンケート, ○授業記録
267	児童に対するペーパーテストやパフォーマンス評価 児童・保護者に対するアンケート調査 教職員に対するアンケート調査 キーワード:○ペーパーテスト, ○パフォーマンス評価, ○アンケート調査
271	成果の還元…研究会における参会者アンケート 成果の還元…本校への視察状況 研究内容…育成したい資質・能力に関して質問紙調査 研究内容…育成したい資質・能力に関してルーブリックに基づく評価 キーワード:○研究会参会者アンケート
272	アンケートの実施とそれに伴う分析, さらに詳しく把握するためにいくつかの事例を取り上げ, その検証を行う。 キーワード:○アンケート実施, ○事例検証
273	・研究発表大会, 研修会実施直後の参加者に対するアンケート調査。 ・本年6月の研究発表大会について, 半年後の活用状況を学部が追跡調査する予定。(12月発送) キーワード:○アンケート, ○追跡調査
282	定期的に児童・保護者アンケートを取り, 大学の先生に依頼し, 分析を行ってもらっている。 全国学力・学習状況調査や県学習状況調査などのアンケート結果の経年変化の分析を行っている。 研究発表会等の際にアンケートを実施し, 外部評価の実施に努めている。 キーワード:○児童・保護者アンケート, ○全国学力・学習状況調査, ○県学習状況調査
283	・教育研究発表会の参観者や授業づくりワークショップの参加者にアンケート調査を行っている。 ・地域の公立学校にアンケートを送付し, 本校の取組や研究について参考にしたこと等を尋ねている。 キーワード:○アンケート調査, ○地域の公立学校, ○聞き取り
284	児童の変化の見取り, アンケート等で収集しているが, 客観性のあるエビデンスとするための方法は要検討である。 キーワード:○見取り, ○アンケート
291	研修にいられた先生方にアンケートを取っている キーワード:○アンケート
292	研究発表会等での参加者アンケート 学校評価 全国学力学習状況調査・NRT 授業に関する児童アンケート 授業の足跡 キーワード:○調査の実施, ○数値
293	先行研究を基にした実践 趣旨や活用方法などを説明した上でのアンケート調査 キーワード:○成果分析, ○仮説
294	アンケートや追跡調査などによる収集している。 キーワード:○アンケート, ○追跡調査, ○積み重ね
295	・学習指導要領の具現化(授業において) ・学部との共同研究(データ収集) ・実験授業を通して, 観察及び考察 キーワード:○数値等のデータ収集, ○子どもの学びの足跡
296	研究発表会等でのアンケート調査の収集と分析 キーワード:○アンケート調査
297	本校の実践が役に立っているかといった公立校での活用状況 キーワード:○活用状況
298	公立学校に指導出張に行った際には, 公立の先生方の意見をとりまとめ, 後日いただくようにしています。 教育研究発表会では, アンケートを記入していただき, 分析しています。 キーワード:○アンケート, ○分析
311	参加者が実践しているかの調査 教育委員会及び公立学校の理解と協力依頼・要請が来るようにする
312	・各種セミナー開催時や出前授業, 分科会時でのアンケート協力要請 ・授業実践資料の提供に対しての活用状況や事後アンケートの提出要請 キーワード:○活用要件
313	・教育研究大会でのアンケート項目を見直し, エビデンスの具体例の収集に努める。 ・札幌市教育委員会との連携による初任段階研修等の法令研修参加実態の把握 キーワード:○行政との連携によるエビデンスの明確化
321	教育心理学専門の教育学部教員と連携し, 本校が育成を目指す資質・能力である「思考力等」「協調性等」「主体性等」を測定する尺度を作成する。 教育効果について, 附属中学校の全学年全生徒を対象に, 4月, 7月, 12月, 2月の4回の測定を行い, その変化を分析する。 研究成果の活用状況について, 学校公開参加者へのアンケート項目に設定している。 キーワード:○教育学部教員との連携, ○資質・能力の測定尺度作成, ○教育効果の測定・分析
322	学習指導要領に則しているか。 各教科で研究する際参考にしてしている書籍。 教科部会及び協同研究会における他校種教員との意見交換。 キーワード:○学習指導要領, ○教科部会, ○協同研究

323	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの継続的な蓄積(教科・学年) 授業づくり研修会に参加した公立学校教員や学生からのアンケート集計、データの推移や比較
324	<p>アンケート調査</p> <p>個別対応による追跡調査</p> <p>キーワード:○成果の還元, ○成果の追跡と深化</p>
325	<ul style="list-style-type: none"> 研究公開当日、参加した先生方にアンケートに答えてもらっている。 今年度研究公開に参加した先生方に、2 学期中にメールでアンケートを送信し、実際本校の研究が日々の授業に役立っているかどうか答えてもらう予定である。 <p>キーワード:○追跡調査</p>
331	<ul style="list-style-type: none"> 全国の大学研究者等の学校外部からの講演等 生徒の教育活動や探究活動 文部科学省からの情報(国の施策) 全国学力・学習状況調査 <p>キーワード:○学校外部, ○生徒, ○文部科学省</p>
332	<ul style="list-style-type: none"> 全国の大学研究者等の学校外部からの講演等 生徒の教育活動や探究活動 文部科学省からの情報(国の施策) 全国学力・学習状況調査 県教育委員会の施策等 <p>キーワード:○学校外部, ○文部科学省, ○神奈川県教育委員会</p>
333	<p>短期研修、学校視察及び授業参観の事後アンケートの実施。研修成果などを大学 HP に掲載し発信している。</p> <p>キーワード:○アンケート</p>
335	<p>公開研究発表会では参観者にアンケートをとっている。また、さらに、その後の追跡調査として「活用したか、活用したいと思っているか」「何を活用し、活用してどうだったか」等の質問を加えたアンケートをとっている。</p> <p>キーワード:○追跡調査, ○アンケート, ○評価</p>
336	<p>生徒、保護者へのアンケートや学習ワークシート、教師の観察が中心。</p> <p>キーワード:○多面的・多角的</p>
337	<ul style="list-style-type: none"> 公開研究会等の参加者に対して、研究会後の活用状況についてメールを用いてアンケート調査をしている。 <p>キーワード:○成果と課題, ○ICTの活用</p>
338	<p>学会論文や書籍</p> <p>キーワード:○インターネット</p>
339	<p>教育研究協議会における参会者へのアンケート調査</p> <p>キーワード:○研究協議会でのアンケート調査</p>
340	<p>公開研究会の参観者への事後アンケート</p> <p>キーワード:○公開研究会の事後アンケート</p>
341	<p>アンケートの項目に、還元可能か否か等の項目を入れている。</p> <p>キーワード:○アンケート</p>
342	<p>学校評価や授業評価、各種アンケートをグーグルフォームで行い、手続きの簡略化と結果の共有化を円滑に行う。</p> <p>キーワード:○学校評価, ○グーグルフォーム</p>
343	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、教員に対するアンケート調査 各種学力検査の数値、結果 具体的な生徒の姿や言葉 <p>キーワード:○生徒の姿, ○アンケート, ○学力検査</p>
344	<p>教育研究発表会アンケートで当校の実践の活用状況の把握</p> <p>研究アンケートを他の教育機関に分析の依頼</p> <p>教育関係企業の外部測定・検査の協力要請</p> <p>キーワード:○アンケート, ○専門機関によるアンケート分析, ○外部試験</p>
345	<ul style="list-style-type: none"> 設定した資質・能力のはぐみ及び「生命」と「安全」に対する理解やとらえを評価するための質問紙調査を子供を対象に年2回実施し、大学の先生に分析をお願いしている。 <p>キーワード:○質問紙調査, ○幼小中一貫した質問内容</p>
346	<p>実践の中で起きた事実(生徒の反応、発言等)。研究会等の事後協議会での参会者の意見(発言、アンケート)等を収集する。</p> <p>キーワード:○実践の中の事実, ○普遍性</p>
351	<p>生活教育研究協議会参加者へのアンケート</p> <p>研究協力者へのアンケート</p> <p>生徒の学習記録の蓄積</p> <p>キーワード:○適切な評価項目</p>
352	<p>現在は参加者へのアンケート集約により情報を得るに留めているが、今後は異なる形での集約方法を検討していきたい。</p>
353	<p>研究会参加者へのアンケートによる調査</p> <p>研究協議会での意見収集</p> <p>様々な場面でのインタビュー</p> <p>キーワード:○アンケートによる調査, ○インタビュー</p>
354	<p>大学の共同研究者や地域の学校の研究協力委員に年度末に紙面または口頭でのアンケートを実施する。</p> <p>キーワード:○共同研究者(大学の先生), ○研究協力委員(地域の先生)</p>
355	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省・国立教育制作研究所調査官や外部大学教員等による評価・指導を仰ぐ。 教育研究協議会において、参加者からの意見や、地域教育委員会等による評価・指導を仰ぐ。 文部科学省研究開発学校に申請し、評価・指導を仰ぐ。 <p>キーワード:○文部科学省等による評価・指導, ○教育研究協議会における評価, ○文部科学省研究開発学校</p>
356	<p>資質・能力がどれだけ育成されているか、傍証するため、北海道大学加藤弘通准教授の協力のもと、質問紙を作成し、回答を集約し分析を行っている。</p> <p>キーワード:○質問紙, ○自己決定理論</p>
361	<p>(設問にある、調査・研究における「エビデンス」の収集という意味が、まずわからない。)</p>
362	<ul style="list-style-type: none"> 参加者に対するアンケート調査 生徒の変容や発言を湿すポートフォリオの蓄積 <p>キーワード:○アンケート, ○ポートフォリオ</p>

363	<p>研究発表会などの申込み書やアンケート用紙にメールアドレスを記入してもらい、追跡調査をさせてもらうようにしている。</p> <p>アンケート用紙にも、本校の研究を利用した実績や利用する計画などを書いてもらうようにしている。</p> <p>キーワード:○アンケート, ○メール, ○追跡調査</p>
364	<p>本校で開催するシンポジウム、道徳や総合の時間などに卒業生を呼び、附属中での学びが現在とどのように繋がっているか、どのような学びが今の自分の成長につながったか、自分の変容に係わっているのかなどについて語らせることで、数字だけでは図れない、本当の本校の学びの成果を知ることができると考えている。</p> <p>キーワード:○附中での学び, ○自己変容</p>
365	<p>生徒及び教職員に対して、事前・事後の変化をとらえるアンケート調査を実施</p> <p>全国学力・学習状況調査の学力検査及び質問紙調査と比較。</p> <p>外部の教員・学校に対して、公開研修に出席した教員に対して、当日のアンケートを行う。</p> <p>今後、年度末までに、電子メール等で追跡調査を行えればと考えている。</p> <p>キーワード:○比較, ○アンケート</p>
371	<p>教育研究発表会における参加者からのアンケート</p> <p>研究協力員を通しての公立学校における実践</p> <p>キーワード:○アンケート</p>
372	<p>・アンケート、ルーブリック、エピソード記録、カンファレンス、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等</p> <p>キーワード:○アンケート, ○ルーブリック, ○エピソード記録</p>
373	<p>・中等教育研究開発室年報を1987年度から発刊し、研究活動の記録を蓄積している。</p> <p>キーワード:○年報</p>
375	<p>・教育学部主導で、本校研究発表大会に参加していただいた方について、半年後に「大会に参加して得た知見を、自分の実践にどのように活用しているか」等についてアンケート調査(現在実施中)し、その結果を分析</p> <p>キーワード:○アンケート調査, ○自分の実践に活用しているか, ○教育学部による分析</p>
376	<p>研究発表会参加者からのアンケート、追跡調査。</p> <p>キーワード:○外部評価</p>
377	<p>研究紀要に掲載の研究成果のPDFファイルを大学研究成果リポジトリで公開しており、そのアクセス数、ダウンロード数</p> <p>キーワード:○研究成果リポジトリ, ○アクセス数、ダウンロード数</p>
381	<p>当該生徒や教員等へのアンケート調査や評価テストの結果を収集する。</p> <p>専門家や有識者による指導・助言を収集する。</p> <p>公立学校等で実践・検証してもらって、データを収集する。</p> <p>キーワード:○アンケート調査や評価テストの結果, ○専門家や有識者による指導・助言, ○公立学校等での実践・検証</p>
382	<p>研究開発指定を受けた学校は文部科学省に成果報告をしなければなりません。そのため、毎年さまざまな形で研究成果をしめすエビデンスを収集しています。以下に示すものがその例です。</p> <p>(1)生徒アンケート①資質・能力に関するアンケート ②情意面に関するアンケート (2)実際の生徒の姿①記録映像及び記録写真 生徒の表現物 ②教師による見取り (3)振り返りのワークシート (4)教師アンケート (5)教師の座談会および聞き取り調査 (6)保護者アンケート (7)他の中学校に対する同内容のアンケート (8)運営指導委員等外部関係者の見取り</p> <p>キーワード:○校内、校外のアンケート, ○実際の生徒の姿, ○外部評価</p>
383	<p>・近隣中学校の全教員に対するアンケート調査を実施する。</p> <p>・各市町教育長や教育事務所長との懇談会を実施する。</p> <p>・公開授業や学校行事等に様々な方が参加した時に、意見や感想を聞いてまとめる。</p> <p>・学校評議委員会や学校運営協議会(コミュニティスクール)にて外部の方々から意見をもらう。</p> <p>キーワード:○近隣中学校の全教員, ○各市町教育長や教育事務所長, ○学校運営協議会</p>
384	<p>本学の大学教員へ相談、また文科省の教科調査官からもアドバイスをもらっている教員もいる。</p> <p>キーワード:○大学教員, ○教科調査官</p>
391	<p>公開研究会の直後のアンケート、事後のアンケートを実施し、カリキュラムや指導方法の活用状況を分析する。</p> <p>キーワード:○公開研究会, ○直後・事後アンケート, ○活用状況の分析</p>
392	<p>生徒へのアンケート 生徒作品の変容 生徒の感想 保護者の感想 教師へのアンケート 実習生へのアンケート</p> <p>できるだけICTを活用して集計</p> <p>授業の様子 授業中の生徒の発言</p> <p>キーワード:○アンケート, ○ICTの活用, ○授業</p>
393	<p>先行研究を見たり、書店等で本を購入する。</p> <p>大学の先生と連携をとり情報収集を行う。</p> <p>研究会等に参加をする。</p> <p>キーワード:○先行研究, ○大学との連携, ○研究会</p>
394	<p>・県教育委員会、教育事務所、市町村教育委員会、各市町村立学校の所属長へのアンケート実施</p> <p>キーワード:○連携, ○理解, ○発信</p>
431	<p>附属の研究成果をまとめたデータベースを作成し、データベースの閲覧者から活用状況を報告してもらう仕組みを作った。</p> <p>公開研究会等の参加者に対するアンケートで活用状況を尋ねている。</p>
432	<p>教育研究大会の場などの発表の場を設け、その場での協議を参考にしたり、事後アンケートなどから研究を振り返る。</p> <p>キーワード:○協議, ○アンケート</p>
433	<p>生徒がどのように変容したのかアンケートなどを通じて検証している</p> <p>資格試験の結果なども利用して、客観的な教育の評価に取り組んでいる</p> <p>キーワード:○質の評価方法</p>
434	<p>アンケート、ルーブリックによる評価、パフォーマンス評価</p> <p>キーワード:○アンケート, ○ルーブリック, ○パフォーマンス評価</p>
435	<p>生徒、保護者に対する意識調査</p>
441	<p>生徒アンケート</p> <p>教員アンケート</p> <p>生徒の自主的活動調査</p> <p>キーワード:○生徒アンケート, ○教員アンケート, ○自主的活動調査</p>
451	<p>きちっとしたエビデンス収集はできていない。</p> <p>キーワード:○ランダム化比較試験</p>

461	研究発表会参加へのアンケート キーワード:○アンケート, ○リピーター
462	合同研究会(公開授業, 研究協議)での参加者アンケートの実施 該当生徒へのアンケートの実施 キーワード:○参加者アンケート, ○生徒アンケート
463	教育研究会参加者に対するアンケート調査を行い, 結果を分析, 公開する。 大学教員に, 生徒の資質の変化に関する調査分析を依頼する。 キーワード:○アンケート, ○大学教員
471	中等教育研究開発室年報を1987年度から発刊し, 研究活動の記録を蓄積している。 キーワード:○年報
481	文書, 画像, 動画等の記録 キーワード:○即時性, ○応用, ○正確性
531	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)については, 卒業生の在学中のSSH経験と進路への影響をアンケートで調査している。 キーワード:○スーパーサイエンスハイスクール, ○卒業生アンケート
532	アンケート調査 インタビュー キーワード:○アンケート
551	大学教員に参加してもらい評価検証に協力してもらっている キーワード:○アウトソーシング, ○数値的評価
562	アンケート調査による収集を検証している。 卒業生アンケートの実施の工夫。 キーワード:○アンケート調査, ○卒業生アンケート
611	当日のアンケート 事後アンケート 電話等での聞き取り キーワード:○アンケート, ○聞き取り
621	学校公開研究会での参加者からの意見等の聴取(全体会, 授業についての情報交換会, 分科会, アンケート) 研究成果をHPに掲載しているが, 閲覧者から意見聴取できるようなシステムにしていきたい。 キーワード:○公開研究会, ○アンケート, ○意見聴取
622	「生き抜く力」をテーマに掲げている学校を調べ, 公開研究会等の発表の場があれば, 教員を出張・派遣し, 情報等の入手に努めている。 (滋賀大学教育学部附属特別支援学校:〈生き抜く力の育成〉) 教員から本学のテーマに基づいた, 学びたい実践研究の場をピックアップしてもらい, 学ぶ機会をできる限り設定している。 キーワード:○アンテナ, ○情報収集力, ○結束
623	先行研究 書籍 大学教員からの助言 キーワード:○先行研究, ○大学教員からの助言
624	多様な視点から児童生徒の内面をとらえることができる事後研究会の実施。 事後研究会では, 資質・能力の3つの視点から児童生徒の活動の変容と人間性の成長の姿を語り合い, 主観的評価を客観的評価とする。 3つの視点を踏まえた授業改善の根拠を, 児童生徒の姿から明確にする。 キーワード:○事後研究会, ○客観的評価, ○授業改善
625	他校の研究紀要, 論文, 図書, 雑誌などによる先行研究調査。 キーワード:○先行研究
631	・アンケートの実施, 参加者数の推移 ・授業における児童生徒の様子(評価) キーワード:○アンケート, ○学習評価
632	公開研究会開催時に参加者からアンケートを収集している。 公開研究会の参加者に事後アンケートを取り, 公開した内容等の活用状況を把握している。 キーワード:○アンケート
633	研究授業における指導・助言を踏まえた検証の積み重ね キーワード:○指導・助言, ○研究授業
634	・教育委員会が課題としている要素を聴き取るようにしている。 ・公開研に来た参加者へのアンケートに, 指導上の課題項目を盛り込み, 地域の教員のニーズを把握している。 キーワード:○地域貢献, ○教育委員会, ○教員ニーズ
635	過去の研究成果 インターネットでの情報収集 書籍 キーワード:○研究成果, ○ウェブ情報, ○書籍
636	大学教員が専門とする研究領域を扱っている。 量的質的に充実するようなエビデンス収集を目指している。 キーワード:○大学教員との連携, ○量的質的な充実
637	カンファレンスの実施 キーワード:○カンファレンス
638	・研究協議会での提案や学会での発表などを通して, 学校内, 外から広く意見を求め, 確認している。 ・研究協議会の後のアンケートをメールマガジンなどで追跡調査をしている。 キーワード:○研究成果の発信, ○学会発表, ○追跡調査
639	検討中の段階である。
641	児童生徒の変容を評価する際に, 最新の機器を使用して, できるだけ可視化しようとしている。 キーワード:○可視化, ○最新機器
642	児童生徒の実態把握を, VTRも活用しながら複数の目でやっている。
643	・授業記録映像等による分析 ・研究会アンケートの集約 キーワード:○授業記録, ○アンケート

644	<ul style="list-style-type: none"> ・本校教員の変容の事実 ・外部参加者によるアンケートの分析 <p>キーワード:○本校教員の変容の事実, ○外部参加者によるアンケートの分析</p>
645	<ul style="list-style-type: none"> ・文献から収集 ・学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開 ・助言者からのアドバイス <p>キーワード:○根拠, ○教育課程</p>
651	<p>子どもの姿をつぶさに観察し、わずかな変容でも見逃さないようにしている。</p> <p>キーワード:○子どもの姿, ○つぶさに観察</p>
661	<p>児童生徒の学習活動の事例を書き、事例研究で検討を重ねている。</p> <p>キーワード:○事例, ○事例研究</p>
662	<p>授業の前後での児童生徒の変化 研究発表大会の参加者による評価 大学の先生による指導助言</p> <p>キーワード:○児童生徒の変化, ○評価, ○指導助言</p>
664	<p>本校教育活動内でのデータ収集 大学図書館を活用した情報収集</p> <p>キーワード:○大学図書館</p>
665	<p>研究発表会における参加者へのアンケート</p> <p>キーワード:○アンケート</p>
671	<p>県立特別支援学校での研究テーマ・内容や現場の教員のニーズ調査(聞き取り)</p>
672	<p>児童生徒の変容記録 研修会参加者への事後アンケート</p> <p>キーワード:○記録, ○分析</p>
681	<p>年度ごとに冊子にまとめている。今後データ化し、各方面と情報共有ができるようにしていきたい。</p> <p>キーワード:○データ化</p>
682	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等を合わせた指導を中心にジョブコーチを活用した作業工程、活動手順の課題分析を行い、成功回数やつまずきを把握して指導している。また、教員によるビデオ分析やエピソード記述、「成長の記録(本校で作成している成長発達のアセスメント)」を活用した学習目標に沿った個別評価と変容の記録を個別の指導計画にまとめて研究成果を把握している。 ・個々の子どもが学習で身に付けた力は、家庭生活や地域社会で般化できるように、家庭・関係機関に協力いただいて実践し、その状況を把握している。(家庭や関係機関から学校へ) <p>キーワード:○学習活動の課題分析, ○個別評価及び変容の記録, ○般化状況の把握</p>
683	<p>アンケート、動画撮影、児童生徒の学習成果物、自校作成の「自立活動における指導内容設定表」等</p> <p>キーワード:○自校作成, ○動画撮影, ○学習成果物</p>
691	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の事例研究の場合は、ベースラインを取り個人内で比較研究をするなど基本的な手法を取っている。その際、対象群を設ける等のこととは行っていない。 ・本校卒業生が就職した一般企業と、職場開拓で訪問し「障がい者を雇用している」又は「これから障がい者雇用を検討している」100社による「在学中に身に付けてほしい力アンケート」を実施した。5観点76項目及び記述式で回答を求めた。その際、回答の結果を熊本大学の教員に分析を依頼し、その結果をエビデンスとした。 ・本校の研究を参考にしたり引用したりする際は、そのことを資料等に記載していただくようお願いしている。 ・本校のホームページのアクセス件数やダウンロード回数が把握できるよう、カウンター機能を充実させている。 <p>キーワード:○基本的な手法, ○大学教員, ○ホームページ</p>
692	<ul style="list-style-type: none"> ・九関連特別支援学校部会などへの参加による他校からの情報収集。 ・学習指導要領の読み込み、専門的な研究論文の収集。 ・大学の先生方による基礎講座の講話(専門性向上のための研修)。 <p>キーワード:○情報収集, ○研修</p>
693	<p>授業研究を基に、子どもの学びの姿を蓄積していく。</p> <p>キーワード:○授業研究</p>
694	<p>公開研究発表会や公開セミナー参加者へのアンケート実施。</p> <p>キーワード:○アンケート</p>
741	<p>県内外の企業へのアンケート</p> <p>キーワード:○社会で求められる力</p>
761	<p>大学教員の協力を得て、独自にアンケートを作成し、定期的・継続的に行っている。</p> <p>キーワード:○アンケート, ○定期的, ○継続的</p>
771	<p>教員研修会参加者を対象に、教員研修会から数ヶ月後にアンケート調査を行い、教員研修会の地域貢献度をはかろうとしている。</p> <p>キーワード:○役立つ, ○地域貢献</p>
1231	<p>アンケート調査は行っているが、公開研後、数日・数か月後の追跡アンケート調査の在り方を模索している。</p> <p>キーワード:○追跡アンケート調査</p>

キーワードの整理

校種別におおよそ類似のキーワードを出現数が多い順に上位 10 項目程度を集計した。

1-2 本年度の研究計画テーマ (561 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	遊び	保育	資質・能力	主体・主体性	学び	子ども	環境	カリキュラム	探求	対話
	10	7	5	5	4	4	4	4	3	3
小学校	資質・能力	学び	見方・考え方	教科	カリキュラムマネジメント	授業	深い学び	主体的・対話的・深い学び	自己	未来
	14	12	8	6	5	5	5	5	5	4
中学校	学び	教科	深い学び	資質・能力	カリキュラムマネジメント	見方・考え方	探求	主体的	メタ認知	未来
	14	13	10	9	6	5	5	3	3	3
高等学校	国際	学び	SGH	深い学び	グローバル	探求	高大連携	資質・能力	生きる力	次世代人材
	4	3	2	2	2	2	2	1	1	1
中等学校 中・高等学校	SSH	SGH	カリキュラムマネジメント	グローバル	資質・能力	主体的・対話的・深い学び	イノベーション	インクルーシブ教育	汎用的能力	分離統合的視点
	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1
特別支援 学校	カリキュラムマネジメント	深い学び	授業	新学習指導要領	資質・能力	個別	主体	自立活動	キャリア	知的障害教育
	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3
義務教育 学校	カリキュラムマネジメント	コミュニティ	義務教育9年間	協働探求カリキュラム	資質・能力	授業づくり	深い学び	探求		
	1	1	1	1	1	1	1	1		
その他 (幼・小)	学びを深める場をつくる視点	主体性	汎用的な力							
	1	1	1							

・研究テーマについては、全学校種を通して、新学習指導要領でとりあげられている、「資質・能力」「主体的・対話的・深い学び」などに取り組む学校が入っていた。

・幼稚園では「遊び」小学校や中学校では「学び」「教科」などその段階における本質的な課題やテーマを都営上げる傾向も伺えた。

・高等学校では、「国際」「SGH」「グローバル」など今日的なテーマや文科省の指定課題を取り上げる学校が多く感じられた。

・中等学校では、「SSH」「SGH」「カリキュラム・マネジメント」など文科省の指定課題や今日的なテーマを取り上げる傾向が伺えた。

・特別支援学校では、「カリキュラム・マネジメント」「深い学び」「資質・能力」など新学習指導にかんするテーマを取り上げる学校が多い傾向が読み取れた。

2-3 大学との連携テーマ (320 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	学び	遊び	主体的	幼児教育	教員の資質・能力の向上	異校種との連携	子ども理解	幼児の(10の)姿	地域との連携	ICT活用
	6	4	4	4	3	3	2	2	2	2
小学校	教育実践	研究推進	カリキュラム	共同・協働	子どもの姿	グローバル	連携教育	学び	資質・能力	自己評価
	7	6	5	5	3	3	3	3	2	2
中学校	学び(深い)	共同(連携)の研究	カリキュラム	資質・能力	異校種連携	地域連携	ICT活用	プログラミング教育	情報活用能力	発達障害
	7	5	5	4	4	3	2	2	2	2
高等学校	高大連携	授業(カリキュラム)開発	教員(指導力)養成	グローバル	国際連携	課題研究(探求)	クラウド(G-Suite)	アート	女性能力開発	地域
	5	4	2	2	2	2	1	1	1	1
中等学校 中・高等学校	ICT活用	SSH/SGH	パフォーマンス評価	異学年交流	国際バカロレア	現職教員研修	高大接続	探求	文理統合	
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
特別支援 学校	授業づくり(開発)	学び(深い)	研究推進	カリキュラム	障害	キャリア教育	異校種連携	自立活動	生きる力	特別支援教育
	7	5	5	4	4	3	3	3	3	3
義務教育 学校	教材開発	9カ年の教育	思考力・判断力・表現力							
	1	1	1							

・全体として多いキーワードは、幼稚園から中学校・特別支援学校まで「主体的・対話的で深い学び」の具現化に関わる「学び」というキーワードが多かった。また、新学習指導要領の新しい教育・指導内容の導入や改訂に対応した「カリ

キュラム・授業づくり」の開発等も多かった。さらに、そのマネジメントに関わる「教員の資質・能力の向上」も全ての校種で見られた。

- ・地域や異校種連携加えて小学校より上では「グローバルや国際連携」等の用語が見受けられた。
- ・加えて、プログラミング教育の導入や情報処理能力の育成を踏まえて「ITC 活用」が全ての校種で見受けられた。研究推進に関しては中学校以上の学校で大学等との共同研究の語句が多かった。

2-5 大学と連携をするためにどのような工夫をしているか (413 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	共同研究・研究	日常的	メール	大学訪問・リソース	協力	互恵性	専門性	幼児	大学・運営委員会	情報
	9	5	3	3	3	3	3	3	2	2
小学校	共同研究・研究	指導助言・研修会	教育実習	授業	大学・運営委員会	協働・意見交流・学校行事	課題設定・共通テーマ	情報(共有)	メール	効率化
	23	11	8	8	7	6	3	3	3	3
中学校	授業	大学・運営委員会	共同研究	大学訪問・リソース	教育実習	児童生徒	指導助言・研修会	課題設定・共通テーマ	継続性	教科
	12	11	9	7	6	4	3	3	3	3
高等学校	附属間連携	共同研究・研究	課題設定・共通テーマ	指導助言・研修会	大学・運営委員会	授業	教育実習			
	3	3	2	2	2	2	1			
中等学校 中・高等学校	大学・運営委員会	共同研究・研究	大学訪問・リソース	大学・運営委員会	附属間連携	負担軽減	接続教育			
	2	1	1	1	1	1	1			
特別支援 学校	共同研究・研究	指導助言・研修会	附属間連携	連携	連絡	授業	学生	教育相談		
	11	7	5	4	4	3	3	2		
義務教育 学校	学生とのかわり	共同研究・研究	授業							
	1	1	1							
その他 (幼・小)	共同研究・研究	附属間連携								
	2	1								

- ・共同研究・研究や授業や学生を介したものなどのキーワードが多く見られた。
 - ・大学・運営委員会などの組織的関わり、日常的や効率化、負担軽減といったキーワードも見られ、働き方改革やガバナンスを意識したものも散見された。
- ※幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校については、それぞれ2校以上の記載があったキーワードを記載した。高等学校、義務教育学校、その他(幼・小)は、校数が少ないために1校のみのキーワードも記載した。

2-7 今後、大学との連携のための工夫したいこと (325 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	連携方法の工夫	共同研究	人材活用	大学・施設	情報共有	情報発信	地域のモデル	指導助言	子育て支援	教育実習
	11	9	8	8	8	6	3	3	3	3
小学校	連携方法の工夫	共同研究	年間計画	大学	授業	会議システム	教育実習	指導助言	情報共有	地域貢献
	17	14	7	6	6	4	3	3	3	3
中学校	大学・教職大学院	連携方法の工夫	共同研究	会議システム	情報共有	指導助言	年間計画	教育実習	授業	地域のモデル
	13	11	8	7	7	4	3	3	2	2
高等学校	共同研究・研究	附属間連携	会議システム	大学	教育実習	授業	多様性	予算獲得		
	4	2	2	2	1	1	1	1		
中等学校 中・高等学校	大学・教職大学院	課題研究	共同研究	連携方法の工夫						
	4	2	2	1						
特別支援 学校	共同研究	連携方法の工夫	情報共有	指導助言	大学	会議システム	授業	大学施設の活用	予算獲得	
	14	13	8	7	4	3	3	2	2	
義務教育 学校	研究会	授業研究								
	2	2								
その他 (幼・小)	授業									
	1									

- ・すべての校種で、大学との連携(共同研究や指導助言)を強く望むことが確認できる結果が得られた。しかし、そのための連携する手段や時間確保や情報共有について工夫が必要であることも確認できた。

- ・幼稚園では、大学との連携のために、もっとアピールする必要があると考え、情報発信の必要性を考えているワードがみられた。
- ・小学校、中学校では、定期的・日常的に連携をとろうと考えるワードがみられた。
- ・高等学校、中等学校では、大学の専門性を生かして、共同研究や課題研究を望むワードがみられた。
- ・特別支援学校では、大学の専門分野との共同研究や指導助言を求めるワードがみられた。

2-9 教職大学院との連携の内容と方法 (294 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	実習	専門性の共有	協力	幼児の発達の理解	実地研究	幼少連携	理論と実践			
	6	6	5	4	3	2	2			
小学校	教育実習	組織的な学校運営	共同研究	学校課題やニーズ	教科の実践	実践と理論の往還	指導助言	授業づくり	研究協力	研修の充実
	18	12	12	11	9	7	6	5	5	4
中学校	教育実習	連携の日常化	学校運営	授業実践	実践的授業研究	授業研究	現職教員研修	研究の日常化	人材育成	意見交換
	12	12	11	8	7	6	6	5	5	4
高等学校	実習	アクションリサーチ実地研究	特になし	共同研究	授業実践	メンター				
	6	3	3	2	1	1				
中等学校 中・高等学校	インターシップ	教科横断的	IB(国際バカロレア)							
	1	1	1							
特別支援 学校	学校経営	共同研究	教員研修	情報交換	実習	授業づくり	大学院生の活用	異なる教育活動	人材育成	授業実践
	12	11	7	6	4	4	4	3	3	3
義務教育 学校	研究交流	研修の受け入れ	授業デザイン力	子ども支援力	学校創造力					
	2	1	1	1	1					

- ・アンケート回収数の比較的大きい、小学校、中学校、特別支援、幼稚園では、大分類(1)の実施における学生の実習と教員の研修の内、学生の実習に最も大きな期待が持たれている
- ・幼少中特、それぞれの順位3番目までに、学生の実習と、学校、特に組織運営、加えて、研究と実践の3つが含まれていることに注目したい。
- ・教員の研修についての期待が特別支援においては高い一方、他校種では低いという顕著な差が認められる
- ・附属学校の、教職大学院への期待として、研究を行う大学院生が実地で実習を行うことが挙げられ、そのための組織の充実が求められる。

2-11 地域の公立学校や教育委員会との連携について (450 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	研修(場所、協力、教員)	講師(派遣)	地域ニーズ(連携、モデル、支援)	研究	保養小連携	学校評議員	拠点	研究協力	新規採用者研修	人事交流
	17	6	5	3	3	2	2	2	2	2
小学校	研究交流	研修(場所、協力、教員)	講師派遣	地域貢献	研究成果公開	人事交流	指導助言	人材育成	存在意義	教育委員会との連携
	16	14	12	9	9	7	6	4	3	2
中学校	地域貢献	研修(場所、協力、教員)	研究交流	指導助言	授業づくり	人事交流	研究推進	若手教員育成	授業公開	教科部会
	19	16	10	9	7	7	5	4	3	3
高等学校	SSH, SSN, 生徒研究	研修(場所、協力、教員)	地域還元	研究交流	WWL	win-win	計画性	研究成果	授業見学	人事交流
	5	4	2	2	1	1	1	1	1	1
中等学校 中・高等学校	公開講座	初任研	中堅研	区中研	交流協定	理科実験教室	プログラミング			
	2	1	1	1	1	1	1			
特別支援 学校	研修(場所、協力、教員)	交流および共同学習	特別支援教育推進	センター的機能	研究成果発信	地域貢献	研究	就学相談	人事交流	専門的助言
	8	8	7	6	6	5	4	4	4	3
義務教育 学校	人事交流	研究交流	情報交換	授業提供	相互連携					
	2	1	1	1	1					
その他 (幼・小)	研修参加	研究会参加	講師派遣							
	1	1	1							

- ・キーワードから、地域の公立学校や教育委員会とは、共通して、研修や授業公開、研究交流、講師派遣や指導助言の活動、さらには交流人事を通じて連携していることが分かる。
- ・特に幼稚園では近隣との連携でモデル教育や会場提供を行っている。小中学校は類似しており、地域との連携で出前授業や公開研究会、研究協力他様々な試みがある。
- ・高等学校と特別支援学校は特徴的で、STEAM, SDGs, 特別支援教育相談など強みを生かした貢献、センター的機能などに特徴がある。
- ・長期的には研究交流、人事交流を通じて附属学校が地域に成果を浸透させていこう。各附属学校が特徴ある教育をいかに試し探求できるかに注力することが重要ではないかと思われる。

3-2 研究成果の地域等への発信の現状について（437ワード）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	
幼稚園	研究発表会	報告書	ホームページ	研修	大学との連携	地域教育委員会連携			その他	計
	32	19	15	3	1	1			11	82
小学校	研究発表会	報告書	講師派遣	研修	ホームページ	大学との連携	地域教育委員会連携		その他	計
	30	22	5	4	3	1	1		54	117
中学校	研究発表会	報告書	ホームページ	視察受け入れ	研修	講師派遣	地域教育委員会連携	視察受け入れ	その他	計
	36	21	16	3	2	2	1	3	32	113
高等学校	研究発表会	報告書	ホームページ	研修	大学との連携	地域教育委員会連携			その他	計
	11	2	2	1	1	1			6	24
中等学校 中・高等学校	研究発表会	報告書	ホームページ						その他	計
	2	2	1						3	8
特別支援 学校	研究発表会	報告書	ホームページ	大学との連携	地域教育委員会連携				その他	計
	32	16	8	1	1				26	84
義務教育 学校	研究発表会								その他	計
	2								4	6
その他 (幼・小)	研究発表会								その他	計
	1								2	3

- ・いずれの校種においても研究発表会、報告書、ホームページが上位を占めた。
- ・地域の教育委員会との連携など組織的な連携による研究成果の発信も各校種でみられた。
- ※少数のキーワードが多数であったため、その他としてまとめた。

3-4 今後、研究成果を地域にどのように発信したいか（332ワード）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	情報発信	研修	ホームページ	ニーズに応える	研究	公開研	SNSによる発信	紀要	保育参加	幼児理解
	10	9	6	6	5	3	3	2	2	1
小学校	ホームページ	セミナー開催	情報発信	公開研	地域・公立校のニーズ	授業実践	人材育成	子供がいる研修センター	子どもの姿	県市との連携
	9	8	7	7	5	5	4	2	2	2
中学校	研究会・研修会	ホームページ	情報提供	地域貢献	教員養成	教委との連携	エビデンス	書籍発刊	授業公開	ICT
	13	10	8	6	4	3	3	3	2	2
高等学校	ホームページ	パンフレット	アドバンス ト・ラーニング・ネットワーク	PRの促進	Web公開	相互参加	高大接続	講師派遣	公開	地域の研究会
	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中等学校 中・高等学校	成果発信	ラウンドテーブル								
	1	1								
特別支援 学校	公開研・研修会	ホームページ	授業研究	授業公開	研究紀要・集録	人事交流	TV会議システム	特別支援学級	協働	学会発表
	17	15	5	3	3	2	2	2	2	2
義務教育 学校	研究集会	書籍	授業づくり	発表	学校訪問	地域貢献	講師	役立つ		
	1	1	1	1	1	1	1	1		

- ・ホームページの活用や SNS による発信など、社会状況に合わせた方向性が多く示された。
- ・研修やセミナー、地域貢献などの直接的な発信についても多く示され、より身近で具体的な形で研究成果を発信していこうとする姿勢も多く見られた。

3-6 研究成果の大学への発信の現状（304 ワード）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	研究紀要等	公開研究大会	大学の運営会議	大学紀要への投稿	共同の研究会・協議会	共同研究	ウェブサイト で公開	年次報告書	大学での 講義	学会発表
	16	10	6	4	3	3	3	1	1	1
小学校	公開研究大会・フォーラム	研究協力者・共同研究	研究紀要等	大学の運営会議等	書籍出版	教職大学院との連携	教育研究月刊誌等の送付	教授会で発信	大学での 講義	ウェブサイト で公開
	19	13	10	4	4	2	2	1	1	1
中学校	研究紀要等	共同研究・指導助言者等	公開研究会・フォーラム	大学の運営会議等	大学紀要への投稿	共同の研究会・協議会	大学のリポ ジトリ	ウェブサイト で公開	書籍出版	大学のシン ポ等で発表
	18	18	17	7	5	4	4	2	2	2
高等学校	公開研究会・フォーラムへの参加	大学での課題研究発表	ウェブサイト で紀要公開・リポジトリ	研究紀要等	合同研究会・研修会	大学教員と 共同研究・ 指導助言	大学広報で 発信	大学紀要への 投稿	学会発表	リポジトリ
	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1
中等学校 中・高等 学校	研究協議会	大学との共同研究	公開研究会 参加	研究紀要等	リポジトリ	大学評価部 会で成果報 告	附属学校教 育局大学の 教育学会			
	1	1	1	1	1	1	1			
特別支援 学校	紀要・収録 等	公開研究大会・交流会	大学との共同研究	学生・院生 実習	大学紀要への 投稿	ウェブサイト で公開	大学のリポ ジトリ	大学での講 義	冊子配布	運営委員 会で報告
	25	20	12	6	5	4	3	3	2	1
義務教育 学校	大学との共同研究	実践レポ ート報告会への 参加	情報共有							
	2	1	1							
その他 (幼・小)	公開研究会への参加	大学教員への 情報提供								
	1	1								

- ・全校種において大学教員との共同研究が恒常的に行われており、大学との合同研究会・協議会等を通じて情報の共有がなされている。
- ・研究成果は主に公開研究大会や研究紀要等の配布によって大学側に発信されている。
- ・またウェブサイトや大学の学術情報リポジトリを活用するなど発信方法も多様化している。
- ・大学教員の研究集会への参加を促すという記述もいくつか見られ、附属学校園の研究に協力的な大学教員に限られていることも窺える。
- ・この他、大学の運営会議や教授会等において附属学校園の研究について情報提供を行うという取り組みも多く見られた。

3-8 今後、研究成果を大学にどのように発信したいか（251 ワード）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	ICT	情報発信	働きかけ	連携協働	紀要	研究成果	専門的知見	研究会	ガバナンス	
	6	6	5	4	3	3	3	2	2	
小学校	情報発信	研究会	紀要	連携協働	実践研究	成果	課題	予算	ICT	共同研究
	10	9	8	8	5	4	3	3	2	2
中学校	研究成果	共同研究	実践研究	ICT	情報発信	成果	連携協働	学生生徒	ガバナンス	働きかけ
	7	6	5	4	4	4	3	3	2	2
高等学校	現状通り	共同研究	研究紀要	HP	学校見学	大学教員	大学組織			
	3	3	2	1	1	1				
中等学校 中・高等 学校	メディア	研究会	コース設定	高大接続	大学組織	文理統合				
	2	2	1	1	1	1				
特別支援 学校	ICT	情報発信	研究成果	紀要	連携協働	研究会	教職大学院	参観	実習	質の向上
	5	4	4	4	4	2	2	2	2	2
義務教育 学校	協働研究	現状維持	授業力向上							
	1	1	1							
その他 (幼・小)	ICT	情報発信	働きかけ	連携協働	紀要					
	6	6	5	4	3					

- ・ICTを活用した情報発信が多く、研究を柱とした内容が多く見られた。
- ・共同研究や連携協働など直接的につながりを持ちながら情報発信をしていこうという、大学と附属校園のつながりを意識したキーワードも見られた。

4-4 研究成果の他の附属校園とどのように共有しているか (164 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	研究紀要	地区研究集会	委託研究	合同	相互参加	公開研究会	成果交流会	研究推進会議	情報交換会	
	5	3	3	3	2	2	2	2	2	
小学校	(地区)研究集会	研究会	視察	学内附属連携	成果交流会	研究紀要	情報交換会	教職大学院		
	12	5	4	3	2	2	2	2		
中学校	(地区)研究集会	視察	附属連携	研究開発学校	小中連携	研修会	研究紀要	出版		
	10	5	4	3	3	2	2	2		
高等学校	研究大会・研究会	研究紀要	生徒交流							
	5	2	2							
中等学校 中・高等学校	研究発表会	研修会								
	3	2								
特別支援 学校	(地区)研究集会	研究会・研修会	学内	発表会	シンポジウム	学会	共同研究			
	5	5	4	2	2	2	2			
義務教育 学校	共同研究会	地区研究協議会								
	1	1								

・多くの校種で、地区等で開催する研究集会が成果交流、情報交換の場として機能している。高等学校では高等学校部会の研究大会がその役割を果たしている。

・研究紀要による情報共有は比重が下がっているようである。

・情報交換会、研究推進会議、教員研修会といった、研修を主目的とするようなつながりも見られる。

・小・中では視察を通じた情報共有も一定の数みられるが、これは同じ地区内で同校種の学校の絶対数が多いためかもしれない。

・幼稚園では委託研究を通じたつながりが強い。

・多数の附属学校を擁する大学では、その中での連携が機能しているところも多い。

・教職大学院を関与したつながりはまだ目立たない。

※キーワードの総数が少ないので、自由記述4-3から再度集計者の判断によるキーワードを選び、趣旨の同じキーワードは同一とみなすなどの処理を行い、度数を求め、度数が2以上のキーワードのみ抽出した。

4-6 附属校園間の交流に必要なこと (341 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
幼稚園	相互交流	共有	情報交換	時間確保	共同研究	人材	予算	環境整備		
	13	8	8	6	5	5	4	2		
小学校	相互交流	共同研究	情報交換	時間確保	使命感	共有	予算	授業実践	研究会	理念
	14	9	9	5	4	3	3	3	2	2
中学校	情報交換	時間確保	相互交流	ICT	組織活用	共同研究	人材	課題把握	研究成果	予算
	11	9	9	7	7	4	4	3	2	2
高等学校	相互交流	研究・研修会	管理職	情報交換	時間確保	予算				
	7	3	2	2	1	1				
中等学校 中・高等学校	組織	研究テーマ	予算	時間	人事交流	設備環境	相互理解			
	3	1	1	1	1	1	1			
特別支援 学校	相互交流	時間確保	課題把握	人材	教育課題	計画性	情報	共同研究	ICT	参加
	8	4	4	3	3	3	3	2	2	2
義務教育 学校	交流	関心	研修会	情報交換	総会等					
	2	1	1	1	1					
その他 (幼・小)	時間の確保									
	1									

・相互交流や情報交換など、まず、附属校園間の関係構築を重視しているものが多く、交流の基礎から構築していく必要があることが示された。

・交流を行うための人材や人事交流など、担当する人材の問題も見られた。

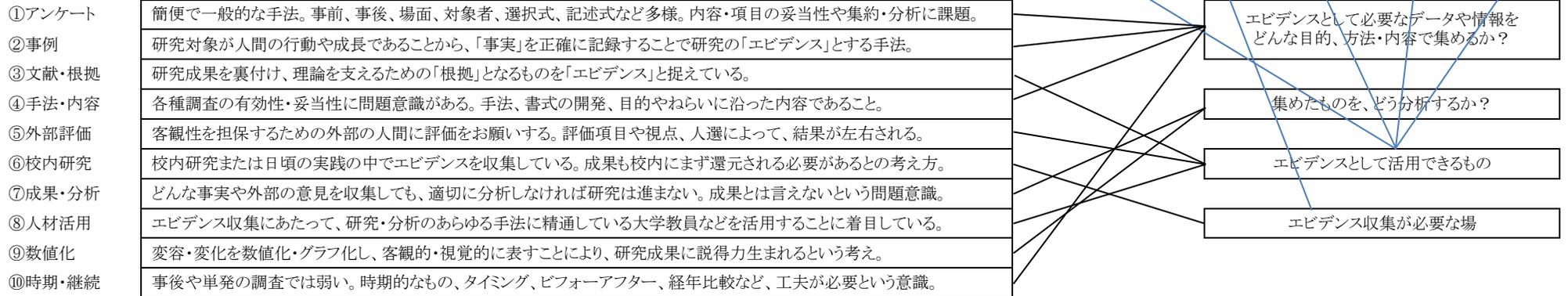
・予算や時間の確保など附属校園が直面している問題との関連を示すキーワードも少数ながら見受けられた。

5-2 エビデンスをどのように収集しているか (372 ワード)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位	11	12	13	14
幼稚園	アンケート	事例	手法・内容	外部評価	文献・根拠	時期・継続	校内研究	数値化	職・変容	人材活用	分析・成果	ICT活用	HP閲覧数	その他
	18	10	8	7	6	6	5	4	3	2	2	1	1	2
小学校	アンケート	事例	数値化	学力調査	外部評価	目的・ニーズ	成果・分析	手法・内容	校内研究	時期・継続	人材活用	HP閲覧数	文献・根拠	その他
	34	11	6	6	6	5	5	4	4	3	3	2	2	11
中学校	アンケート	文献・根拠	外部評価	手法・内容	事例	人材活用	分析・成果	校内研究	ICT活用	学力調査	職員変容	HP閲覧数		その他
	21	12	10	9	7	7	7	5	4	2	2	1		9
高等学校	アンケート	事例	手法・内容	時期・継続	校内研究	人材活用	文献・根拠							その他
	8	3	3	1	1	1	1							2
中等学校 中・高等学校	アンケート	数値化												その他
	4	1												2
特別支援学校	アンケート	文献・根拠	事例	手法・内容	校内研究	人材活用	分析・成果	外部評価	職員変容	数値化	学力調査	ICT活用	HP閲覧数	その他
	10	10	9	5	4	4	4	3	2	2	2	1	1	7
義務教育学校	時期・継続	アンケート												その他
	2	1												3
その他(幼・小)	アンケート	手法・内容												
	1	1												

総合ランキング

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
アンケート	事例	文献・根拠	手法・内容	外部評価	校内研究	成果・分析	人材活用	数値化	時期・継続	学力調査	職員の変容	ICT	HP閲覧数	目的・ニーズ
96	39	31	30	26	19	18	17	13	12	10	7	6	5	5



・附属学校園において「エビデンスベースト」の研究成果が求められている。しかし「エビデンス」の捉えや問題意識に、かなりの幅があることがわかる。

※ 「エビデンス収集」・・・「研究」の客観的な裏付けを集めること

執 筆

令和元年度 教育研究委員会

委 員 長 上濱龍也（岩手大学教育学部附属特別支援学校）

副委員長 根本文雄（筑波学附属大塚特別支援学校）

委 員 橋本忠和（北海道教育大学附属函館幼稚園）

細川かおり（千葉大学附属特別支援学校）

町田多加志（筑波大学附属駒場中学校）

森 義仁（お茶の水女子大学附属幼稚園）

松浦 執（東京学芸大学附属世田谷小学校）

大野 弘（東京学芸大学附属高等学校）

村野光則（東京大学教育学部附属中等教育学校）

大山利夫（福井大学教育学部附属義務教育学校）

三小田博昭（名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校）

井上広文（大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎）

安東信哉（岡山大学教育学部附属小学校）

石川照代（大分学教育学部附属幼稚園）